

平成28年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

F D 活動報告書



大妻女子大学人間関係学部 F D 委員会

平成28年度

大妻女子大学人間関係学部

人間関係学科

人間福祉学科

FD活動報告書



大妻女子大学人間関係学部FD委員会

平成 28 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって

平成 28 年度の人間関係学部 FD 報告書をお届けします。

ご承知のように、今、大妻女子大学は大きな変化の最中にあります。千代田キャンパスでは新しい建物が次々に完成しており、卒業生が千代田キャンパスを訪れたら、新しい校舎が立ち並ぶ大妻通りに目を丸くすることでしょう。他方、私たちの多摩キャンパスは、季節によって木々や花々が美しく表情を変えますが、建物群は従来のまま、自然に囲まれ落ち着いた雰囲気は変わることがありません。空間の広さ、自然の色合い、それらに溶け込んだ校舎群は、大妻女子大学の貴重な財産であると感じます。

このように一見変化の少ない多摩キャンパスですが、大学全体が大きく変化する中、ここ数年、私たちも今後の学部の在り方について議論を重ねてきました。その過程ではいくつかの新たな枠組みが提案され、具体的な検討も行われましたが、最終的な結論として、人間関係学部は従来通り社会学、心理学、福祉学、3つの学問領域を柱に「共生社会」の実現に資する人材育成を続けるという選択をしました。人間福祉学科は介護福祉学専攻を廃止し 1 学科制に移行しますが、それ以外、学部全体として当面大きな変更は行いません。少子高齢化、地域社会の分断、子育ての難しさなど、日本が抱える諸課題に対して、社会学、心理学、福祉学は欠かすことのできない学問領域であり、高齢化が進む多摩市において地域と連携して人材育成及び研究を行うことは、人間関係学部の重要なミッションであると確信します。

さて、一見変化の少ないように思える人間関係学部ですが、これまでも、これからも堅実な変化を志しているのが「教育の質」の問題です。社会学、心理学、福祉学、学問の枠組みは変わらなくとも、時代の変化と共に「何を」「どのような方法で」「どのような技術で」学生に伝えるかを洗練させていくことが必要です。元来 FD の取り組みが活発な人間関係学部ですが、今年度は、特に教育の方法と技術に焦点を当てた FD 研修会が行われました。昨年度に引き続き、「Tips」、すなわち「授業の質を上げるための教員のちょっとした方法や工夫」を深めるというテーマで、今年度は参加型の分科会が設けられました。詳細は本文に譲りますが、どの分科会でも時間が足りないほど活発な意見交換が行われ、非常に明るい雰囲気の FD 研修会となりました。

報告書をまとめることが FD の 1 つの節目ではありますが、報告書に表れない日々の教育の取り組みを大切にしていきたいと思います。今後も人間関係学部の教育の質を向上させるべく、教職員の総力を上げて取り組んでいきたいと思いますので、よろしくご協力をお願いします。

人間関係学部長 小川 浩

目 次

平成 28 年度 FD 活動報告書の刊行にあたって (小川 浩)

I	平成 28 年度人間関係学部の FD 活動について (嶋貫 真人)	1
II-1	授業に関するアンケート (前期・後期) (本田 周二)	5
II-2	授業アンケートへの対応 (伊藤 美登里)	47
1	前期授業アンケートへの教員の主な回答	47
(1)	授業の改善点	47
(2)	施設教室の設備や受講者数、教育条件などについての改善点の要望	48
(3)	学生に望むもの	48
2	後期授業アンケートへの教員の主な回答	49
(1)	授業の改善点	49
(2)	施設教室の設備や受講者数、教育条件などについての改善点の要望	50
(3)	学生に望むもの	50
III	学科・専攻における平成 28 年度 FD 活動への取り組み	51
1	人間関係学科	51
(1)	社会学専攻における FD 活動に関する取り組み (伊藤 美登里)	51
(2)	社会・臨床心理学専攻における FD 活動に関する取り組み (本田 周二)	54
2	人間福祉学科 (嶋貫 真人)	60
(1)	人間福祉学専攻における FD 活動に関する取り組み (嶋貫 真人)	69
(2)	介護福祉学専攻における FD 活動に関する取り組み (金 美辰)	77
IV	保護者懇談会 (金 美辰)	81
V	オフィスアワー (佐藤 富士子)	85
VI	平成 28 年度クラス指導について (福島 哲夫)	91
VII	平成 28 年度人間関係学部 FD 研修会について (嶋貫 真人)	97
VIII	非常勤講師との教育懇談会 (嶋貫 真人)	103
IX	人間関係学部における FD 活動の課題 (嶋貫 真人)	109
資 料		111

I 平成28年度人間関係学部のFD活動について

1. 人間関係学部におけるFD活動の取り組み

人間関係学部では、教育内容の向上のために学生や保護者との対話の機会を重視し、そこで出された意見・要望を今後の授業改善のために取り入れていく工夫を積極的に行っている。すなわち、学生による授業評価に対しては全教員が改善に向けたコメントを付してその内容を公表している他、保護者懇談会で出された要望事項や、非常勤講師を交えた授業担当者懇談会での意見交換の様相についても、それらに対する大学側の対応策と併せて、本報告書の中で紹介されている。

このような教育に携わる者同士の円滑な意思疎通を行うことと、それに関する情報の透明性を維持していくことが、学部教育の質の向上を図るうえにおいて不可欠の前提であると思われる、今後もこのような基本方針の下で学部のFD活動を進めていきたいと考えている。

1) 学部FD研修会の実施

昨年と同研修会は「授業をより良くするためのTips」というテーマで実施したが、この研修が参加者の間で好評であったため、今年度は同じテーマを分科会形式で実施した（平成28年12月9日）。

研修会の内容と参加者の意見については、本報告書の中で詳しく紹介されている。

2) 学生による授業評価

平成28年度においても、例年どおり前期・後期の年2回、学生による授業アンケートを実施した。本アンケートは、「原則としてすべての開講講座を対象とする」とこととされているが、従来から回答者が特定されてしまうおそれのある少人数のゼミを実施の対象から除外してきたという経緯がある。そして今年度においては、さらにそれ以外のいくつかの授業について、科目担当者から「本講座はアンケートの実施になじまないのではないか」との疑義が提示されるものがあつた。そこで、今年度においては、「人間関係学部『授業に関するアンケート』の実施要綱」の見直しを行い、例外的にアンケートを実施しないこととする場合の決定手続等について、一定の整理を行った。

本報告書の中でも、非常勤講師を含む科目担当者全員の改善に向けたコメントを紹介している。

3) 保護者懇談会の実施と参加者のアンケート

学生の保護者と大学教員とが直接対面して話し合う機会をもつことは、普段の大学生活ではうかがい知ることができない学生の素顔を教員側が知るためにも、また保護者の不安や悩みを軽減していくためにも、非常に有意義なことである。特に近年では、入学直後の段階から卒業後の進路に関して悩む学生が目立つようになってきているため、保護者と教員とが率直な意見交換を行うことの意義は一層大きくなってきている。

そこで、懇談会の実施後に保護者から出された質問、意見、そしてそれに対する大学の改善

策を集約して（もちろん個人情報に関する事柄は伏せたうえで）、教員全員が共有できるように工夫しており、またそれらの内容を本報告書の中でも公開している。

4) オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学のホームページ等でこれを公開している。しかし、何か相談したい事柄が発生したときに、自ら進んで教員の所を訪ねるだけの行動力をもった学生が少なくなってきたのが現実であり、今後は入学直後のクラス担任とのコミュニケーション等を契機として、まずは気軽に教員と話ができるような関係づくりから始めていかなければならないのではないかと感じている。

本報告書の中でも、今年度のオフィスアワーを振り返った各教員の所感と今後の取り組みの内容が掲載されている。

5) 各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためには FD 委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教学面の管理を担当する教務委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する内容を参考にしながら、FD 活動の一層の充実を図っている。

6) 各学科・専攻における FD 活動の内容の共有

大学における学部・学科・専攻はそれぞれ独自のカリキュラムに基づいた教育を展開しているため、教育方法に関する配慮・工夫に関しても個別性・独自性が極めて強く、基本的にはそれぞれの学科・専攻の自治にゆだねられるべき領域であるといえる。しかし同時に、ある教員・ある専攻が行っている取り組みが、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、後述の学部 FD 研修会の機会を利用して全教員が共有できるようにしている。また、前述の授業アンケートに対する教員コメントの公開は、説明責任という性格の他に、このような授業運営の方法に関する教員相互間の情報共有という意義をもっているといえる。

本報告書の中でも各学科における FD 活動の内容を紹介しているが、それはその中で述べられた内容を各教員が適宜参考にしていくことで、今後の教育内容の向上につなげることを目指しているからである。

7) クラス担任制度

本学は全学部においてクラス担任制度を取り入れており、学生は入学時から卒業まで 40 人前後から成る 1 つのクラスに所属することになる。このシステムによって、たとえサークル等の課外活動に所属していない者であっても、4 年間を通じて一定の「帰属意識」をもつことができ、親密な人間関係の形成や精神的な安定に役立っているものと思われる。本学部においても、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたっており、このシス

テムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮していると考えられる。

そこで、本報告書の中でも各教員が1年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言や意見交換を行っている。

8) 今後の課題

比較文化学部、社会情報学部が順次千代田キャンパスに移転していく中で、多摩キャンパスの学生数が今後大きく減少していくことが既に決まっている。このことは学生の教学面に限らず、サークル活動、大学祭やスポーツフェスティバル等の課外行事の運営にも影響してくるものと予想される。このような中であって、現時点で多摩キャンパス内の唯一の学部となった本学部が、今後どのような構想の下で教育活動を展開していくのかが、長期的には最大のテーマである。学生数の減少が学生の士気の低下や就学環境の悪化につながらないようにするために、どのような方策を打ち出していくのかが問われているのである。

ひとつのビジョンとしては、「多摩市」という立地条件を最大限に活かした地元密着型の教育という方向が考えられるだろう。現時点では極めてラフなスケッチにすぎないものではあるが、今後はこれまで以上に学内の各部署・各種委員会と緊密に連携したFD活動の展開が求められるであろう。

Ⅱ－１ 授業に関するアンケート（前期・後期）

１. はじめに

学部授業の質の向上を目的に、本学部では平成 16 年度から、専任教員および非常勤講師が担当する授業について「学生による授業評価」（以下、授業アンケート）を実施している。特に、専任教員は全担当科目（卒業論文指導とゼミナールは原則として除く）の授業アンケートを 2 ヶ年にわたって実施するため、毎年度、担当科目の 2 分の 1 以上の授業アンケートを実施している。ただし、専任教員と非常勤講師が回を分けて担当するチームティーチング科目については、アンケートを実施した回の担当教員への評価と混同される可能性があるため、授業アンケート対象科目から除外した。

調査後、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善等（①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください）について回答を求め、それらは本報告書並びにホームページにて公開している。ただし、各専任教員・非常勤講師は、書面により、アンケートの実施の可否について FD 委員会に審議の申立てを行うことができる。また、評価結果ならびに意見・改善策等の掲載等を拒否することができる。

２. 調査目的

授業に関するアンケートは、教員の学生に対する教育サービスの質と量の向上を図るとともに、よりよい教授法のあり方を考える基礎資料を得るための組織的活動である。

３. 調査概要

（１）実施時期および手続き

前期は、平成 28 年 7 月 4 日（月）～7 月 23 日（土）の 3 週間に実施し、後期は、平成 28 年 12 月 1 日（木）～12 月 22 日（木）の 3 週間に実施した。また、授業アンケートの実施にあたり、例年同様、書面およびホームページ等を用いて、学生と各教員への周知と調査への協力を依頼した。さらに、平成 24 年度からは大学行事予定表に授業アンケート実施時期を掲載し、4 月の段階から広く周知するようになっている。

また、学生が率直に記入し、提出しやすいように無記名式で回答を行い、回収と提出は授業参加学生の有志に依頼する形式をとっている。そして、「授業内容や授業方法の改善を図るために実施するものであり、調査結果は統計的に処理され、個人が特定されるものではないこと、さらに成績に影響することは全くないこと」を書面と口頭により、繰り返し説明してから実施している。

（２）調査対象と回答率

前期の調査は、総科目数 187 のうち 179 科目で実施した。調査対象者は、調査実施科目の履修者 9,052 名であった。そのうち有効回答者は 6,888 名であり、回答率は 76.09%であった。

後期の調査は、総科目数 196 のうち 175 科目で実施した。調査対象者は、調査対象科目の履

修者 9,359 名であった。そのうち有効回答者は 6,547 名であり、回答率は 69.95%であった。

(3) 調査項目

授業アンケートの表面には、以下の 5 カテゴリー、21 項目があり、「5. そう思う」、「4. ややそう思う」、「3. どちらともいえない」、「2. あまりそう思わない」、「1. そう思わない」の 5 段階評定によって回答を求める形式であった。なお、No.14（この授業にどの程度出席しましたか）の回答ラベルは「5. 100%」、「4. 90%以上」、「3. 80%以上」、「2. 70%以上」、「1. 70%未満」、No.15（この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか）の回答ラベルは「5. 3 時間以上」、「4. 2 時間以上」、「3. 1 時間以上」、「2. 1 時間未満」、「1. していない」とした。その他、裏面に自由記入欄を設けた。本調査のアンケート用紙を次ページ以降に示した。

調査カテゴリーと項目

- ① 教員の授業の進め方について（7 項目）
- ② 授業の内容について（6 項目）
- ③ 学生自身の授業への取り組みとその成果について（5 項目）
- ④ 総合的な印象（1 項目）
- ⑤ 自由設定＝学部独自：担当教員がその場で設定する質問（2 項目）

自由記入欄

- ① 良かったと思う点
- ② 改善した方が良くと思う点
- ③ その他の意見や要望など

(4) 授業アンケート結果の活用ならびに情報公開と情報保護

- ① 各教員の担当科目ごとの調査結果（授業科目別集計）は、年度内に各教員に個別に通知する。
- ② 教員は、授業アンケートの結果に対して、意見や改善策等を FD 委員会に提出する。
- ③ ②の意見や改善策等は、FD 報告書ならびに学部ホームページ上に掲載し、一般公開する。ただし、各教員は、書面により掲載等を拒否することができる。
- ④ 調査データの処理は外部業者に委託し、集計結果の分析およびデータ保管は、FD 委員会の責任において行った。また、自由記入欄の内容は、FD 委員会の責任により、学生の筆跡の特定ができないようにタイピングし直した文章を各授業担当教員に配布した。なお、教員への配布物は、各教員が自己責任において管理・廃棄等を行うこととした。

大妻女子大学 「授業に関するアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。また、裏面の「自由記入欄」にはあなたの意見や要望・希望、感想を書いてください。

1. 科目名・教員名

科目名

教員名

【注意】

- H B の黒鉛筆のみ可。
- 折り曲げ厳禁。

※右例のようなマークは、読みとることができません。(悪い例)



2. 所属学科 (学科専攻・学年・組にマークしてください)

学	部	学科	専攻	学年	組
学	部	被服学科	⑦	社会情報学科	社会生活情報学専攻 ⑤
		食物学科	食物学専攻 ④		環境情報学専攻 ⑥
			管理栄養士専攻 ②		情報デザイン専攻 ⑧
	部	児童学科	児童学専攻 ⑩	人間関係学科	社会学専攻 ③
			児童教育専攻 ⑨		社会・臨床心理学専攻 ⑪
		ライフデザイン学科	⑫	人間福祉学科	人間福祉学専攻 ④
		日本文学科	⑬		介護福祉学専攻 ②
部	英文学科	⑭	比較文化学科	1年生 ⑦	
		コミュニケーション文化学科 ⑮		アジア文化コース ⑩	
				アメリカ文化コース ⑨	
短期大学部	家政科	家政専攻 ⑰		ヨーロッパ文化コース ⑧	
		生活総合ビジネス専攻 ⑱	国文科	⑫	
		食物栄養専攻 ⑲	英文科	⑬	

3. 次の質問に対してあなたがどう思うか該当する数字の○にマークしてください

① 先生のこの授業の進め方について

- 1 先生の話し方は明瞭で聞き取りやすかった
- 2 教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った
- 3 私語等の授業を妨げる行為に対して先生は適切な措置をした
※(授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5「そう思う」をマーク)
- 4 授業は学生の理解度を考慮しながら進められた
- 5 質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した
- 6 先生の学生に対する接し方は公平だった
- 7 授業は先生の十分な準備と熱意をもって行われた

そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

② この授業の内容について

- 8 授業は、学習の目標がはっきり示された
- 9 授業の構成は体系的で把握しやすくまとまっていた
- 10 授業の内容は興味深いものだった
- 11 授業の内容はよく理解できるものであった
- 12 授業は自分の将来にとって意味があると思う
- 13 「授業内容」(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった

⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

③ この授業への取り組みとその成果について

- 14 この授業にどの程度出席しましたか
- 15 この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか
- 16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した
- 17 この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った
- 18 この授業によって、新しいものの見方ができるようになった

100%	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満
⑤	④	③	②	①
3時間以上	2時間以上	1時間以上	1時間未満	していない
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①
⑤	④	③	②	①

④ 総合的な印象

- 19 総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う

⑤	④	③	②	①
---	---	---	---	---

⑤ 自由設定欄 (学部独自: ex)担当教員がその場で設定する質問

20

⑤	④	③	②	①
---	---	---	---	---

21

⑤	④	③	②	①
---	---	---	---	---

自由記入欄は裏面にあります

KR628T 110kg

【自由記入欄】

①良かったと思う点

②改善した方が良くと思う点

③その他の意見や要望など

ご協力ありがとうございました

4. 調査結果の分析

以下に、人間関係学部全体のアンケート集計結果の概要について報告する。具体的には、はじめに「授業の総合的な印象」に関する評価平均点（5点満点）について、今年度の結果と過年度を比較しながら分析する。ついで、「教員の授業の進め方」、「授業の内容」、「学生自身の授業への取り組み」の各項目について、今年度の結果と過年度の結果を比較しながら分析する。

① 「授業の総合的な印象」の評価

今年度前期授業アンケートにおける学生による「授業の総合的な印象」の評価平均値（5点満点）は4.22（前年度4.20）であり、後期は4.23（前年度4.23）であった。前年度とほぼ同じであり、前期後期共に「総合的に見て、授業を受けて良かった」と肯定的に評価していることが示されている。

過年度と比較すると、前期は2011年度の評価平均値は4.22、2012年度は4.18、2013年度、2014年度はともに4.27、2015年度は4.20であり、おおむねこれまでと大きく変化は見られない。後期は2011年度の評価平均値は4.29、2012年度は4.27、2013年度は4.31、2014年度は4.28、2015年度は4.23であり、こちらもそこまで大きな変化は見られない。十分に高い水準で安定して推移していることから、これまでの継続的なFD活動の成果が示されているといえるだろう。

② 「教員の授業の進め方」の評価

今年度の授業アンケートにおける学生による「教員の授業の進め方」の7項目の評価平均値（5点満点）は、前期が4.27（前年度4.22）であり、後期は4.30（前年度4.28）であった。前後期共に前年度より高い数値となっており、「教員の授業の進め方」が高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、前期に関して、2011年度、2012年度は4.17、2013年度は4.26、2014年度は4.29、2015年度は4.22であり、おおむねこれまでと大きく変化は見られない。後期については、2011年度が4.25、2012年度は4.24であり、2013年度は4.33、2014年度は4.30と少し高かった。2015年度は4.28であり、今年度は2014年度と同様の数値であった。

「教員の授業の進め方」を構成する7項目の中で、今年度最も評価平均点の高かった項目は、前期が「教員の学生に対する接し方は公平だった（4.42）」であり、後期は「教員の学生に対する接し方は公平だった（4.42）」「授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた（4.42）」であった。

以上のことから、本学部の各教員の学生への接し方、担当授業に対して取り組む姿勢・熱意が学生にしっかりと伝わり、しかも高く評価されていることが理解できるだろう。これは昨年度もほぼ同様の結果であり、本学教員の教育の質の高さが表れているものと考えられる。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、過年度と同様に前期後期共に「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」であり、前期が4.00、後期が4.09であった。ただ、低いとはいえ5点満点中4点以上であるので、改善の余地があるとはいえ、多様な授業形態がある中において、一定程度の評価を学生から受けているとも受け止めることができる。

③ 「授業の内容」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「授業の内容」の6項目の評価平均値（5点満点）は4.19（前年度4.15）であり、後期は4.20（前年度4.20）であった。前期後期共に4点を超えており、「授業の内容」が高い評価を得ていることが示されている。

過年度と比較すると、前期に関して、2011年度は4.04、2012年度は4.02、2013年度は4.15、2014年度は4.20、2015年度は4.15であり、2014年度の次に高い数値であった。後期に関して、2011年度は4.11、2012年度は4.12、2013年度は4.22、2014年度は4.21、2015年度は4.20であり、過去3年とほぼ同様の数値であった。ここ数年は安定して4.2以上の数値を確保できており、教育内容が高いレベルに維持されていることを示しているものと考えられる。

「授業の内容」を構成する6項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期共に「授業は、学習の目標がはっきり示された」であり、前期は4.31、後期は4.32であり、過年度においても、毎年、最も評価平均点が高い項目となっている。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、「授業内容」（シラバス）は科目の選択や学習の参考になった」であり、前期が4.04、後期が4.07であった。なお、この項目は、過去3年間においても毎年、最も評価平均点が低い項目となっていた。こちらに関しては、シラバスの内容をさらに改善することによって評価を上げることができる可能性がある。授業内容への興味が高く（前期4.20、後期4.21）、自分の将来にとって意味があると考えている（前期4.25、後期4.24）ことを考えると、学生のニーズに合った授業内容が展開されていると評価できるのではないだろうか。

④ 「学生自身の授業への取り組み」の評価

前期授業アンケートにおける学生による「学生自身の授業への取り組み」の5項目の評価平均値（5点満点）は3.33（前年度3.29）であり、後期は3.35（前年度3.32）であった。昨年度よりは上がっているものの、前期後期共に4点以下であり、他の調査カテゴリーと比較すると、「学生自身の授業への取り組み」には課題が残っていることが示されている。

過年度と比較すると、前期に関して、2011年度は3.71、2012年度は3.75、2013年度は3.33、2014年度は3.31、2015年度は3.29であり、2011年度、2012年度前期と比べると0.4ポイント近く低下した状況が続いている。後期に関して、2011年度は3.77、2012年度は3.82、2013年度は3.35、2014年度は3.29、2015年度は3.32であり、過去3年とほぼ同様の数値であった。

「学生自身の授業への取り組み」を構成する5項目の中で今年度最も評価平均点が高かった項目は、前期後期共に「この授業にどの程度出席しましたか」であり、前期が4.32（前年度4.35）、後期が4.24（前年度4.21）であった。この結果は昨年度と同様であった。本学部の学生の授業出席はかなり高いものと判断できる。

一方、今年度最も評価平均点が低かった項目は、前期後期共に「この授業のために予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」であり、前期後期共に1.75（前年度前期1.77、後期1.73）であった。なお、昨年度最も評価平均点が低い項目もこの項目であり、この項目の平均点の低さが「学生自身の授業への取り組み」全体を大幅に引き下げている。授業時間外の自習を増加

させるために、本年度の学部主催 FD 研修会における分科会テーマの一つに、時間外学習を促すための方法が実施された。そこでは、学生・教員双方の負担があまり大きくならない形での授業時間外学習の方法について様々な情報共有がなされた。このような取り組みを継続的に実施していくことで、自習を促すことができるようになるのではないだろうか。また、「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」という項目も前期後期ともに3点程度であり、あまり高くない。この項目は近年、重要視されている主体的・能動的な学び（アクティブラーニング）に関わる項目であると考えられ、この項目の得点を高めるための工夫についてもFD上の大きな課題であろう。

5. 授業アンケート調査結果の活用

今年度も、授業アンケート調査結果を今後の授業改善に活用することを目的とし、調査後に、授業科目別集計を各担当教員にフィードバックし、授業評価の結果について意見と改善策等(①今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか、②施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善するべき点があればご指摘ください、③受講生への要望があればお書きください)について自由記述による回答を求めた。この自由記述データの分析結果については、Ⅱ-2において報告する。

2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

大妻女子大学

人間関係学部全体

履修者数	9,359
回答者数	6,547

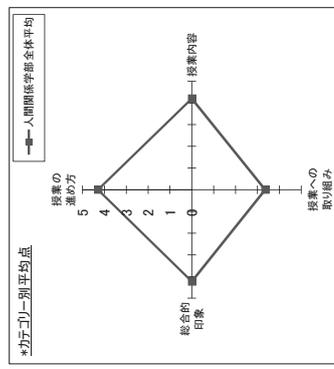
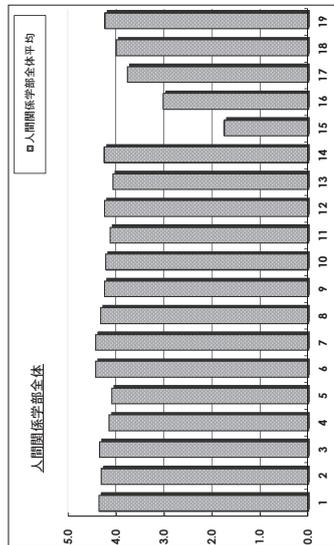
No.	説明文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.35	56.4	28.5	10.2	3.6	1.3	6,532	15	0.89
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.30	53.4	29.3	12.8	3.1	1.3	6,530	17	0.90
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.34	56.5	26.6	12.8	2.8	1.3	6,531	16	0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.14	45.9	30.2	17.5	4.6	1.7	6,532	15	0.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	44.8	29.3	18.3	5.3	2.4	6,524	23	1.02
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.42	60.7	25.2	11.1	1.8	1.2	6,527	20	0.85
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	58.8	27.9	10.7	1.6	0.9	6,526	21	0.82

II. この授業の内容について										
No.	説明文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.32	53.6	29.6	13.1	2.6	1.1	6,529	18	0.88
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.24	50.7	29.7	13.8	4.2	1.6	6,528	19	0.95
10	授業の内容は興味深いものだった	4.21	49.7	29.6	14.8	4.2	1.7	6,525	22	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.13	44.8	31.9	16.4	4.7	2.2	6,521	26	0.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.24	50.3	29.7	14.9	3.4	1.7	6,522	25	0.94
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.07	42.2	29.5	22.9	3.4	2.0	6,484	63	0.98

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	説明文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.24	51.6	28.6	13.6	5.2	1.1	6,515	32	0.95
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.75	4.8	4.5	10.4	21.9	58.5	6,499	48	1.11
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.02	20.9	18.2	26.0	11.5	23.3	6,446	101	1.44
17	この授業を受けて、さらに学歴的に学びたいと思った	3.77	32.7	29.1	25.6	7.5	5.2	6,494	53	1.14
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.00	40.9	30.2	20.2	5.2	3.6	6,486	61	1.07

IV. 総合的印象										
No.	説明文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.23	50.9	28.1	15.9	3.2	1.9	6,269	278	0.96

01-010の学部全体平均値	4.02
01-010の学部全体平均値-2σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(全体)

大妻女子大学

人間関係学部全体

履修者数	9,052
回答者数	6,888

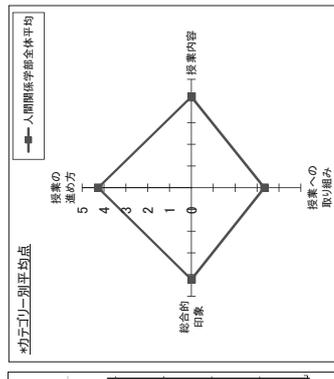
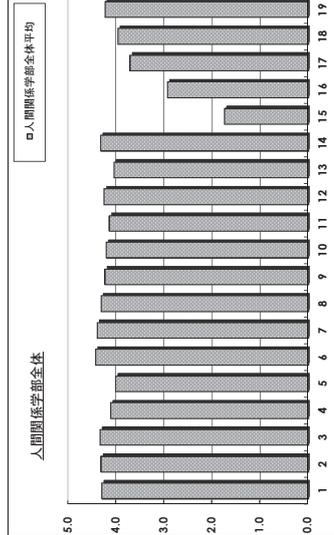
I. 教員のこの授業の進め方について										
No.	説明文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	
1	教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった	4.29	53.5	29.9	10.5	4.3	1.7	6,872	16	0.94
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.31	52.7	30.9	12.4	2.8	1.2	6,871	17	0.88
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.33	55.0	28.3	12.6	2.9	1.2	6,867	21	0.89
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	43.4	32.5	17.4	4.9	1.8	6,866	22	0.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.00	41.4	29.2	20.5	6.0	2.8	6,860	28	1.06
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.42	59.6	26.5	11.1	1.8	1.0	6,864	24	0.83
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.39	56.7	29.5	11.0	2.0	0.8	6,856	32	0.82

II. この授業の内容について										
No.	説明文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.31	52.0	31.4	12.7	2.7	1.1	6,862	26	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.23	49.4	31.1	14.2	3.8	1.5	6,864	24	0.93
10	授業の内容は興味深いものだった	4.20	48.1	31.6	14.3	4.1	1.9	6,855	33	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.14	44.6	32.9	15.8	4.9	1.8	6,858	30	0.97
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	50.7	30.1	13.9	3.8	1.6	6,859	29	0.94
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.04	40.7	30.7	22.7	3.8	2.1	6,819	69	0.99

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	説明文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.32	56.3	26.0	11.8	4.8	1.1	6,833	55	0.93
15	この授業のために毎回予習・復習を合わせたどの程度自習しましたか	1.75	4.4	4.4	9.6	24.5	57.0	6,835	53	1.08
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.93	19.2	17.7	25.2	12.4	25.5	6,755	133	1.44
17	この授業を受けて、さらに学歴的に学びたいと思った	3.71	31.3	28.4	26.0	8.5	5.8	6,822	66	1.16
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.96	38.9	31.0	21.2	5.1	3.8	6,817	71	1.07

IV. 総合的印象										
No.	説明文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
			5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	51.0	28.2	15.2	3.3	2.3	6,605	283	0.97

01-010の学部全体平均値	4.00
01-010の学部全体平均値-2σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

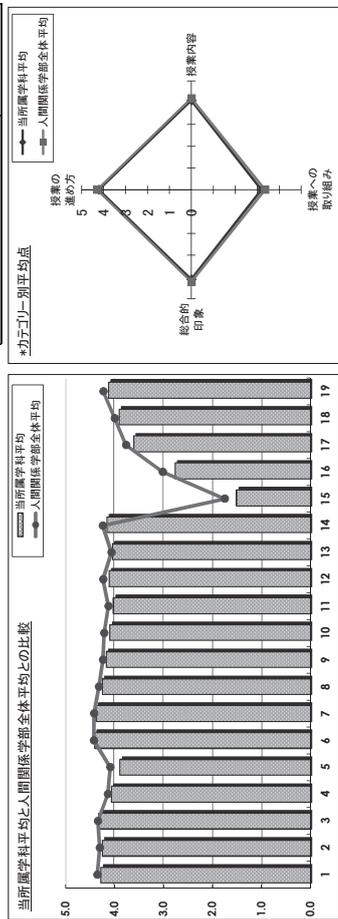
所属学科	人間関係学科 社会学専攻
履修者数	1,593
回答者数	—

No.	設問文	当カテゴリー平均点			無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)	有効回答		
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.27	32.8	10.0	4.7	1.587
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.24	47.6	34.3	13.9	1.585
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.31	56.0	26.4	12.1	1.585
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.06	39.2	35.6	18.7	1.585
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.88	36.7	31.2	20.2	1.585
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.40	57.0	30.1	10.3	1.587
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.37	53.1	33.8	11.0	1.587

II. この授業の内容について						
No.	設問文	当カテゴリー平均点			無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)	有効回答		
5		4.03	38.0	33.5	23.8	1.572
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	45.8	36.8	14.1	1.586
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.16	43.8	35.1	15.9	1.589
10	授業の内容は興味深いものだった	4.09	41.1	34.6	18.1	1.587
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.01	35.9	36.7	18.3	1.586
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.10	41.5	34.5	18.4	1.584
13	授業は自分の学びたい科目の選択や学習の参考になった	4.03	38.0	33.5	23.8	1.572

III. この授業への取り組みとその成果について						
No.	設問文	当カテゴリー平均点			無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)	有効回答		
5		4.15	44.7	34.0	13.6	1.583
14	この授業にどの程度出席しましたか	1.52	2.6	3.3	7.4	1.52
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	2.76	17.1	16.6	23.8	1.569
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.61	25.6	30.7	28.6	1.584
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.90	34.8	34.1	21.8	1.581

IV. 総合的な印象						
No.	設問文	当カテゴリー平均点			無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)	有効回答		
5		4.11	42.8	33.6	17.8	1.513
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.11	42.8	33.6	17.8	1.513



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

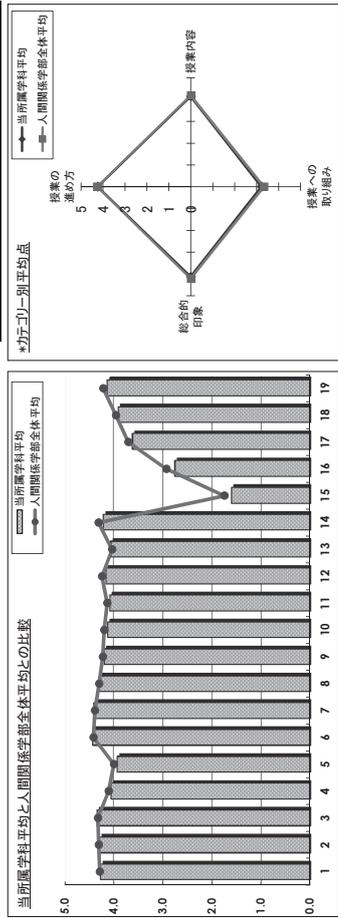
所属学科	人間関係学科 社会学専攻
履修者数	—
回答者数	1,736

No.	設問文	当カテゴリー平均点			無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)	有効回答		
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.27	52.4	31.2	9.2	1.730
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.29	51.0	32.0	13.1	1.731
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.34	56.0	27.5	12.7	1.731
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.05	41.1	33.4	17.8	1.728
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.93	39.2	28.8	21.8	1.726
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.43	59.2	27.8	10.8	1.729
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	56.0	31.0	10.9	1.727

II. この授業の内容について						
No.	設問文	当カテゴリー平均点			無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)	有効回答		
5		4.29	49.7	34.1	12.7	1.727
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.19	46.3	33.2	15.5	1.729
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.13	44.9	32.8	14.3	1.727
10	授業の内容は興味深いものだった	4.08	40.7	35.7	16.5	1.726
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.16	45.4	34.0	14.4	1.726
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.06	39.8	32.7	22.7	1.720
13	授業は自分の学びたい科目の選択や学習の参考になった	4.06	39.8	32.7	22.7	1.720

III. この授業への取り組みとその成果について						
No.	設問文	当カテゴリー平均点			無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)	有効回答		
5		4.21	49.2	30.6	13.5	1.717
14	この授業にどの程度出席しましたか	1.61	3.6	2.7	8.7	1.721
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	2.76	17.1	15.5	24.7	1.699
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.62	27.0	29.1	28.8	1.713
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.91	36.2	32.6	21.8	1.720

IV. 総合的な印象						
No.	設問文	当カテゴリー平均点			無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)	有効回答		
5		4.13	44.9	32.1	16.7	1.647
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.13	44.9	32.1	16.7	1.647



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科 社会・臨床心理学専攻
履修者数	1,500
回答者数	—

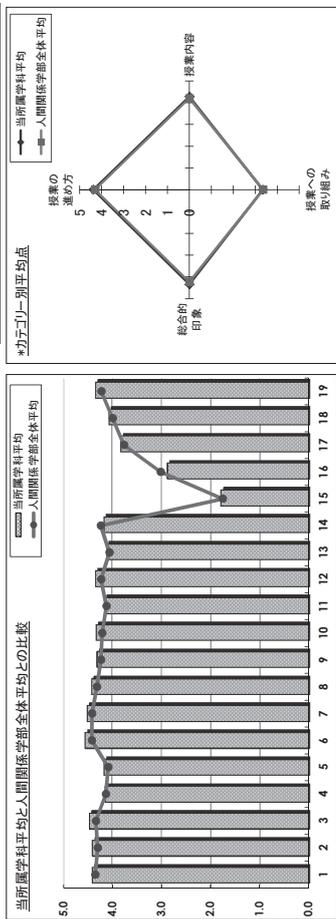
No.	設問文	平均点			当カテリ平均点			標準偏差	
		有効回答	無効回答	割合	有効回答	無効回答	割合		
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.40	60.3	26.2	8.2	4.2	1.1	1,499	0.89
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.40	60.7	25.1	9.4	3.5	1.3	1,497	0.89
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.47	63.3	24.4	9.1	2.5	0.8	1,498	0.82
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.15	48.5	26.6	14.4	5.9	2.5	1,496	1.04
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.16	48.2	29.7	14.6	5.1	2.3	1,497	1.01
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.55	69.2	20.4	7.7	1.5	1.1	1,497	0.79
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.51	65.3	24.0	7.9	1.9	0.9	1,497	0.80

II. この授業の内容について		平均点			当カテリ平均点			標準偏差	
No.	設問文	有効回答	無効回答	割合	有効回答	無効回答	割合		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.42	60.2	26.8	8.6	3.1	1.3	1,499	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.31	56.8	26.2	10.0	5.1	1.9	1,496	0.97
10	授業の内容は興味深いものだった	4.33	56.8	27.4	9.6	4.3	1.9	1,495	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.16	49.0	29.2	13.5	5.4	2.9	1,494	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.34	56.0	28.9	10.5	2.7	1.9	1,499	0.91
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.11	45.5	28.2	20.7	3.6	2.0	1,488	1.09

III. この授業への取り組みとその成果について		平均点			当カテリ平均点			標準偏差	
No.	設問文	有効回答	無効回答	割合	有効回答	無効回答	割合		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.17	47.3	30.7	15.1	5.9	1.0	1,497	0.96
15	この授業のために各自予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.80	3.9	4.6	11.5	26.9	53.0	1,496	4.107
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.88	18.1	17.4	24.2	15.3	24.9	1,479	2.1
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.83	34.1	31.4	21.7	8.6	4.2	1,487	1.43
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.07	43.7	31.1	16.4	5.7	3.1	1,495	1.05

IV. 総合的印象		平均点			当カテリ平均点			標準偏差	
No.	設問文	有効回答	無効回答	割合	有効回答	無効回答	割合		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.34	57.3	26.6	11.1	3.0	2.0	1,446	0.93

01-010の当区分平均値	4.07
01-010の学部全体平均値	4.02
01-010の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間関係学科 社会・臨床心理学専攻
履修者数	—
回答者数	1,369

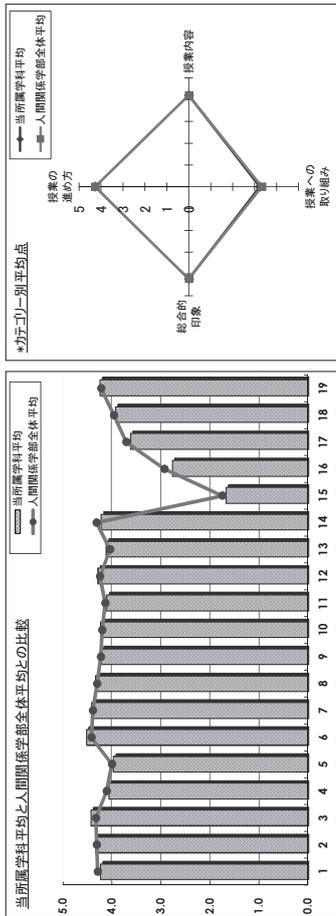
No.	設問文	平均点			当カテリ平均点			標準偏差	
		有効回答	無効回答	割合	有効回答	無効回答	割合		
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.23	52.3	28.8	10.2	6.3	2.3	1,368	1.02
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	55.4	29.0	10.5	3.7	1.4	1,367	0.91
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	61.5	24.6	9.7	3.0	1.2	1,367	0.87
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.05	42.1	32.2	16.8	7.0	2.0	1,365	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.96	40.7	28.7	19.7	7.8	3.1	1,367	1.09
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.51	65.0	23.6	9.2	1.5	0.7	1,366	0.78
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	58.2	28.6	9.6	2.7	1.0	1,366	0.84

II. この授業の内容について		平均点			当カテリ平均点			標準偏差	
No.	設問文	有効回答	無効回答	割合	有効回答	無効回答	割合		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.32	54.1	30.1	10.9	3.6	1.3	1,367	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.20	50.4	29.1	13.4	5.1	2.1	1,366	0.99
10	授業の内容は興味深いものだった	4.22	50.1	30.0	13.5	4.7	1.7	1,365	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.10	44.5	31.5	15.6	6.0	2.4	1,361	1.02
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.28	53.1	28.9	12.1	4.4	1.5	1,367	0.94
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.11	45.2	28.8	19.6	4.4	2.0	1,360	1.00

III. この授業への取り組みとその成果について		平均点			当カテリ平均点			標準偏差	
No.	設問文	有効回答	無効回答	割合	有効回答	無効回答	割合		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.21	49.9	30.0	12.4	6.3	1.3	1,360	0.98
15	この授業のために各自予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.68	3.4	3.2	9.1	26.2	58.1	1,363	6.100
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.76	16.4	16.1	24.1	14.4	29.0	1,345	2.4
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.62	29.3	32.6	25.1	11.2	6.8	1,360	1.21
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.92	38.1	31.4	19.6	6.2	4.7	1,362	1.12

IV. 総合的印象		平均点			当カテリ平均点			標準偏差	
No.	設問文	有効回答	無効回答	割合	有効回答	無効回答	割合		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	52.6	27.6	13.2	4.1	2.6	1,326	1.00

01-010の当区分平均値	3.98
01-010の学部全体平均値	4.00
01-010の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 人間福祉学専攻
履修者数	1,876
回答者数	1,876

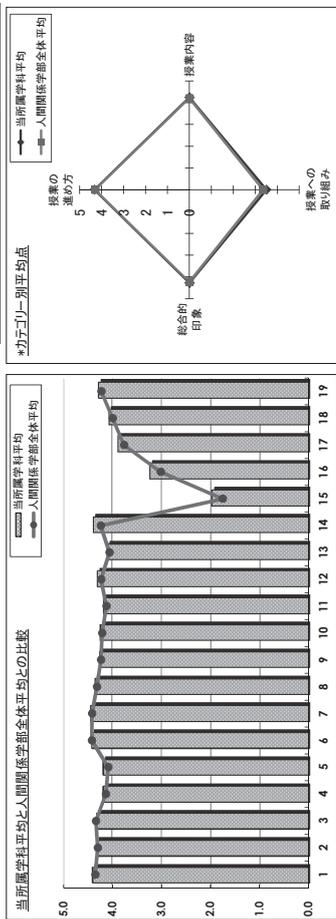
No.	設問文	平均点			当カテゴリー平均点			標準偏差		
		5	4	3	有効回答	無効回答	割合			
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかったです	4.40	61.0	24.5	9.8	3.3	1.5	1,873	3	0.90
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立ちました	4.31	55.8	25.8	13.3	3.5	1.5	1,873	3	0.94
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.32	56.0	25.7	13.9	2.9	1.5	1,873	3	0.92
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められました	4.18	49.8	27.1	16.5	4.8	1.8	1,875	1	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.18	49.8	26.5	17.6	4.3	1.8	1,874	2	0.99
6	教員の学生に対する接し方は公平でした	4.42	62.0	22.3	12.2	2.3	1.2	1,873	3	0.88
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われました	4.44	62.4	23.4	11.3	1.8	1.1	1,870	6	0.85

II. この授業の内容について		平均点			当カテゴリー平均点			標準偏差		
No.	設問文	5	4	3	有効回答	無効回答	割合			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.35	57.4	25.5	13.3	2.6	1.2	1,873	3	0.89
9	授業の構成は体系的で把握しやすかったです	4.26	54.0	26.3	13.0	4.9	1.8	1,875	1	0.98
10	授業の内容は興味深いものでした	4.24	53.9	24.7	14.6	5.0	1.7	1,874	2	0.99
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.18	50.0	27.3	15.3	5.1	2.3	1,872	4	1.02
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.30	56.6	24.1	13.8	4.0	1.5	1,871	5	0.96
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になりました	4.09	45.9	25.8	22.2	3.8	2.3	1,861	15	1.01

III. この授業への取り組みとその成果について		平均点			当カテゴリー平均点			標準偏差		
No.	設問文	5	4	3	有効回答	無効回答	割合			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.38	60.5	23.2	12.0	3.0	1.3	1,869	7	0.90
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.98	7.5	5.3	13.9	24.1	49.2	1,844	12	1.23
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.24	25.7	18.4	27.7	10.5	17.7	1,844	32	1.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.88	38.8	26.2	24.0	6.7	4.4	1,861	15	1.13
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.07	46.1	26.0	19.6	5.2	3.1	1,852	24	1.07

IV. 総合的印象		平均点			当カテゴリー平均点			標準偏差		
No.	設問文	5	4	3	有効回答	無効回答	割合			
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.28	55.9	23.1	16.0	3.1	1.9	1,790	86	0.97

01-019の当区分平均値	4.08
01-019の学部全体平均値	4.02
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 人間福祉学専攻
履修者数	1,876
回答者数	1,876

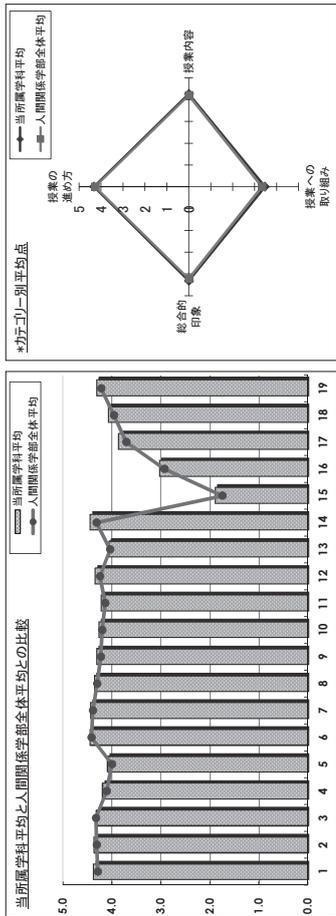
No.	設問文	平均点			当カテゴリー平均点			標準偏差		
		5	4	3	有効回答	無効回答	割合			
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかったです	4.38	57.8	28.2	9.8	2.9	1.3	2,136	2	0.88
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立ちました	4.37	56.2	29.1	11.6	1.9	1.3	2,137	1	0.85
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.32	54.9	27.6	13.5	2.7	1.3	2,132	6	0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められました	4.20	48.2	30.1	16.4	3.8	1.5	2,136	2	0.95
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.09	44.8	28.9	19.1	5.2	2.0	2,132	6	1.01
6	教員の学生に対する接し方は公平でした	4.45	62.1	24.4	10.7	1.8	0.9	2,133	5	0.83
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われました	4.44	60.3	26.8	10.6	1.4	0.9	2,130	8	0.81

II. この授業の内容について		平均点			当カテゴリー平均点			標準偏差		
No.	設問文	5	4	3	有効回答	無効回答	割合			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.36	55.8	29.0	11.8	2.2	1.1	2,131	7	0.85
9	授業の構成は体系的で把握しやすかったです	4.32	54.2	29.3	12.1	3.0	1.3	2,132	6	0.90
10	授業の内容は興味深いものでした	4.27	51.4	30.6	13.6	2.8	1.7	2,130	8	0.92
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.22	49.5	30.5	14.3	4.2	1.5	2,132	6	0.94
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.35	56.8	26.5	12.6	2.9	1.3	2,132	6	0.90
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になりました	4.07	42.4	29.8	21.8	3.7	2.2	2,116	22	0.99

III. この授業への取り組みとその成果について		平均点			当カテゴリー平均点			標準偏差		
No.	設問文	5	4	3	有効回答	無効回答	割合			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.45	64.8	20.9	9.8	3.4	1.0	2,133	5	0.88
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.90	5.5	6.1	11.1	28.1	49.3	2,124	14	1.15
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.04	20.8	18.9	25.7	12.3	22.3	2,100	38	1.43
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.87	36.9	28.7	23.3	6.6	4.5	2,122	16	1.12
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.07	43.7	30.1	19.1	4.1	3.0	2,110	28	1.03

IV. 総合的印象		平均点			当カテゴリー平均点			標準偏差		
No.	設問文	5	4	3	有効回答	無効回答	割合			
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.32	56.5	25.2	13.9	2.6	1.8	2,057	81	0.93

01-019の当区分平均値	4.08
01-019の学部全体平均値	4.00
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 介護福祉学専攻
履修者数	485
回答者数	485

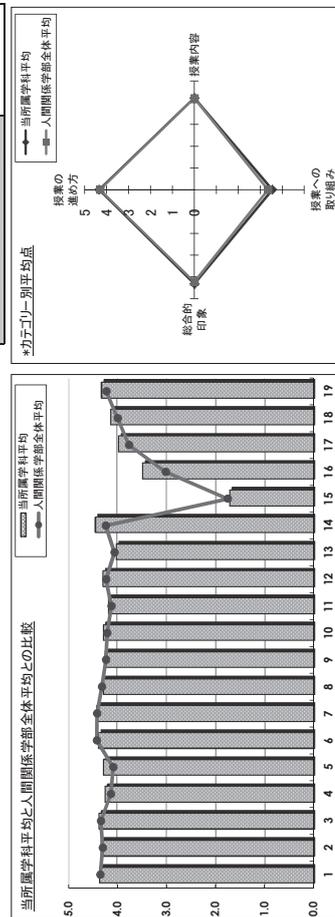
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	5	4	3	2			
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.36	53.5	32.2	12.0	1.0	1.2	484	0.83
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	53.2	31.3	11.5	2.7	1.2	485	0.87
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.37	55.5	29.9	12.2	1.2	1.2	485	0.84
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.25	49.3	30.7	16.7	2.1	1.2	485	0.89
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.28	49.2	33.5	14.3	2.3	0.8	484	0.85
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.38	56.4	29.5	10.5	2.5	1.0	484	0.85
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	57.6	30.6	8.9	2.3	0.6	484	0.80

II. この授業の内容について									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	5	4	3	2			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.28	52.4	28.2	15.9	2.5	1.0	485	0.89
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.25	50.1	30.7	14.6	3.3	1.2	485	0.91
10	授業の内容は興味深いものだった	4.28	51.0	30.6	15.1	2.3	1.0	484	0.88
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.18	47.2	29.9	18.4	2.7	1.9	485	0.95
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.29	51.8	30.9	13.4	2.5	1.4	485	0.89
13	授業は自分の学びたい科目の選択や学習の参考になった	4.02	42.5	27.0	24.1	2.7	3.7	485	1.05

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	5	4	3	2			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.45	65.1	21.6	7.5	4.6	1.2	481	0.91
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.72	4.6	4.8	8.8	21.9	60.0	480	1.10
16	授業時間外に、考えを述べた/して積極的に参加した	3.48	27.9	25.2	27.0	7.5	12.5	481	1.31
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.97	40.0	28.6	23.7	3.9	3.7	482	1.06
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.13	45.4	30.5	18.0	3.9	2.1	482	0.98

IV. 総合的印象									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	5	4	3	2			
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.32	54.6	27.6	13.9	2.7	1.1	474	0.89

Q1-Q10の当区分平均値	4.09
Q1-Q10の学部全体平均値	4.02
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク所属学科別)

大妻女子大学

所属学科	人間福祉学科 介護福祉学専攻
履修者数	—
回答者数	606

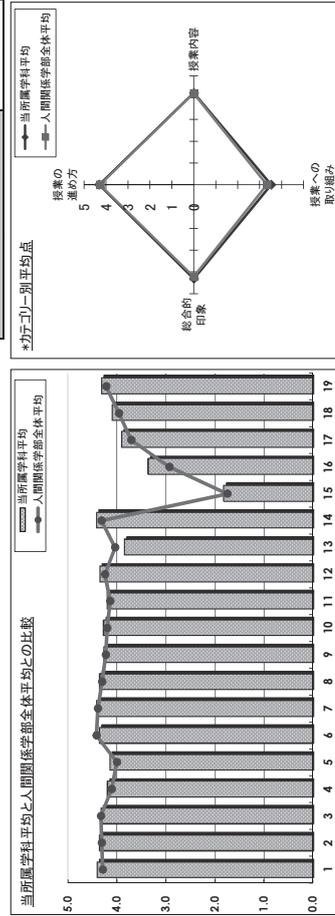
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	5	4	3	2			
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.41	58.9	29.3	7.3	2.8	1.7	604	0.87
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.36	55.9	29.9	9.9	2.8	1.5	605	0.88
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.33	53.1	32.4	10.4	2.8	1.3	605	0.87
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.20	47.2	33.8	12.9	4.0	2.2	604	0.96
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.15	46.3	31.2	16.0	4.1	2.3	605	0.99
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.36	59.0	26.0	9.8	3.0	2.3	605	0.94
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	59.0	28.8	8.8	2.1	1.3	605	0.84

II. この授業の内容について									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	5	4	3	2			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.35	55.0	30.9	9.9	2.6	1.5	605	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.27	51.2	31.6	12.1	3.0	2.1	605	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	4.28	53.2	30.4	10.1	3.5	2.8	605	0.97
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.20	47.4	34.8	10.8	5.1	2.0	604	0.96
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.35	56.4	29.0	9.3	3.8	1.5	603	0.91
13	授業は自分の学びたい科目の選択や学習の参考になった	3.85	35.5	29.2	26.2	3.3	5.8	600	1.12

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	5	4	3	2			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.42	65.7	18.9	8.7	5.4	1.3	598	0.95
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.83	4.0	7.2	9.7	26.2	53.0	600	1.12
16	授業時間外に、考えを述べた/して積極的に参加した	3.37	27.1	25.3	21.6	9.9	16.2	598	1.40
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.91	37.5	31.1	20.8	5.8	4.8	602	1.11
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.10	45.2	30.0	18.0	3.5	3.3	600	1.03

IV. 総合的印象									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	5	4	3	2			
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.32	56.5	26.5	11.9	2.7	2.4	582	0.95

Q1-Q10の当区分平均値	4.08
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	1~15名	履修者数	523
		回答者数	436

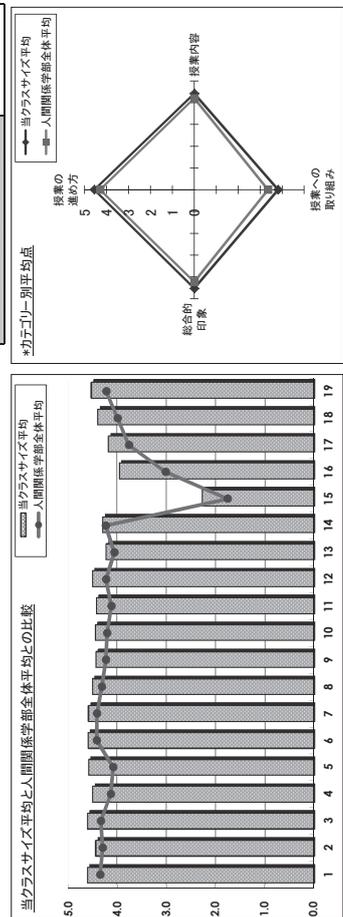
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差
		平均点	回答率(%)				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.60	70.6	22.0	5.3	1.1	0.72
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.44	59.9	28.7	7.8	2.5	0.83
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.60	71.3	20.4	6.4	0.9	0.73
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.50	64.9	23.9	8.0	2.3	0.81
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.58	69.0	21.8	7.6	1.1	0.72
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.59	71.3	19.7	6.4	1.8	0.75
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.58	68.6	22.9	7.1	1.1	0.69

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差
		平均点	回答率(%)				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.50	61.9	28.2	8.3	1.1	0.5
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.43	60.6	27.1	8.3	3.0	0.85
10	授業の内容は興味深いものだった	4.44	60.1	28.2	8.0	3.0	0.7
11	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.42	59.5	27.4	9.7	2.5	0.9
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.50	64.5	24.4	8.3	2.1	0.7
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.22	52.5	24.9	17.7	2.1	2.8

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差
		平均点	回答率(%)				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.29	54.9	27.8	10.1	5.5	1.6
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.28	8.3	10.8	18.0	26.0	36.9
16	授業中質問したい、考えを述べたいと積極的に参加した	3.96	41.3	25.8	25.1	3.0	4.9
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.18	47.0	30.3	18.1	2.5	2.1
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.39	57.5	28.5	10.8	2.1	1.1

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差
		平均点	回答率(%)				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.52	66.5	22.6	8.5	1.7	0.7

01-019の当区分平均値	4.32
01-019の学部全体平均値	4.02
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	1~15名	履修者数	550
		回答者数	504

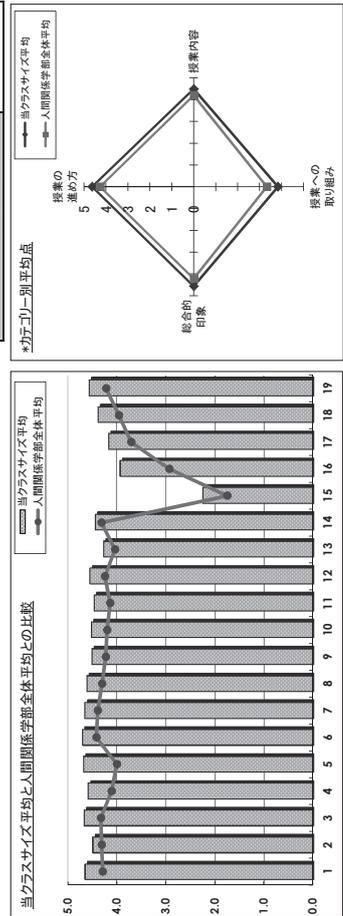
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差
		平均点	回答率(%)				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.65	72.4	22.1	3.8	1.6	0.2
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.49	63.5	24.6	9.7	2.0	0.2
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.67	75.3	17.1	7.0	0.4	0.2
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.59	68.5	23.6	6.0	2.0	0.0
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.68	74.4	20.0	5.0	0.6	0.0
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.70	76.6	19.0	3.0	1.0	0.4
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.65	72.0	23.0	3.4	1.4	0.2

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差
		平均点	回答率(%)				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.61	68.5	25.2	5.6	0.6	0.2
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.51	63.4	27.6	6.4	2.0	0.6
10	授業の内容は興味深いものだった	4.52	64.3	25.5	8.4	1.4	0.4
11	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.46	60.6	28.3	8.4	2.6	0.2
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.55	67.1	24.0	6.3	2.0	0.6
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.27	51.6	27.8	18.0	1.6	1.0

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差
		平均点	回答率(%)				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.44	61.7	25.2	9.7	2.4	1.0
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.25	5.6	10.0	20.1	33.1	31.3
16	授業中質問したい、考えを述べたいと積極的に参加した	3.94	38.1	30.3	22.6	5.2	3.8
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.17	45.0	32.5	17.9	3.8	0.8
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.38	54.5	32.6	10.3	2.0	0.6

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差
		平均点	回答率(%)				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.57	67.4	23.9	6.8	1.6	0.2

01-019の当区分平均値	4.38
01-019の学部全体平均値	4.00
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	16~49名	履修者数	1,612
		回答者数	1,244

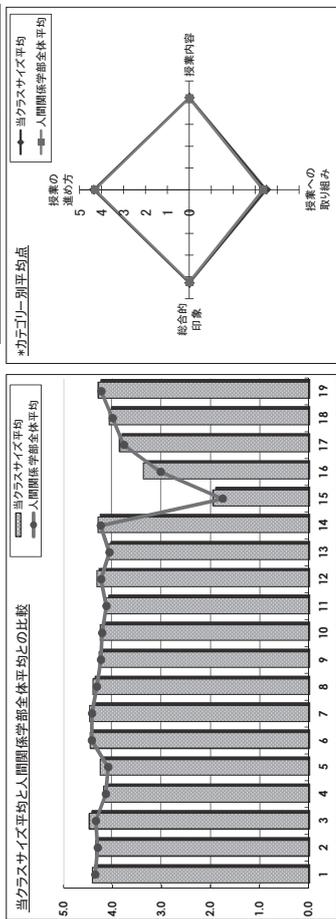
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	回答率(%)	有効回答						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.39	28.8	3.2	1.238	6	0.88			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	26.9	1.9	1.237	7	0.89			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.46	24.3	10.3	1.6	1.0	1.239	5	0.82	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.18	47.8	30.0	15.7	4.8	1.6	1.239	5	0.97
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.24	50.1	30.3	14.6	3.3	1.7	1.239	5	0.94
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.44	62.3	24.9	9.0	1.9	1.9	1.239	5	0.88
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	60.4	27.3	9.9	1.5	0.9	1.237	7	0.80

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	回答率(%)	有効回答						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.38	57.6	28.1	10.6	2.6	1.1	1.243	1	0.86
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.26	52.0	29.7	12.4	4.5	1.5	1.238	6	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	4.24	51.5	28.3	14.2	4.3	1.7	1.236	8	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.11	45.3	31.6	15.0	5.4	2.7	1.237	7	1.02
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.31	54.6	28.1	12.5	2.8	1.9	1.241	3	0.93
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.07	43.3	28.0	23.5	2.8	2.4	1.230	14	1.00

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	回答率(%)	有効回答						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.29	54.4	27.9	10.8	5.7	1.1	1.236	8	0.95
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.95	7.9	6.4	11.5	21.6	52.6	1.233	11	1.27
16	授業時間外に、考えを述べた/して積極的に参加した	3.36	27.8	21.2	25.7	10.3	15.1	1.224	20	1.38
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.85	35.5	29.2	24.2	6.6	4.5	1.228	16	1.11
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.06	42.7	30.8	18.9	4.4	3.2	1.236	8	1.04

IV. 総合的な印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	回答率(%)	有効回答						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.28	53.4	28.1	13.1	3.3	2.0	1.194	50	0.95

01-010の当区分平均値	4.09
01-010の学部全体平均値	4.02
01-010の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	16~49名	履修者数	1,599
		回答者数	1,338

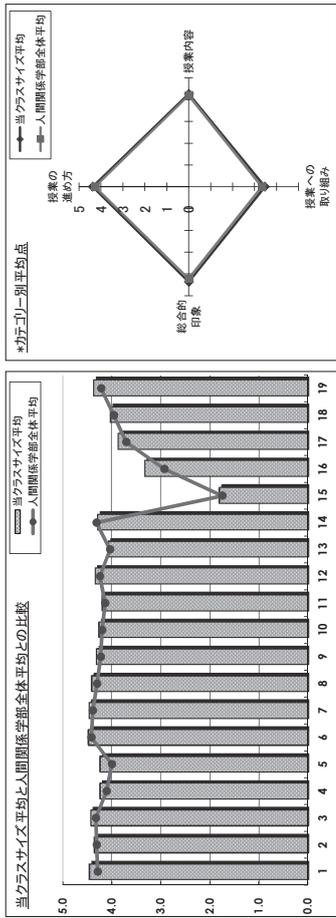
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	回答率(%)	有効回答						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.46	60.9	28.2	7.7	2.4	0.8	1.335	3	0.80
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	55.0	30.0	11.8	1.9	1.3	1.335	3	0.86
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.43	59.4	27.4	10.8	1.7	0.7	1.335	3	0.80
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.24	50.6	30.7	12.8	4.1	1.8	1.336	2	0.95
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.24	50.4	29.9	15.0	3.3	1.4	1.336	2	0.92
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.48	63.9	24.6	8.1	2.0	1.3	1.336	2	0.83
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.46	61.6	26.3	9.7	1.6	0.7	1.334	4	0.79

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	回答率(%)	有効回答						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.41	58.2	29.0	9.6	2.3	1.0	1.333	5	0.83
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.31	53.8	29.6	12.3	2.7	1.6	1.334	4	0.90
10	授業の内容は興味深いものだった	4.27	51.5	30.7	12.5	3.4	1.9	1.332	6	0.94
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.20	47.3	33.5	12.8	4.4	2.0	1.333	5	0.96
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.34	56.3	28.1	10.6	3.4	1.6	1.333	5	0.91
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.07	43.4	29.2	21.2	3.2	2.9	1.324	14	1.02

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	回答率(%)	有効回答						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.29	55.2	26.6	11.3	5.5	1.4	1.325	13	0.96
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.82	4.7	4.7	10.6	27.6	52.4	1.325	13	1.10
16	授業時間外に、考えを述べた/して積極的に参加した	3.33	25.6	22.6	26.1	10.3	15.3	1.308	30	1.36
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.87	37.3	28.7	23.0	5.8	5.1	1.329	9	1.13
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.03	42.2	30.3	19.5	4.4	3.7	1.321	17	1.06

IV. 総合的な印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	回答率(%)	有効回答						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.37	58.4	26.1	11.1	2.7	1.6	1.285	53	0.90

01-010の当区分平均値	4.11
01-010の学部全体平均値	4.00
01-010の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ 50~100名

履修者数 3,872
回答者数 2,685

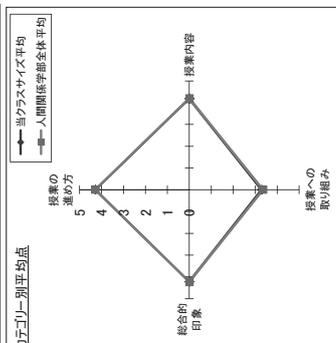
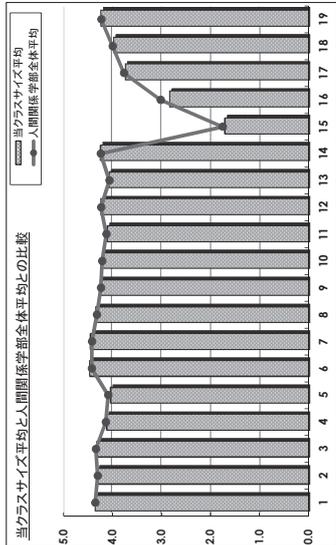
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差
		平均点	有効回答	無効回答	
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかったです	4.33	56.0	28.4	0.92
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.29	53.6	28.6	0.92
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.30	55.0	26.7	0.93
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	44.8	30.3	1.01
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.03	42.7	29.6	1.07
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.45	62.3	24.4	0.82
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.44	59.7	27.9	0.81

II. この授業の内容について					
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差
		平均点	有効回答	無効回答	
5		4.32	53.9	29.6	0.88
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.23	50.9	29.5	0.96
9	授業の構成は体系的で把握しやすかったです	4.19	49.1	29.3	0.99
10	授業の内容は興味深いものでした	4.09	44.1	31.7	1.02
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.22	49.3	30.9	0.95
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.05	41.9	29.5	0.99

III. この授業への取り組みとその成果について					
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差
		平均点	有効回答	無効回答	
5		4.23	51.2	27.9	0.95
14	この授業にどの程度出席しましたか	1.72	3.5	3.8	1.04
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	2.83	17.4	16.8	1.44
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.73	31.0	30.1	1.14
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.97	39.4	30.7	1.07
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.90	37.0	30.7	1.10

IV. 総合的な印象					
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差
		平均点	有効回答	無効回答	
5		4.22	50.3	28.6	0.95
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.13	45.9	30.3	1.01

01-010の当区分平均値 3.99
01-010の学部全体平均値 4.02
01-010の学部全体平均値±σ 3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ 50~100名

履修者数 3,946
回答者数 2,971

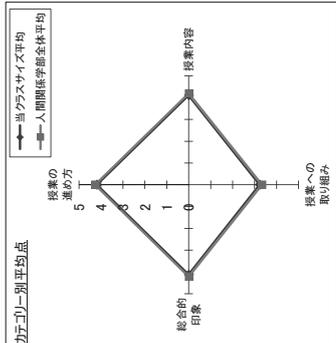
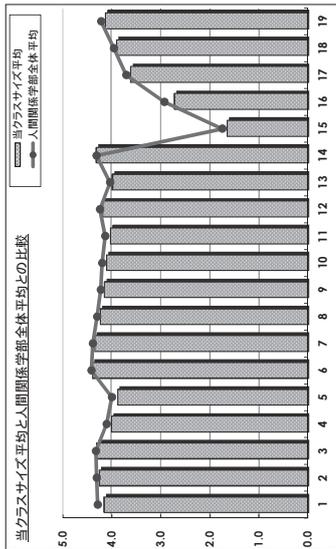
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差
		平均点	有効回答	無効回答	
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかったです	4.15	47.5	31.4	1.02
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.25	49.8	31.7	0.91
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.31	53.8	28.7	0.90
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.00	38.5	33.6	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.88	36.2	29.9	1.10
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.39	57.6	27.2	0.84
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.34	53.8	31.0	0.85

II. この授業の内容について					
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差
		平均点	有効回答	無効回答	
5		4.23	48.3	32.1	0.91
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.14	45.7	31.2	0.98
9	授業の構成は体系的で把握しやすかったです	4.10	44.2	31.6	1.00
10	授業の内容は興味深いものでした	4.03	40.1	32.8	1.01
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.18	47.2	30.9	0.95
12	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.98	38.1	30.6	0.99

III. この授業への取り組みとその成果について					
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差
		平均点	有効回答	無効回答	
5		4.31	55.6	26.4	0.93
14	この授業にどの程度出席しましたか	1.65	3.8	3.8	1.04
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	2.72	15.3	15.7	1.43
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.61	27.9	28.2	1.18
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.90	37.0	30.7	1.10
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.90	37.0	30.7	1.10

IV. 総合的な印象					
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差
		平均点	有効回答	無効回答	
5		4.13	45.9	30.3	1.01
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.13	45.9	30.3	1.01

01-010の当区分平均値 3.91
01-010の学部全体平均値 4.00
01-010の学部全体平均値±σ 3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上	履修者数	3,352
		回答者数	2,182

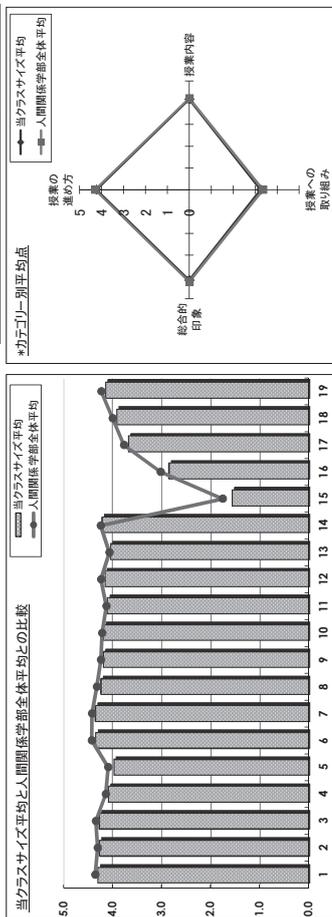
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差				
		平均点	5	4	3	2					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.30	53.0	29.9	12.7	3.3	1.2	2,180	2	1	0.90
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.27	51.3	30.4	13.8	3.4	1.1	2,181	1	0.90	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.28	52.0	29.1	14.7	3.4	1.3	2,178	4	0.91	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	42.5	31.4	20.1	4.6	1.4	2,179	3	0.96	
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.98	39.3	29.9	22.2	6.4	2.2	2,174	8	1.03	
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.34	55.6	27.5	13.7	2.0	1.1	2,177	5	0.87	
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.35	54.9	29.4	13.0	1.7	1.0	2,176	6	0.84	

II. この授業の内容について											
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差				
		平均点	5	4	3	2					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	49.2	30.8	16.1	2.8	1.1	2,176	6	0.89	
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.19	47.8	30.7	15.9	4.2	1.5	2,176	6	0.95	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.19	47.5	30.9	16.0	4.2	1.4	2,177	5	0.94	
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.11	42.5	33.2	18.7	4.0	1.6	2,171	11	0.95	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.16	46.3	30.1	18.2	3.7	1.6	2,173	9	0.96	
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.05	40.0	31.2	23.7	3.3	1.7	2,161	21	0.96	

III. この授業への取り組みとその成果について											
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差				
		平均点	5	4	3	2					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.22	49.7	29.9	14.4	4.8	1.2	2,174	8	0.95	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.57	3.8	3.0	7.1	19.2	66.9	2,166	16	1.01	
16	授業時間外に、考えを述べた/して積極的に参加した	2.86	17.3	16.6	27.7	11.8	28.6	2,148	34	1.42	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.68	30.2	27.4	28.5	7.8	6.1	2,162	20	1.16	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.92	38.3	29.6	22.2	5.7	4.2	2,157	25	1.10	

IV. 総合的印象											
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差				
		平均点	5	4	3	2					
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.15	47.1	28.6	18.8	3.4	2.2	2,089	93	0.98	

01-019の当区分平均値	3.95
01-019の学部全体平均値	4.02
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(クラスサイズ別)

大妻女子大学

クラスサイズ	101名以上	履修者数	2,957
		回答者数	2,075

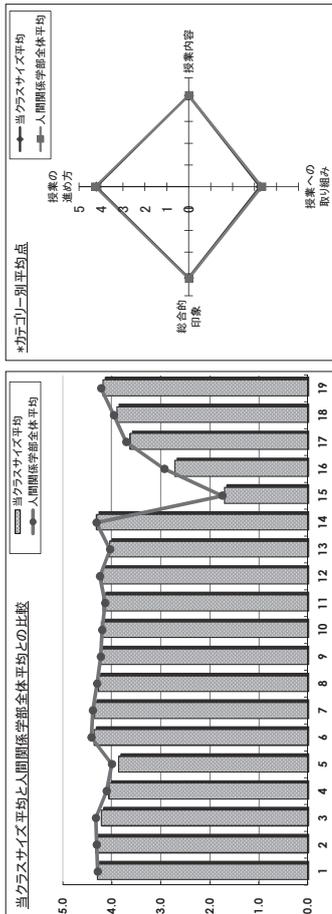
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.30	52.9	30.8	11.0	3.9	1.4	2,069	6	0.91
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	52.8	31.8	11.3	2.9	1.2	2,068	7	0.87
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.22	49.0	30.9	13.9	4.7	1.4	2,068	7	0.95
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.06	39.8	34.2	20.2	4.3	1.6	2,064	11	0.95
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.86	35.0	30.1	24.3	7.5	3.1	2,061	14	1.07
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.36	55.6	28.6	12.9	2.0	0.8	2,063	12	0.84
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.35	53.8	31.1	12.2	2.0	0.8	2,059	16	0.83

II. この授業の内容について											
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差				
		平均点	5	4	3	2					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.27	49.3	33.6	13.6	2.3	1.2	2,065	10	0.87	
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.23	48.5	32.7	13.9	3.5	1.4	2,066	9	0.91	
10	授業の内容は興味深いものだった	4.22	47.6	33.7	13.3	3.5	1.9	2,064	11	0.94	
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.18	45.5	33.8	15.2	3.6	1.7	2,066	9	0.94	
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	47.9	31.8	14.5	3.8	2.0	2,065	10	0.96	
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.04	39.9	32.7	21.5	3.8	2.1	2,054	21	0.98	

III. この授業への取り組みとその成果について											
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差				
		平均点	5	4	3	2					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.31	56.5	25.3	12.2	4.9	1.1	2,051	24	0.94	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.71	4.8	3.8	8.6	23.3	59.5	2,055	20	1.09	
16	授業時間外に、考えを述べた/して積極的に参加した	2.72	16.2	14.3	25.1	13.7	30.7	2,025	50	1.44	
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	3.63	28.7	27.5	28.2	9.3	6.3	2,053	22	1.17	
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.90	35.7	31.5	23.6	5.3	3.9	2,051	24	1.07	

IV. 総合的印象											
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差				
		平均点	5	4	3	2					
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.18	49.4	27.6	17.5	2.9	2.6	1,984	91	0.99	

01-019の当区分平均値	3.95
01-019の学部全体平均値	4.00
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

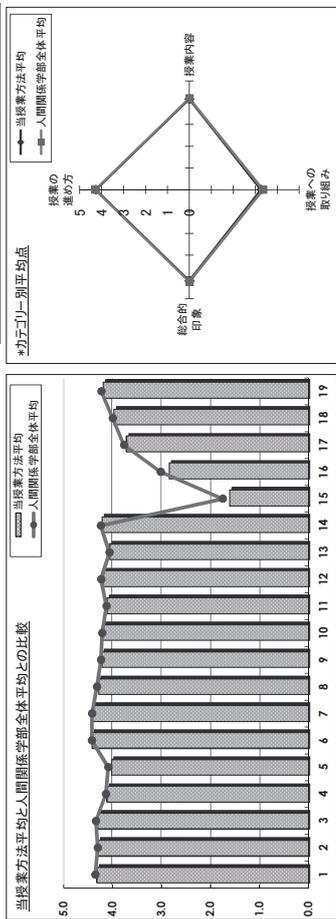
授業方法	講義	履修者数	7,484
		回答者数	5,060

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.31	54.0	29.6	11.2	4.0	1.3	5.049	11	0.91
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.29	52.4	30.1	12.9	3.4	1.2	5.047	13	0.90
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.30	53.9	27.8	13.9	3.1	1.3	5.047	13	0.91
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	43.5	31.6	18.6	4.6	1.7	5.048	12	0.97
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.01	41.2	30.2	19.9	5.9	2.7	5.039	21	1.04
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.41	59.0	26.4	11.8	1.7	1.1	5.042	18	0.84
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	57.2	28.9	11.2	1.6	1.0	5.044	16	0.83

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.27	50.9	30.8	14.3	2.9	1.2	5.043	17	0.89
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.21	48.9	30.5	14.5	4.3	1.7	5.046	14	0.96
10	授業の内容は興味深いものだった	4.19	48.3	30.5	15.0	4.3	1.8	5.043	17	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.11	43.3	32.9	17.1	4.5	2.2	5.040	20	0.98
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.19	47.5	31.1	16.0	3.7	1.8	5.039	21	0.95
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.05	40.8	30.6	23.1	3.5	1.9	5.011	49	0.98

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.21	49.5	29.5	14.5	5.3	1.2	5.035	25	0.96
15	この授業のために各自予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.62	3.4	3.2	8.5	22.0	63.0	5.026	34	1.00
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.85	17.2	16.8	26.3	12.8	26.9	4.986	74	1.43
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.71	30.7	29.0	26.7	8.0	5.6	5.017	43	1.15
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.96	39.2	30.7	20.9	5.5	3.8	5.004	56	1.08

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.18	48.5	29.0	17.0	3.5	2.0	4.841	219	0.97



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

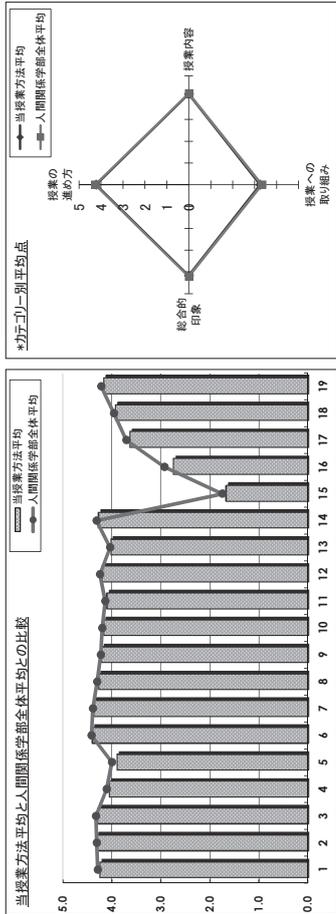
授業方法	講義	履修者数	7,254
		回答者数	5,334

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.25	51.2	31.2	11.1	4.5	2.0	5.321	13	0.96
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	52.4	32.0	11.6	2.8	1.2	5.319	15	0.87
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	52.7	29.5	13.2	3.3	1.3	5.317	17	0.91
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.06	40.2	34.2	18.7	5.0	1.9	5.314	20	0.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.90	36.7	30.4	22.8	6.9	3.3	5.308	26	1.08
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.40	57.9	27.5	12.0	1.8	0.8	5.312	22	0.82
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.37	55.0	30.8	11.3	2.0	0.8	5.304	30	0.83

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.27	49.9	32.7	13.4	2.8	1.2	5.313	21	0.88
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.21	47.9	32.1	14.7	3.8	1.6	5.313	21	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	4.17	46.5	32.5	14.8	4.2	2.0	5.308	26	0.97
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.11	42.9	33.7	16.5	5.0	1.9	5.310	24	0.98
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.21	48.0	31.9	14.5	3.9	1.7	5.307	27	0.94
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.03	39.7	31.4	22.9	3.8	2.2	5.278	56	0.99

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.28	54.5	26.5	12.4	5.4	1.2	5.288	46	0.96
15	この授業のために各自予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.68	4.0	3.8	8.4	23.9	59.9	5.292	42	1.05
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.75	16.0	15.6	25.3	13.6	29.6	5.226	108	1.43
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.64	28.8	28.2	27.3	9.4	6.4	5.279	55	1.17
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.93	37.5	31.3	21.9	5.3	4.0	5.273	61	1.08

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.17	48.1	29.2	16.8	3.5	2.4	5.100	234	0.99



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	演習	履修者数	1,177
		回答者数	978

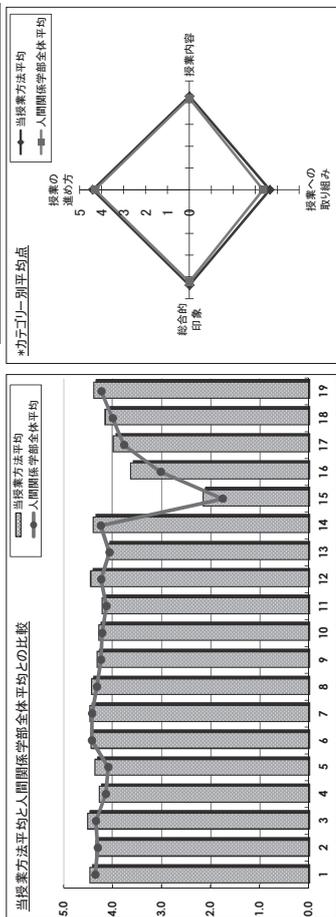
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	有効回答	無効回答						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.46	63.4	25.3	7.1	2.5	1.7	975	3	0.86
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	55.9	27.7	12.3	2.4	1.7	974	4	0.91
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かでの注意を受けた場合は、5をマーク	4.51	66.6	21.9	8.9	1.2	1.3	975	3	0.81
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.27	55.4	24.7	13.6	4.3	1.9	975	3	0.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.36	58.9	24.1	12.6	2.8	1.6	976	2	0.92
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.44	65.3	21.1	8.5	2.9	2.3	977	1	0.93
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	62.6	24.7	10.0	1.8	0.8	974	4	0.81

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	有効回答	無効回答						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.43	60.0	27.3	9.6	1.8	1.2	978	0	0.83
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.32	55.6	27.5	11.5	3.5	1.8	974	4	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	4.28	54.8	26.1	13.4	3.8	1.8	976	2	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.22	51.3	26.3	13.3	4.5	2.5	974	4	1.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.45	64.0	21.9	10.0	2.8	1.2	976	2	0.87
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.11	47.0	25.9	21.3	2.8	3.1	969	9	1.03

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	有効回答	無効回答						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.39	61.5	23.6	8.9	4.8	1.2	971	7	0.92
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	2.16	9.5	7.5	16.3	23.4	43.4	971	7	1.31
16	授業時間外に、考えを述べた/して積極的に参加した	3.63	34.8	22.5	25.3	6.2	11.3	958	20	1.31
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.99	41.4	28.1	21.9	4.8	3.8	968	10	1.08
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.15	48.7	27.6	17.0	3.5	3.2	974	4	1.03

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	有効回答	無効回答						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.38	60.1	24.2	11.6	2.1	1.9	937	41	0.91

01-010の当区分平均値	4.18
01-010の学部全体平均値	4.02
01-010の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	演習	履修者数	1,136
		回答者数	1,017

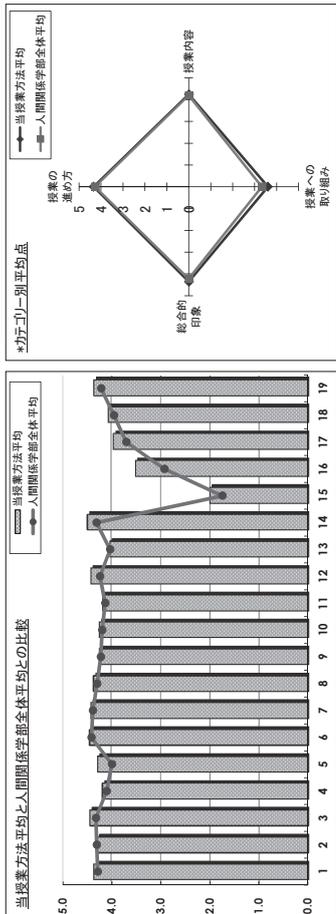
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	有効回答	無効回答						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.36	57.4	27.6	9.6	4.1	1.3	1,015	2	0.91
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.29	53.3	28.2	14.4	2.5	1.6	1,016	1	0.91
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かでの注意を受けた場合は、5をマーク	4.44	62.2	23.8	11.1	2.0	1.0	1,013	4	0.84
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.18	50.7	26.9	14.8	5.5	2.2	1,016	1	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.28	55.1	25.0	14.8	3.4	1.7	1,016	1	0.95
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.45	64.2	22.6	9.2	1.8	2.3	1,016	1	0.90
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.42	59.8	26.0	11.5	1.7	1.0	1,016	1	0.83

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	有効回答	無効回答						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.37	57.0	27.3	12.0	2.8	0.9	1,014	3	0.86
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.25	52.1	28.1	14.1	4.1	1.6	1,016	1	0.95
10	授業の内容は興味深いものだった	4.25	51.7	28.8	13.7	3.9	1.8	1,013	4	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.18	48.2	30.6	14.2	4.9	2.0	1,012	5	0.98
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.42	62.3	23.0	10.6	2.8	1.4	1,015	2	0.89
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.03	41.4	28.7	24.1	3.5	2.4	1,010	7	1.00

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	有効回答	無効回答						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.49	65.6	22.0	9.2	2.4	0.8	1,010	7	0.82
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	2.01	5.5	6.9	14.7	28.3	44.6	1,010	7	1.17
16	授業時間外に、考えを述べた/して積極的に参加した	3.51	28.1	26.7	25.0	8.7	11.5	1,003	14	1.29
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.96	38.9	30.7	21.4	5.3	3.7	1,009	8	1.07
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.07	43.5	30.8	18.2	4.3	3.3	1,010	7	1.04

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	有効回答	無効回答						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.36	58.2	26.1	11.0	2.9	1.8	990	27	0.92

01-010の当区分平均値	4.12
01-010の学部全体平均値	4.00
01-010の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

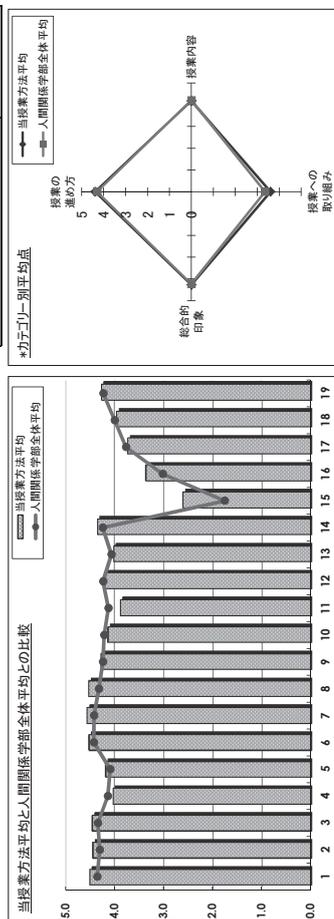
授業方法	講義・演習	履修者数	417
		回答者数	337

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.51	62.9	27.9	6.5	2.4	0.3	337	0	0.75
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.45	61.1	26.7	9.2	1.8	1.2	337	0	0.83
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.46	63.5	23.4	9.2	3.0	0.9	337	0	0.85
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.04	43.3	30.0	16.6	7.4	2.7	337	0	1.07
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.18	44.8	35.0	14.5	5.0	0.6	337	0	0.90
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.52	65.5	23.2	10.1	0.6	0.6	336	1	0.75
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.56	64.6	27.7	7.1	0.6	0.0	336	1	0.65

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.53	64.1	26.1	8.3	1.5	0.0	337	0	0.71
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.28	52.5	29.1	12.5	5.3	0.6	337	0	0.92
10	授業の内容は興味深いものだった	4.14	44.8	31.6	17.3	5.4	0.9	335	2	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	3.89	34.9	34.0	18.8	9.3	3.0	335	2	1.08
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	45.2	36.0	14.0	3.3	1.5	336	1	0.90
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.02	40.0	27.5	27.8	4.2	0.6	335	2	0.95

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.35	55.2	29.7	10.7	4.2	0.3	337	0	0.85
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.61	9.8	15.4	25.8	24.3	24.6	337	0	1.28
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.37	24.0	25.1	27.2	11.4	12.3	334	3	1.30
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.74	26.4	36.8	24.0	9.5	3.3	337	0	1.05
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.96	35.7	35.4	19.9	7.1	1.8	336	1	1.00

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.27	49.7	31.9	14.4	3.7	0.3	326	11	0.86



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

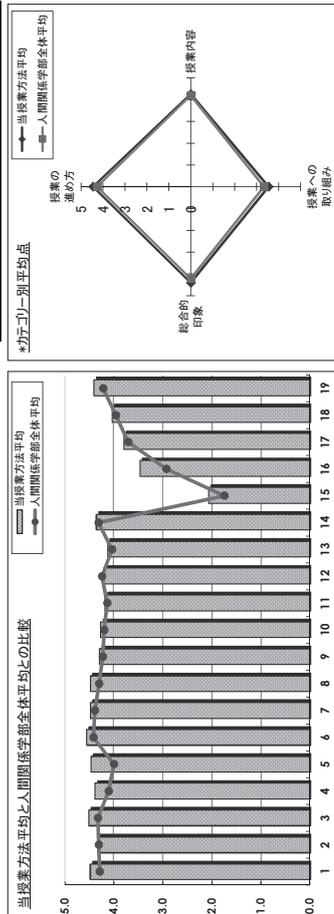
授業方法	講義・演習	履修者数	348
		回答者数	309

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.48	64.0	24.7	7.5	3.2	0.6	308	1	0.82
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.33	55.0	28.2	12.0	4.2	0.6	309	0	0.89
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.51	65.7	22.3	10.0	1.3	0.6	309	0	0.78
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.38	56.6	30.1	8.4	4.2	0.6	309	0	0.86
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.46	60.4	28.2	8.8	2.6	0.0	308	1	0.76
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.55	67.6	24.3	4.9	2.3	1.0	309	0	0.77
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.47	62.3	26.3	8.4	2.3	0.6	308	1	0.80

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.48	60.5	30.1	6.5	2.3	0.6	309	0	0.77
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.29	52.6	31.2	10.1	4.9	1.3	308	1	0.93
10	授業の内容は興味深いものだった	4.27	50.2	31.9	13.0	4.2	0.7	307	2	0.89
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.18	44.5	36.0	12.7	6.2	0.6	308	1	0.92
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.20	50.2	29.1	13.3	5.8	1.6	309	0	0.99
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.12	44.6	30.2	19.3	4.9	1.0	305	4	0.96

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.36	55.8	29.5	9.7	4.2	0.6	308	1	0.87
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.07	4.9	7.1	15.2	35.9	36.9	309	0	1.11
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.47	30.3	21.7	25.3	10.2	12.5	304	5	1.35
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.80	33.4	28.2	25.6	9.7	2.9	308	1	1.10
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.03	41.1	31.4	19.1	6.5	1.9	309	0	1.02

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.40	59.3	27.3	9.1	3.4	1.0	297	12	0.87



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	実技	履修者数	281
		回答者数	172

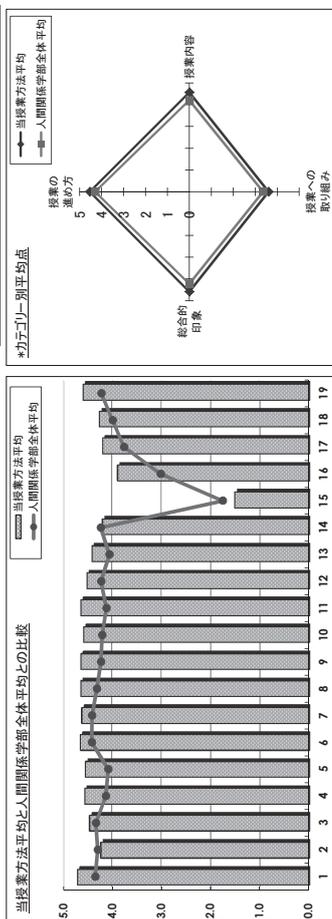
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差		
		平均点	回答率(%)	有効回答			
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.70	76.6	17.5	5	3	0.59
2	教材・資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.23	56.4	18.0	2	2.9	1.03
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.46	63.4	23.3	9.9	0.6	0.83
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.56	67.4	21.5	10.5	0.6	0.70
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.54	68.0	19.8	11.0	0.6	0.76
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.65	73.8	18.0	7.6	0.0	0.67
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.62	73.3	17.4	7.0	2.3	0.72

II. この授業の内容について						当カテゴリー平均点	標準偏差			
No.	設問文	平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	4.57				
5		5	4	3	2	1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.64	73.7	17.0	8.8	0.6	0.0	1.71	1	0.67
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.63	71.9	19.9	7.6	0.6	0.0	1.71	1	0.65
10	授業の内容は興味深いものだった	4.58	70.8	17.0	11.7	0.6	0.0	1.71	1	0.72
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.63	72.7	18.6	8.1	0.6	0.0	1.72	0	0.66
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.51	66.7	20.5	11.1	1.2	0.6	1.71	1	0.78
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.41	61.5	21.3	14.8	1.2	1.2	1.69	3	0.87

III. この授業への取り組みとその成果について						当カテゴリー平均点	標準偏差			
No.	設問文	平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	3.61				
5		5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.20	48.3	28.5	18.6	4.1	0.6	1.72	0	0.92
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.52	6.7	3.6	4.8	4.2	80.6	165	7	1.17
16	授業時間外に、考えを述べた/積極的に参加した	3.89	45.8	20.2	19.6	6.0	8.3	168	4	1.28
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.19	54.7	20.9	17.4	2.9	4.1	172	0	1.08
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.26	56.4	20.9	17.4	2.3	2.9	172	0	1.02

IV. 総合的印象						当カテゴリー平均点	標準偏差			
No.	設問文	平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	4.59				
5		5	4	3	2	1				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.59	71.5	17.6	9.7	0.6	0.6	165	7	0.74

01-010の当区分平均値	4.31
01-010の学部全体平均値	4.02
01-010の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	実技	履修者数	286
		回答者数	206

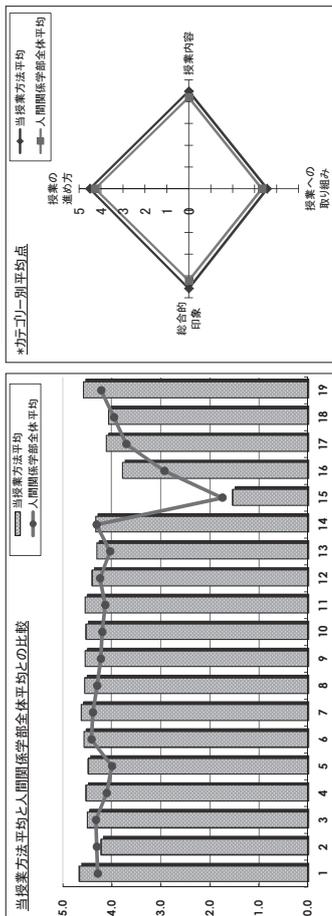
No.	設問文	当カテゴリー平均点			標準偏差					
		平均点	回答率(%)	有効回答						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.66	74.8	17.5	5	3	2	1	0.65	
2	教材・資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.22	53.2	19.5	24.4	2.0	1.0	205	1	0.95
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.50	61.7	27.7	9.7	1.0	0.0	206	0	0.71
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.53	65.4	23.4	9.8	1.5	0.0	205	1	0.73
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.48	63.1	24.3	10.7	1.5	0.5	206	0	0.78
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.57	66.8	24.4	7.3	1.5	0.0	205	1	0.69
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.63	71.8	20.9	5.8	1.0	0.5	206	0	0.69

II. この授業の内容について						当カテゴリー平均点	標準偏差			
No.	設問文	平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	4.48				
5		5	4	3	2	1				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.55	66.7	23.0	8.8	1.5	0.0	204	2	0.72
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.54	66.8	21.5	10.7	1.0	0.0	205	1	0.72
10	授業の内容は興味深いものだった	4.53	65.9	22.9	9.3	2.0	0.0	205	1	0.74
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.54	67.5	20.9	10.2	1.5	0.0	206	0	0.74
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.40	60.2	22.3	15.0	2.4	0.0	206	0	0.83
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.30	53.4	26.5	17.2	2.9	0.0	204	2	0.86

III. この授業への取り組みとその成果について						当カテゴリー平均点	標準偏差			
No.	設問文	平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	3.57				
5		5	4	3	2	1				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	55.1	27.3	13.7	2.9	1.0	205	1	0.89
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.54	7.4	3.0	5.0	5.9	78.7	202	4	1.19
16	授業時間外に、考えを述べた/積極的に参加した	3.78	40.0	22.0	23.5	5.0	9.5	200	6	1.28
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.11	48.5	25.5	19.1	2.5	4.4	204	2	1.08
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.06	46.3	24.6	22.2	3.0	3.9	203	3	1.08

IV. 総合的印象						当カテゴリー平均点	標準偏差			
No.	設問文	平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	4.58				
5		5	4	3	2	1				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.58	73.1	16.8	7.1	1.0	2.0	197	9	0.83

01-010の当区分平均値	4.26
01-010の学部全体平均値	4.00
01-010の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(授業方法別)

大妻女子大学

授業方法	講義・実習	履修者数	28
		回答者数	22

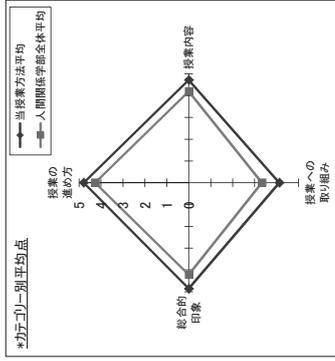
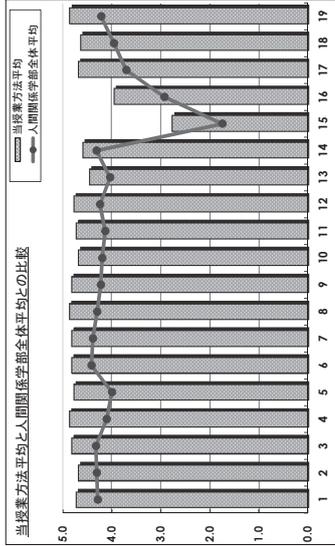
I. 教員のこの授業の進め方について		当カテゴリー平均点					4.79			
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1			
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.73	81.8	13.6	0.0	4.5	0.0	22	0	0.70
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント、ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.68	72.7	22.7	4.5	0.0	0.0	22	0	0.57
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.82	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	22	0	0.39
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.86	90.9	4.5	4.5	0.0	0.0	22	0	0.47
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.77	81.8	13.6	4.5	0.0	0.0	22	0	0.53
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.82	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	22	0	0.39
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.82	86.4	9.1	4.5	0.0	0.0	22	0	0.50

II. この授業の内容について		当カテゴリー平均点					4.72			
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.86	86.4	13.6	0.0	0.0	0.0	22	0	0.35
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.82	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	22	0	0.39
10	授業の内容は興味深いものだった	4.68	81.8	13.6	0.0	0.0	4.5	22	0	0.89
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.73	77.3	18.2	4.5	0.0	0.0	22	0	0.65
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.77	86.4	9.1	0.0	4.5	0.0	22	0	0.69
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.45	68.2	9.1	22.7	0.0	0.0	22	0	0.86

III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー平均点					4.13			
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1			
14	この授業ほどの程度出席しましたか	4.59	63.6	31.8	4.5	0.0	0.0	22	0	0.59
15	この授業のために毎回予習・復習を何らかの程度自習しましたか	2.77	13.6	22.7	22.7	9.1	31.8	22	0	1.48
16	授業中質問し、考えを述べたり積極的に参加した	3.95	45.5	22.7	22.7	0.0	9.1	22	0	1.23
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.68	81.8	13.6	0.0	0.0	4.5	22	0	0.89
18	この授業によって、新しいものの見方ができるようになった	4.64	77.3	18.2	0.0	0.0	4.5	22	0	0.90

IV. 総合的な印象		当カテゴリー平均点					4.86			
No.	設問文	平均点	回答率(%)			有効回答	標準偏差			
			5	4	3	2	1			
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.86	90.5	4.8	4.8	0.0	0.0	21	1	0.48

01-01Bの当区分平均値	4.59
01-01Bの学部全体平均値	4.00
01-01Bの学部全体平均値-σ	3.27



(後期は、授業方法が講義・実習の科目無し。)

2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

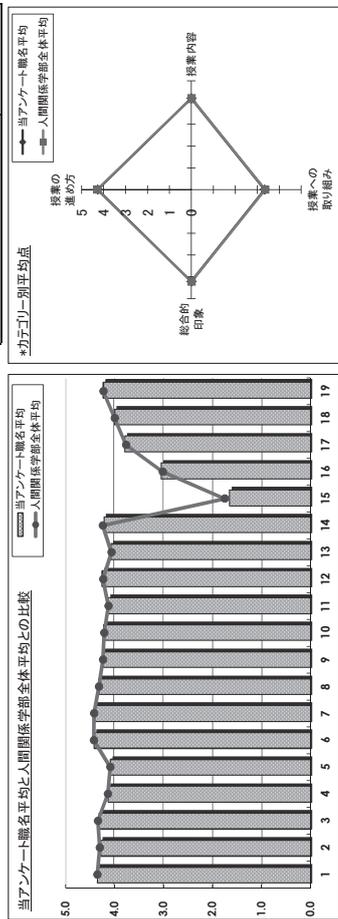
アンケート職名	3.兼任	5,150
回答者数		3,451

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかったです。	4.34	55.2	29.2	11.1	3.4	1.0	3,443	8	0.88
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイントビデオ等)は授業の理解に役立ちました。	4.27	51.7	29.7	14.1	3.3	1.2	3,443	8	0.91
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置を講じた。 ※授業が静かなので注意を向けなかった場合は、5をマーク	4.31	55.1	26.1	14.4	3.0	1.4	3,443	8	0.92
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められました。	4.12	44.9	30.1	18.7	4.7	1.6	3,444	7	0.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した。	4.07	43.9	28.8	20.0	5.2	2.1	3,438	13	1.01
6	教員の学生に対する接し方は公平でした。	4.40	60.0	24.8	12.2	1.9	1.2	3,439	12	0.86
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われました。	4.39	57.4	28.3	11.7	1.8	0.9	3,440	11	0.83

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された。	4.31	52.4	30.4	13.7	2.5	1.0	3,442	9	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすかったです。	4.23	49.4	30.8	14.2	4.0	1.5	3,441	10	0.94
10	授業の内容は興味深いものでした。	4.21	49.2	29.9	15.2	4.2	1.5	3,441	10	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものであった。	4.12	44.4	31.7	17.4	4.7	1.9	3,438	13	0.98
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う。	4.24	50.1	30.2	14.9	3.5	1.3	3,439	12	0.92
13	授業内容(ビデオ)は科目の選択や学習の参考になった。	4.06	42.1	29.6	23.0	3.3	2.0	3,420	31	0.98

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.21	49.7	29.4	14.0	5.7	1.2	3,434	17	0.97
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.66	4.2	3.7	9.4	19.3	63.4	3,422	29	1.07
16	授業時間外に予習・復習を促された時に積極的に参加した	3.05	21.4	18.1	26.7	11.5	22.3	3,394	57	1.43
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.78	32.9	29.0	26.2	7.0	4.9	3,426	25	1.12
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.99	40.5	30.2	20.8	5.0	3.5	3,415	36	1.06

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	49.7	29.2	16.2	3.3	1.7	3,324	127	0.95



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

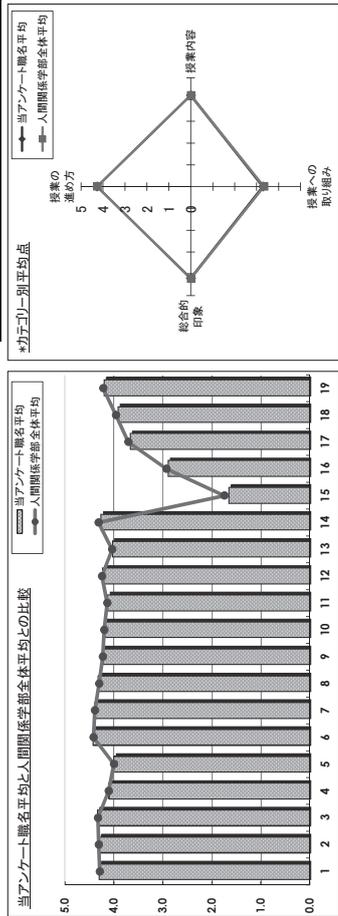
アンケート職名	3.兼任	5,358
回答者数		4,001

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかったです。	4.31	53.4	30.6	10.7	3.8	1.6	3,988	13	0.92
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイントビデオ等)は授業の理解に役立ちました。	4.31	51.5	32.6	12.2	2.6	1.1	3,986	15	0.86
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置を講じた。 ※授業が静かなので注意を向けなかった場合は、5をマーク	4.34	55.3	28.7	12.0	2.8	1.1	3,984	17	0.88
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められました。	4.11	42.8	33.0	17.9	4.7	1.6	3,987	14	0.96
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した。	4.01	40.9	30.0	20.7	5.8	2.6	3,981	20	1.04
6	教員の学生に対する接し方は公平でした。	4.42	59.1	27.5	10.9	1.7	0.8	3,982	19	0.81
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われました。	4.39	55.8	30.8	10.9	1.8	0.7	3,979	22	0.81

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された。	4.32	51.9	32.5	12.2	2.4	0.9	3,981	20	0.85
9	授業の構成は体系的で把握しやすかったです。	4.23	49.1	31.3	14.6	3.5	1.5	3,984	17	0.93
10	授業の内容は興味深いものでした。	4.19	46.9	32.7	15.0	3.8	1.7	3,980	21	0.94
11	授業の内容はよく理解できるものであった。	4.13	43.4	34.4	16.0	4.7	1.6	3,982	19	0.95
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う。	4.24	49.5	31.4	14.1	3.7	1.3	3,982	19	0.92
13	授業内容(ビデオ)は科目の選択や学習の参考になった。	4.03	39.7	31.7	22.9	4.1	1.7	3,959	42	0.97

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	53.3	27.7	12.8	5.1	1.2	3,969	32	0.95
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.67	3.8	3.6	8.7	23.9	60.1	3,967	34	1.03
16	授業時間外に予習・復習を促された時に積極的に参加した	2.90	18.2	18.0	25.0	13.2	23.6	3,914	87	1.43
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.67	29.2	29.2	27.0	9.0	5.6	3,960	41	1.15
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.92	36.5	32.2	22.0	5.3	3.9	3,958	43	1.07

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.21	49.2	29.9	15.4	3.2	2.3	3,830	171	0.97



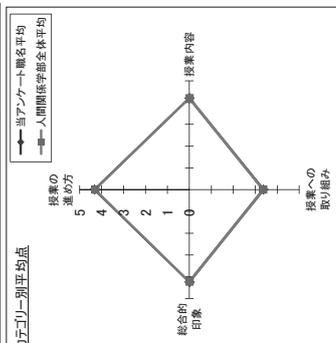
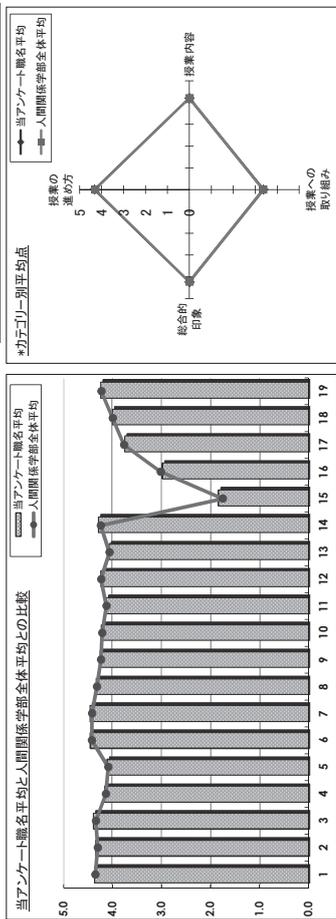
2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	1.専任	履修者数	4,209
		回答者数	3,096

No.	設問文	平均点			有効回答	無効回答	標準偏差			
		5	4	3						
I. 教員のこの授業の進め方について										
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.36	57.8	27.7	2	1.5	3.089			
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイントビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	55.4	28.8	2	1.5	3.087			
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.39	58.1	27.2	2	1.2	3.088			
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.16	47.1	30.3	16.2	4.5	1.9	3.088		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.11	45.7	29.9	16.4	5.3	2.7	3.086		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.45	61.5	25.7	10.0	1.6	1.2	3.088		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	60.4	27.6	9.6	1.4	1.0	3.086		
II. この授業の内容について										
平均点										
No.	設問文	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差	
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.33	54.8	28.7	12.5	2.7	1.3	3.087	9	0.89
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.25	52.2	28.5	13.2	4.3	1.7	3.087	9	0.96
10	授業の内容は興味深いものだった	4.22	50.3	29.2	14.3	4.2	1.9	3.084	12	0.97
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.13	45.3	32.1	15.3	4.7	2.6	3.083	13	1.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	50.6	29.2	14.9	3.3	2.0	3.083	13	0.96
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.07	42.4	29.3	22.7	3.5	2.0	3.064	32	0.99
III. この授業への取り組みとその成果について										
平均点										
No.	設問文	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差	
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.28	53.7	27.7	13.1	4.5	1.0	3.081	15	0.93
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.85	5.3	5.3	11.6	24.7	53.1	3.077	19	1.15
16	授業時間外に予習・復習を促された時に積極的に参加した	2.98	20.4	18.2	25.3	11.6	24.5	3.052	44	1.45
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.75	32.4	29.1	24.9	8.0	5.5	3.068	28	1.15
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.00	41.3	30.2	19.5	5.3	3.7	3.071	25	1.07
IV. 総合的印象										
平均点										
No.	設問文	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差	
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	52.2	27.0	15.6	3.1	2.1	2.945	151	0.97

01-019の当区分平均値	4.03
01-019の学部全体平均値	4.02
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



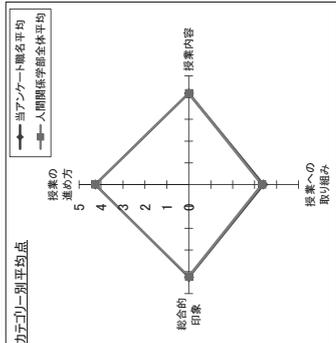
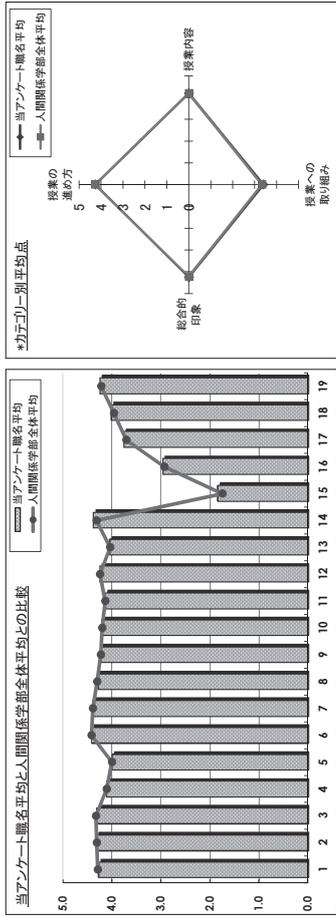
2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート職名別)

大妻女子大学

アンケート職名	1.専任	履修者数	3,694
		回答者数	2,887

No.	設問文	平均点			有効回答	無効回答	標準偏差			
		5	4	3						
I. 教員のこの授業の進め方について										
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.27	53.7	29.0	10.3	5.0	2.0	2.884		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイントビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	54.5	28.5	12.6	3.0	1.4	2.885		
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.31	54.6	27.7	13.3	3.1	1.3	2.883		
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	44.3	31.8	16.6	5.1	2.1	2.879		
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.00	42.1	28.1	20.4	6.3	3.1	2.879		
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.42	60.4	25.1	11.5	1.9	1.1	2.882		
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.39	57.9	27.7	11.2	2.2	1.0	2.877		
II. この授業の内容について										
平均点										
No.	設問文	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差	
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.28	52.1	29.9	13.4	3.2	1.3	2.881	6	0.91
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.23	49.8	30.8	13.6	4.2	1.6	2.880	7	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	4.21	49.8	30.1	13.4	4.6	2.1	2.875	12	0.98
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.14	46.4	30.9	15.5	5.2	2.1	2.876	11	1.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	52.3	28.3	13.6	3.9	1.9	2.877	10	0.84
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.05	42.0	29.4	22.5	3.4	2.7	2.860	27	1.01
III. この授業への取り組みとその成果について										
平均点										
No.	設問文	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差	
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.38	60.4	23.6	10.4	4.5	1.0	2.864	23	0.91
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.85	5.3	5.6	10.8	25.5	52.8	2.868	19	1.15
16	授業時間外に予習・復習を促された時に積極的に参加した	2.97	20.7	17.3	25.3	11.4	25.3	2.841	46	1.46
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.76	34.2	27.4	24.6	7.9	5.9	2.862	25	1.18
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.02	42.2	29.3	20.0	4.9	3.6	2.859	28	1.07
IV. 総合的印象										
平均点										
No.	設問文	5	4	3	2	1	有効回答	無効回答	標準偏差	
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.25	53.3	25.9	15.1	3.5	2.2	2.775	112	0.98

01-019の当区分平均値	4.01
01-019の学部全体平均値	4.00
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

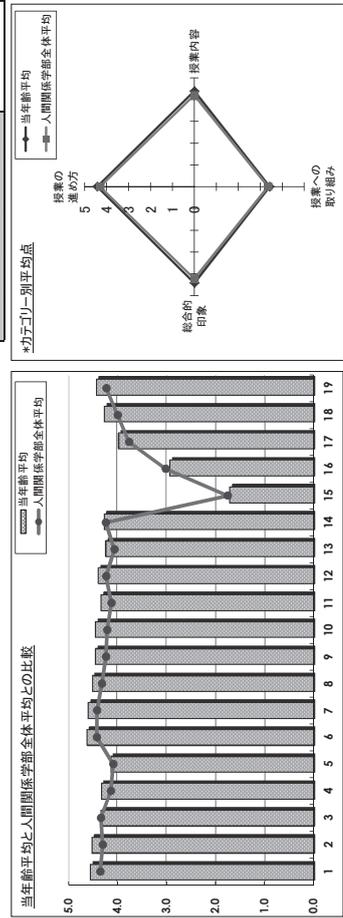
年齢	35歳以下	履修者数	989
		回答者数	606

No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.54	65.5	25.1	7.8	1.3	0.3	605	1	0.72
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.51	65.3	24.0	7.5	2.7	0.5	603	3	0.79
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を向けなかった場合は、5をマーク	4.33	59.8	20.9	13.2	4.5	1.7	604	2	0.98
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.32	51.7	32.7	12.1	2.8	0.7	602	4	0.84
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.13	48.1	27.9	15.3	6.3	2.5	603	3	1.05
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.61	71.7	19.7	7.0	1.2	0.5	604	2	0.71
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.59	69.4	21.7	7.4	1.0	0.5	605	1	0.72

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.50	62.3	28.0	7.8	1.5	0.5	604	2	0.75
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.44	60.4	27.6	8.1	3.0	0.8	604	2	0.83
10	授業の内容は興味深いものだった	4.44	60.9	27.0	8.1	3.0	1.0	603	3	0.84
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.32	53.3	30.6	12.1	3.1	0.8	604	2	0.87
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.38	59.1	28.4	11.5	2.5	1.5	602	4	0.89
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.23	48.3	29.8	19.0	2.3	0.5	600	6	0.87

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.26	51.5	30.1	12.6	4.6	1.2	604	2	0.93
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.72	3.1	3.5	10.9	26.8	55.6	604	2	1.00
16	授業時間外に、考えを述べた/して積極的に参加した	2.93	19.8	18.0	24.2	11.7	28.3	596	10	1.46
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.97	40.8	29.1	21.0	4.7	4.5	601	5	1.10
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.25	51.7	30.3	12.1	3.3	2.5	601	5	0.97

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.42	60.3	25.9	10.5	2.1	1.2	580	26	0.85



01-0180の当区分平均値	4.15
01-0180の学部全体平均値	4.02
01-0180の学部全体平均値±σ	3.27

2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

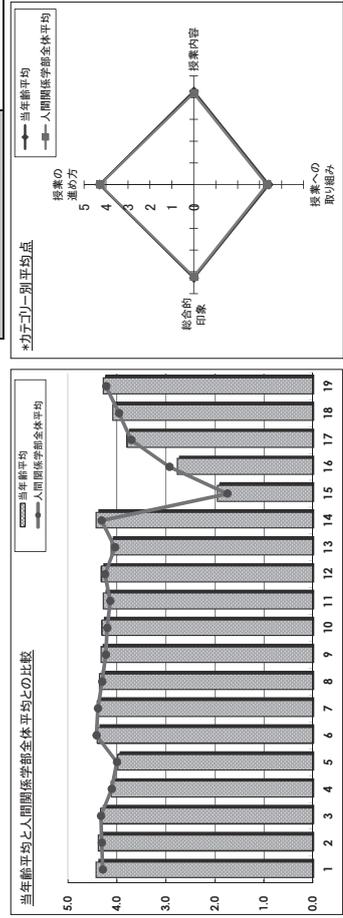
年齢	35歳以下	履修者数	702
		回答者数	501

No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.42	59.8	26.5	10.6	2.2	0.8	498	3	0.83
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.39	57.7	28.3	10.4	2.4	1.2	499	2	0.86
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を向けなかった場合は、5をマーク	4.34	57.9	24.8	11.6	4.2	1.4	499	2	0.94
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.12	42.9	34.0	17.1	4.4	1.6	497	4	0.95
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.99	40.4	28.3	23.7	5.0	2.6	498	3	1.04
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.40	59.5	25.7	11.8	1.8	1.2	499	2	0.86
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	58.0	27.5	11.8	1.6	1.0	498	3	0.83

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.36	53.8	31.5	12.0	2.0	0.6	498	3	0.82
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.33	53.7	30.1	12.6	2.8	0.8	499	2	0.86
10	授業の内容は興味深いものだった	4.31	56.3	24.9	13.3	4.0	1.4	497	4	0.94
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.28	52.4	29.6	12.5	4.4	1.0	496	5	0.92
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.32	54.9	27.0	14.3	3.0	0.8	497	4	0.89
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.13	43.9	31.7	19.1	3.7	1.6	492	9	0.95

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.42	63.8	22.3	8.2	3.8	1.8	497	4	0.93
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.96	5.6	6.0	11.7	31.7	45.0	496	5	1.15
16	授業時間外に、考えを述べた/して積極的に参加した	2.78	17.4	13.7	27.9	11.3	29.7	488	13	1.45
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.80	32.4	31.8	23.7	7.9	4.3	494	7	1.11
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.09	44.6	29.7	18.4	4.6	2.6	495	6	1.02

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.29	53.7	28.4	12.6	3.4	1.9	475	26	0.94



01-0180の当区分平均値	4.06
01-0180の学部全体平均値	4.00
01-0180の学部全体平均値±σ	3.27

2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	36~40歳	履修者数	1,104
		回答者数	803

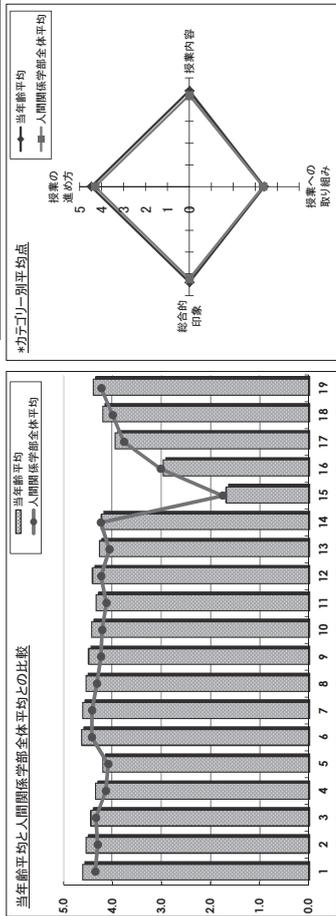
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.60	68.8	24.7	4.9	1.2	0.4	801	0.68
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.53	65.2	25.1	8.0	1.2	0.5	801	0.74
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.44	61.0	24.5	11.9	2.2	0.4	801	0.81
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.34	53.8	29.8	13.1	2.7	0.5	801	0.84
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.19	51.2	25.3	16.4	5.4	1.7	801	1.01
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.62	71.2	21.6	6.0	0.9	0.4	798	0.67
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.60	68.6	24.2	6.1	0.9	0.3	799	0.67

II. この授業の内容について									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.53	64.0	27.7	6.6	1.4	0.4	799	0.71
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.48	62.8	25.6	9.0	2.1	0.5	801	0.79
10	授業の内容は興味深いものだった	4.42	59.6	26.5	10.6	2.5	0.8	799	0.83
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.33	54.1	29.4	12.6	3.0	0.9	800	0.87
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.40	57.6	28.1	11.6	2.0	0.6	800	0.82
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.26	50.3	28.9	18.2	1.6	1.0	797	0.88

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.22	49.4	29.7	15.0	5.4	0.5	798	0.93
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.70	3.5	3.8	8.6	27.0	57.1	799	4.102
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.96	21.7	15.9	24.2	13.6	24.6	793	10.147
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.94	36.1	32.0	24.1	5.6	2.3	798	5.101
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.20	46.7	32.5	15.9	3.4	1.5	798	0.93

IV. 総合的印象									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.39	57.0	28.2	11.6	2.9	0.3	766	0.82

01-019の当区分平均値	4.17
01-019の学部全体平均値	4.02
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	36~40歳	履修者数	1,071
		回答者数	874

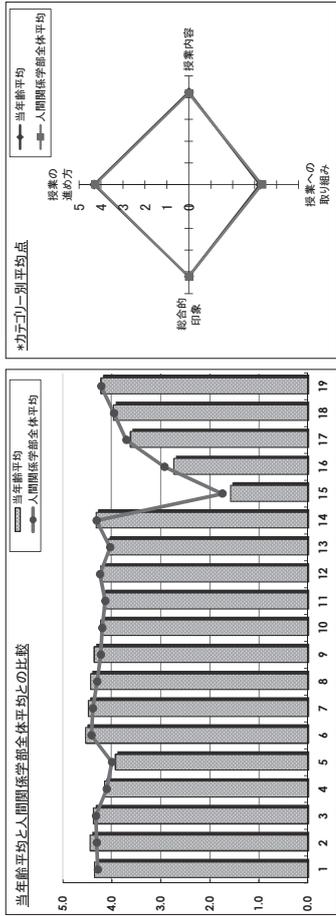
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.35	55.0	31.4	8.7	2.8	2.1	869	0.90
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.44	56.9	33.0	7.7	1.8	0.6	870	0.76
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.37	56.9	28.2	11.0	2.9	1.0	870	0.87
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.14	41.8	37.0	16.2	4.0	1.0	871	0.90
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.93	38.5	29.6	21.1	7.4	3.3	867	1.09
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.53	64.5	25.6	9.0	0.6	0.3	870	0.71
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.48	58.9	31.4	8.3	1.2	0.2	869	0.72

II. この授業の内容について									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.43	56.5	32.5	9.1	1.6	0.3	868	0.75
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.36	54.3	31.0	11.6	2.3	0.8	870	0.83
10	授業の内容は興味深いものだった	4.23	48.5	31.8	15.0	3.2	1.5	871	0.92
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.17	43.5	36.4	15.0	4.0	1.0	871	0.90
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	47.8	33.3	13.8	3.9	1.1	870	0.91
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.08	42.4	31.1	20.1	4.6	1.7	865	0.98

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.32	55.0	28.5	10.6	4.7	1.2	869	0.92
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.59	3.0	3.1	7.8	21.8	64.3	868	6.087
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.74	15.2	16.2	25.6	13.1	30.0	857	17.143
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.62	27.9	28.6	27.2	10.2	6.1	864	10.117
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.96	38.9	32.0	19.4	5.7	4.0	866	1.108

IV. 総合的印象									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	49.6	30.5	14.0	3.7	2.1	840	0.96

01-019の当区分平均値	4.01
01-019の学部全体平均値	4.00
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	41~45歳	履修者数	1,251
		回答者数	907

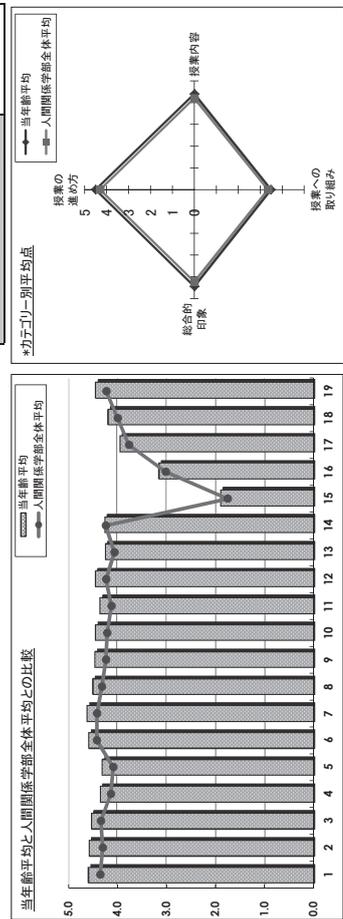
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差	
		平均点	回答率(%)					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.58	5	4	3	2	1	4.50
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.57	69.2	22.6	5.8	1.9	0.4	0.73
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.52	64.8	25.4	7.7	1.4	0.7	0.76
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.34	55.9	26.0	11.5	3.5	1.1	0.89
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.30	53.8	26.9	15.2	3.6	0.4	0.89
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.57	70.2	19.8	7.9	1.1	0.9	0.76
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.61	69.2	23.6	6.4	0.4	0.3	0.66

II. この授業の内容について		当カテゴリー平均点					標準偏差	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					
5	4	3	2	1	4.40			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.49	62.6	26.1	9.5	1.5	0.2	0.75
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.45	60.4	27.5	9.1	2.4	0.6	0.80
10	授業の内容は興味深いものだった	4.44	60.6	26.2	10.0	2.8	0.4	0.82
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.35	54.1	31.4	10.5	3.0	1.0	0.86
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.44	59.7	27.8	10.1	1.7	0.8	0.80
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.24	50.2	27.5	19.4	2.0	0.9	0.89

III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー平均点					標準偏差	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					
5	4	3	2	1	3.49			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.25	50.9	29.8	13.4	4.6	1.2	0.94
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.91	6.9	6.1	12.6	19.5	54.9	0.92
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.15	24.7	18.0	25.8	11.1	20.4	0.92
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.95	37.8	31.3	22.0	5.4	3.5	0.84
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.18	48.2	28.9	17.8	3.3	1.8	0.99

IV. 総合的印象		当カテゴリー平均点					標準偏差	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					
5	4	3	2	1	4.44			
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.44	60.4	26.0	11.0	2.1	0.6	0.876

01-019の当区分平均値	4.20
01-019の学部全体平均値	4.02
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	41~45歳	履修者数	910
		回答者数	737

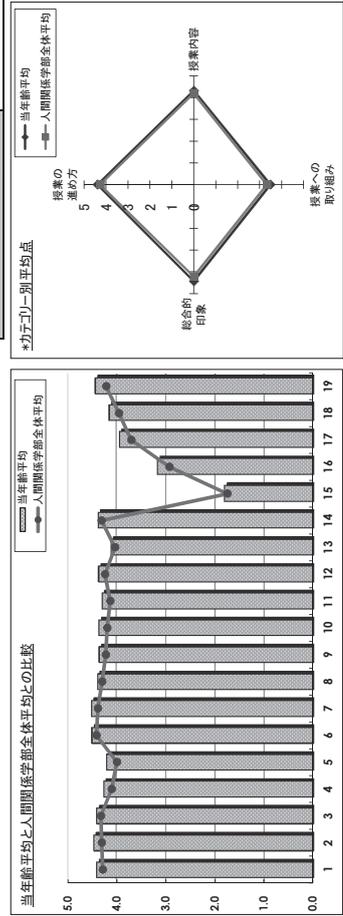
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差	
		平均点	回答率(%)					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.40	59.8	26.7	8.8	3.3	1.4	0.88
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.46	60.3	28.4	9.1	1.6	0.5	0.77
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.40	56.5	29.9	11.5	1.5	0.5	0.79
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.26	48.9	33.7	13.2	3.0	1.2	0.89
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.21	45.9	33.2	17.3	2.6	1.0	0.88
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.50	63.2	26.4	8.7	1.1	0.7	0.76
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.51	62.4	27.9	8.6	0.7	0.5	0.73

II. この授業の内容について		当カテゴリー平均点					標準偏差	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					
5	4	3	2	1	4.31			
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.39	56.9	29.1	10.5	2.7	0.8	0.84
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.35	55.6	29.3	11.4	2.3	1.4	0.87
10	授業の内容は興味深いものだった	4.36	53.5	32.9	10.6	2.0	1.0	0.83
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.29	50.7	33.5	11.4	3.0	1.4	0.88
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.37	55.2	30.2	11.7	1.9	1.0	0.83
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.11	44.0	30.2	21.0	2.8	2.1	0.97

III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー平均点					標準偏差	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					
5	4	3	2	1	3.49			
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.38	61.0	22.9	10.2	4.4	1.5	0.94
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.81	4.2	4.1	12.1	27.4	52.2	0.94
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.17	22.6	21.4	25.4	11.6	19.0	0.92
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.94	37.6	31.8	21.4	6.0	3.3	0.92
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.15	45.4	31.8	17.6	3.1	2.0	0.96

IV. 総合的印象		当カテゴリー平均点					標準偏差	
No.	設問文	平均点	回答率(%)					
5	4	3	2	1	4.43			
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.43	59.9	27.5	9.8	1.8	1.0	0.82

01-019の当区分平均値	4.13
01-019の学部全体平均値	4.00
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	46～50歳	履修者数	1,334
		回答者数	1,032

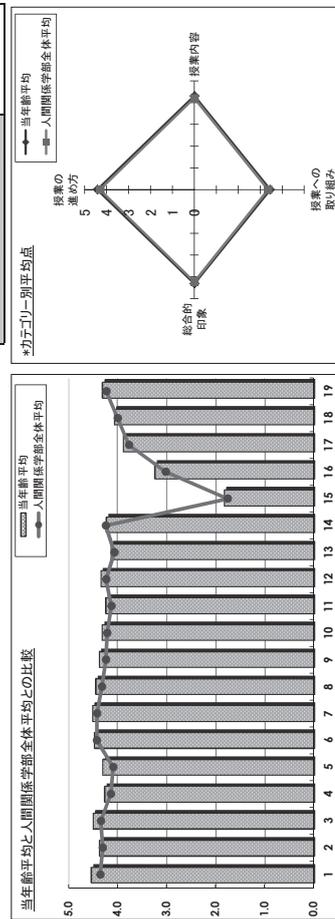
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.54	4.6	5	3	2	1	4.42		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.37	56.6	29.2	10.4	2.7	1.2	1.029	3	0.86
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.50	63.6	25.9	8.0	1.9	0.6	1.029	3	0.77
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.26	52.3	28.4	13.8	4.2	1.3	1.030	2	0.93
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.30	52.7	31.2	11.2	3.3	1.7	1.030	2	0.91
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.48	62.8	25.4	9.4	1.6	0.8	1.031	1	0.79
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.51	63.9	25.5	8.8	1.2	0.6	1.030	2	0.75

II. この授業の内容について		当カテゴリー平均点					4.31			
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効回答	標準偏差		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.44	59.8	28.2	9.3	2.1	0.6	1.030	2	0.80
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.38	56.3	29.4	10.5	3.2	0.6	1.029	3	0.84
10	授業の内容は興味深いものだった	4.31	53.7	29.8	11.9	3.2	1.4	1.029	3	0.90
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.24	50.3	31.8	11.5	4.8	1.7	1.029	3	0.95
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.34	54.6	30.4	10.8	2.9	1.3	1.028	4	0.88
13	授業内容(ビデオ)は科目の選択や学習の参考になった	4.13	45.6	29.6	19.2	3.8	1.8	1.020	12	0.97

III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー平均点					3.45			
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効回答	標準偏差		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	50.7	28.4	14.8	5.2	0.9	1.027	5	0.94
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.83	5.8	5.6	10.9	21.9	55.8	1.026	6	1.18
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.24	25.0	22.1	24.0	10.2	18.7	1.017	15	1.12
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.88	37.3	29.6	21.9	6.7	4.6	1.028	4	1.12
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.07	43.6	31.4	16.9	4.5	3.7	1.026	6	1.06

IV. 総合的印象		当カテゴリー平均点					4.31			
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効回答	標準偏差		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.31	55.6	25.8	14.4	2.5	1.7	996	36	0.93

Q1-Q10の当区分平均値	4.13
Q1-Q10の学部全体平均値	4.02
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	46～50歳	履修者数	1,421
		回答者数	1,067

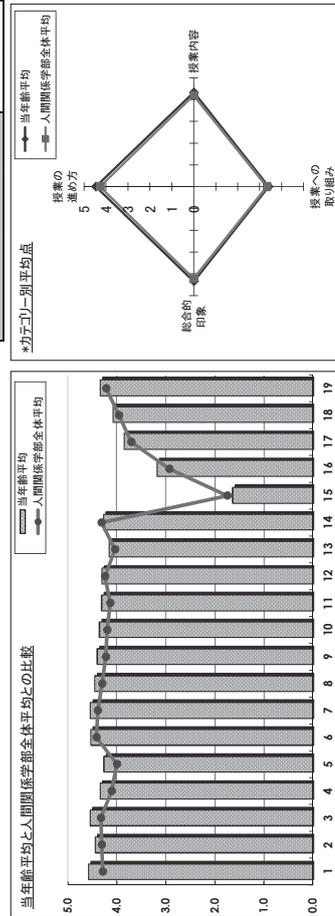
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.58	67.7	24.8	5.5	1.5	0.5	1.065	2	0.71
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.44	59.4	27.9	10.7	1.4	0.6	1.065	2	0.78
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.54	66.6	23.6	8.0	1.2	0.6	1.061	6	0.74
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.34	55.3	28.0	13.1	2.6	1.0	1.064	3	0.88
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.26	51.7	28.4	15.3	3.7	0.9	1.064	3	0.91
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.53	65.9	23.7	8.8	1.2	0.4	1.066	1	0.74
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.54	65.2	25.6	7.5	1.4	0.3	1.064	3	0.72

II. この授業の内容について		当カテゴリー平均点					4.33			
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効回答	標準偏差		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.45	59.3	29.1	9.4	1.5	0.7	1.064	3	0.78
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.40	57.2	29.3	11.0	1.5	1.0	1.065	2	0.82
10	授業の内容は興味深いものだった	4.36	55.6	30.1	9.8	3.0	1.4	1.062	5	0.88
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.31	52.9	31.1	11.4	3.4	1.2	1.063	4	0.89
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.30	54.2	28.8	12.0	3.1	1.9	1.064	3	0.93
13	授業内容(ビデオ)は科目の選択や学習の参考になった	4.16	45.8	30.4	19.5	2.6	1.7	1.062	5	0.94

III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー平均点					3.41			
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効回答	標準偏差		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.27	51.5	29.8	13.9	4.1	0.8	1.059	8	0.90
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.65	3.8	3.8	8.3	21.6	62.5	1.060	7	1.04
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.18	25.8	18.8	23.9	10.7	20.8	1.045	22	1.46
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.86	36.9	26.9	25.3	6.6	4.3	1.058	9	1.12
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.08	42.9	30.7	20.5	3.4	2.5	1.058	9	0.99

IV. 総合的印象		当カテゴリー平均点					4.34			
No.	設問文	平均点	回答率(%)				有効回答	標準偏差		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.34	55.0	27.7	12.8	1.8	1.8	1.022	45	0.89

Q1-Q10の当区分平均値	4.14
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	51～55歳
履修者数	1,342
回答者数	923

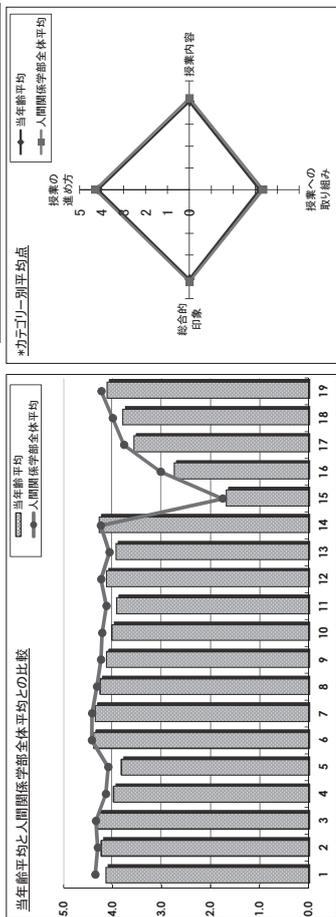
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.13	45.6	32.9	12.6	6.4	2.5	921	2	1.02
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.22	44.7	37.1	14.2	2.9	1.0	921	2	0.87
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	54.2	27.1	14.0	2.6	2.1	922	1	0.94
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.97	38.2	31.7	21.5	6.2	2.4	921	2	1.03
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.81	34.5	29.6	23.7	7.4	4.9	920	3	1.13
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.37	55.8	29.6	12.0	1.1	1.5	919	4	0.85
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.34	51.5	34.3	11.9	1.6	0.8	919	4	0.81

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	47.1	34.7	15.0	2.0	1.3	922	1	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.11	40.9	37.1	16.4	3.7	2.0	922	1	0.94
10	授業の内容は興味深いものだった	4.00	38.3	33.8	20.0	5.8	2.2	921	2	1.00
11	授業の内容はよく理解できるものだった	3.91	32.3	37.7	20.9	6.4	2.6	922	1	1.01
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.12	43.2	33.3	17.0	4.7	1.7	921	2	0.97
13	授業は自分の将来(キャリア)は科目の選択や学習の参考になった	3.92	33.6	32.8	27.8	3.7	2.1	914	9	0.97

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.26	53.8	26.6	12.4	5.7	1.4	916	7	0.98
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.69	3.6	3.3	10.6	23.5	59.0	918	5	1.03
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.74	15.2	16.6	26.3	10.8	31.1	909	14	1.44
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思う	3.56	24.4	30.1	29.0	9.6	6.9	917	6	1.16
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.78	31.1	32.1	25.7	6.1	5.0	917	6	1.10

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.10	42.9	32.3	19.5	2.9	2.4	886	37	0.97

01-010の当区分平均値	3.87
01-010の学部全体平均値	4.02
01-010の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	51～55歳
履修者数	1,596
回答者数	1,292

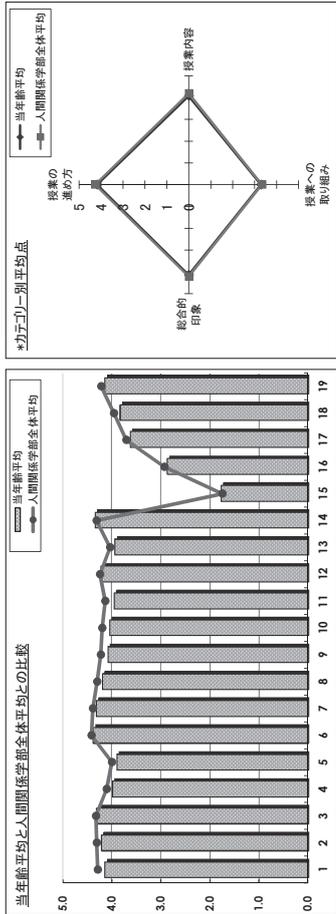
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.14	48.3	30.2	12.0	6.7	2.9	1,291	1	1.05
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.21	47.4	32.8	15.0	3.3	1.5	1,290	2	0.92
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.31	53.8	28.1	14.5	2.6	1.0	1,289	3	0.89
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.99	39.8	31.8	18.5	7.4	2.6	1,288	4	1.05
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.90	39.0	27.5	22.3	7.0	4.2	1,287	5	1.12
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.38	57.5	27.3	12.2	1.9	1.2	1,286	6	0.86
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.32	52.9	30.7	12.7	2.6	1.1	1,287	5	0.87

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.19	46.4	32.7	15.9	3.5	1.5	1,286	6	0.93
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.08	43.2	31.4	17.7	5.8	1.9	1,287	5	1.00
10	授業の内容は興味深いものだった	4.05	42.0	31.9	17.3	6.2	2.6	1,286	6	1.04
11	授業の内容はよく理解できるものだった	3.96	37.4	33.5	19.5	6.8	2.8	1,284	8	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	49.6	30.1	14.3	4.3	1.6	1,285	7	0.95
13	授業は自分の将来(キャリア)は科目の選択や学習の参考になった	3.94	36.3	29.9	28.0	3.2	2.7	1,283	9	1.00

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.34	58.4	24.9	10.6	5.0	1.1	1,278	14	0.93
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.78	3.9	4.6	10.9	26.8	53.8	1,279	13	1.07
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.87	17.8	18.5	24.2	12.4	27.1	1,272	20	1.45
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思う	3.63	27.9	30.8	24.6	9.5	7.2	1,278	14	1.19
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.83	33.6	33.1	21.8	5.9	5.6	1,279	13	1.12

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差	
		平均点	回答率(%)							
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.14	48.2	28.0	16.6	4.3	2.9	1,251	41	1.03

01-010の当区分平均値	3.91
01-010の学部全体平均値	4.00
01-010の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

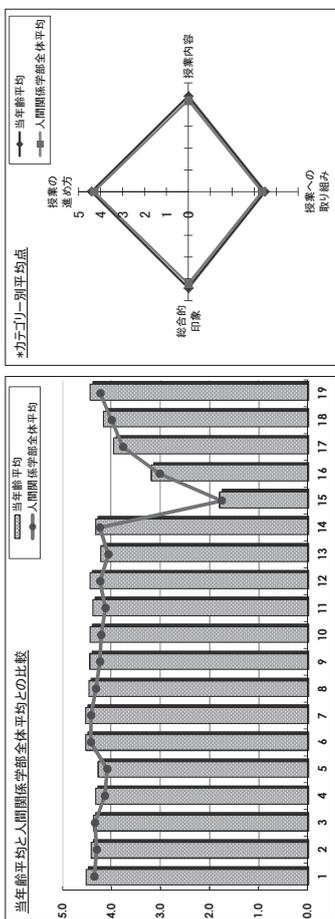
大妻女子大学

年齢	56~60歳
履修者数	1,102
回答者数	749

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.51	5	4	3	2	1	4.42		
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント、ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.41	58.5	27.4	11.6	1.3	1.1	747	2	0.83
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.36	55.4	30.0	11.4	1.9	1.3	746	3	0.86
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.32	52.1	31.2	13.8	2.3	0.7	747	2	0.84
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.26	50.5	30.0	15.5	2.9	0.9	746	3	0.89
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.52	65.5	24.5	7.6	1.3	1.1	748	1	0.78
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.52	63.6	26.9	7.9	1.2	0.4	747	2	0.73

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.46	59.9	28.1	10.2	1.5	0.4	745	4	0.77
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.43	58.6	29.4	9.4	2.1	0.5	746	3	0.79
10	授業の内容は興味深いものだった	4.43	59.7	27.2	10.6	1.7	0.8	746	3	0.81
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.37	54.8	31.0	11.8	1.5	0.9	748	1	0.82
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.43	58.7	28.4	10.8	1.3	0.8	744	5	0.80
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.21	48.3	29.3	19.0	1.9	1.5	743	6	0.92

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.32	54.2	29.5	11.3	3.6	1.3	745	4	0.91
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.81	5.9	5.1	10.5	20.5	57.9	741	8	1.18
16	授業時間外に、考えを述べた(して積極的に参加した)	3.19	25.1	19.6	24.9	9.6	20.8	736	13	1.45
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.95	39.1	28.9	22.7	6.6	2.7	744	5	1.06
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.16	47.1	29.2	17.9	3.8	2.0	739	10	0.98



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

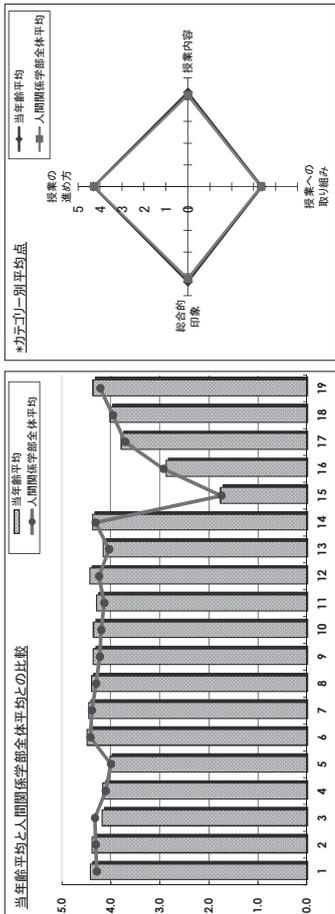
大妻女子大学

年齢	56~60歳
履修者数	1,409
回答者数	1,046

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.42	57.4	31.4	7.5	2.9	0.8	1,043	3	0.81
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント、ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.39	56.7	29.2	11.0	2.3	0.8	1,043	3	0.83
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.18	48.0	30.8	14.2	5.4	1.6	1,044	2	0.97
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.17	44.1	34.7	16.5	3.4	1.4	1,044	2	0.92
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.02	40.8	30.3	21.4	5.3	2.3	1,044	2	1.02
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.48	63.4	25.1	8.8	1.8	0.9	1,044	2	0.80
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.45	59.1	29.8	8.8	1.8	0.5	1,039	7	0.77

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.40	56.2	30.8	10.3	1.9	0.8	1,042	4	0.81
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.36	53.8	32.3	10.8	2.2	0.9	1,043	3	0.83
10	授業の内容は興味深いものだった	4.35	54.3	31.2	11.3	2.2	1.1	1,043	3	0.85
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.30	51.2	32.3	12.8	2.6	1.2	1,043	3	0.87
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.43	58.5	29.5	9.0	2.3	0.7	1,043	3	0.80
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.16	45.5	30.5	19.7	2.7	1.6	1,037	9	0.94

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.37	59.7	23.4	12.4	3.6	1.0	1,035	11	0.90
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.77	4.7	4.9	9.2	25.2	55.9	1,039	7	1.11
16	授業時間外に、考えを述べた(して積極的に参加した)	2.88	20.1	14.6	24.6	14.2	26.4	1,025	21	1.46
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.79	35.8	24.4	27.6	6.8	5.3	1,039	7	1.16
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.02	42.3	27.9	21.9	4.8	3.1	1,037	9	1.06



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

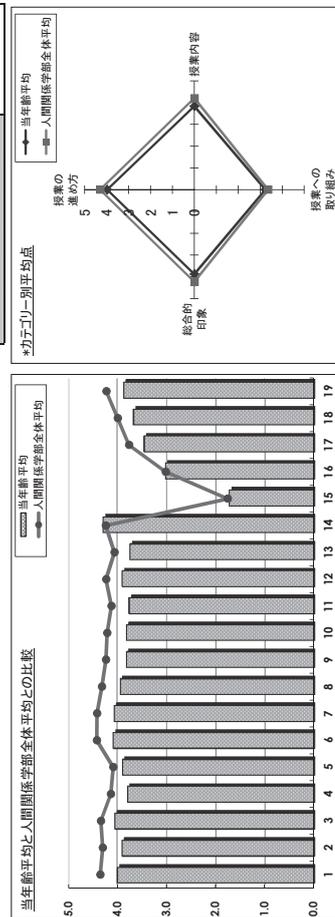
年齢	61～65歳	1,159
履修者数		838
回答者数		838

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.00	40.7	30.9	19.9	5.4	3.2	836	2	1.05
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	3.91	36.2	31.6	22.5	6.0	3.7	836	2	1.07
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.06	43.5	28.5	20.7	4.9	2.4	835	3	1.03
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.79	32.0	29.9	27.4	7.0	3.7	837	1	1.08
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.90	35.9	30.5	24.7	5.9	3.1	834	4	1.05
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.09	43.7	29.5	20.8	3.7	2.3	835	3	1.00
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.07	42.6	30.8	19.9	4.3	2.4	834	4	1.00

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	3.94	37.9	29.3	24.9	5.1	2.8	836	2	1.04
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	3.82	35.2	27.9	24.3	8.7	3.8	835	3	1.12
10	授業の内容は興味深いものだった	3.82	33.5	27.9	25.6	7.9	3.5	835	3	1.09
11	授業の内容はよく理解できるものだった	3.77	32.5	29.0	26.0	7.7	4.8	834	4	1.13
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.90	36.4	29.5	25.1	6.0	3.0	836	2	1.06
13	授業内容(ビデオ)は科目の選択や学習の参考になった	3.75	31.6	27.2	30.4	6.2	4.7	827	1	1.11

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.29	56.0	24.9	12.2	5.8	1.1	834	4	0.96
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.73	5.1	4.1	10.3	19.7	60.8	826	12	1.12
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.03	19.1	17.8	30.7	11.3	21.1	821	17	1.38
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.46	25.0	23.2	33.9	9.0	8.9	829	9	1.21
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.67	30.6	27.7	26.8	8.3	6.5	827	11	1.18

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.88	37.2	27.6	25.1	5.9	4.3	798	40	1.11



01-018の当区分平均値	3.73
01-018の学部全体平均値	4.02
01-019の学部全体平均値	3.27

2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

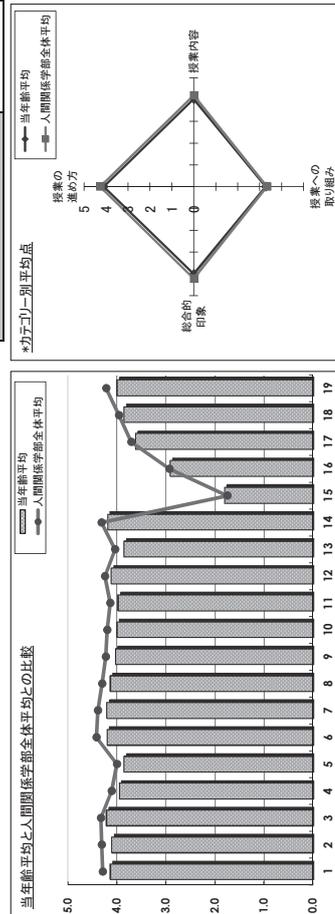
年齢	61～65歳	834
履修者数		628
回答者数		628

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.14	45.0	32.5	16.1	4.5	1.9	627	1	0.97
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.11	43.9	31.8	18.1	3.8	2.4	626	2	0.99
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.22	47.7	31.9	16.4	2.4	1.6	627	1	0.91
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.96	38.5	30.0	22.5	6.4	2.6	626	2	1.05
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.86	36.4	28.4	23.3	8.5	3.4	626	2	1.10
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.21	48.2	30.5	16.5	3.2	1.6	626	2	0.94
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.21	48.2	30.4	17.2	2.6	1.6	622	6	0.93

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.14	45.1	32.1	16.7	4.0	2.1	627	1	0.97
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.03	41.5	31.8	18.1	5.8	2.9	626	2	1.04
10	授業の内容は興味深いものだった	4.00	39.7	32.9	18.4	5.9	3.0	624	4	1.05
11	授業の内容はよく理解できるものだった	3.98	38.9	32.3	20.0	5.9	2.9	625	3	1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.12	45.5	30.1	17.7	4.5	2.2	627	1	1.00
13	授業内容(ビデオ)は科目の選択や学習の参考になった	3.86	33.5	30.7	27.0	5.8	3.0	623	5	1.05

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.19	49.4	29.3	13.9	6.1	1.3	624	4	0.98
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.81	5.3	5.5	10.1	23.5	55.6	622	6	1.15
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.92	18.1	28.9	12.9	23.4	61.2	16	1.38	
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.62	27.8	27.9	28.9	9.5	5.8	619	9	1.15
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.86	33.9	31.8	25.0	4.9	4.4	616	12	1.08

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.01	41.9	28.0	22.4	4.0	3.7	599	29	1.07



01-018の当区分平均値	3.86
01-018の学部全体平均値	4.00
01-019の学部全体平均値	3.27

2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	66歳以上
履修者数	1,078
回答者数	689

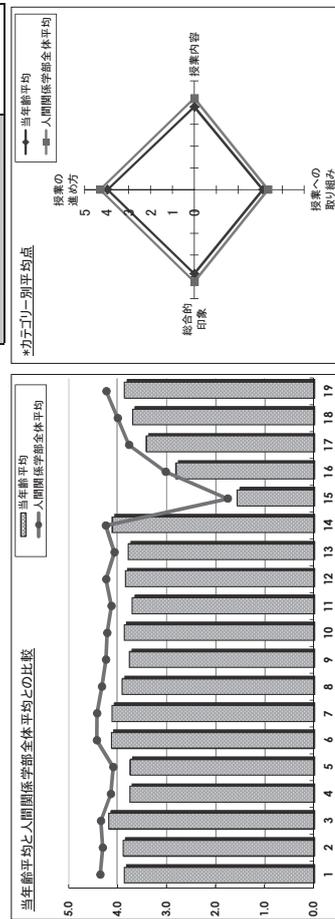
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	3.87	31.6	36.8	20.5	8.9	2.2	1.03
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	3.89	32.9	35.1	22.1	7.7	2.2	1.02
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.18	47.4	29.9	17.6	3.5	1.6	0.95
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.75	29.5	31.3	27.6	8.0	3.6	1.07
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.74	28.8	33.0	26.0	8.3	3.9	1.08
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.13	45.0	30.9	18.4	3.4	2.3	0.98
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.11	41.2	36.4	17.5	2.6	2.3	0.94

II. この授業の内容について		当カテゴリー平均点					有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	3.90	33.4	35.6	22.2	5.8	3.1	1.03
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	3.76	30.5	32.5	23.9	8.6	4.5	1.11
10	授業の内容は興味深いものだった	3.87	32.2	36.6	20.6	6.9	3.8	1.06
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.70	27.1	33.4	26.9	7.6	5.0	1.10
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.84	32.9	33.2	23.2	6.6	4.1	1.08
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.78	30.0	30.6	30.3	5.4	3.6	1.05

III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー平均点					有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.11	44.9	30.5	16.8	6.3	1.6	1.00
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.57	3.2	3.7	8.3	16.3	68.5	6.83
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.82	15.4	16.1	28.4	14.8	28.2	7
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.42	21.4	27.8	30.3	12.2	8.3	683
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.69	29.7	29.0	27.2	8.8	5.2	679

IV. 総合的印象		当カテゴリー平均点					有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.86	33.4	33.3	22.7	6.6	3.9	1.08

Q1-Q10の当区分平均値	3.68
Q1-Q10の学部全体平均値	4.02
Q1-Q10の学部全体平均値-2σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(年齢別)

大妻女子大学

年齢	66歳以上
履修者数	1,109
回答者数	743

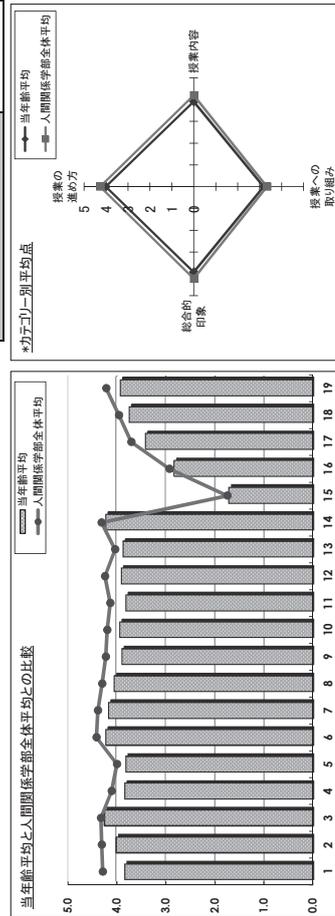
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	3.83	31.9	36.3	18.2	10.2	3.4	1.09
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.00	38.5	35.0	17.5	6.1	2.8	1.03
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を要しなかった場合は、5をマーク	4.24	51.3	29.4	13.6	3.6	2.0	0.96
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.83	32.8	31.6	24.2	8.1	3.2	1.08
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.81	35.4	28.8	21.9	9.1	4.9	1.16
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.22	49.5	29.6	15.7	3.3	1.9	0.95
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.16	45.3	32.8	16.2	3.6	2.0	0.96

II. この授業の内容について		当カテゴリー平均点					有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.04	39.9	33.8	19.0	5.1	2.2	0.99
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	3.89	34.7	33.2	21.1	8.1	2.8	1.06
10	授業の内容は興味深いものだった	3.93	34.9	35.9	19.8	6.4	3.1	1.04
11	授業の内容はよく理解できるものであった	3.81	31.0	33.3	23.6	9.3	2.7	1.06
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	3.90	36.6	31.2	21.1	7.7	3.4	1.09
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.86	32.4	32.7	26.0	6.4	2.5	1.02

III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー平均点					有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.21	52.2	25.9	13.6	7.5	0.8	0.99
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.72	6.0	4.3	7.3	20.4	62.0	737
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.83	16.0	19.6	23.8	12.6	28.0	731
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	3.41	22.4	26.5	29.5	12.4	9.1	735
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.74	31.3	30.4	24.4	8.6	5.3	734

IV. 総合的印象		当カテゴリー平均点					有効回答	標準偏差
No.	設問文	平均点	回答率(%)					
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	3.92	36.3	33.1	20.8	6.0	3.8	1.07

Q1-Q10の当区分平均値	3.76
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値-2σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

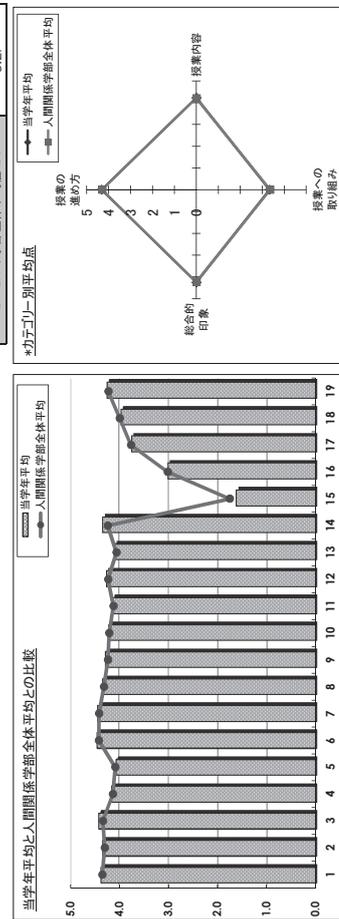
学年	1年
履修者数	—
回答者数	2,455

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.37	59.0	25.8	10.1	3.8	1.3	2,453	2	0.91
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.34	55.8	27.4	12.7	2.9	1.3	2,453	2	0.89
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.42	59.8	25.8	11.3	2.4	0.7	2,454	1	0.83
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.16	48.1	26.3	17.1	4.7	1.8	2,454	1	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.07	44.8	28.2	18.7	5.4	2.9	2,452	3	1.05
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.45	62.3	24.4	10.6	1.4	1.2	2,452	3	0.83
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.44	59.9	27.1	10.7	1.4	0.8	2,447	8	0.80

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
5	5	4	3	2	1	1	有効回答	4.22		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.34	55.5	28.2	12.5	2.6	1.3	2,452	3	0.88
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.28	53.9	27.4	13.0	4.2	1.5	2,455	0	0.95
10	授業の内容は興味深いものだった	4.21	50.8	27.8	15.2	4.5	1.8	2,449	6	0.97
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.14	46.6	30.2	15.9	5.2	2.1	2,449	6	1.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	52.5	28.1	14.3	3.3	1.8	2,448	7	0.95
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.09	43.1	29.6	22.2	3.3	1.8	2,436	19	0.97

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
5	5	4	3	2	1	1	有効回答	3.34		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.33	56.7	26.2	11.8	4.5	0.8	2,446	9	0.91
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.63	3.6	3.2	8.2	22.4	62.7	2,437	18	1.01
16	授業時間外に予習・復習を促すために積極的に参加した	3.01	22.3	17.1	24.5	12.1	24.0	2,413	42	1.46
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.75	33.9	26.6	25.8	8.2	5.5	2,441	14	1.17
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.96	41.2	28.4	20.4	5.9	4.2	2,436	19	1.11

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
5	5	4	3	2	1	1	有効回答	4.25		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.25	53.1	26.1	15.4	3.3	2.1	2,364	91	0.97



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

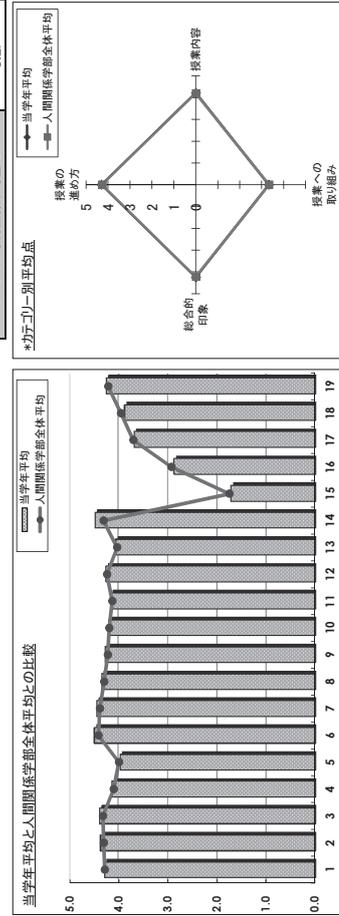
学年	1年
履修者数	—
回答者数	2,367

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
5	5	4	3	2	1	1	有効回答	4.30		
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.29	54.2	28.9	10.0	5.1	1.8	2,362	5	0.96
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.37	55.3	30.0	11.9	2.1	0.8	2,360	7	0.83
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.39	59.2	25.1	12.2	2.5	1.0	2,359	8	0.87
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.13	45.4	30.2	18.1	4.4	1.8	2,361	6	0.98
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.97	40.9	28.6	20.6	6.2	3.7	2,360	7	1.09
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.49	63.3	24.8	10.0	1.3	0.6	2,357	10	0.77
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.44	59.0	28.8	10.2	1.4	0.5	2,361	6	0.77

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
5	5	4	3	2	1	1	有効回答	4.22		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.34	54.1	30.6	11.9	2.7	0.8	2,359	8	0.85
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.27	50.9	30.7	14.1	3.1	1.1	2,362	5	0.89
10	授業の内容は興味深いものだった	4.21	49.3	30.0	14.6	4.4	1.7	2,359	8	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.16	46.1	31.7	16.1	4.4	1.7	2,356	11	0.96
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.26	50.8	30.0	14.4	3.6	1.2	2,358	9	0.92
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.06	39.5	32.7	23.7	2.7	1.4	2,349	18	0.93

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
5	5	4	3	2	1	1	有効回答	3.33		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.47	64.5	22.8	9.0	2.9	0.7	2,340	27	0.83
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.72	4.4	4.4	8.5	23.9	58.8	2,349	18	1.08
16	授業時間外に予習・復習を促すために積極的に参加した	2.87	18.9	16.7	24.3	13.1	27.0	2,326	41	1.48
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.69	31.1	27.7	26.2	8.9	6.2	2,349	18	1.18
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.88	36.7	29.5	23.2	6.5	4.1	2,346	21	1.10

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)							
5	5	4	3	2	1	1	有効回答	4.25		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.25	53.5	25.7	15.3	3.3	2.2	2,273	94	0.98



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

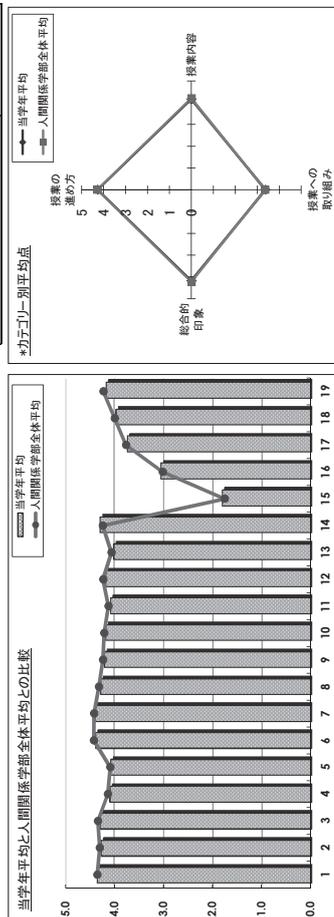
学年	2年	履修者数	2,258
		回答者数	2,258

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかったです。	4.35	55.3	40.1	3.1	1.3	2,253	5	0.88	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った。	4.27	51.4	30.5	13.4	3.1	2,255	3	0.91	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした。 ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	54.9	26.0	14.1	3.4	2,255	3	0.94	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた。	4.10	43.6	30.5	19.5	4.5	1.9	2,257	1	0.99
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した。	4.07	44.5	28.1	19.8	5.5	2.1	2,252	6	1.02
6	教員の学生に対する接し方は公平だった。	4.38	58.4	26.0	12.4	2.0	1.2	2,254	4	0.87
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた。	4.39	57.1	28.7	11.4	1.8	0.9	2,255	3	0.83

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された。	4.28	50.8	31.0	14.7	2.4	1.1	2,252	6	0.88
9	授業の構成は体系的で把握しやすかったです。	4.20	48.2	30.9	15.3	4.2	1.5	2,253	5	0.95
10	授業の内容は興味深いものでした。	4.18	47.1	31.0	16.4	3.9	1.7	2,255	3	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものであった。	4.08	41.6	33.5	18.1	4.6	2.2	2,250	8	0.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う。	4.18	47.7	29.8	16.8	3.9	1.8	2,253	5	0.96
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった。	4.02	39.7	30.4	24.0	3.6	2.3	2,238	20	0.99

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.29	52.0	30.7	12.4	4.3	0.7	2,254	4	0.89
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.82	4.7	5.5	12.1	22.1	55.6	2,249	9	1.13
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.05	19.7	19.2	29.0	11.0	21.1	2,253	25	1.39
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.74	30.2	30.4	27.1	7.3	4.8	2,248	10	1.11
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.97	38.9	30.7	22.0	5.2	3.1	2,244	14	1.05

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.17	47.7	29.4	17.4	3.5	2.0	2,166	92	0.97



01-010の当区分平均値	3.99
01-010の学部全体平均値	4.02
01-010の学部全体平均値±σ	3.27

2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

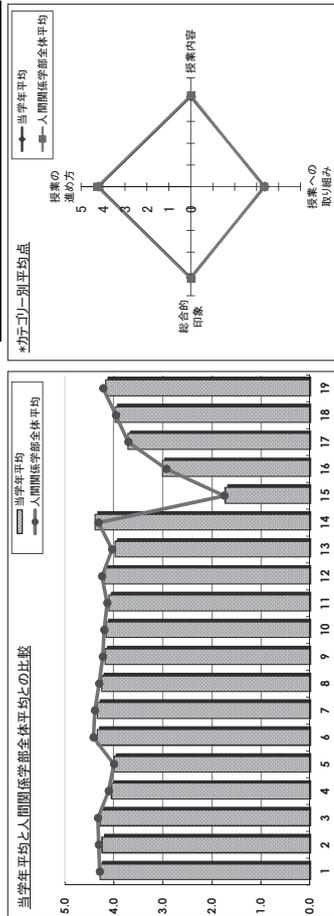
学年	2年	履修者数	2,345
		回答者数	2,345

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかったです。	4.28	53.1	29.6	11.4	4.1	1.8	2,341	4	0.94
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った。	4.25	50.4	31.0	13.1	3.7	1.8	2,341	4	0.94
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした。 ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.28	52.5	29.5	13.3	3.2	1.5	2,342	3	0.91
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた。	4.05	40.6	33.7	17.6	6.2	1.9	2,340	5	1.00
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した。	4.00	40.9	29.7	20.3	6.5	2.6	2,339	6	1.05
6	教員の学生に対する接し方は公平だった。	4.34	55.9	27.6	12.6	2.4	1.5	2,340	5	0.90
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた。	4.33	54.4	29.8	11.9	2.7	1.2	2,332	13	0.88

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された。	4.25	48.5	33.3	13.9	2.9	1.4	2,339	6	0.90
9	授業の構成は体系的で把握しやすかったです。	4.18	47.4	31.4	14.5	5.0	1.7	2,340	5	0.97
10	授業の内容は興味深いものでした。	4.16	46.3	32.2	14.5	5.0	2.1	2,339	6	0.98
11	授業の内容はよく理解できるものであった。	4.10	43.8	32.2	16.0	6.0	2.0	2,338	7	1.00
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う。	4.19	49.4	29.4	14.4	5.0	1.8	2,336	9	0.98
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった。	3.98	39.2	30.2	22.6	5.1	2.9	2,324	21	1.04

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.38	58.5	26.9	9.6	4.0	0.9	2,334	11	0.89
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.74	4.4	4.3	9.4	24.6	57.3	2,329	16	1.08
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.01	19.6	18.4	28.0	11.5	22.4	2,301	44	1.41
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.72	31.5	28.1	26.6	8.3	5.6	2,323	22	1.16
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.98	39.1	31.7	20.5	5.2	3.5	2,325	20	1.06

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.17	48.3	29.6	15.9	3.6	2.6	2,258	87	1.00



01-010の当区分平均値	3.97
01-010の学部全体平均値	4.00
01-010の学部全体平均値±σ	3.27

2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	3年
履修者数	—
回答者数	1,491

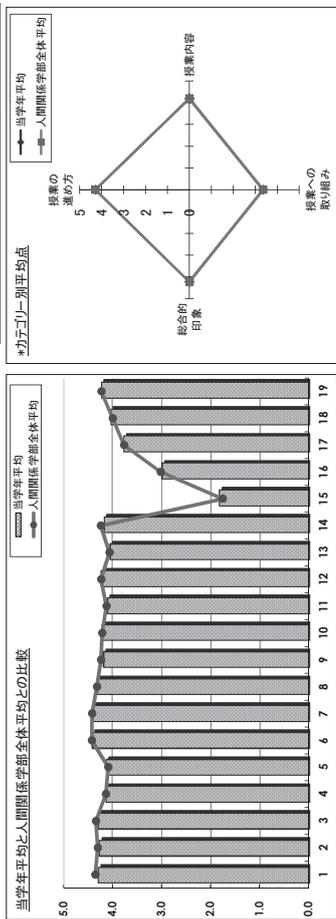
No.	設問文	当カテゴリー平均点				標準偏差				
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.29	52.0	31.9	10.4	4.5	1.2	1,485	6	0.91
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.27	51.0	31.3	12.4	4.0	1.3	1,481	10	0.92
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.30	53.0	29.7	13.0	2.6	1.6	1,482	9	0.91
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.13	44.1	33.0	16.5	4.9	1.5	1,482	9	0.96
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.12	44.0	33.3	16.0	4.5	2.2	1,481	10	0.98
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.41	59.5	26.8	10.3	2.2	1.1	1,480	11	0.85
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.40	57.0	29.9	10.1	1.8	1.1	1,483	8	0.83

II. この授業の内容について		当カテゴリー平均点				標準偏差				
No.	設問文	平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.31	52.4	31.1	12.5	3.1	0.9	1,485	6	0.87
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていました	4.18	47.2	32.6	13.6	4.6	2.0	1,480	11	0.97
10	授業の内容は興味深いものでした	4.22	48.8	32.0	12.8	4.9	1.6	1,481	10	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.11	43.0	34.3	15.7	4.5	2.5	1,481	10	0.99
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	48.1	32.9	14.4	3.2	1.3	1,482	9	0.91
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.05	41.8	29.1	23.3	3.7	2.0	1,470	21	0.99

III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー平均点				標準偏差				
No.	設問文	平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.17	48.1	28.9	16.5	5.0	1.6	1,477	14	0.98
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.83	6.6	5.1	11.1	19.1	58.1	1,476	15	1.21
16	授業時間外に、考えを述べた上で積極的に参加した	2.99	20.8	18.3	24.6	11.4	24.8	1,466	25	1.46
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.77	32.2	31.2	23.5	7.4	5.6	1,470	21	1.14
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.04	41.1	32.8	18.2	4.8	3.2	1,473	18	1.03

IV. 総合的印象		当カテゴリー平均点				標準偏差				
No.	設問文	平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答					
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	49.2	30.4	15.6	3.3	1.5	1,420	71	0.93

01-010の当区分平均値	4.00
01-010の学部全体平均値	4.02
01-010の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	3年
履修者数	—
回答者数	1,634

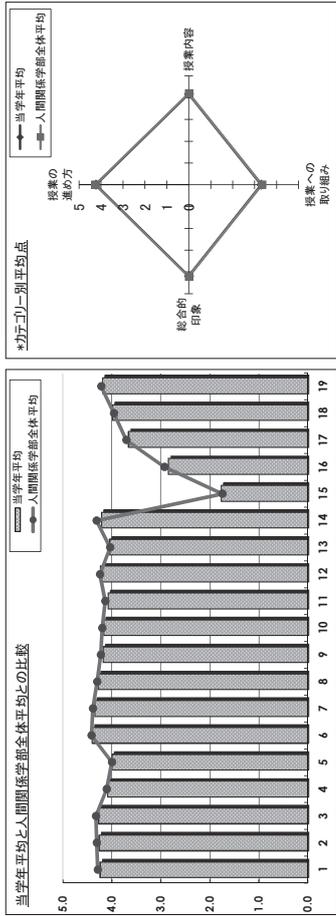
No.	設問文	当カテゴリー平均点				標準偏差				
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.24	50.0	32.5	11.2	4.4	1.9	1,629	5	0.95
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.26	49.3	33.3	13.1	3.3	1.1	1,630	4	0.89
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.28	50.7	32.0	12.9	3.2	1.2	1,628	6	0.89
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	41.2	35.0	17.4	4.6	1.9	1,625	9	0.97
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.00	39.7	30.5	22.0	5.5	2.2	1,622	12	1.02
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.40	57.5	28.8	11.1	1.8	0.8	1,627	7	0.82
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.35	53.5	32.0	11.8	1.9	0.9	1,625	9	0.83

II. この授業の内容について		当カテゴリー平均点				標準偏差				
No.	設問文	平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.28	50.6	32.1	13.2	3.0	1.2	1,625	9	0.89
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていました	4.18	46.5	33.1	14.5	3.9	2.0	1,624	10	0.96
10	授業の内容は興味深いものでした	4.17	45.0	34.7	14.9	3.5	2.0	1,621	13	0.94
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.08	40.3	36.6	16.1	5.0	2.0	1,625	9	0.97
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.23	48.6	32.9	13.5	3.0	1.9	1,627	7	0.93
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.05	41.5	29.8	22.7	4.1	1.9	1,615	19	0.99

III. この授業への取り組みとその成果について		当カテゴリー平均点				標準偏差				
No.	設問文	平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答					
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.22	51.0	27.6	14.7	5.6	1.2	1,623	11	0.97
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.78	4.4	5.0	10.5	24.5	55.6	1,623	11	1.10
16	授業時間外に、考えを述べた上で積極的に参加した	2.85	18.5	17.9	23.0	11.4	29.2	1,601	33	1.48
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.66	29.2	29.5	25.9	9.3	6.1	1,616	18	1.17
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.99	39.0	32.8	20.2	3.8	4.2	1,616	18	1.06

IV. 総合的印象		当カテゴリー平均点				標準偏差				
No.	設問文	平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答					
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.19	47.9	31.1	15.5	3.3	2.2	1,562	72	0.96

01-010の当区分平均値	3.96
01-010の学部全体平均値	4.00
01-010の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	4年	履修者数	271
		回答者数	271

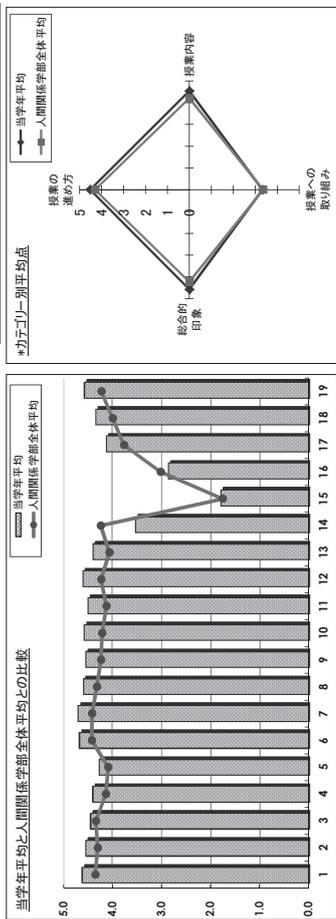
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差
		平均点	回答率(%)				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.62	71.6	19.2	8.5	0.7	0.67
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.54	66.8	22.5	9.2	1.1	0.74
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.45	65.3	18.8	12.5	1.8	0.89
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.40	58.4	27.5	10.8	2.6	0.84
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.27	54.4	25.2	14.1	5.9	0.94
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.68	76.4	15.1	8.1	0.4	0.64
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.70	77.9	14.8	6.6	0.7	0.62

No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差
		平均点	回答率(%)				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.59	69.0	22.1	8.1	0.4	0.69
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていました	4.54	65.7	24.0	9.2	1.1	0.71
10	授業の内容は興味深いものでした	4.57	69.3	21.1	7.8	1.5	0.73
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.50	65.7	21.0	11.1	1.8	0.79
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.60	68.6	23.6	7.0	0.7	0.65
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.40	59.6	21.9	17.4	0.7	0.82

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差		
		平均点	回答率(%)						
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.53	24.8	29.6	24.1	16.7	4.8	1.17	
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.80	3.7	2.6	12.6	32.3	48.7	2.69	1.01
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.86	19.6	15.8	24.5	11.3	28.7	6	1.48
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.13	45.1	28.0	22.4	3.4	1.1	2.68	0.95
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.34	55.1	27.7	14.6	1.1	1.5	2.67	0.88

Ⅳ. 総合的印象									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差		
		平均点	回答率(%)						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.57	68.1	22.4	8.4	0.8	0.4	2.63	0.71

01-010の当区分平均値	4.22
01-010の学部全体平均値	4.02
01-010の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(マーク学年別)

大妻女子大学

学年	4年	履修者数	432
		回答者数	432

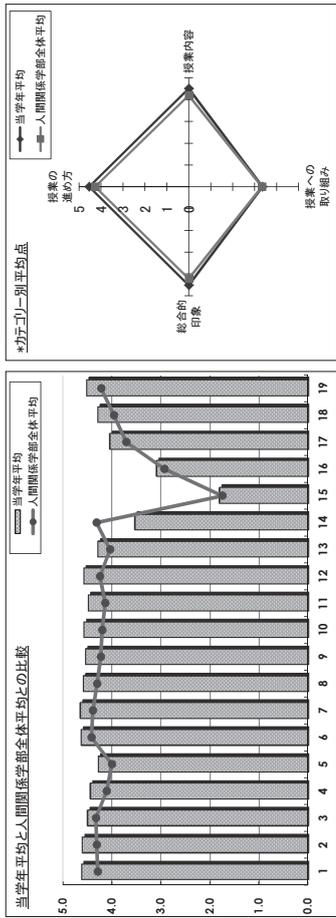
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差	
		平均点	回答率(%)					
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.63	69.9	24.1	4.9	0.2	0.64	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.61	68.3	24.8	6.5	0.0	0.63	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.51	64.7	24.1	8.6	2.1	0.5	0.78
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.44	58.6	29.2	10.9	0.9	0.5	0.76
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.28	55.3	24.1	16.0	3.0	1.6	0.95
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.63	73.1	18.1	7.9	0.2	0.432	0.68
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.65	71.9	21.1	6.7	0.2	0.0	0.61

Ⅱ. この授業の内容について								
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差	
		平均点	回答率(%)					
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.59	68.7	22.5	7.9	0.7	0.2	0.69
9	授業の構成は体系的で把握しやすくなっていました	4.54	65.7	24.4	9.0	0.5	0.5	0.72
10	授業の内容は興味深いものでした	4.57	67.1	24.4	7.9	0.2	0.5	0.69
11	授業の内容はよく理解できるものであった	4.49	60.5	29.3	9.3	0.5	0.5	0.72
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.58	68.7	22.0	7.9	1.2	0.2	0.71
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.29	53.3	26.5	17.8	0.5	1.9	0.90

Ⅲ. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差		
		平均点	回答率(%)						
14	この授業にどの程度出席しましたか	3.54	22.9	30.8	27.1	15.7	3.5	4.28	1.11
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.82	4.0	3.5	12.6	30.0	49.9	4.27	1.05
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.10	22.3	20.2	22.1	13.4	20.0	4.21	1.43
17	この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った	4.05	41.0	32.2	20.0	4.2	2.6	4.29	1.00
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.29	53.2	28.2	14.8	2.1	1.6	4.25	0.91

Ⅳ. 総合的印象									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					標準偏差		
		平均点	回答率(%)						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.52	66.1	22.4	9.0	2.4	0.0	4.10	0.76

01-010の当区分平均値	4.22
01-010の学部全体平均値	4.00
01-010の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	51人間関係学部(共通科目)	履修者数	772
		回答者数	583

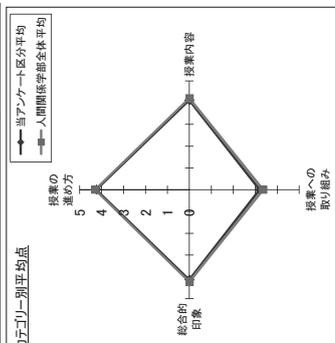
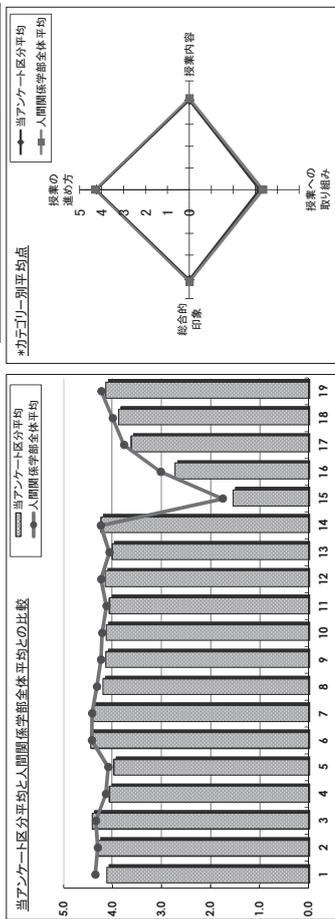
No.	設問文	当アンケート平均点			標準偏差	
		平均点	回答率(%)	有効回答		
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.11	46.8 30.9	12.0 7.4	2.9 583	0 1.07
2	教材/資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.29	52.1 30.8	12.2 3.6	1.4 582	1 0.91
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を付けなかった場合は、5をマーク	4.41	58.9 27.3	10.3 2.4	1.0 582	1 0.85
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.06	43.1 31.3	17.0 5.8	2.7 582	1 1.04
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.97	42.4 28.8	17.3 6.3	5.1 583	0 1.15
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.44	61.6 28.1	9.1 1.4	1.9 583	0 0.86
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.39	58.0 28.9	9.0 2.1	2.1 581	2 0.89

II. この授業の内容について						
No.	設問文	当アンケート平均点			標準偏差	
		平均点	回答率(%)	有効回答		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.19	49.6 29.8	13.2 4.6	2.7 583	0 1.01
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.13	48.2 28.6	14.4 5.7	3.1 583	0 1.06
10	授業の内容は興味深いものだった	4.13	47.9 29.1	14.0 5.5	3.4 580	3 1.07
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.06	43.1 30.9	17.9 5.2	2.9 580	3 1.04
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.14	47.7 30.0	14.9 3.6	3.8 583	0 1.04
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.00	40.9 28.5	23.5 4.1	2.9 579	4 1.04

III. この授業への取り組みとその成果について						
No.	設問文	当アンケート平均点			標準偏差	
		平均点	回答率(%)	有効回答		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.23	52.8 25.9	14.0 6.7	0.7 580	3 0.97
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.55	3.4 2.2	5.9 23.1	65.3 580	3 0.96
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.73	18.3 14.3	20.7 15.5	31.3 575	8 1.49
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.62	31.3 25.0	25.6 10.4	7.8 579	4 1.24
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.88	39.2 28.1	20.1 6.4	6.2 577	6 1.18

IV. 総合的な印象						
No.	設問文	当アンケート平均点			標準偏差	
		平均点	回答率(%)	有効回答		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.13	49.8 26.5	14.9 4.7	4.1 558	25 1.09

01-019の当区分平均値	3.92
01-019の学部全体平均値	4.02
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	51人間関係学部(共通科目)	履修者数	927
		回答者数	786

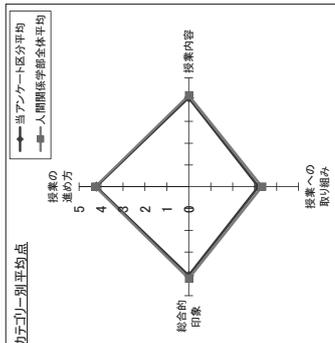
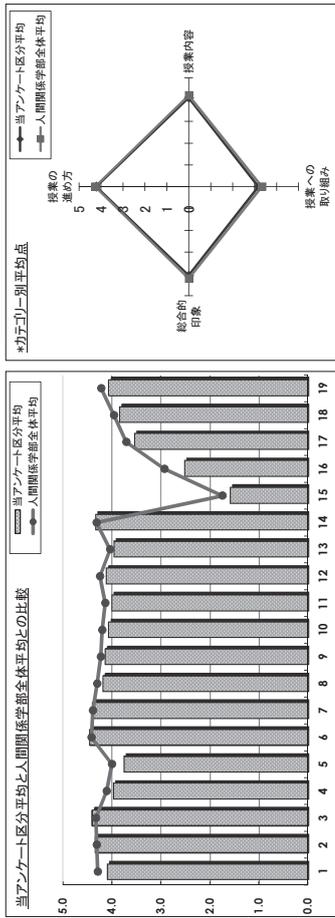
No.	設問文	当アンケート平均点			標準偏差	
		平均点	回答率(%)	有効回答		
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.10	48.8 27.8	11.5 8.6	3.3 783	3 1.11
2	教材/資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.35	54.5 30.3	11.5 2.9	0.8 783	3 0.85
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を付けなかった場合は、5をマーク	4.41	61.2 23.5	11.9 2.4	1.0 783	3 0.87
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	3.98	41.4 28.2	20.1 7.7	2.7 783	3 1.08
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.77	35.2 28.0	20.9 9.7	6.1 783	3 1.20
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.46	63.0 22.9	12.1 1.3	0.6 782	4 0.80
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.41	57.5 29.0	11.1 1.8	0.6 783	3 0.81

II. この授業の内容について						
No.	設問文	当アンケート平均点			標準偏差	
		平均点	回答率(%)	有効回答		
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.19	48.2 30.9	14.2 5.2	1.5 784	2 0.97
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.14	46.1 30.5	16.7 5.0	1.7 783	3 0.98
10	授業の内容は興味深いものだった	4.07	45.8 28.5	15.5 7.5	2.7 783	3 1.07
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.01	42.0 29.8	18.4 6.8	2.9 781	5 1.07
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.12	44.0 33.1	16.0 5.0	1.9 780	6 0.98
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	3.97	36.2 32.0	26.3 3.3	2.2 777	9 0.98

III. この授業への取り組みとその成果について						
No.	設問文	当アンケート平均点			標準偏差	
		平均点	回答率(%)	有効回答		
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.34	58.7 24.2	10.9 5.1	1.0 780	6 0.94
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.60	4.0 2.6	7.4 21.3	64.7 780	6 1.01
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.53	14.5 12.2	21.8 14.5	37.0 772	14 1.45
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.55	28.5 25.9	26.2 10.8	8.6 776	10 1.25
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.85	36.4 29.9	21.8 6.4	5.5 777	9 1.15

IV. 総合的な印象						
No.	設問文	当アンケート平均点			標準偏差	
		平均点	回答率(%)	有効回答		
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.07	47.0 25.5	19.1 4.6	3.8 760	26 1.09

01-019の当区分平均値	3.89
01-019の学部全体平均値	4.00
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	52人間関係学部(学科共通科目)
---------	------------------

履修者数	1,137
回答者数	898

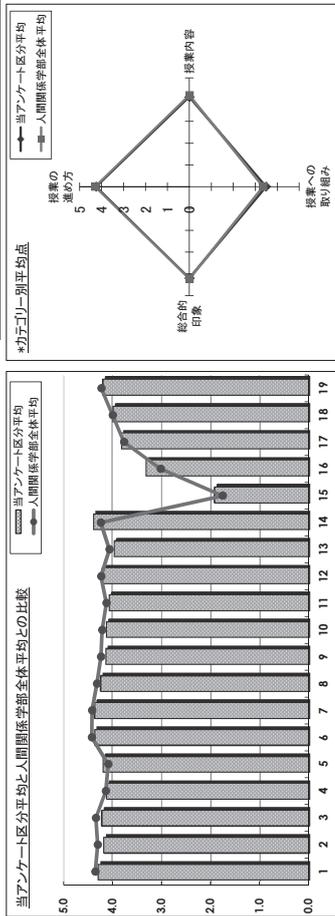
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	4.25				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.29	56.1	25.2	12.5	4.1	2.1	898	0	0.98
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.18	49.2	27.8	16.4	4.9	1.8	897	1	0.99
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を向けなかった場合は、5をマーク	4.22	50.7	26.8	18.2	2.6	1.8	897	1	0.95
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.12	48.2	24.6	20.0	5.2	1.9	898	0	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.19	49.7	27.0	18.0	3.5	1.9	896	2	0.97
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.36	59.0	23.1	14.4	2.2	1.2	896	2	0.90
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.37	58.3	24.5	14.2	1.7	1.3	897	1	0.88

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	4.13				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.24	51.8	26.8	16.8	3.1	1.4	898	0	0.94
9	授業の構成は体系的で把握しやすいようになっていた	4.14	48.8	26.2	17.0	6.0	2.0	898	0	1.03
10	授業の内容は興味深いものだった	4.13	48.6	25.8	17.1	6.6	1.9	898	0	1.04
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.07	46.1	26.5	18.4	6.3	2.7	898	0	1.07
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.21	51.1	26.3	16.6	4.5	1.5	896	2	0.97
13	授業は自分の学びたい科目の選択や学習の参考になった	3.96	40.9	25.6	25.9	4.3	3.4	892	6	1.07

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	3.49				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.39	61.7	21.8	11.4	3.9	1.2	896	2	0.92
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	1.93	7.6	5.6	12.6	20.6	53.6	890	8	1.25
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.32	26.5	20.1	27.7	10.1	15.6	882	16	1.37
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.82	36.2	26.2	25.9	7.0	4.7	889	9	1.14
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.99	42.7	26.2	21.9	5.8	3.5	886	12	1.09

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	4.20				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.20	51.4	24.6	18.2	3.8	2.0	869	29	0.99

01-019の当区分平均値	4.01
01-019の学部全体平均値	4.02
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	52人間関係学部(学科共通科目)
---------	------------------

履修者数	879
回答者数	705

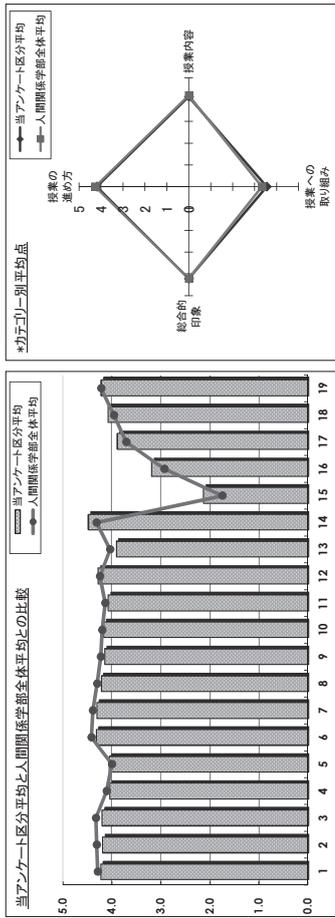
I. 教員のこの授業の進め方について										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	4.19				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.22	51.1	29.4	12.4	5.0	2.1	704	1	0.99
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.19	48.7	29.6	16.0	3.3	2.4	705	0	0.98
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を向けなかった場合は、5をマーク	4.20	50.4	27.9	15.6	3.7	2.4	703	2	0.99
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.05	44.6	28.7	16.8	6.7	3.3	704	1	1.08
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.05	46.5	24.3	20.1	6.2	2.8	705	0	1.08
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.32	57.1	25.1	12.4	3.1	2.3	704	1	0.96
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.31	54.4	28.3	12.7	2.6	2.0	702	3	0.93

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	4.13				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.22	50.1	29.4	14.9	3.4	2.3	705	0	0.97
9	授業の構成は体系的で把握しやすいようになっていた	4.15	47.9	29.9	13.9	5.5	2.7	705	0	1.03
10	授業の内容は興味深いものだった	4.16	48.0	30.1	15.1	4.0	2.8	704	1	1.01
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.07	45.2	29.2	16.5	6.1	3.0	702	3	1.06
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.28	55.5	25.6	12.8	3.6	2.6	704	1	0.99
13	授業は自分の学びたい科目の選択や学習の参考になった	3.91	37.4	28.5	25.5	5.0	3.6	698	7	1.07

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	3.55				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.48	66.9	19.3	9.8	3.0	1.0	703	2	0.86
15	この授業のために毎回予習・復習合わせどの程度自習しましたか	2.14	7.7	8.4	14.5	28.6	40.7	702	3	1.25
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.19	23.9	19.7	27.2	9.9	17.3	699	6	1.41
17	この授業を受けて、さらに学業的に学びたいと思った	3.89	36.9	29.8	22.7	6.6	4.0	701	4	1.10
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.07	44.8	28.8	19.0	4.0	3.4	699	6	1.05

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	4.22				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	53.4	25.7	13.3	4.8	2.8	682	23	1.03

01-019の当区分平均値	4.01
01-019の学部全体平均値	4.00
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	53人間関係学専攻(専門科目)	履修者数	1,669
		回答者数	1,063

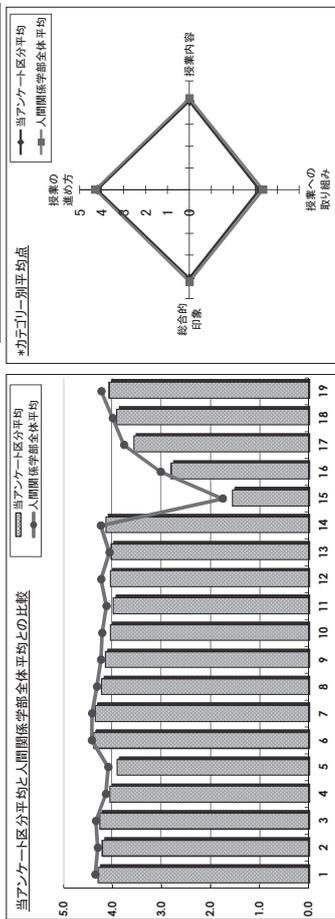
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.28	49.6	35.5	9.6	3.9	1.4	1,056	7	0.89
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.20	44.2	36.9	14.8	2.7	1.4	1,055	8	0.89
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.25	52.5	27.9	13.7	4.0	1.9	1,055	8	0.96
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.04	36.8	39.0	19.2	4.6	1.3	1,054	9	0.93
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	3.90	35.3	33.5	20.0	7.7	3.4	1,053	10	1.08
6	教員の話し方は公平だった	4.37	54.6	31.9	11.0	1.1	0.4	1,055	8	0.83
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.34	50.2	36.2	11.7	1.1	0.8	1,056	7	0.79

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.21	43.4	38.3	15.2	2.1	1.0	1,054	9	0.85
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.13	41.1	37.2	16.8	3.9	1.0	1,057	6	0.90
10	授業の内容は興味深いものだった	4.04	36.9	37.5	19.5	4.5	1.6	1,056	7	0.94
11	授業の内容はよく理解できるものだった	3.97	33.2	40.3	18.9	5.4	2.1	1,056	7	0.96
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.04	36.3	38.3	20.1	3.4	1.9	1,052	11	0.93
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.02	35.3	36.4	24.0	3.3	1.1	1,046	17	0.90

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.13	43.1	35.4	13.9	6.4	1.2	1,053	10	0.96
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.56	2.6	3.8	7.7	19.1	66.9	1,043	10	0.97
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.80	16.6	17.8	25.6	9.5	30.9	1,045	18	1.46
17	この授業を受けて、さらに学歴的に学びたいと思った	3.56	22.0	32.6	30.8	8.3	6.2	1,054	9	1.11
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.90	32.6	36.6	23.0	4.4	3.5	1,053	10	1.02

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.06	37.7	37.7	19.6	3.1	1.9	1,008	55	0.93

Q1-Q10の当区分平均値	3.88
Q1-Q10の学部全体平均値	4.02
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分	53人間関係学専攻(専門科目)	履修者数	1,531
		回答者数	1,064

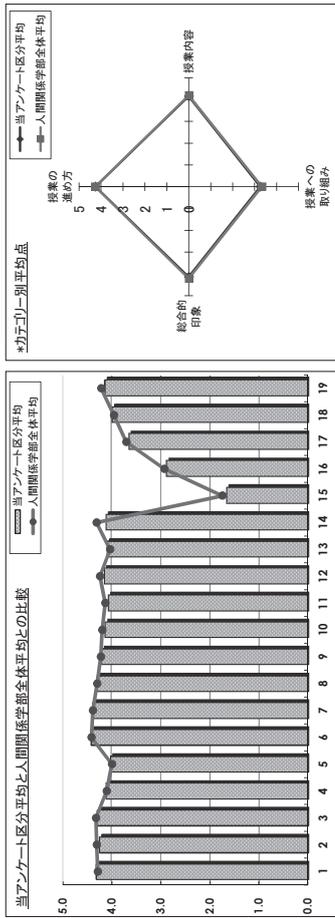
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.31	51.0	34.3	10.3	3.6	0.8	1,062	2	0.86
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.25	47.2	35.1	14.2	2.2	1.3	1,063	1	0.87
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.29	51.2	31.4	13.6	2.9	0.9	1,062	2	0.88
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.11	40.8	36.7	16.8	4.2	1.5	1,060	4	0.93
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.03	40.4	30.5	22.3	4.5	2.2	1,061	3	1.00
6	教員の話し方は公平だった	4.41	56.6	30.7	10.8	1.0	0.8	1,063	1	0.79
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.38	53.0	34.6	10.6	1.4	0.4	1,060	4	0.76

II. この授業の内容について										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.29	47.8	36.7	13.5	1.1	0.8	1,059	5	0.81
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.20	45.2	35.2	15.5	2.7	1.4	1,061	3	0.90
10	授業の内容は興味深いものだった	4.13	42.6	35.6	15.7	4.4	1.7	1,060	4	0.95
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.07	38.0	38.6	17.4	4.3	1.7	1,059	5	0.94
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.15	42.3	37.7	14.4	3.9	1.8	1,059	5	0.93
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.09	40.1	34.1	21.7	2.8	1.2	1,055	9	0.91

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.11	43.3	33.0	16.5	5.9	1.2	1,053	11	0.97
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.67	2.7	3.1	11.4	24.0	58.8	1,056	8	0.98
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	2.88	16.9	18.1	28.1	10.4	26.6	1,043	21	1.42
17	この授業を受けて、さらに学歴的に学びたいと思った	3.65	25.5	32.1	30.0	7.0	5.4	1,050	14	1.10
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	3.99	36.6	35.4	21.1	3.9	3.0	1,054	10	1.00

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	5	4	3	2				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.14	42.2	36.1	17.0	3.0	1.7	1,007	57	0.92

Q1-Q10の当区分平均値	3.96
Q1-Q10の学部全体平均値	4.00
Q1-Q10の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分 54人間関係学科社会・臨床心理学専攻(専門科目)

履修者数	1,185
回答者数	892

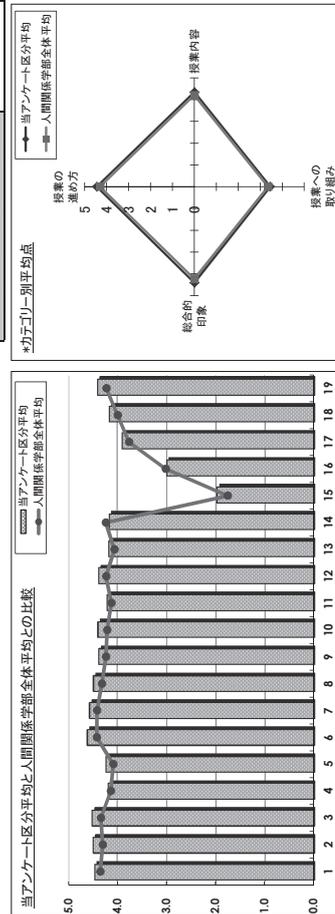
No.	設問文	当アンケート平均点					無効回答	標準偏差		
		平均点	5	4	3	2				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.47	64.8	23.1	7.1	4.3	0.8	891	1	0.86
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.50	67.2	20.5	8.0	3.3	1.0	888	4	0.85
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.52	66.9	21.8	8.3	2.2	0.8	890	2	0.80
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.20	51.2	27.3	13.5	5.8	2.1	889	3	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.23	51.6	28.7	13.3	4.4	2.0	888	4	0.98
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.62	73.5	17.8	6.4	1.8	0.6	889	3	0.74
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.57	68.9	22.1	6.9	1.3	0.8	890	2	0.75

II. この授業の内容について		当アンケート平均点					無効回答	標準偏差		
No.	設問文	平均点	5	4	3	2				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.49	64.2	25.0	7.1	3.1	0.6	891	1	0.80
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.38	60.7	24.5	8.7	4.8	1.4	887	5	0.93
10	授業の内容は興味深いものだった	4.40	60.9	24.9	8.9	4.1	1.2	887	5	0.90
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.21	52.0	27.8	12.3	5.3	2.6	885	7	1.02
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.38	57.9	28.2	9.6	3.1	1.2	890	2	0.87
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.18	49.7	24.9	20.4	3.6	1.4	882	10	0.97

III. この授業への取り組みとその成果について		当アンケート平均点					無効回答	標準偏差		
No.	設問文	平均点	5	4	3	2				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.17	47.3	30.6	15.5	5.5	1.1	891	1	0.96
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.98	5.0	6.5	15.2	28.0	45.3	888	4	1.15
16	授業時間外に予習・復習を促された時に積極的に参加した	3.00	20.9	19.4	21.4	15.9	22.4	882	10	1.44
17	この授業を受けて、さらに学歴的に学びたいと思った	3.91	35.6	33.8	19.2	8.4	3.0	881	11	1.07
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.17	45.8	33.6	14.1	5.0	1.6	887	5	0.95

IV. 総合的印象		当アンケート平均点					無効回答	標準偏差		
No.	設問文	平均点	5	4	3	2				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.41	59.7	26.6	9.7	3.0	1.0	858	34	0.86

01-019の当区分平均値	4.15
01-019の学部全体平均値	4.02
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分 54人間関係学科社会・臨床心理学専攻(専門科目)

履修者数	986
回答者数	797

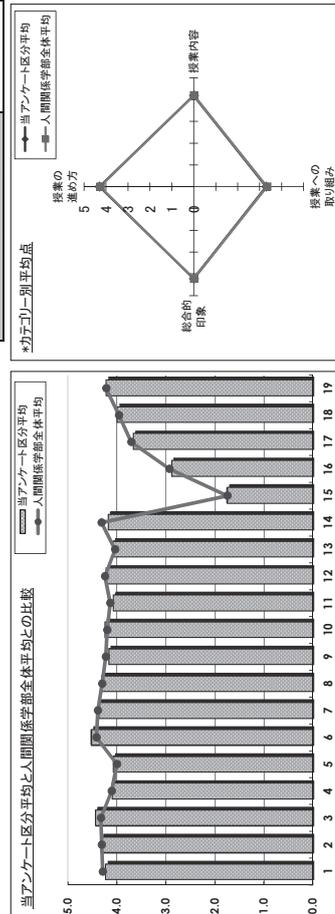
No.	設問文	当アンケート平均点					無効回答	標準偏差		
		平均点	5	4	3	2				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.23	54.1	27.3	9.5	5.9	3.1	796	1	1.05
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.32	56.0	28.2	9.7	4.7	1.5	795	2	0.94
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.44	61.9	25.6	8.2	3.0	1.3	796	1	0.86
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.10	44.3	32.5	14.2	6.9	2.1	795	2	1.02
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.08	45.5	28.8	16.5	6.8	2.4	794	3	1.05
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.52	66.3	23.3	7.8	1.8	0.9	795	2	0.79
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.38	57.9	27.3	10.6	2.9	1.3	794	3	0.88

II. この授業の内容について		当アンケート平均点					無効回答	標準偏差		
No.	設問文	平均点	5	4	3	2				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.31	54.5	29.3	10.2	4.7	1.4	795	2	0.93
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.17	51.3	26.3	13.4	6.5	2.5	794	3	1.05
10	授業の内容は興味深いものだった	4.25	51.9	29.7	11.8	4.9	1.6	794	3	0.96
11	授業の内容はよく理解できるものだった	4.08	44.5	30.6	15.5	7.1	2.4	794	3	1.05
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.22	51.8	27.6	13.7	5.0	1.9	796	1	0.99
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.09	46.3	27.0	18.5	5.7	2.5	789	8	1.05

III. この授業への取り組みとその成果について		当アンケート平均点					無効回答	標準偏差		
No.	設問文	平均点	5	4	3	2				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.18	48.1	31.2	12.5	6.9	1.3	794	3	0.98
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.76	3.7	3.9	9.9	29.8	52.6	794	3	1.03
16	授業時間外に予習・復習を促された時に積極的に参加した	2.89	18.1	18.1	24.3	14.1	25.4	786	11	1.43
17	この授業を受けて、さらに学歴的に学びたいと思った	3.67	31.9	27.3	23.1	11.4	6.3	791	6	1.21
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.00	41.5	30.9	17.6	5.7	4.3	790	7	1.10

IV. 総合的印象		当アンケート平均点					無効回答	標準偏差		
No.	設問文	平均点	5	4	3	2				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.22	52.5	27.5	12.8	4.4	2.9	768	29	1.02

01-019の当区分平均値	4.00
01-019の学部全体平均値	4.00
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

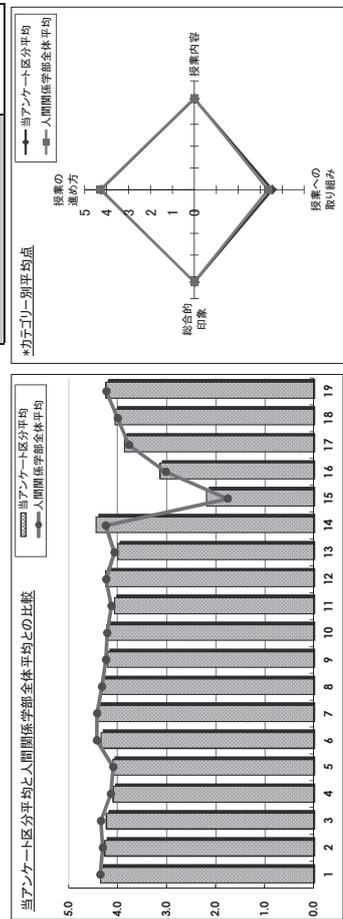
アンケート区分	55人 人間福祉学科人間福祉学専攻(専門科目)
履修者数	736
回答者数	538

No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.35	57.1	26.3	11.9	3.5	1.1	536	0.90
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.26	53.9	25.9	14.7	3.5	1.9	536	0.96
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.23	53.3	26.4	13.2	4.5	2.6	537	1.01
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.09	46.2	27.2	19.4	4.5	2.8	537	1.04
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.10	46.9	26.6	18.8	5.2	2.4	537	1.04
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.34	58.3	23.5	14.2	2.6	1.5	537	0.92
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.41	61.3	23.6	11.0	2.8	1.3	537	0.89

II. この授業の内容について									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.32	56.2	25.4	14.6	2.2	1.7	536	0.92
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.20	52.1	26.4	14.0	4.7	2.8	537	1.03
10	授業の内容は興味深いものだった	4.23	52.7	26.4	14.2	4.3	2.4	537	1.00
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.07	44.8	30.0	16.0	5.6	3.5	536	1.07
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.25	53.8	25.7	14.3	3.9	2.2	537	0.99
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.00	44.7	22.7	23.9	4.9	3.8	532	1.11

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.44	62.0	24.0	11.0	1.7	1.3	534	0.85
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	2.19	6.7	8.1	19.7	29.0	36.5	534	4.121
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.14	21.7	19.6	29.8	9.4	19.6	531	1.39
17	この授業を受けて、さらに学歴的に学びたいと思った	3.86	38.3	27.6	22.1	6.2	5.8	533	1.17
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.05	46.3	25.4	19.2	5.3	3.8	531	1.10

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.24	54.8	23.4	15.7	3.3	2.8	509	1.01



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

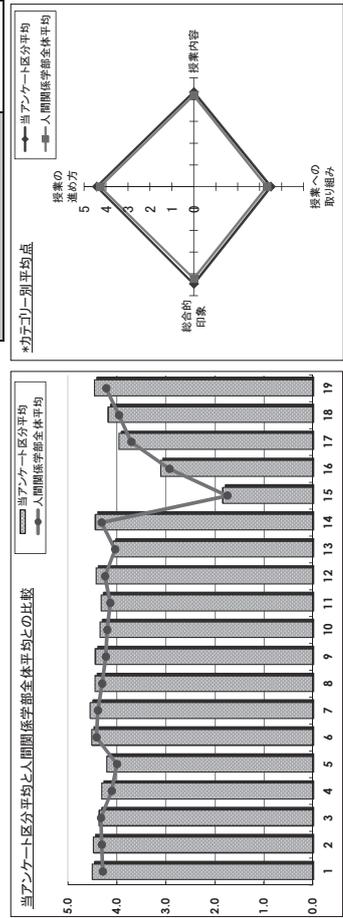
アンケート区分	55人 人間福祉学科人間福祉学専攻(専門科目)
履修者数	1,034
回答者数	823

No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.51	63.6	27.5	6.2	1.5	1.2	822	0.78
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.49	61.4	29.1	7.3	1.3	0.9	822	0.76
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.37	54.7	31.2	11.6	1.5	1.1	821	0.83
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.32	51.0	33.8	12.3	1.7	1.2	823	0.84
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.21	48.8	32.9	16.3	2.7	1.3	821	0.90
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.52	65.4	24.4	8.1	1.2	0.9	823	0.77
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.55	65.5	26.2	6.7	0.7	0.9	821	0.73

II. この授業の内容について									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.45	60.5	27.8	9.1	1.8	0.7	820	0.79
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.44	58.7	30.6	7.9	1.7	1.0	819	0.79
10	授業の内容は興味深いものだった	4.35	54.5	31.4	10.6	1.6	1.8	818	0.87
11	授業の内容はよく理解できるものがあった	4.33	52.4	33.4	9.9	3.4	1.0	821	0.86
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.43	59.3	28.4	9.1	2.4	0.7	820	0.81
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.08	43.3	30.0	20.6	3.2	2.8	812	1.01

III. この授業への取り組みとその成果について									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.45	65.2	20.8	8.4	4.6	1.0	821	0.90
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.85	4.3	6.2	9.9	29.5	50.1	818	5.110
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.12	22.0	20.7	24.8	11.8	20.6	805	1.42
17	この授業を受けて、さらに学歴的に学びたいと思った	3.97	40.3	28.4	22.7	4.6	3.9	818	1.08
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.19	48.4	29.5	16.7	2.9	2.5	816	0.98

IV. 総合的な印象									
No.	設問文	当カテゴリー平均点					有効回答	無効回答	標準偏差
		平均点	回答率(%)						
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.47	62.5	24.8	10.5	1.3	0.9	787	0.80



2016年度後期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分 56人間福祉学科介護福祉学専攻(専門科目)

履修者数	540
回答者数	432

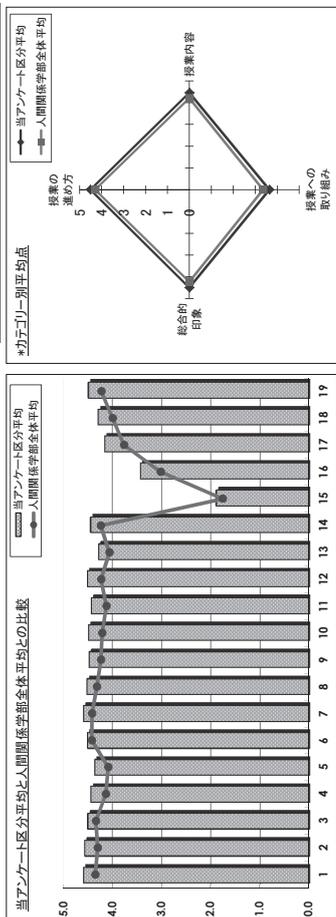
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	割合	
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.59	26.0	5.6	0.7	431	0.67
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.57	26.9	5.1	1.2	431	0.71
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.51	26.2	8.1	1.4	431	0.76
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.44	31.8	8.6	1.9	431	0.77
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.36	32.3	11.1	2.1	431	0.82
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.51	26.5	5.8	2.3	430	0.79
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.59	24.5	5.1	1.4	429	0.70

II. この授業の内容について							
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	割合	
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.52	24.1	9.0	1.4	431	0.76
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.47	26.7	7.9	2.8	431	0.79
10	授業の内容は興味深いものだった	4.49	25.5	9.0	1.6	431	0.78
11	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.43	28.1	10.9	1.2	429	0.80
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.51	25.8	7.7	1.6	429	0.80
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.28	28.4	16.0	1.6	430	0.90

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	割合				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.45	65.0	21.4	8.2	40.0	1.4	429	3	0.90
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.90	7.0	4.0	11.0	27.7	50.3	429	3	1.18
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.44	30.2	20.1	27.6	7.3	14.8	427	5	1.37
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	4.16	48.5	26.8	19.3	3.0	2.3	429	3	0.99
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.29	53.1	28.9	13.5	2.8	1.6	429	3	0.92

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	割合				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.49	64.4	23.2	10.4	1.2	0.7	413	19	0.79

01-019の当区分平均値	4.26
01-019の学部全体平均値	4.02
01-019の学部全体平均値±σ	3.27



2016年度前期 授業に関するアンケート集計結果(アンケート区分別)

大妻女子大学

アンケート区分 56人間福祉学科介護福祉学専攻(専門科目)

履修者数	653
回答者数	550

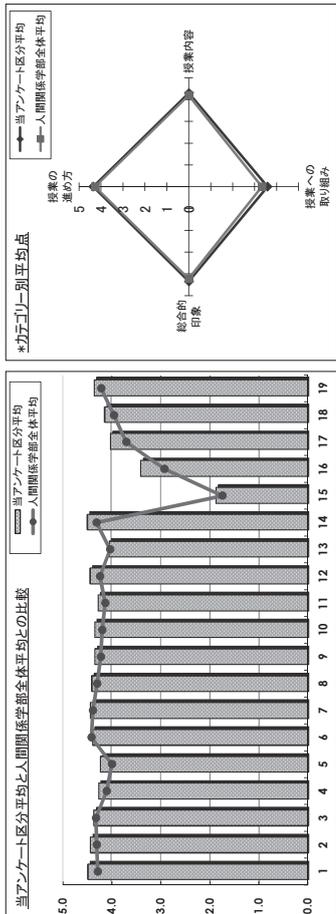
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	割合				
1	教員の話し方は明確で聞き取りやすかった	4.48	28.6	7.8	1.8	0.5	548	2	0.76	
2	教材資料提示(板書、プリント、パワーポイント・ビデオ等)は授業の理解に役立った	4.42	29.9	10.0	1.8	0.5	549	1	0.79	
3	私語等の授業を妨げる行為に対して教員は適切な措置をした ※授業が静かなので注意を受けなかった場合は、5をマーク	4.36	30.6	12.2	2.6	0.4	549	1	0.82	
4	授業は学生の理解度を考慮しながら進められた	4.26	48.9	33.6	13.0	3.8	0.7	548	2	0.88
5	質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した	4.22	47.5	32.4	15.7	3.7	0.7	547	3	0.89
6	教員の学生に対する接し方は公平だった	4.39	58.0	27.6	10.6	2.6	1.3	548	2	0.87
7	授業は教員の十分な準備と熱意をもって行われた	4.43	58.5	28.5	10.4	2.2	0.4	547	3	0.79

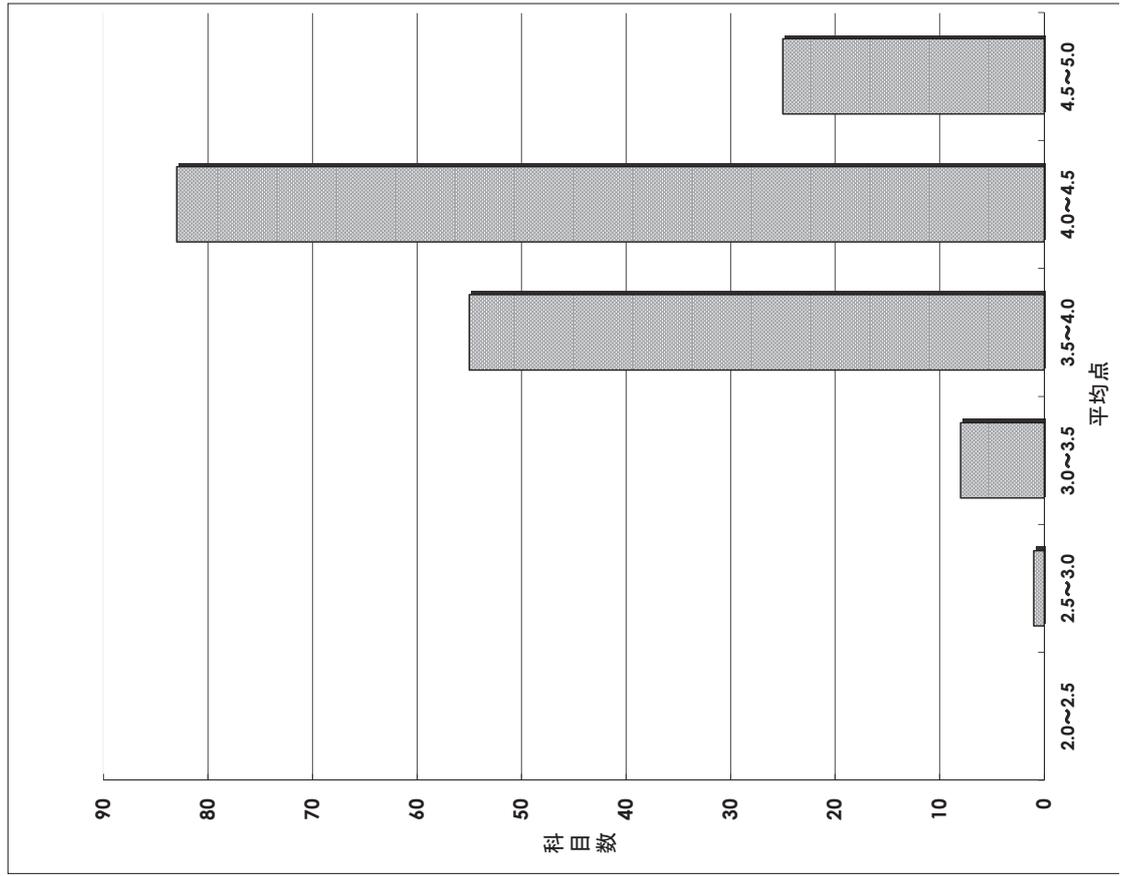
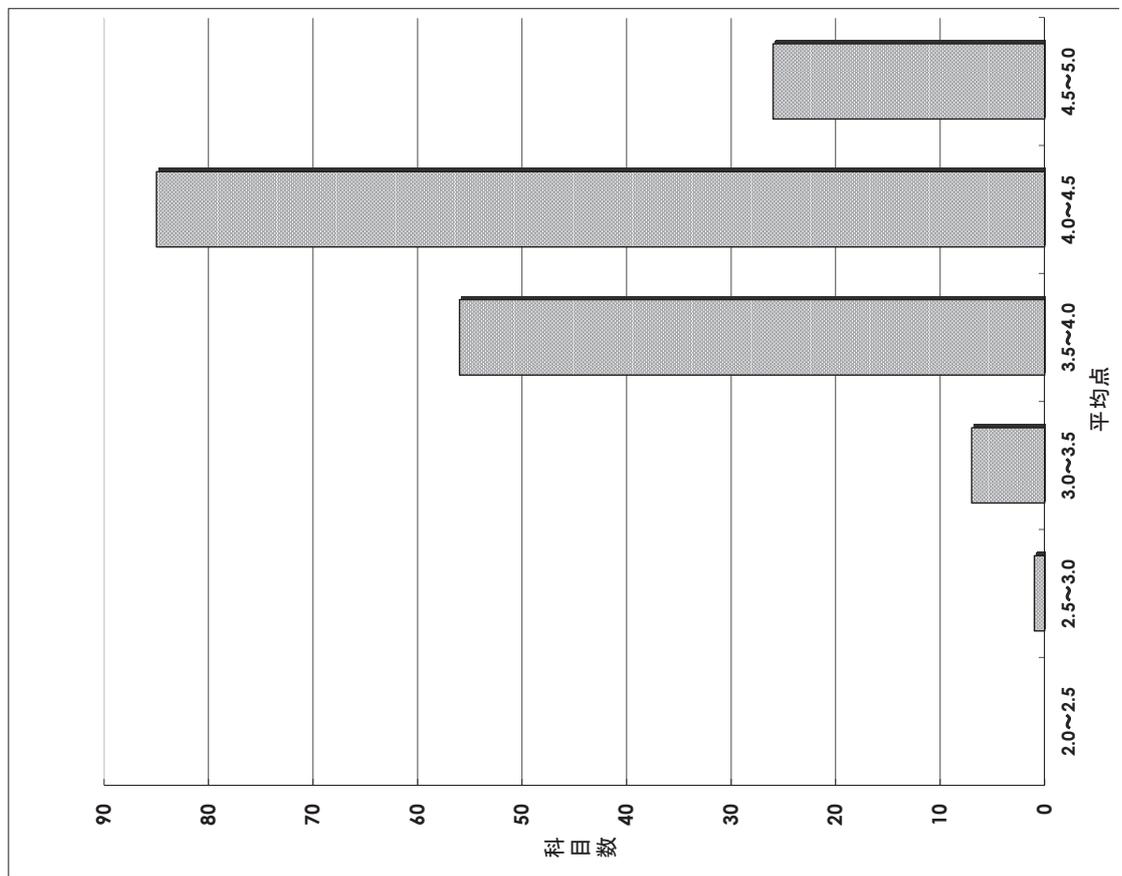
II. この授業の内容について										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	割合				
8	授業は、学習の目標がはっきり示された	4.40	54.9	33.6	8.9	1.8	0.7	548	2	0.79
9	授業の構成は体系的で把握しやすかった	4.34	54.0	30.1	12.4	2.4	1.1	548	2	0.86
10	授業の内容は興味深いものだった	4.34	54.4	30.3	11.7	2.7	0.9	548	2	0.86
11	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.27	49.9	33.1	12.4	3.5	1.1	547	3	0.89
12	授業は自分の将来にとって意味があると思う	4.43	59.0	28.7	9.5	2.0	0.7	547	3	0.80
13	授業内容(シラバス)は科目の選択や学習の参考になった	4.05	47.8	29.2	21.7	2.8	3.7	545	5	1.04

III. この授業への取り組みとその成果について										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	割合				
14	この授業にどの程度出席しましたか	4.49	67.5	20.4	7.5	3.1	1.5	544	6	0.88
15	この授業のために毎回予習・復習合わせたどの程度自習しましたか	1.88	4.2	6.4	10.8	30.1	48.4	545	5	1.10
16	授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した	3.41	28.5	24.1	24.1	10.9	13.3	540	10	1.34
17	この授業を受けて、さらに勉強したいと思った	4.02	40.8	32.0	19.2	4.8	3.3	547	3	1.04
18	この授業によって、新しいもの見方ができるようになった	4.14	43.7	34.3	16.2	3.7	2.0	542	8	0.95

IV. 総合的印象										
No.	設問文	当アンケート平均点					標準偏差			
		平均点	回答率(%)	有効回答	無効回答	割合				
19	総合的に見て、この授業を受けて良かったと思う	4.35	58.6	27.1	12.7	2.1	1.5	528	22	0.89

01-019の当区分平均値	4.14
01-019の学部全体平均値	4.00
01-019の学部全体平均値±σ	3.27





Ⅱ－２ 授業アンケートへの対応

Ⅱ－２－１ 前期授業アンケートへの教員の主な回答

前節の授業アンケートの計量分析を受けて、ここでは授業アンケートに対する教員の反応を紹介する。まずは、前期授業アンケートの対応から。

(1) 授業の改善点

① 予習・復習を促す工夫

受講学生の予習・復習時間が少ないという結果になったと回答している教員が多く、学生に予習・復習を促すような工夫についてさまざまな案が出されていた。

「『予習』や『自ら課題を出し学ぶ』という点については十分ではないことが分かりました。……教員側に取り組めることがないかどうか考え工夫もしてみたいと思います」(福祉専任)。

「『毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか』が低く、……課題提出を考えたい」(介護専任)。

「次年度以降、事前に課題を出し、家で調べてくる、あるいは何度か授業で学んだ用語などを復習させるための小テストを実施するなどの対策を考えていければと思います」(社会非常勤)。

「積極的に自習してもらうために、練習問題を増やして自主的な勉強を促そうと思っています」(心理常勤)。

他方、アンケートの結果には表れていないが、教員が課した予習・復習の課題を学生が行っていること、学生が自主的に行った班での準備作業などは確かにあったことをあげ、以下のような意見を書いた教員もいた。

「アンケート結果には表れていないが、独自に予習と復習を実践していたものと思われる」(社会非常勤)。

「得点が低かった項目は、『予習・復習』でした。本授業はグループワークの演習であるため、予習や復習という設問には点数を付けづらかったのではないかと思います。学生は授業以外の時間に集まり、企画を再考したり、プレゼンの用意をしたり、十分予習・復習は行っていたと思います」(福祉非常勤)。

「この授業では時間外の調べ物やグループでの検討、自主的な文献読みなどをしていたはずであるのに、この素点の低さは疑問である」(心理専任)。

② 学生の積極的参加を促す工夫

学生の質問や意見を引き出し、積極的な参加を促すさらなる工夫についてもコメントが寄せ

られた。

「来年度はマナバの積極的活用など、双方向の意思疎通を行うための工夫が必要と考える」
(福祉常勤)。

(2) 施設教室の設備や受講者数、教育条件などについての改善点の要望

① 空調などの環境

空調など、学生が授業を健康的に受けるうえでの設備についての要望がいくつか寄せられた。

「エアコンの温度については、学生さんからの要望が多いので、……教員が対応しないですむような管理体制にさせていただくと有難いです」(心理非常勤)。

「エアコンによる温度調整も時々難しくなります。つけると寒いし、消すと暑いというようなことがあります」(心理常勤)。

「テニスコートについては、日影が少ない問題があります。4月から7月にかけての授業ですから、熱中症対策の点からも検討すべきではないでしょうか」(全学共通科目非常勤)。

② 機器

機器についても、さまざまな要望が寄せられた。どれもよりよい授業を行いたいという動機に基づいたものであるようだ。

「学生側がコンピュータを使って授業が受けられる教室環境に整えていく必要があると思います」(心理常勤)。

「ディスカッションを行いたいのですが、机が固定されていて難しいです」(社会非常勤)。

「30人以下で視聴覚機器が装備されている教室の選択肢はありませんでしょうか」(社会非常勤)。

「可能であれば、貸出ノート PC の台数増加と、そのためのネットワーク環境の拡充を望みます」(心理非常勤)。

「プロジェクターで写した像が、後部座席でも明確に見えるようにしていただきたい」(全学共通科目非常勤)。

「PC からのスライド投影と黒板への板書とが同時に使える教室を割り当てていただけると有り難いです」(全学共通科目非常勤)。

「できればどの教室も同じような設備にさせていただけたらありがたい」(社会非常勤)。

(3) 学生に望むもの

① 積極的な参加を

学生への要望では、積極的な参加を求める意見が多く見られた。

「アクティブラーニングの手法を用いているクラスです。意欲的に協力し合う受講生が多ければ多いほど相乗効果が期待できます」(社会非常勤)。

「分からないことは、できるだけそのままにせず、質問をして欲しい」(心理常勤)。

「ぜひ本を読んでほしい」(社会非常勤)。

Ⅱ—2—2 後期授業アンケートへの教員の主な回答

(1) 授業の改善点

① manaba の活用

授業の改善点についてはおおむね前期と同様の傾向が見られるが、後期は manaba を積極活用する工夫についての言及も多く見られた。前年度の学部 FD 研修会もそのきっかけの一つとなったようである。また、manaba の活用がうまくいっているとの報告もあった。

「学生が自ら興味を持って予習・復習に取り組めるよう、manaba での情報提供など、FD 研修会などで学んだ新しい試みをしていきたい」(福祉常勤)。

「FD 研修会で他の教員の manaba を活用した工夫なども伺いましたので、来年度に向けて、学生自身が実感できる授業展開を考えていきたいと思っています」(福祉常勤)。

「manaba が活用できていなかったのも、きちんと勉強して次年度は課題の提出などに役立てたいと思います」(心理非常勤)。

「manaba を利用した質疑応答において、今年は数名受講生から質問が寄せられ、一定の効果を見せてきているのではないかと感じられた」(福祉常勤)。

② 意欲の高い学生への配慮

意欲の高い学生への配慮が必要であることも書かれていた。

「話をする学生は周囲に対して迷惑であると強く認識してほしい。次年度は、座席指定制を取り入れたい」(福祉非常勤)。

「勉強したいと頑張っている学生たちに報いる何かがないものかと思っています」(社会常勤)。

「今後は受講姿勢の良好な学生のケアが後回しにならないよう気を付けたいと思います」(全学共通科目非常勤)。

③ 理解度を把握しての授業

学生の理解度を把握しつつ授業を行う工夫についても触れられていた。

「今後は小テストを授業内に実施するような取り組みをいれ、学生たちの理解度を把握しながら授業を進めていきたい」(福祉非常勤)。

「次年度は一人ひとりあてて質問してもらおう時間を設けるなど、さらにきめ細やかな個別対

応を心がけたいと思います」(心理非常勤)。

(2) 施設教室の設備や受講者数、教育条件などについての改善点の要望

① 教室の大きさ

施設教室の設備や受講者数、教育条件などについての改善点の要望についても、前期と同様の傾向が見られるが、それ以外に、受講学生の人数に対して教室の大きさが適切であることを要望する意見が出されていた。

「100名以下の授業を大教室で行うのは授業が散漫になりやすいので、適切な大きさの教室を割り当てて欲しい」(社会常勤)。

「人数に対する教室の狭さが災いし、体調不良を訴える学生が何名か見られたため、急ぎよ大きな教室に移ったという経緯があった。120名を超えていたため、はじめから1階の大教室を使用できると大変ありがたいです」(心理常勤)。

(3) 学生に望むもの

① 自主的な学習を

学生への要望では、前期の部分で書かれているもの以外に、授業外での自発的な学習を望む意見が見られた。

「予習・復習を行って欲しい」(社会常勤)。

「本を読み、自分自身で物事を批判的に考え、意見を提示して欲しい」(社会非常勤)。

Ⅲ 学科・専攻における平成28年度FD活動への取り組み

1. 人間関係学科

(1) 社会学専攻におけるFD活動に関する取り組み

1) 社会学専攻全体としての取り組み

i 社会学専攻としてはおよそ隔週のペースで専攻会議を開催している。会議の内容で大きな比重を占めているものの一つが問題を抱えた学生たちへの対応であろう。そうした学生たちについての対応の方法を検討している。

ii 重度の視覚障害をもつ学生が本年度は4年生になった。彼女が支障なく学生生活を送ることができるように、障害学生支援室や障害学生支援員会と連携をとりながら、さまざまな問題を解決していった。

iii 専任教員の休職にともない、代行する非常勤講師の手配などにあたった。当該教員の演習系の授業を受講する予定であった学生には教務委員から説明を行い、代行の非常勤がつつがなく授業ができるよう配慮した。

vi 5月末の非常勤講師懇談会においては非常勤の先生方のご意見をいただき、専攻として取り組むべき改善作業の参考にした。毎年参加してくださる非常勤の先生もおられ、有意義な会となっている。

v 社会学専攻では、基礎セミナーの平準化が他専攻に比べて遅れているとの認識を抱き、平成25年度から「基礎セミナーⅠ」に限って平準化を行うことにした。共通のテキストを指定して、レジュメの作り方、図書館の利用法、テキストの輪読、グループワークの実施など、担当教員が行う授業内容を取り決めた。採点基準については、「基礎セミナーⅠ」、「基礎セミナーⅡ」とも、Sは1割以内、AとSの合計は5割を超えないという評価の分布の基準を設けるとともに、授業での報告を中心とした平常点と期末レポートの比重をそれぞれ50%とし、その合算によって成績評価を決めるということが確認された。この方針は平成29年度においても継続される。また、「基礎セミナーⅠ」のテキストは2年ごとに検討することとしている。検討の年にあたったため、専攻会議にて新しいテキストについて検討した。

vi 社会学専攻では2年次の「社会調査及び演習Ⅰ・Ⅱ」の授業の一環として学生による報告会を毎年12月上旬に開催している。主たる目的は学生の発表であるが、この会には社会学の教員も原則全員参加しており、そのため他の教員が演習という授業をどのように行っているのかが分かり、次年度からの授業運営の参考になるという意味で、教員のFDにとっても有意義な会となっている。

vii 平成30年度の社会学の専門科目のカリキュラムの改訂についても検討を行った。

2) 教員個々の取り組み

大出春江

学部FD研修会における昨年度の報告を踏まえ、今年度も報告することを依頼されたので、manaba第2弾として「manabaの活用をよりスムーズに行うための提案—うまくいかない事例を通して考える」と題して報告をおこなった。

2015年度は manaba がいかに情報の一元管理という点ですぐれ授業運営の点で活用できるかという点について述べた。具体的には、コースニュースによる授業に関連する連絡、オンライン・レポートまたはファイルによるレポート提出の管理、さらには卒論提出までの原稿の随時提出がファイル管理としても利用できることなどである。

これに対し、2016年度は web 上だけの連絡ではすべての履修生が確認するわけではないという学生側の変化を中心に話題提供をおこなった。具体的には LINE 中心に通信をおこなう学生のなかにはメール確認を怠るものが少なくなく、必要な情報は友人経由で LINE で知るという行動がみられるようになったという現状である。

この話題提供後、FD 研修分科会では大学側の現行システムをかつての学生掲示板の機能に代わるだけの機能をもたせることが必要だということが話し合われた。具体的には、Campus Avenue と manaba とを合体させた web システムであれば、学生にとっては一日、最低一回は確認することが習慣化するのではないだろうか。

これが実現すれば、就活で忙しかったり、卒論の執筆等で大学に来なくなる4年次生にとっては、より一層意味があると思われる。

小谷敏

- ・本年度も社会学合同ゼミナールに参加し、他大学の先生方の指導法から多くを学んだ。
- ・講義科目の授業においては、毎回リアクションペーパーを書かせ、それを次の授業中に読み上げることを続けている。ある学生の発言に他の学生が反論をして、「リアクションペーパーバトル」とも呼ぶべき論争が起きるなど、さまざまな知見と教訓が得られた。

干川剛史

- ・講義形式の数十名以上の授業において、学生の私語を防いで静粛を保つために、同じクラスの学籍番号の近い学生同士が隣り合わないよう工夫して作成した着席表を用いて学生を着席させている。
- ・講義において、PC、パワーポイント、プロジェクターやインターネット、DVDなどの視聴覚機器を毎回用いて、また、授業内容に関連した新聞記事をプリントして配付し、できる限り具体的な事例を紹介しながら、学習内容を学生が理解しやすいようにしている。
- ・講義で、毎回、コメントペーパーを学生に配付して記入させ、それを回収し・読むことで、各学生の授業の理解度を把握し、出席状況を確認している。また、回答すべき質問・意見がコメントペーパーに記入されている場合は、次回の講義の冒頭で、それに回答している。必要があれば、その質問・意見に関連した資料をプリントして配付したり、プロジェクターで提示したりして、わかりやすく説明している。

齊藤豊

社会学セミナーI/IIにおいて、日本証券業協会の株式学習ゲームを実施し、経営の基礎についてのアクティブラーニングを実施しました。

3人1組のグループを4つ作成し、それぞれが上限1千万円を資金にし、株式の売買を行い、

利益を競いました。

この株式ゲームを通じて、企業経営戦略についての講習を行い、それを基礎にし、各チームが銘柄を選びました。

株式学習ゲームの詳細については以下 URL を参照方

<http://www.jsda.or.jp/manabu/curriculum/game.html>

伊藤美登里

① 文章の書き方や論文の書き方の指導の工夫

社会学セミナー I においては、(英語圏の大学に留学した者を対象としたアカデミック・ライティングの) 英語のテキストを用いて、そのテキストの文章は日本語に翻訳したうえで、アイデアの出し方とまとめ方、一つの段落の書き方、エッセイの書き方などについて指導し、実際に文章を書いてもらいそれを添削して返却するという指導を行った。

社会学セミナー II では、社会学セミナー I の内容を発展させ、学術論文の書き方について、実際に一つの学術論文を精読し、内容を分解して、論文というものがどのような構造で書かれているのかを指導した。その中で、学生各自の卒論がどのような章構成になりうるかを個別に指導していった。

② manaba の活用

manaba については前年度の学部 FD 研修会での内容を参考に、セミナー系の授業でデータ共有のために manaba を活用した。manaba 活用についてはまだ初心者段階であるので、他の先生方の活用方法を参考にしながらさらなる活用方法について考えてゆきたい。

久保田滋

今年度は「基礎セミナー」や「社会調査及び演習」といった演習系の授業において、学生によるフルグループワークに manaba を用いつつ、授業時間内外での学生同士のコミュニケーションを促すことを試みた。たとえ授業を 1、2 回欠席したとしても、キャッチアップすることができるという効果を望んだが、そのような学生の一部が、オンラインでのコミュニケーションも断絶してしまい、出席も途絶えてしまうということが実際に起きてしまった。来年度はこのような、グループワークの実施に関して、近年の学生の特性を考慮に入れつつ、manaba 等の利用を検討していく予定である。

牧野智和

調査演習を用いたレポート執筆のワーク

1 年の基礎セミナーなどでもレポートの書き方が扱われることがあるが、それが身に付ききらないままに卒業論文の執筆を迎える学生も少なくない。それが身につかないのは、扱うレポートのテーマと内容が、個々人の関心や生活に深く結びついていないところにあると考え、今年度は 2 年の調査演習において、1 年間かけて学生自らが企画・立案・実行した調査の報告書において、章・節・項の構成などを厳格に指定して執筆を行わせた。また報告書原稿を一度提出させ、全員に赤入れをするかたちでレポートの形式に沿わせ、また考察の質を高める指導を行った。こうした指導が実を結ぶかどうかは、次年度以降の卒論ゼミで確かめたい。

(2) 社会・臨床心理学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

教員個々の特筆すべきFD上の取り組みを“Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会”、“Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト”、“Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み”に分けて記述し、その成果を報告する。

香月菜々子

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

1) 7月 甲南心理臨床学会第19回大会

甲南大学大学院の修了生を含む臨床心理士30名を対象に、臨床現場での描画法の活用と描画を用いた心理アセスメントについて、体験形式に基づく参加型の研修を行った。心理士との意見交換を通じて、現場で求められている心理士としての技能を、大学および大学院等の教育機関にて培うにはどのような工夫が必要なのか、改めて見つめなおす機会となった。

2) 5月・7月・10月 ロータス(分析心理学)研究会

臨床心理士による面接事例の検討を行う研究会に参加し、夢をはじめとするイメージを用いた心理療法の実際を学び、その教育の在り方について示唆を得た。

3) 9月 絵とことば研究会

2013年より現役臨床心理士を中心に発足した研究会を主体として、心理臨床家を主たる対象とした講演会の共同企画を継続している。今年は臨床心理士80名を対象に、公開事例検討会を行い、臨床現場における描画の活用とそのための教育の在り方をめぐり活発な議論が交わされた。また、これまでの研究会での活動の振り返りを兼ねて、現在、書籍出版の準備中である。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

一般高校生・大学生を対象としたメンタルヘルスに関する教科書・テキストを作成中

Ⅲ．教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、臨床心理士のキャリア研究を行うことで、学部・大学院での学びの効果とその後の職業選択の在り方について、インタビュー研究を継続して担当。来年度学会発表に向けて準備中である(研究代表：古田雅明准教授)。

田中 優

Ⅰ．企画あるいは参加した教育関連の研修会

1) 全学FD研修会に参加

12月5日(月)全学FD研修会「3つのポリシーの一貫性構築手法とカリキュラムマップ」に参加した。

2) その他、学部・大学主催の研修会にはほぼ毎回出席した。

Ⅱ．授業で活用するために作成した教材・テキスト

1) すべての授業において、授業内容を視覚的に説明するパワーポイントを作成している。

2) すべての授業において、毎回の授業内容に則したプリントを作成している。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 2月に、卒業予定の4年生、3年生、および、次年度のゼミ生となる2年生の3学年合同で、3年生の卒論計画発表会を軸としたゼミ合宿を行っている。各学年の参加については、4年生は、2年間のゼミ活動から得た自身の学びを振り返り、ゼミ生同士の関係を強め、また、自身の卒論、ゼミでの活動、就活について、下級生に体験を伝えている。3年生は、卒論計画発表会を実施することで3年次のゼミ活動を中心とした卒論をより具体的に進めることができる。また、3月からの就活開始にそなえて、ある程度の計画をまとめることで、就活と卒論の両立が見込める。2年生は、3、4年生を良きモデルとして、新年度のゼミ活動、卒論、就活に対するイメージを掴むことができている。
- 2) 講義科目においては、manaba等で、学生の意見をできるだけ吸い上げ、授業の中でフィードバックし、それを元に討議する形を取り、学生の考える時間と双方向のコミュニケーションを多くする努力をした。

西河正行

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

日本心理臨床学会第35回秋季大会（2016年9月4日から7日）、および、日本精神分析学会第62回大会（2016年11月4日から6日）に参加した。これらの学会に参加し、心理臨床の新しい動向について知ることができた。大学院「臨床心理学特論」、「臨床心理査定演習A」、「コミュニティ・アプローチ特論演習」、学部「グループワークA、B」の参考となった。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

とくになし。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

<論文>

- 1) 西河正行（2016）. 正課外教育における大学生の精神的不適応に対する予防グループの試み 大妻女子大学人間生活文化研究 26, 314-343.

なお、『キャリア心理学セミナー』に関する授業研究に基づき、これまでの成果を大妻女子大学人間生活文化研究に年度内に報告の予定である。

福島哲夫

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- 1) 全学FD研修会に参加

12月5日（月）全学FD研修会「3つのポリシーの一貫性構築手法とカリキュラムマップ」

- 2) 学部FD研修会・12月9日（金）学部FD研修会「授業をより良くするためのTips」にFD委員として企画、また参加した。

その他、学部・大学主催の研修会にはほぼ毎回出席した。

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 学部ゼミおよび専門科目「社会・臨床心理学研究法」、さらに卒論において役立つ『臨床

現場で役立つ質的研究法』(新曜社)を、編著者として企画・執筆・編集し出版した。

2) 学部ゼミおよび卒論指導に役立つカウンセリング実技ビデオを収録・編集した。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

1) 3年次ゼミにおいて、学生の意欲を促進するために、春休みの課題として、文献紹介とその購読を課したり、4月から連続試験をして、その優秀者を表彰したりした。

2) 専門科目「社会・臨床心理学研究法」において、学生たちの興味と勉学を促進するために、英語の最新論文を紹介したり、解説して、実際の研究にもつなげた。

古田雅明

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

1) 4月から隔月で年6回 大学院修了生や臨床心理士の研修会である多摩精神分析セミナー・アセスメントコースの講師を務め、心理アセスメントの講義を行った。

2) 4月から毎月1回 大学院修了生や臨床心理士の研修会であるフロイト古典抄読会において、精神科医師と共に講師を務めた。

3) 11月11日 日本臨床心理士養成大学院協議会第16回年次大会に参加し、指定大学院における臨床心理実習に関する研修会に参加した。

4) 12月4日 公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会主催の「心の健康・文化フォーラム」に参加し、熊本の震災に対する臨床心理士の支援の実績等について研修を受けた。

Ⅱ. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

福島哲夫編 『臨床現場で役立つ質的研究法 —臨床心理学の卒論・修論から投稿論文まで』新曜社において、KJ法の臨床応用の章を執筆した。学部の卒業論文や大学院の修士論文研究などで活用された。

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

人間生活文化研究所の共同研究プロジェクトの研究助成を受け、「生理指標と自己評定及び事後インタビューを用いた心理療法の即時的効果と持続的効果の測定」について研究を行った(研究代表：福島哲夫教授)。

堀 洋元

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

1) 2016/7/3 参加

FLIT (東京大学大学院情報学環・反転学習社会連携講座)

第5回 公開研究会「学生の学びは変わるか?反転学習のここまで、ここから」

2) 2016/12/5 参加

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント研修会

「3つのポリシーの一貫性構築手法とカリキュラムマップ」

3) 2016/12/9 参加 (分科会での話題提供)

人間関係学部 FD 研修会「授業をよくするための Tips」

「1時間を削り出せ～授業時間外の学習時間を作り出す工夫～」

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

「社会心理学概論」では、紙媒体によるふりかえりテストと manaba による授業の要約を含む事後学修教材を独自に作成した。

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 「社会心理学概論」では、初学者向けに講義と事後学修を中心とした授業を進めた。
- 2) 「社会心理学実験研究法」では、学生がより主体的に取り組み、繰り返し活用できるように manaba での事前学習を行う反転学習を試みた。
- 3) 「キャリア心理学セミナー」「社会心理学実験研究法」では、チームティーチングによる授業のため、コース別担当教員と連携を取りながら進化した。

本田周二

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- 1) 大学教育学会第 38 回大会「伸びる大学の教育力ー成果を出せる大学にはどのような教育力が必要なのか」
日時：2016 年 6 月 12 日（日）
場所：立命館大学 大阪いばらきキャンパス
- 2) FLIT 第 5 回公開研究会「学生の学びは変わるか？反転学習のここまで、これから」
日時：2016 年 7 月 3 日（日）
場所：東京大学 本郷キャンパス
- 3) 日本教育工学会第 32 回大会
日時：2016 年 9 月 17 日（土）
場所：大阪大学豊中キャンパス
- 4) 日本キャリア教育学会近畿・中国四国研究地区部会
日時：2016 年 11 月 12 日（土）
場所：大阪大学豊中キャンパス
- 5) 2016 年度課題研究集会「学生はいかに学んでいるのか」
日時：2016 年 12 月 3 日（土）
場所：千葉大学西千葉キャンパス
- 6) 全学 FD 研修会「3つのポリシーの一貫性構築手法とカリキュラムマップ」
日時：2016 年 12 月 5 日（月）
場所：大妻女子大学 多摩校 人間関係学部棟
- 7) 学部 FD 研修会「授業をより良くするための Tips（第 2 弾）」
日時：2016 年 12 月 9 日（金）
場所：大妻女子大学 多摩校 人間関係学部棟
- 8) 第 22 回 FD フォーラム「大学の教育力を発信する」
日時：2017 年 3 月 5 日（日）
場所：教養教育共同化施設「稲盛記念館」（京都府立大学）
- 9) 第 23 回大学教育研究フォーラム

日時：2017年3月20日（月）

場所：京都大学吉田キャンパス

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) 「社会・臨床心理学研究法」：心理学研究法資料の作成
- 2) 「社会心理学実験研究法」：予習理解度小テスト・回答の作成
- 3) 「基礎統計学Ⅱ」：自主学習課題の作成
- 4) 「キャリア心理学セミナー」：高校での出張授業実施要項および資料の作成

III. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 毎回、授業実施後に reas および manaba において学生に授業についてのコメントを書かせ、次回の授業で教員からフィードバックすることで授業内容の理解および授業改善に役立てた。
- 2) 講義形式の授業において、自身で考えた後に他者と意見を共有させるアクティブラーニングを導入することで、学生の深い学びへとつなげた。
- 3) 3年ゼミにおいて、一人の発表に対して必ずすべての学生にコメントをさせることで、発表内容に対する聞く姿勢や自身の意見を述べることのトレーニングを積ませた。
- 4) 4年ゼミにおいて、全体ゼミとは別に個別ゼミを定期的実施することで、一人一人の進度に合わせた指導を行った。

八城 薫

I. 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- 1) 関西大学教育開発支援センター 反転授業公開研究会（FLIT 共催）
第5回公開研究会「学生の学びは変わるか？反転学習のここまで、これから」
日時：2016年7月3日（日）13:30～17:00
場所：東京大学本郷キャンパス 情報学環・福武ホール地下2階
- 2) 全学FD研修会「3つのポリシーの一貫性構築手法とカリキュラムマップ」
日時：2016年12月5日16:30～18:30
場所：多摩校 人間関係学部棟1階7114教室
- 3) 学部FD研修会「授業をより良くするための Tips」第2分科会「授業に必要な著作権の知識」
日時：2016年12月9日（金）17:00～19:00
場所：人間関係学部棟1階7114教室，第2分科会7385室
- 4) 公益財団法人 大学コンソーシアム京都主催
第22回FDフォーラム「大学の教育力を発信する」
日時：2017年3月4日（土）13:00～17:00 シンポジウム
2017年3月5日（日）10:00～15:30 分科会
場所：1日目（3月4日）京都コンサートホール 大ホール
2日目（3月5日）教養教育共同化施設「稲盛記念会館」（京都府立大学下鴨キャンパス内）

II. 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- 1) サイエンス社「質問紙調査と心理測定尺度」(第 10 章「卒業論文・レポートの書き方」) 増版見直し
- 2) 新曜社「臨床現場で役立つ質的研究法」(第 6 章「PC ソフトを活用した質的臨床研究法①—KH coder を利用した計量テキスト分析の実践」) を分担執筆
- 3) 社会心理学調査研究法一連の資料の改訂
- 4) キャリア心理学セミナー OG インタビュー調査実施要項および資料の作成
- 5) 基礎統計学(推測統計) エクセル版練習問題ファイルを作成

Ⅲ. 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 1) 論文「新入生オリエンテーションから始まるキャンパスライフと専門的学び—教育効果尺度の作成—」(大妻女子大学人間関係学研究 第 18 号) の調査, 分析, 執筆を担当
- 2) 「基礎統計学 I」プレースメントアンケートの作成と実施
「基礎統計学 I・II」「社会心理学調査研究法」「キャリア心理学セミナー」はチームティーチングのため、授業前後に授業会議を実施して進行状況や内容を確認しながら行われました。
- 3) 授業評価アンケートの実施

2 人間福祉学科

人間福祉学科では両専攻において社会福祉士国家試験受験資格の取得が可能であり、さらに人間福祉学専攻ではこれに加えて精神保健福祉士国家試験受験も取得可能で、介護福祉学専攻では全員に卒業と同時に介護福祉士資格が授与（ただし、現3年生以降は介護福祉士国家試験受験資格の取得）されるカリキュラム編成となっている。

近年では福祉現場以外に卒業後の進路を求める者の割合が増加する傾向にあるが、そのような者も含めて、学科のカリキュラム・ポリシーである「様々な課題を持っている人も『共生』できる社会」の実現を目指して、それぞれの持ち場で努力していける人材の育成を目指している。

1) 福祉実習発表会・福祉実習教育懇談会 【福祉実習委員長 藏野 ともみ】

平成28年度の福祉実習発表会(人間関係学会福祉分科会)および福祉実習教育懇談会を平成28年12月2日に開催した。

実習指導者及び在校生、教員が一同に会し、社会福祉、介護福祉の実践現場での実習について考える機会となっている。実習を行った学生だけでなく、1年生や2年生は自分のキャリアや具体的な実習選択について考えることを目的としている。また、実習指導者と教員も自らの実践や教育について考えるだけでなく、より良い実習教育のあり方について意見交換を行う貴重な時間ともなっている。

当日の前半では、今年度春から秋にかけて行った介護福祉士実習、社会福祉士実習、精神保健福祉士実習の代表学生9名が、スライドを使って実習での学びについて発表を行った。

実習前に学習し、実習中に懸命に取り組み、実習後に振り返りと再学習を行うことで自ら考えたことや、うまくいかなかったことを客観的に考察する過程の中で確認できたことなど、多様な視点と利用者との出会いから学んだことを自分の言葉で発表する機会となった。



〈実習発表会の様子〉



〈企画・運営を行った学生代表からの挨拶〉

後半の部では、学生は卒業生の講話を聴く会へと移行し、実習指導者と教員は会場を変えて、福祉実習教育懇談会を行った。卒業生講話では、福祉・介護・医療の現場や一般企業で働く卒業生5名を招き、自らの仕事についてだけでなく、大学における福祉の学びがそれぞれの生き方や働き方にどの様に活かされているのかについて話しを聴くことができた。

一方、福祉実習教育懇談会では、社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士の各分科会に分かれ、実習指導者との意見交換を行った。社会の現状の中で、各実践現場には多様な社会的ニーズに応えることが求められており、実習においても多様な専門的知識や技術だけでなく、社会人として振る舞いや対応が必要とされることが多い。それらの共有と学生ひとり一人に沿った実習教育のあり方の工夫などについてアイデアを出し合い、考える貴重な会であると実感している。今後も実習指導者と緊密な連携を保ちながら、さらに充実した実習の実現を目指したいと考える。



〈卒業生講話〉

2) 国家試験対応及び受験対策講座 【国家試験対応委員 藏野 ともみ】

本学科では、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の養成を行っており、3つの国家試験に向けて、年間を通して1年生から4年生まで段階的な受験対応を行っている。

受験対策としては、①模擬試験、②対策講座、③国家試験対策科目の設置、④個別学習指導及びグループ指導という4つがある。

また、受験手続きの支援として、4年生に対し受験説明会の開催や事務と連携して書類を作成するだけでなく、受験までの学習の進め方や前日や当日の心構え等について話しをする機会を設けている。

今年度の受験対策の実施内容について以下の通り報告する。

①模擬試験の実施

社会福祉士模擬試験については、1年生は年2回、2年生から4年生に対しては年4回の模擬試験を実施している。模擬試験では、特に受験後の学習を重視しており、各学年に応じた勉強方法と課題を提示し、提出された課題については、クラス担任やゼミ担当教員で分担し、学生個別の学習進捗状況に応じたコメントを付けて1ヶ月以内を目処に返却した。

精神保健福祉士模擬試験については、精神保健福祉士履修課程受講者3～4年生を対象として、年間3回の模擬試験を実施している。社会福祉士同様に学年別及び学生個別の学習進捗状況に応じた課題を提示し、個別指導を行った。

介護福祉士については、現3年生から卒業時には国家試験化となるため、1年生から4年生を対象に年間2回の模擬試験を実施した。



模擬試験の様子



教員や卒業生からのアドバイス

②対策講座の実施

社会福祉士については、4年生を対象に本学科専任教員による社会福祉士主要科目の「受験対策講座」を授業外に実施している。後期の総仕上げの時期に、その学年の模擬試験の結果を分析し、正答率の低い科目、点数が伸びると考えられる科目を選定し、7科目に絞り実施した。本対策講座は学生の自主的な申し込みによるものであり、今年度は4年生の全受験者のうち80%が受講した。

③国家試験対策科目の設置

学科の正規授業の中に、前期・後期ともに2科目ずつ社会福祉士国家試験対策科目を設置している。来年度からは、介護福祉士国家試験対策科目を設置することになっている。

④個別学習指導及びグループ学習支援

ゼミを主母体として各教員による個別指導とグループ学習支援を実施した。また、精神保健福祉士コースや介護福祉学専攻では、それぞれのコースや専攻単位で受験対策を行った。

さらに、学期中はもちろん、夏、冬、春の長期休暇中にも自習室を確保し、学生が各自の勉強スケジュールに合わせて学習できる環境を整えた。また、年末年始も含め、夜遅くまで勉強する学生を学科教職員だけでなく、事務や図書館の職員、守衛室の皆様等にもご理解とご協力を賜り、温かい励ましの言葉等もかけて頂いた。



グループ学習の様子

3) 複数教員で担当している科目における教員間の連携

社会福祉士をはじめとする国家試験受験資格取得のための教育課程においては、将来福祉現

場に就職した際に直面する多様な問題への対応能力を養うため、下記のような1クラス20人以下の少人数で編成される講座を多く開講している。これらの科目の授業担当者を構成していくためには専任教員だけでは人数が足りず、必然的に非常勤講師の力に頼ることになるが、その場合にも各講座の教育目標やシラバスの内容、あるいは成績評価の方法等の基本的事項について、全員が共通認識を持って臨む必要がある。そこで、学期の開始前に打ち合わせの会を設定したり、前期の授業担当者会議の機会を利用して意見交換を行う等、科目担当者間の連携を緊密にするための努力を日頃から心がけている。

①相談援助実習指導、実習事前・事後指導【嶋貫 真人】

社会福祉士受験資格取得課程を希望した学生にとって、同課程向けに開講されている多くの科目の中でも特に重要な位置を占めるのが、原則として3年次に履修する「相談援助現場実習」である。

学生にとって、児童福祉施設・高齢者福祉施設等の各福祉現場の業務について具体的なイメージを描くことは難しいため、2年前期の「相談援助実習指導Ⅰ」の授業では、障害者福祉・児童福祉・高齢者福祉等の各福祉現場で実際に相談援助業務にあたっておられる職員の方をゲストスピーカーとしてお招きして、“悩み”や“戸惑い”といった本音も交えながら、実践者の生の声を聞いてもらう時間をもうけている。また、2年生の夏休みを利用して福祉現場でのボランティア活動体験を受講者全員にノルマとして課しており、サービス利用者とのコミュニケーションをとることの楽しさ・難しさを、この機会に知ってもらうことを目指している。そして、このようなプロセスを経て、それまで漠然としたイメージとして描いていた「福祉援助」というものが、徐々に現実的で具体的な形で理解できるようになり、同時に卒業後の進路と結びつけて考え始めるようになるのである。

2年後期の「相談援助実習指導Ⅱ」では、1クラス20以下の小人数で編成された授業の中で、現場実習において要求される実践的な能力(職場のルールに従うこと、ケース記録の書き方等)を学ぶことになる。この科目は複数のクラスが同時に進行する形式をとるため、各クラスでの教授内容や学生に対する要求水準、成績評価の方法等にバラつきが生じないよう、担当教員同士が常に綿密な協議を重ねながら授業を進めていくようにしている。

3年次の「相談援助現場実習」に向けた「事前・事後指導」の履修課程は、夏休みに実習を行なう学生と春休みに行なう学生とで、カリキュラムの進行のタイミングが異なってくるが、いずれのグループにおいても20名以内の少人数制クラスで実習前の「事前指導」、および実習終了後の「事後指導」を行なうことになる。「事前・事後指導」のいくつかのクラスを非常勤講師に依頼しているため、授業担当者間で指導内容の統一性を維持していくことが難しくなりつつあるが、そのようなマイナス面は実習担当助教による非常勤講師との緊密な連携や、毎月開催される「実習委員会」の場で補うようにしている。なお、実習中の巡回指導をお願いしている2名の非常勤講師との間でも、授業担当者懇談会や日常のメールでのやり取りを通じて十分な意思疎通を心がけており、非常勤講師を含む教員全員が学生指導に関する情報を共有することができるようになっている。

②相談援助演習【井上 修一】

実践能力の高い社会福祉士になるためには、知識の習得を基礎にして、実習や演習科目のな

かで、さまざまな技術を身につけていく演習が不可欠となる。

本学においても、社養協のガイドラインや厚生労働省のシラバスに沿った内容を踏まえ、よりきめ細かい対応ができるように努めている。そのため、相談援助演習をⅠ～Ⅴに分け、それぞれ段階的に、また共通シラバスをもとに授業を行っている。ちなみに相談援助演習Ⅰ・Ⅱはミクロ、Ⅲはメゾ、Ⅳはマクロ、Ⅴは統合的な位置づけとなっている。

また、実習と演習の連動性を意識し、演習での体験が実習で活きるようにと意識され、経験の厚みを増すことにつながっている。各演習を取りまとめるのは常勤の教員であり、非常勤講師との情報共有が丁寧になされるだけでなく、それぞれ工夫された教材を持ち寄り、学生にとってわかりやすい授業展開を試みている。

③社会福祉学基礎セミナーⅠ【丹野 眞紀子】

本科目は、入学直後の1年前期に開講されている。入学して間もない新入生に、専門科目の授業とは違った視点から多様な福祉実践のあり様を学び、大学での学習に求められる言語表現、文章作成能力、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の基礎を身につけることを目的としている。「社会福祉学基礎セミナーⅠ」は7名ずつの教員が担当し、1クラス20人以下の少人数制をとっていることから、学生が個性を発揮しやすい。

内容は、おおむね3つに大別することができる。まず担当教員がそれぞれの専門領域の現場について概説する。次に、車椅子や白杖などを用いた要支援者の体験をし、最後は学生自身が選択した施設に見学に行き、現場の様子をクラス内で発表する、というものである。1年次の前半で、福祉実践の多様性を知り、レポート作成やプレゼンテーションの基礎を学び、文章作成のルールや文献の活用、文章構成など基本的な部分を身に付けられるようにプログラムを構成している。そのため、上記3つのテーマそれぞれに対して「仮説」「検証」「結果」「考察」という点でコメントやレポートを書かせ、回を追うごとに文献活用や考察視点を深めていけるよう工夫した。

進め方においては、複数教員による授業運営のため、教員間の情報共有が重要である。授業期間開始前、期間中も複数回、また最終評価時にも担当者が打ち合わせの場をもち、クラス間で大きな差が出ないように配慮した。その他、学生が意欲的に授業に臨めるよう、学生が提出したものについては、担当教員がコメントを寄せて学生に返却するよう試みた。

施設見学やプレゼンテーションは、入学後間もない1年生にとって負担もあったようだが、達成感も見受けられた。少人数制の授業ということで学生間や教員との相互のコミュニケーションが図れ、入学当初以上に福祉のイメージが広がったり、大学生活全体への不安が軽減したり、その後の生活に希望を見出す機会にもなっていると思われる。

④社会福祉学基礎セミナーⅡ【嶋貫 真人】

前期の「セミナーⅠ」で大学での学びに必要な基礎的素養を身に付けたことをふまえ、本授業ではさらにそれを2年次以降の専門科目の学習へと発展させていくための橋渡しの役割を担っている。具体的には、「読む・聴く・書く・話す・考えるの基礎訓練」という共通テーマを掲げて、13～15名程度の少人数クラス(7つ)に分かれ、それぞれの担当教員が作成したシラバスに沿った授業を提供している。上記の共通テーマは、多分に社会福祉士等の現場実習で求められるコミュニケーション能力や実習日誌作成能力等の涵養を意識して設定されているもので

はあるが、これらの実習に行かない学生にとっても、3・4年次の「社会福祉学セミナー」の授業においてメンバーの前で自分の研究内容を発表し、またそれを「卒業論文」の形でまとめる際に必要とされる資質であると考えられる。

したがって、本授業では学生自らが主体的に学ぶ過程を特に重視している。具体的には、15回の授業の中の終盤のおおむね5回程度を「グループ研究」の時間にあてており、2～4名程度で構成されたグループのメンバーが話し合っ研究テーマを決め、それについて図書館やインターネットを使って資料を収集した後、自分たちなりの一定の知見を得る作業を課している。そして、この小グループによってまずクラス内で研究発表が行なわれ、さらに28年度の場合、14回目の授業時間を使って全クラス合同授業の形で、各クラスから選抜されたグループ1つがスライドを使って研究発表を行った。

28年度の7名の科目担当者の内訳は、「専任教員6＋非常勤1名」という構成であったが、非常勤講師の方とは科目担当者懇談会の席や日常のメール等を利用して頻繁に連絡を取り合い、共通テーマに沿った授業展開を行えるよう工夫している。

⑤介護実習及び介護総合演習【金 美辰】

介護福祉士養成教育の新カリキュラム移行（平成21年）に合わせ、介護実習は「実習施設・事業等（Ⅰ）」と「実習施設・事業等（Ⅱ）」に分類された。前者は、多様な施設で利用者の暮らしを理解することが目的である。後者は、全実習時間である450時間の3割を占め、介護過程の展開を目的としている。介護福祉学専攻では、平成28年度より、既存の「介護実習Ⅰ」から「介護実習Ⅳ」に加え、「介護入門実習」を取り入れて、5段階に分けて介護実習を実施している。「介護実習Ⅰ」は、2年次に介護老人保健施設で12日間実施する。「介護実習Ⅱ」は、3年次に障害児・者施設で12日間、「介護実習Ⅲ」は、3年次に介護老人福祉施設で28日間実施する。「介護実習Ⅳ」は、4年次に居宅介護サービス事業所で5日間を実施する。また、平成28年度より導入された「介護入門実習」は、1年次に「介護実習Ⅲ」で配属される介護老人福祉施設で5日間見学実習として実施し、3年次の「介護実習Ⅲ」（平成28年度入学生からは23日間実施）での学びを深める。介護実習は、1年次から4年次までの間に、計57日間、456時間実施される。本専攻では、各段階の実習目標が達成できるように、実習関連科目の連携を重視した組み立てで授業を展開している。実習の事前及び事後指導科目として、「介護総合演習Ⅰ～Ⅳ」を2年次前期から3年次後期に担当している。「介護総合演習」では、グループ演習を通して、実習施設の法的根拠や目的、人員配置、利用者像、サービス内容などの理解を目指すほか、実習後のフィードバックを行う。介護過程の展開を目的とする「介護実習Ⅲ」の終了後に開講する「介護総合演習Ⅲ」では、実習で展開した介護過程をもとに、ケーススタディを行い、受け持ち利用者の状況や状態に応じた、学問的・科学的根拠に基づく介護のあり方の視点を養う。また、この成果を「介護総合演習Ⅲ」の授業で発表し、ケーススタディ報告書としてまとめることで、情報の共有や介護のあり方についての学びを深める。

⑥介護技術科目【壬生 尚美】

生活支援技術（介護・家政）は、介護福祉士養成カリキュラムの中でも実践力をつけるための中核となる科目である。「尊厳の保持」「自立・自律の支援」の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な生活支援

技術を用いて、利用者が安全・安楽・安心できる技術・知識を習得することをねらいとしている。1年次から3年次までの配当年次に、介護実習時期（2年次夏季・春季、3年次夏季）との関連性や他教科との関連も含め教授している。1年次後期に、家政学（栄養調理・被服）に関する科目のほか、利用者の「起き上がる」「座る」「立ち上がる」「歩く」といった日常生活の基本動作や介護動作の基本を中心に学ぶ。2年次は、移動・更衣・食事・排泄・清潔等に関する生活支援技術を学び、3年次は、心身の状態や生活環境に応じたケアやターミナルケアを中心に学んでいる。授業担当教員間でズレのないように教授内容や方法について事前に打ち合わせを行い、連携を図りながら授業の質の向上に努めている。授業では、講義で習った理論に基づく根拠を踏まえ、学生が利用者、介護者、観察者の立場から介護技術を実施・評価し、考えて実践する力を高めている。

4) 地域連携プロジェクト

①障害者雇用企業との連携によるTボール大会の開催【小川 浩】

多摩地域には障害者雇用を積極的に行う特例子会社が多く設置されており「多摩地域障害者雇用企業連絡会」を結成している。本事業ではそれらの企業と連携し、平成28年5月14日(土)に多摩キャンパスのグラウンドにて、企業で働く障害者のためのTボール大会を開催した。当日は24チーム、700人を超える選手・スタッフが集まり、大妻女子大学人間福祉学科の学生16人がボランティアとして運営の補助をする傍ら、実際に各チームに入って応援やプレーを楽しんだ。参加者からは、設備の整ったグラウンドでプレーできたこと、大妻女子大学の学生と交流する機会を持てたことに対して多くの感謝の声があった。学生からも障害のある人と関わって楽しかった、特例子会社について学ぶことができたなどの感想があった。この大会を契機に、その後3年生は特例子会社に見学に行ったり、4年生は特例子会社でインターンシップを行って就職が内定するなどの二次的な成果もあった。

②障害者福祉施設との交流【小川 浩】

平成25年度より実施してきた障害者福祉施設との連携による多摩キャンパスでの焼き菓子・パン等の販売を継続して行った。本年度は、社会福祉法人由木かたくりの会、NPO法人どんぐりパンの2つの法人が毎週木曜日の昼休みに人間関係学部に来校し、1階ラウンジでクッキーなどの焼き菓子及びパンの販売を行った。単に販売の場所を提供するのではなく、障害のある人と学生が協力して販売することが本事業の特徴であり、障害のある人も大妻に来ることを楽しみにしている。学生にとっては便利に安価に購入できるという点で好評であり、協働で販売した学生にとっては障害のある人と接して共に働く良い経験となった。社会福祉法人由木かたくりの会から、大学の貢献に対して感謝状を頂いた。Tボール大会も障害者福祉施設との交流事業も、大学・学生及び地域の障害者双方にメリットのあるWin Winの事業と言える。



③「誰もが子どもを見守り隊プロジェクト～小さな力で共同しよう～」【藏野 ともみ】

本プロジェクトは、平成 25 年度から始まり、児童虐待防止啓発活動の枠に留まらず、子育て支援を前提に大学生として何ができるかを考え取り組んできた。特にここ 3 年間は、本学の地域連携プロジェクトの助成を受け、活動の幅を広げることができている。

今年度は、まず始めに、これまで継続して取り組んできたことを継続することを 1 つの柱とした。一つ目は、大学生をはじめとする次代を担う世代から同世代に伝える活動である。また、二つ目は「誰もがスマイル宣言」と名付けたメッセージツリー活動である。三つ目は、障害児や病児等、配慮が必要な子どもたちの生活とその子育ての実態を知り、自分たちからどのような発信ができるのか考えていくという活動である。

さらに、今年度は新たな取り組みとして、誰もが児童虐待防止の必要性を知り、子育て支援の一員として活動することができるということを広く伝える活動をもう一つの大きな柱として位置づけた。

継続活動については、5 月に先輩から引き継ぎ、学生だけの学習会や、学童の専門職からの子育て支援に関する勉強会等を実施した。さらに、オレンジリボン活動が始まるきっかけとなった茨城県小山市に赴き、児童養護施設職員からお話を伺うことができた。



それらを踏まえて、6 月のオープンキャンパスから、高校訪問、大学祭、ボランティア団体訪問を 10 月まで実施し、オレンジリボン配布とメッセージツリーへの参加を呼びかけた。今年度はリボン配布 530 個、メッセージツリーには 116 名に参加いただいた。

また、昨年度から障害児等特別な配慮が必要な子どもを持つ親御さんとの交流を開始したが、今年度は 3 組の親子を大学にお迎えすることができ、お話をすることができた。その中に国際

結婚をされた方がおられ、障害を持つ子どもに対する周囲の関わり方の違いについて知ることができた。



新たな活動については、障害者の就労継続支援施設スタッフと一緒に、障害を抱える人に対して、虐待を受けて苦しんでいる子どもたちがいること、そのシンボルがオレンジリボンであること、子育て支援の一員になって欲しいことの3点を伝える活動にチャレンジを始めた。スタッフと学生の打ち合わせ2回、学生が施設行事に参加し当事者と接する機会を作るという過程を経て、「伝える活動」を実施した。その上で、一緒にオレンジリボンを作り、学生が作ったリボンは当事者に、当事者が作成されたリボンは「大切な誰かに渡して欲しい」ということを伝える機会となった。

この取り組みはまだ途中であり、次は当事者と学生と一緒に誰かに伝える機会を設けること、就労継続支援施設スタッフからは「障害者虐待について、当事者に伝える機会を設けたい」との新たな課題も提示いただいている。今後も継続的な活動を行っていきたいと考える。

(1) 人間福祉学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

各教員のFD活動の取り組みとして、「Ⅰ「企画」あるいは「参加」された教育関連の研修会」、「Ⅱ授業で活用するために作成した教材・テキスト」、「Ⅲ教育内容に関する質の向上を図るための取り組み」という3項目をまとめた。

①井上 修一

Ⅰ 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- ・平成28年度 大妻女子大学研究倫理研修会に参加
日時：平成29年3月23日（木）14：30～15：30
場所：多摩校 図書館棟2階会議室
内容：学内における研究倫理審査の事例と審査方法について
研究倫理審査の申請における注意点、事務手続きについて

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

テキスト：『介護福祉士国家試験解説集』中央法規、2016年

執筆担当：「人間と社会」「社会の理解」を分担執筆した。

授業名：本学科では当該科目なし。

内容：担当した章では、国家試験の科目である「人間と社会」「社会の理解」を担当した。

「社会の理解」では、日本国憲法をはじめとするわが国の法制度の歴史、憲法の中でも生存権の理解、福祉六法の成立過程、障害者自立支援法の成立年、社会福祉法のポイントなどを解説した。また、「人間と社会」では、軽度認知症のある方の事例問題解説、社会福祉士及び介護福祉士法に定める義務規程と、日本介護福祉士会の倫理綱領に基づいた解説を行った。作成した教材は授業等で知識を確認するために活用した。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・「成年後見制度」の授業において、多摩市消費者生活センターの相談員を招き、多摩市における消費者被害の実態と対応策について講義してもらった。この取り組みは、今年で年目に入り、消費生活センターも今後継続して連携することを検討している。学生にとっては、多摩市の消費者被害の実態を知るだけでなく、社会資源を知るうえで意義があった。
- ・相談援助実習・非常勤巡回指導講師との打ち合わせ
相談援助実習事前・事後指導場面において、2人の非常勤巡回指導講師と連携しながら学生指導を行った。担当学生が所属するクラスへの参加、事前面接、巡回指導、実習発表会への参加など、一貫して関わる機会を持ったことが充実した指導につながった。

②上野 優子

I 企画あるいは参加した教育関連の研修会（教育関連学会含む）

- ・ 課程認定校研究連絡会議「平成 28 年度全国研究集会・総会」
日時：平成 28 年 6 月 4 日（土）
場所：徳島文理大学 徳島キャンパス
内容：福祉レクリエーション・ワーカー課程認定校としての研修会
カリキュラムの一部変更や特色ある授業内容を目指しての基調講演、他大学との情報交換など行ってきた。
- ・ 第 20 回日本ウォーキング学会大会
日時：平成 28 年 5 月 20 日（金）～22 日（日）
場所：神戸海星女子学院大学
内容：介護予防、健康経営、障がい者、全国ネットでのウォーキングに関するそれぞれの分野での取り組みについての情報交換と口頭発表を行った。
- ・ 第 75 回日本公衆衛生学会大会・総会
日時：平成 28 年 10 月 26 日（水）
場所：グランフロント大阪
内容：高齢者を対象としたポールウォーキングの取り組みとその効果等について発表並びに情報交換を行った。
- ・ RE-IMAGINING OUR FUTURE 49th AAG CONFERENCE（第 49 回 AAG 老年学会）
日時：平成 28 年 10 月 31 日（月）～11 月 6 日（日）
場所：National Convention Center
内容：高齢者を対象とした、歩容等に対するポールウォーキングの公効果について口頭発表ならびに情報交換を行った。
- ・ 第 14 回東京都レクリエーション研究大会参加
日時：平成 28 年 12 月 11 日（日）
場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
内容：「TOKYO 2020 とレクリエーション」基調講演 4 分科会に渡る情報交換を行った。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- ・ 体力テストの実施に関する資料作成
オリジナルの測定結果記入用紙と総合評価表の作成
- ・ 低負荷による筋力トレーニング機器の導入と授業での取り組みを行った。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・ スポーツの実技科目については、特に前期の猛暑の時期は、体力のない学生は授業についていけない学生も想定できたので、温湿度計を必ず設置し一定の数値を越す場合などは、授業内容の一部変更などを行った。
- ・ 科目「スポーツと健康」は、授業の進行具合とそれに対する理解度を見るために、定期的に、

オリジナルのアンケート調査を行い、特に内容の理解度については、5段階評価で答えてもらった。理解度が低い学生については、希望者のみ学期末に再度説明する時間を設けた。

③小川 浩

I 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- ・12月5日（月）全学FD研修会「3つのポリシーの一貫性構築手法とカリキュラムマップ」
- ・12月9日（金）学部FD研修会「授業をより良くするためのTips」FD委員として企画、また参加した。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- ・授業で使うパワーポイント、DVD等は、毎年更新している。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・IIに同じ。

④藏野 ともみ

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修

- ・平成28年度社会福祉士実習演習教員講習会「相談援助演習方法論Ⅱ」講師として参加
日時：平成28年8月3日（水）
場所：日本社会福祉士養成校協会事務局（東京都品川）
内容：本事業は、社会福祉士及び介護福祉士法に則り、日本社会福祉士養成校協会が実施している「社会福祉士養成に関わる相談援助演習担当教員及び相談援助実習担当教員の講習会」である。今年度も「相談援助演習方法論Ⅱ」の講師を担当した。教授法の講義及び事例を用いた3パターンの授業展開、15回（90分×15回）の授業シラバスを提案し、演習の展開方法や学生指導の工夫点とポイントについて提示した。
- ・平成28年度認定社会福祉士特別研修（集合研修）に講師として参加
日時：①平成28年9月17日（土）～18日（日）、平成28年11月19日（土）
②平成28年10月29日（土）～30日（日）、平成28年12月11日（日）
場所：①大阪研修センター江坂（大阪府）、②全理連ビル（東京都）
内容：本事業は、2007年の社会福祉士及び介護福祉士法改正の際に付帯決議で示された専門社会福祉士に関わる研修であり、認定社会福祉士認証・認定機構が主催するものである。今年度は日本社会福祉士会が実施する研修に講師として参加した。「社会福祉実践における価値—知識と実践の融合—」の講義を行い、演習「ピアスーパービジョンの手法を用いた事例検討」のファシリテーターとして参加し、受講者への助言・指導、認定審査を行った。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- ・科目「精神保健福祉論Ⅰ」「精神保健福祉論Ⅱ」「社会福祉学セミナーⅠ」「社会福祉学セミナ

一Ⅱ」「社会福祉学基礎セミナーⅡ」については、オリジナルのレジメを作成し、授業の初回で複数回分あるいは全部を配布している。それらに加え、新しい制度等の情報や学生からの質問等があった場合は、必要に応じて別途追加プリントを配布した。事前に配布することで学生に全体像の理解を促し、復習及びレポート作成の進め方を指示することをねらいとしている。また、オリジナルの小テスト等は翌週には学生に返却するように細かく採点とコメントをするように心がけている。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・相談援助技術に関わる演習科目の研究会の実施
相談援助の演習科目について他大学の教員と教授方法や教材についての研究会を実施した。今年度は、事例の使い方について、様々な材料を使う工夫について検討した。参加者は10名で、平成28年9月3日（土）に大妻女子大学で行った。
- ・精神保健福祉援助実習に関わる実習指導者との連携
学生の配属実習前に、全実習指導者（スーパーバイザー）に対して、実習生の大学での指導状況や学生の課題について、書類及び対面での個別打ち合わせを行った。
また、実習先主催の打合会に参加し（6月11日：社会福祉法人 豊芯会事務所）、他大学の教員及び学生、施設職員及び当事者の4者での打ち合わせ・見学を行った。

⑤嶋貫 真人

I 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- ・12月5日（月）全学FD研修会「3つのポリシーの一貫性構築手法とカリキュラムマップ」に参加
- ・12月9日（金）学部FD研修会「授業をより良くするためのTips」を企画し、参加（以上、学内）
- ・8月30日（火）第6回大学コンソーシアム八王子「FD・SDフォーラム」参加（以上、学外）

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- ・「社会福祉学セミナーⅠ～Ⅳ」では、昨年度に引き続き、社会保障の各領域から題材をとった初学者向け教材の増補・改訂作業を行ないました。このプリントは、当該テーマに関する問題の所在を提示するための資料であると同時に、末尾にいくつかの設問を置いてゼミでの活発な議論を促す効果もねらっています。福祉系学部生のために、法学初学者にわかりやすく、なおかつ学生の興味を引きそうなテーマを用いた教材となるよう心がけているものです。
- ・社会福祉士国家試験を受験する学生のための模擬問題とその解説（社会保障・福祉行財政）について、最新の出題傾向をふまえた改訂を行ない、あわせて受験対策講座の授業を実施しました。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・講義形式の授業においてはほぼ毎回レジュメを配布し、授業の理解を助けるとともに、学生の復習の便宜となるように配慮しました。
- ・manaba を利用して学生からの質問や意見を受け付け、双方向の授業となるよう工夫しました。

⑥丹野 真紀子

I 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- ・全学 FD 研修会に参加
開催日：2016年12月5日（月）
テーマ：3つのポリシーの一貫性構築手法とカリキュラムマップ
- ・学部 FD 研修会に参加
開催日：2016年12月9日（金）
テーマ：授業をよりよくするための Tips
- ・日本ソーシャルワーク学会への参加
開催日：2016年7月9日（土）10日（日）
場 所：同志社大学今出川キャンパス
テーマ：ソーシャルワークの『グローバル』な展開をめざして
内 容：2015年にはソーシャルワークの国際定義が改訂され、研究だけでなく実践や教育においても、ソーシャルワークのグローバルな展開が求められている。その一方で、国によって異なる社会状況のなかで、それぞれの地域に根ざしたローカルな展開の重要性も高まっている。ソーシャルワークのあり方を「ますます世界的に、あくまで日本的に」問う必要があると考え、「グローバル」な展開への議論が進められた。
- ・日本社会福祉教育学校連携研修講座への参加
開催日：2017年1月7日（土）・8日（日）
場 所：東洋大学白山キャンパス
テーマ：ソーシャルワーク・スーパービジョン教育の理論と方法
内 容：近年、社会福祉実践現場においては、効果的で質の高いサービス提供を担保するために、ソーシャルワーク・スーパービジョンに注目が集まっています。ソーシャルワーク・スーパービジョンの重要性が指摘されながら、どのような点に主眼を置き、どのような方策によりスキルを高めていくのかというソーシャルワーク・スーパービジョンの具体的な方法について、体系的に習得する場は、これまで必ずしも十分に整備されていなかった。そこで、1日目にソーシャルワーク・スーパービジョンの理論を学んだうえで演習を展開し、2日目はソーシャルワーク・スーパービジョン倫理について考えた。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- ・授業で用いるための教材、配布資料を改定した。当該科目は、「社会福祉援助技術論Ⅱ-A」

「社会福祉援助技術論Ⅱ－B」「社会福祉援助技術論Ⅲ－A」「保健医療サービス」の4科目である。社会福祉援助技術論の科目では、なるべく最近の現状に合った事例を提供するため、新しい事例を加えたり、既存の事例を制度改正に合わせて修正・加筆することを行った。また、「保健医療サービス」では、統計データや法令の改定及び廃止等への対応も行った。レジメの使用は、教科書だけでは理解できない対人援助の実際をよりリアルに理解できるようにするために効果的であると考えている。

- すべての授業で、毎回フィードバックを書かせている。その用紙に書かれていた質問について次の授業で取り上げ、その質問に対する資料を別に作成し配布している。これを行うことで、前回の授業の復習にもなり、学生自身、自分の苦手分野に気付くようである。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- 学生に課した個別課題に関しては、manabaの活用を試みた。学生自身が提出に慣れておらず、時間設定に間に合わないこともあったが、多くの学生が時間通りに提出できていた。また、課題については全員にコメントをつけて返却した。それにより、学生自身、できない項目の理由がわかり、再提出の際、かなりの改善が見られた。
- 社会福祉援助技術論と相談援助演習の関係は深い。担当していない相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴの授業進行状況を把握し、学生が演習と理論とを関連して学べるよう意識した。それぞれの担当者から、演習の進み具合や、演習で学生が困っている点などを伺った。そのうえで、講義の中で理論的に説明し、この理論と演習の意味を伝えることで、ソーシャルワークを机上の理論として理解するのではなく、身近に活用する技術として理解することができたと思う。
- 相談援助演習Ⅲでは、共通シラバスを作成し、教育内容の共通化、授業展開の共有化を試み、学生がどの教員が担当することになっても一定レベルの教育の質を確保できるよう調整した。
- 相談援助実習事前指導、事後指導においては、学生の個別作業も多く、学生間の格差が見られた。そのため、授業外でも学生が自由に相談できる場を提供し、学生の個別作業がしやすく、また、学生自身の力で乗り越えられるようサポートした。これにより、学生は自分で考えることの重要性、時間はかかってもできるという自信をつけ相談援助実習に臨むことができたと言っていたので教育的効果は高かったと思われる。
- ソーシャルワークの理論を理解するためには事例による全員参加の学習を目指した。事例の見方、問題点の整理の仕方を学生自身が考え、多くの学生に板書してもらうことを通して、全員参加の事例研究となった。これは、社会福祉現場などの実践で活用することも意識している。

⑦松山 博光

Ⅰ 企画あるいは参加した教育関連の研修

- 第46回全国社会福祉教育セミナー2016：日本社会福祉教育学校連盟、日本社会福祉士養成校協会、日本精神保健福祉養成校協会
日 時：10月29日（土）・30日（日）

場 所：淑徳大学

テーマ：『ソーシャルワーク教育の新たな発展をめざして』（29日）

『ソ協連「最終報告書（案）」と今後予定される社会福祉士養成制度改革への対応』

・全学 FD 研修会

日 時：平成 28 年 12 月 5 日（月）午後 4 時 30 分～午後 6 時 30 分

場 所：人間関係学部 7114 教室

講 師：佐藤 浩章 氏／国立大学法人大阪大学／全学教育推進機構教育学習支援部 准教授

テーマ：『3つのポリシーの一貫性構築手法とカリキュラムマップ』

・2016 年度人間関係学部 FD 研修会

日 時：平成 28 年 12 月 9 日午後 5 時 15 分～午後 6 時 30 分

テーマ：『授業をよりよくするための Tips—その 2—』

場 所：第 2 分科会（人間関係学部 7385 教室）：「授業に必要な著作権の知識」

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- ・全授業・演習・実習において、新たな資料やデータを組み入れた教材を作成した。
- ・専門科目「高齢者に対する支援と介護保険制度」の講義テキストを改訂した。『高齢者に対する支援と介護保険制度（第 5 版）』中央法規出版、2016 年 2 月 1 日発行。
特に『第 2 章 少子高齢社会と高齢者 第 2 節「高齢者を取り巻く諸問題 1・2・3」』（41 頁～51 頁）を担当した。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・本年度は、学生へのメール指導だけではなく、次年度に向けて Manaba を一部科目に導入して、教員と学生との双方向型授業に取り組んだ。また専門科目では、学生の教室外の事前・事後学習として「講義ノート」を作成させて理解度を深めさせた。

⑧平野 貴大

I 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- ・日本コミュニティ心理学会 第 19 回大会の運営
開催日：2016 年 6 月 25 日・26 日
場 所：作新学院大学 作新学院大学女子短期大学部
テーマ：次世代をはぐくむコミュニティ
内 容：日本コミュニティ心理学会の大会の運営について、事務局長として全体の運営マネジメントに携わった。また、コミュニティへの介入などを含めたアプローチの方法論などについて、心理、福祉その他の専門家・研究者と意見交換を行った。
- ・IT ヘルスケア学会への参加
開催日：2016 年 5 月 21 日・22 日
場 所：東京医療保健大学国立医療機構キャンパス
テーマ：ICT データから見えてくる医療、介護、ヘルスケア連携の近未来

内 容：医療分野の情報化の流れの中での介護との連携のあり方や方法論について、医療分野、情報通信分野の専門家と意見交換を行った。

- ・精神保健福祉士実習演習担当教員講習会への参加
精神保健福祉士の実習・演習の担当をするために、以下の講習会に参加し、精神保健福祉士の実習教育における方法論などについて学んだ。
- ・【精神保健福祉士基礎分野講習】
開催日：平成 28 年 7 月 17 日
会 場：日本社会福祉士養成校協会・日本精神保健福祉士養成校協会 研修室
- ・【精神保健福祉士演習分野講習】〈演習東京 PE〉
開催日：平成 28 年 8 月 9 日～8 月 12 日
会 場：都漁連水産会館 5 階会議室
- ・【精神保健福祉士実習分野講習】〈実習京都 PJ〉
開催日：平成 28 年 9 月 6 日～9 月 9 日
会 場：同志社大学今出川キャンパス 良心館 1 階 105 教室

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・相談援助実習における教員と実習助教の連携
社会福祉士の相談援助実習について、実習事前指導から事後指導まで一貫して担当教員とともに学生の状況等の情報共有、各種指導などを行うことにより、学生が実習で多くの学びが得られるような体制を整えた。

(2) 介護福祉学専攻におけるFD活動に関する取り組み

各教員のFD活動の取り組み

各教員のFD活動の取り組みとして、「Ⅰ「企画」あるいは「参加」された教育関連の研修会」、「Ⅱ授業で活用するために作成した教材・テキスト」、「Ⅲ教育内容に関する質の向上を図るための取り組み」という3項目をまとめた。

①佐藤 富士子

Ⅰ 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- ・2月5日(月)に行われた全学FD研修会「3つのポリシーの一貫性構築手法とカリキュラムマップ」に参加した。
- ・12月9日(金)人間関係学部FD研修会「授業をよりよくするためのTips ―その2―」に参加した。
- ・9月26日(土)日本介護福祉学会に参加

Ⅱ 授業で活用するために作成した教材・テキスト

- ・人間関係総論Ⅳでは、15回中昨年度に引き続きほぼ本時のテーマは同じとしたが、視覚教材、配布資料、参考文献等は検めて作成した。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・介護福祉士資格取得のための科目はテキスト指定をしているので、内容をより理解できるように追加資料を配布する等理解度の促進に努力した。数社から出版されているテキストの選定には十分吟味しています。
- ・人間関係総論Ⅳでリアクションペーパーを記入してもらったときは、質問事項については必ず次の授業で答えたりアドバイスをしたり、テーマに沿って内容が良いものについては、次の回に発表した。

②山本 真知子

Ⅰ 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- ・大妻女子大学FD研修会「3つのポリシーの一貫性構築手法とカリキュラムマップ」
12月5日に行われた、学内のFD研修会に参加した。3つのポリシーについて深く考えることができその後の学科内での3つのポリシーの作成にも反映させることができた。学生や入学を希望する高校生やその保護者、また企業などの社会に対して発信できる文面であることが研修を通して理解することができた。
- ・人間関係学部FD研修会「授業をよりよくするためのTips ―その2―」
第1分科会 大出春江先生/manabaの活用がうまくいかない事例を考える
2月9日に行われた、学部のFD研修会では、他の先生方の日頃の授業の方法、学生に対する指導方法など話し合うことができて非常に有意義で勉強になった。manabaなどのシステ

ムを今後授業などで活用していきたい。

・「我が事・丸ごと地域共生社会」をめぐる緊急討論集会

9月17日に東洋大学で行われた、全国的な福祉専門職団体、養成教育機関・施設、社会福祉関連学会17団体で組織するソーシャルケアサービス従事者研究協議会主催の集会に参加した。国が示している「新ビジョン」と社会福祉士の育成に関する討論会であり、今後の社会福祉士の実習に関する情報も得られた。

・日本社会福祉学会秋季大会

9月10～11日に佛教大学紫野キャンパスで行われた、学会に参加した。本学会では社会福祉が育む「共生の創造」というテーマのシンポジウムに参加し、口頭発表を行った。

II 授業で活用するために作成した教材・テキスト

・主に今年度は、毎回の授業のレジュメを作成した。

・そのほかに、ミネルヴァから2017年に発売予定の教科書を『家族支援論』の2章分を執筆した。

III 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

・大妻女子大学に着任して1年目ということもあり、学生の理解度や関心興味を引き出すため、授業や学年によって授業の方法を変えた。パワーポイントの使用の有無も授業に応じて変更していった。学生の生活に身近ではないトピックに関しては、DVDを用いて視覚的に伝えられるようにした。

・基本的にリアクションペーパーを学生に毎回記入してもらい、リアクションペーパーに書かれた質問事項については必ず次の授業で答えたりアドバイスを行ったりしている。授業の内容に関連する資格（社会福祉士・保育士）に関する情報提供を行った。

・前期と後期でレジュメの作成方法や授業の提示方法を変え、理解度の促進に努めた。

③櫻井 恵美

I 企画あるいは参加した教育関連の研修会

・公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 平成28年度全国教職員研修会

開催日：平成28年10月26日（水）～10月28日（金）

場 所：紅陽グランドホテル（〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2丁目3-1）

テーマ：介護福祉士養成施設の存在意義と教育力の向上～揺るぎない養成教育の確立を目指して～①【基調講演】「介護福祉士養成の現状と展望について」厚生労働省 社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室②【特別講演】「より良い授業（教育）を目指して～教師は授業のデザイナー～」熊本大学大学院教授 鈴木克明氏③分科会：「魅力ある授業づくり ～インストラクショナルデザインの考え方を踏まえた授業づくり～」講師：鈴木克明先生（熊本大学大学院教授）「学生が主体的に学ぶ授業」「学生が分かる授業」に向けて、前日の特別講演を踏まえたかたちでインストラクショナルデザインの手法に習い、魅力ある授業をつくるために必要なプロセス

や要素について、演習をまじえながら具体的に教授して頂いた。④【ハイライト講演】おれんじドア実行委員会代表 丹野智文氏⑤【教育シンポジウム】介護福祉士養成施設の存在意義を發揮し、教育力の向上に結び付けるためには何が必要か、具体的な教育力向上に向けた方法について研修し、学びを深めて頂く機会を頂いた今大会であった。介護福祉士養成施設が抱える課題は学生の確保、経営、魅力ある学校づくり等、非常に多様性に富んでいる。これまでの介護福祉士養成施設の取り組みを様々な角度から紹介して頂き、今後あるべき教育の方向性は何かを考えるシンポジウムとなった。

内 容：「教育の方向性について考える」①学生募集の観点から②介護現場における人材育成の観点から③養成施設の特徴、カリキュラムの観点から

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

・生活支援技術における演習補助

介護福祉学専攻の教員のご指導、助言のもと、実技演習のための物品準備、演習補助を行った。また、実習室物品等の整理・点検・補修を行った。

・介護実習事前・事後指導および巡回指導

実習目標立案の助言、実習巡回指導、実習施設との連絡調整、実習報告書作成の指導を行った。

・実習報告会に向けた指導

平成 28 年 12 月 2 日（金）に開催された実習報告会に向けて、発表パワーポイントの校正、発表内容の助言・指導を行った。

④武山 美子

I 「企画」あるいは「参加」した教育関連の研修会

・第 24 回日本介護福祉学会大会

開催日：平成 28 年 9 月 3 日（土）、9 月 4 日（日）

場 所：1 日目 上田東急 REI ホテル・2 日目 長野大学

内 容：「2025 年を見据えた認知症ケア」をテーマに開催。認知症ケアについての公開シンポジウム「認知症の人が住み慣れた地域で、場所で暮らし続けるために」及び 2 日目の各研究発表分科会に参加する。

・平成 28 年度 関東甲信越ブロック教員研修会

開催日：平成 28 年 9 月 15 日（木）

場 所：メトロポリタン高崎

テーマ：介護福祉教育における理論と実践の統合～介護過程と ICF

内 容：午前、介護福祉士教育で「介護過程」において ICF をどのように取り入れているかの講演会に参加し、介護福祉学における介護過程の方向性を考える。午後より、第 4 分科会「学生募集と外国人の人材育成について」に参加し、グループ討議、情報交換を行った。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・「相談援助実習事前指導」、相談援助実習（児童・地域分野）における連携と取り組み
事前指導において、担当教員のご指導のもと実習先への提出書類の確認、実習指導者への依頼と調整、学生指導を行った。
- ・介護実習指導における教員との連携と取り組み
介護福祉学専攻の教員のご指導、助言のもと、実習における指導、実習報告書作成の指導を行った。

⑤古市 孝義

I 企画あるいは参加した教育関連の研修会

- ・社会福祉士基礎分野講習、社会福祉士実習演習担当教員講習参加
開催日：7月24日（日）、8月9日（火）～12日（金）
場 所：大妻女子大学 千代田キャンパス、東京都漁連会館
内 容：厚生労働省令に定められた社会福祉士の養成課程における演習担当教員の要件を満たすために参加。

Ⅲ 教育内容に関する質の向上を図るための取り組み

- ・生活支援技術における演習補助
介護福祉学専攻の教員の指導、助言のもと、実技演習の為の物品準備、演習補助を行う。
実習室物品等の管理・点検・補修を行う。
- ・介護実習事前・事後指導及び巡回指導
介護実習入門～Ⅳに向けた実習目標立案の助言・指導、実習巡回指導、実習施設との連絡調整、実習報告書作成に際しての指導を行った。

IV 保護者懇談会

平成 28 年度も、保護者懇談会が前期は千代田キャンパスで開催される千鳥会で、後期は多摩キャンパスで開催される大妻多摩祭の 1 日目に行われた。

I. 千鳥会での保護者懇談会

平成 28 年 6 月 4 日（土）に、保護者と教職員で組織する大妻女子大学千鳥会の「総会」、「演奏会」と「父母・教員懇談会」が千代田キャンパスで開催された。

「演奏会」に引き続き、全学科専攻単位による「保護者懇談会」が大学校舎で開催された。

1. 千鳥会保護者懇談会 人間関係学部学科別保護者出席者数

人間関係学科：36

人間福祉学科：25

学部合計：61 名

2. 千鳥会保護者懇談会 人間関係学部学科別教職員出席者数

人間関係学科：12

人間福祉学科：8

学部合計：20

3. 人間関係学部保護者アンケート結果

○参加保護者の内訳

父親 9

母親 27

父と母 1

その他 0

○時間について

適当 34

長い 0

短い 0

未記入 2

○内容

適当 31

不適當 0

未記入 5

4. 保護者の意見

- ・大変有意義な内容だった。
- ・学内での様子や先生方と話しができて、とても良い時間だった。
- ・他の父母の話が聞けて、とても参考になった。
- ・先生と話ができて良かった。
- ・素晴らしい企画だった。
- ・アットホームで良かった。
- ・学科の先生方の話を聞くことができ、参考になった。
- ・とてもわかりやすく、スライドも効果的だった。
- ・学年毎に分かれての懇談会だったので、話がよく聞こえて良かった。
- ・丁寧な対応だったので、安心して娘を通わせることができると思った。
- ・教室の形式上、話しにくかった。
- ・4年間同じクラスの方が誰も出席していなくて淋しかった。もう少し多くの方に参加してほしかった。
- ・学部の話はいつも興味深い。
- ・1年と2年の懇談会を別にした方が良かった。

II. 多摩キャンパスでの保護者懇談会

大妻多摩祭の1日目に以下のようなプログラムで行われた。

プログラム

平成28年10月15日(土) 大妻女子大学 多摩キャンパス

①保護者のための就職講演会 13:00~14:30

テーマ:「卒業生の人事担当者によるパネルディスカッション」

～昨今の採用動向と私の就職活動

参加パネラー

平成25年度社会情報学部卒業 旭化成不動産レジデンス株式会社 総務人事課

平成24年度比較文化学部卒業 株式会社ディスコ(半導体) 採用グループ

平成21年度人間関係学部卒業 株式会社三井住友銀行 採用グループ

平成17年度人間関係学部卒業 株式会社ニチイケアパレス 人事採用課

グループディスカッション進行役

平成14年度短期大学部卒業 株式会社インテック(ITHDグループ) 採用グループ

②保護者懇談会 15:00~(受付14:30~)

会場:人間関係学部棟

14:30~ 受付 1階ラウンジ

15:00~ 全体懇談会(学部長挨拶、学科長挨拶) 1階7127教室

15：30～ 専攻別懇談会（以下の教室に分かれ開催した）

- 社会学 2階 7247 教室
- 社会・臨床心理学 2階 7214 教室
- 人間福祉学1年 3階 7338 教室
- 人間福祉学2,3,4年 3階 7318 教室
- 介護福祉学 3階 7315 教室

1. 人間関係学部学科別保護者出席者数

保護者懇談会

社会：49

心理：25

福祉：71

介護：12

学部合計：157

2. 人間関係学部学科別教職員出席者数

社会：7

心理：6

福祉：7

介護：3

共同研究室等教職員：12

学部合計：35

3. 参加者アンケートから

（1）全体懇談会

- ・学部長の「黒子の存在」の話は共鳴できた。自分自身にも改めて考え方生き方を考えさせられる話だった。人間関係学科長の「子供が話せる家庭環境」は本日からでも我が家で実践していきたい。人間福祉学科長の実際の大学生活と単位取得や GPA といった具体的な話は大変参考になった。
- ・家庭での接し方の参考になった。
- ・先生方の温かい学部の雰囲気が伝わった。
- ・学部の概要が理解できた。また、4年間の流れがわかって良かった。
- ・人間関係学部の主旨を聞き、これからの社会で大事なことだと思った。
- ・時間が短かった。

（2）専攻別懇談会

- ・細かい情報を聞くことができとてもよかった。
- ・各先生方に直接お会いでき、より授業のイメージがわいてきた。また、現場で直接学生と接

している先生方の話しは、厳しさの中に愛情を感じられた。

- ・学年別の説明が参考になった。
- ・具体的な学年のカリキュラムや内容を教えてもらい、今後の学びの過程や様子の概略がわかったので安心した。
- ・専門的な学習の難しさに直面し、悩みもあるようだが、この会により、先生方の指導や大学での状況を知ることができて良かった。
- ・1年から4年までの保護者の方々の話しはとても参考になった。不安に思っていることなどが、共通していることもあり、先生方のアドバイスで、スッキリとした気持ちになった。

(3) その他

- ・女子大は色々な面で手厚く見守られている感じがした。
- ・全体的に時間が短く感じた。
- ・先生方の熱意と子どもたちへの愛情が伝わり感銘を受けた。

V オフィスアワー

はじめに

オフィスアワーは、教員が学生の大学生活全般にわたる質問や相談を受けられるように研究室にいる時間である。学生は教員が設定している時間帯であれば、所属学科の教員だけではなく、どの学部、学科、専攻の教員の研究室を一人でもあるいはグループでも訪問してもよく、平成 16 年度から FD 活動の一環として導入している。

平成 28 年度の実施要綱に表 1 の通りである。

表 1 平成 28 年度オフィスアワー実施要綱

活動目的	オフィスアワーは、学生の大学生活全般にわたる相談を通じて、学生がより良いキャンパスライフを送れるように支援する組織的な活動である。
相談内容	学生生活全般に関わる事柄であり、特別な制約は設けない。
対象者	本学の学生個人又はグループとする（学部・学科・専攻は問わない）
担当者	学生は、クラス指導主任やゼミ担当教員に限らず、人間関係学部の全専任教員（助手は除く）と相談することができる。
相談時間	①月曜日から金曜日までの 1 時限～5 時限、土曜日 1 時限～2 時限のうち、原則として 1 コマを相談時間に当てる。 ②指定時間外は事前予約により相談する。
相談場所	原則として各専任教員の研究室とする。
実施方法	①教員はオフィスアワーとして設定した時間内は研究室に在室している。 ②教員は、学生が安心して相談できるように事前説明を行ない、特別なことがない限り他に漏らさないことを説明する。
周知方法	①教員は、毎年講義開始時にオフィスアワーの利用を学生に伝える。 ②新年度毎に「人間関係学部オフィスアワー・スケジュール一覧表」を作成し、学生への配布および学部掲示板、各共同研究室掲示板に掲示する。 ③学部ホームページに実施要綱とスケジュール一覧表を掲載する。
FD 報告	担当教員は、オフィスアワーに関する意見・感想等を当該年度の FD 報告書に掲載するため、報告書（年度末に別途配布）を提出する。

1 オフィスアワーの結果

各教員のオフィスアワーとしている時間帯をみると、30 名中 18 名が昼休み設定で最も多かった。実施要綱では相談時間を原則 90 分となっているが、昼休みは 50 分しかないため、3 名の教員は週 2 回に昼休み設定していた。その他の時間帯にはバラつきがあったが、相談時間は 90 分（一コマ）の設定であった。

曜日別にみると表 2 の通りで、通年を通して火・水・木曜日が多く、月曜日は最も少なかった。授業が入っていないことも要因の一つと考えられる。

表2 オフィスアワーを設定している曜日と教員数 n=30

	月	火	水	木	金
前期	4名	7名	8名	7名	4名
後期	2名	6名	8名	9名	5名

オフィスアワーの内容を見ると、学生が自ら生活全般について教員の指導を希望してくるものが多かった。そのきっかけは履修した授業を受けることによって教員の専門性に関連する相談も多く見られ、学生が所属する学部、学科、専攻にとらわれず相談していた。また、指導が必要と判断した学生を教員が呼び出し、その時間を当てると言う例もあった。どちらにしてもオフィスアワーの時間は有効に使われていると思われる。

2 各教員からの意見や感想について次のような記述があった。

(大出 春江)

オフィスアワーらしい時間の使い方は、今年度、留学の相談および帰国後の挨拶をしにきた学生の来室時だった。たっぷり時間をとることができた。それ以外の場合、多くは授業の空き時間か昼休みの学生訪問がほとんどを占めている。したがって長くとも20~30分程度であり、オフィスアワーだともっと時間がとれると伝えても、学生側からすると自分の空き時間が優先であり、5限まで待てないということなのかもしれない。

(小川 浩)

オフィスアワーにかかわらず、学生は気軽に研究室に相談に来ている。対応は大変であるが、学生にとっては良いことであると思う。

(香月菜々子)

オフィスアワー制度が学内で定着し、十分に機能していると実感する。本専攻の学生(学部生、院生)に限らず、筆者が担当している全学共通科目の繋がりや、他学部他専攻の学生の訪問もあり、授業内容について質問を受けたほか、大学院進学、進路相談についての相談を受けることあった。運営上、現時点では週1回という頻度で程よいと感じている。

(蔵野ともみ)

本学科の2年生を中心に、1年生や3年生の来室が多かった。家族や教員との関わり、相談室との関わり、成績、進路等の相談や雑談が主であった。具体的に解決したいというよりは、話し相手を求めているという感じであった。定期的に来る学生もいた。これら以外は、日頃から出入りする3年生や4年生の学生が国家試験勉強の合間等に、不安や友人関係等をおしゃべりに来ることが多かった。特に12月から1月にかけては、国家試験勉強等のために遅くまで残っている一人暮らしの学生等も多い。教員に積極的な相談がなくても来室しても良い雰囲気を作っていきたいと思う。

(佐藤富士子)

オフィスアワーの限定された時間で来る学生よりも、学生自身が話したいと思ったときに研究室が空いているとノックをする学生のほうが多かった。

(嶋貫真人)

オフィスアワーを意識してやって来る学生は、例年同様、ごく少数であったと思われます。

(田中 優)

前期後期を通じて、特定の学生が、来室していた。かなり個人的な問題をゆっくりと時間を掛けて話す形であったが、本人にとっては、必要な時間だったのだと思う。後期は、オフィスアワーの時間に卒論指導を求める学生が多く来室した。

(丹野真紀子)

木曜日4限にオフィスアワーを設定しているが、多くの学生はオフィスアワーに関わらず様々な要件で研究室を訪問してくる。今年度は自らの将来にかかわる内容が多く、その場で対応するのではなく、別時間を設定し個別対応することが多かった。今後も、オフィスアワーに限定することなく、学生の個別性に合わせた対応をしていきたいと考えている。

(西河 正行)

オフィスアワーの利用は、例年同様、引越し、病欠等の署名、押印がほとんどであった。本年の特徴として、特に欠席の多い学生についてオフィスアワーの時間に呼び出して随時指導した。

(福島 哲夫)

例年と同様の部分としては担任としての業務・相談、院生の書類についての点検と押印、4年生の卒論の相談などであった。昨年度は、他専攻の特定の学生のサポートがかなりあったが、今年度は本専攻の学生数名の休退学の相談、進路の相談数件にとどまった。

上記のうち1名の学生は、学生相談室の利用の仕方についてかなり具体的にアドバイスしたにもかかわらず、利用につながらなかった様子で、残念だった。

(古田 雅明)

今年もゼミ生および担任学生(2年Aクラス)、大学院生を中心に多くの人がオフィスアワーの時間に来室しました。学生委員をしていることもあり、相談内容は学生生活に関する相談がメインでした。2年生より上の学年では、ゼミ選択や大学院進学に関する相談が殆どでした。また、レポートと卒論に関する相談も多くありました。オフィスアワーを通年昼休みに設定しており、さらに2限にゼミ、3限に授業を入れているのでゼミや授業の延長として来室する人が多い印象です

(堀 洋元)

必修科目や全学共通科目に前後する昼休みにオフィスアワーを設定し、授業時に定期的に周知した。その結果、欠席時プリントの受け取りや、それに伴う個別の相談を受けることもあり、学生、教員ともに活用できていたと思います。ただ、授業以外の相談で訪れる学生と重なることもあり、同じ時間帯に対応することに苦慮することもありました。

(本田 周二)

ゼミ生および担任学生（2年Bクラス）がオフィスアワーの時間に来ることが多かったですが、卒業論文作成時には、ゼミ生以外の学生もたずねてくることがありました。相談内容は、学生生活に関するもの、授業内容に加えて、卒業後の進路に関するものがほとんどでした。今年度から着任したこともあり、前期の前半はあまり学生が来ることはなかったのですが、後半から後期にかけては定期的に来てくれるようになったなという印象を持っています。また、オフィスアワー以外でもアポイントを取ってから研究室に来る学生に対しても対応してきました。アポイントを取るというプロセスは卒業後に必要となる力の一つですので、次年度以降もサポートを続けていければと思っています。

(牧野 智和)

特にありませんが、学生はさしてこの時間を気にして来てはいない気がします。

(松山 博光)

予約なしの来室が多い。生活や学習に対する深刻な問題は少なく、日頃の生活不満や交流関係の愚痴を聞いてほしいという程度であった。

(八城 薫)

今年度は、2年生の調査研究法に関する質問が多く、学生の熱心さが感じられました。

(山本真知子)

1年次の担任となったが、オフィスアワー時には授業があったため、来室する学生がほとんどいなかったが、他の学年の学生が相談しに来ることが多かった。担任クラスの学生は他の時間（お昼休みなど）で対応することができた。基本的に研究室のドアに貼ってある在室・不在などの連絡用の紙の表示を必ず正確に示すように心がけ、在室している場合は学生にすぐに対応できるようにしていた。担任クラスの学年の空き時間と教員の空き時間が合致する場合は、そこにオフィスアワーを置くと効率的であると感じる。

3 今後の課題

学生は教員が設定している時間帯であれば、所属学科の教員だけではなく、どの学部、学科、専攻の教員の研究室を一人でもあるいはグループでも訪問してもよいのがオフィスアワーである。教員からの意見や感想から、設定されている時間外でも学生が相談に訪問し学生が活用し

ている状況が伺える。具体的な内容の報告は専攻により特徴的なものであったり、共通したキーワード（学業の不良、授業への質問）であったりしている。さらに、他学科、他専攻での教員間の連携の必要なケースがあったりし、学生の抱えている問題の複雑化が示唆され、より専門的な相談内容も含まれており、他専門職との連携をどのように行うかが課題である。

今後さらなる活性化を図るための一つの方法として、実施要綱にあるように 90 分を原則とした場合、昼休みの場合は週 2 回設定をすることで、より学生が相談できる機会を作る必要があると思われる。複雑になってきた学生の抱える問題には、学部教員間の連携だけではなく、心理相談室、学生相談室等他職種との連携の必要性が求められる。

平成28 (2016) 年度 人間関係学部 オフィスアワー [H28. 4. 18現在]

◆◆◆ 予約無しで教員の研究室を訪問して相談できる時間帯です ◆◆◆
 ◆◆◆ 時間を確かめて気軽に活用してください ◆◆◆

1	9:00	月		火		水		木		金		土
		通年	町田章一	通年	西河正行	通年	八城薫	通年	香月菜々子	通年	香月菜々子	
2	10:30											
				前期	八城薫	通年	小川浩	後期	伊藤美登里	後期	伊藤美登里	
3	13:00											
		前期	嶋貫真人	通年	荒井芳廣	通年	井上修一	通年	上野優子	前期	齊藤豊	
4	14:30											
		後期	小谷敏	通年	尾久裕紀	通年	金美辰	通年	久保田滋	通年	堀洋元	
5	16:20											
		前期	伊藤美登里	通年	高田知恵子	通年	福島哲夫	後期	齊藤豊	前期	松山博光	
6	17:50											
		後期	小谷敏	通年	古田雅明	通年	千川剛史	通年	田中優	通年	堀洋元	
7	18:20											
		後期	小谷敏	通年	松山博光	通年	佐藤富士子	通年	佐藤富士子	通年	牧野智和	
8	19:50											
		後期	小谷敏	通年	齊藤豊	通年	齊藤豊	通年	丹野真紀子	通年	丹野真紀子	
9	21:20											
		後期	小谷敏	通年	王生尚美	通年	王生尚美	通年	木田周二	通年	木田周二	
10	22:50											
		後期	小谷敏	通年	大出香江	後期	大出香江	後期	大出香江	後期	大出香江	

◆ 指定時間外の相談は、直接、教員に予約してください。
 ◆ 相談場所は、原則、人間関係学部棟 4 階の各個人研究室です。
 ◆ 変更が生じた際は、「学部HP (<http://www.hum.otsuma.ac.jp/>)」及び「人間関係学部棟1Fと4Fの掲示」でお知らせします。

【本件に関する問い合わせ先】 ningenfd@ml.otsuma.ac.jp
 平成28 (2016) 年度人間関係学部FD委員会
 小川浩 (学部長)、福島哲夫 (学科長)、佐藤富士子 (学科長)
 社会/伊藤美登里、心理/本田周二、福祉/嶋貫真人 (委員長)、介護/金美辰

<周知方法>

- 4/1以降に各学年のガイダンスで配付する。
- 人間関係学部棟の1階と4階に掲示する。
- 学部HPに掲載する。 <http://www.hum.otsuma.ac.jp/>

ア	ヨミ	教員名	時期	曜日	時限等	時間帯	個人研の室番	
	アライ ヨシロ	荒井 芳廣	通年	火	昼休み	12:10-13:00	74151	
				水	授業時間を除く在室時			
イ	イトリ ミドリ	伊藤 美登里	前期	月	5	16:20-17:50	74132	
			後期	金	2	10:40-12:10		
ウ	イノウエ ユウイチ	井上 修一	通年	水	昼休み	12:10-13:00	74811	
			通年	木	昼休み	12:10-13:00	74872	
オ	オウエ ユウイチ	上野 優子	前期	サバティ	サバティ	サバティ	サバティ	
			後期	木	5	16:20-17:50	74152	
			通年	水	2	10:40-12:10	74842	
			通年	火	昼休み	12:10-13:00	74812	
カ	カサキ ユウイチ	尾久 裕紀	通年	金	1	9:00-10:30	74581	
キ	カサキ ユウイチ	香月 菜々子	通年	水	昼休み	12:10-13:00	74841	
ク	カサキ ユウイチ	金 美辰	通年	木	昼休み	12:10-13:00	74181	
			通年	木	昼休み	12:10-13:00	74851	
コ	カサキ ユウイチ	久保田 滋	前期	水	4	14:40-16:10	74851	
			後期	月	3	13:00-14:30	74142	
			通年	月	4	14:40-16:10		
サ	カサキ ユウイチ	小谷 敏	通年	水		14:10-14:40		
			前期	金	昼休み	12:10-13:00	74161	
			後期	木	昼休み	12:10-13:00		
			※研究室のドアが開いている時は上記時間帯に関わらず対応します。					
シ	カサキ ユウイチ	齊藤 豊	通年	水	3	13:00-14:30	74871	
			前期	月	昼休み	12:10-13:00	74822	
			後期	金	2	10:40-12:10		
タ	カサキ ユウイチ	嶋貫 真人	通年	火	昼休み	12:10-13:00	74482	
			通年	火	昼休み	12:10-13:00	74282	
チ	カサキ ユウイチ	高田 知恵子	通年	木	昼休み	12:10-13:00	74852	
			通年	木	昼休み	12:10-13:00		
			休職中につき実施いたしません。					
ニ	カサキ ユウイチ	丹野 真紀子	通年	火	1	9:00-10:30	74382	
			通年	火	昼休み	12:10-13:00	74381	
フ	カサキ ユウイチ	佐藤 富士子	通年	水	昼休み	12:10-13:00	74881	
			通年	火	昼休み	12:10-13:00	74881	
ホ	カサキ ユウイチ	嶋貫 真人	通年	火	昼休み	12:10-13:00	74131	
			通年	火	昼休み	12:10-13:00	74281	
			通年	木	昼休み	12:10-13:00	74481	
マ	カサキ ユウイチ	堀 洋元	通年	木	4	14:40-16:10	71182	
			通年	金	3	13:00-14:30	74832	
			通年	月	1	9:00-10:30	74831	
ヤ	カサキ ユウイチ	福島 哲夫	前期	金	昼休み	12:10-13:00	74831	
			後期	火	昼休み	12:10-13:00	74862	
			通年	水	4	14:40-16:10	74882	
			前期	火	2	10:40-12:10	74821	
			後期	火	1	9:00-10:30	74821	
			通年	水	2	10:40-12:10	74821	

VI 平成28年度クラス指導について

本学教育体制の特徴の一つとして、クラス指導主任制度がある。入学時から学生をクラスに分け、いわゆる“クラス担任”が「学習」「学生生活」全般にわたってきめ細かく指導、助言、相談を行う学生支援の仕組みである。

本制度は、全国各地から入学してくる学生が新しい環境に適応し、安心して修学できるよう、きめ細かな指導をする必要性を説いた学祖の意思を継いで設けられている。実際に、新入生は高校から大学へと学習環境が変わるだけではなく、全国各地から親元を離れて入学してくる者も多い。

また、本報告書の元になっている各教員のアンケート結果は、Web上で教員同士が即時に閲覧できるようにメール配信されており、教員相互の研鑽の元にもなっている。

本稿では各教員の声をまとめ、学生指導の様子を浮き彫りにしたい。

以下、平成28年度クラス指導について、「クラス指導の状況」「クラス指導を行う際に工夫している点」「クラス指導に関する意見・感想」の順にまとめた。

1. クラス指導の現状と教員からの意見

(1) 平成28年度のクラス指導の状況

1) 人間関係学科 社会学専攻

*成績評価通知書の返却の際に半数ほどの学生に対し、履修状況について話し、不安な学生には教育支援グループを訪ねるよう指導した。残りの半数は成績通知書をとりにこないのだが、彼女たちが自宅に郵送されている通知書を確認済みなのか、Campus Avenueで確認しているのかは不明である。クラス指導主任としては今回初めて2名の学生が卒業単位不足のために留年する事態を経験した。4年次前期履修登録の段階で多めに単位を取る予定で履修計画を立てるが、前期の科目の単位がとれた段階で、後期履修予定の科目は単位取得の必要がないと自分で判断し、授業にも出席せずしかも履修修正をしないまま学期末を迎える。卒業要件として単位不足であるのに充足していると思い込み、気づいたときは単位不足を埋める手立てがないという状況である。履修単位数の計算ミスをする学生について、少なくとも4年後期はじめの支援が必要になっていると痛感している。

*クラス懇親会開催、GPA1.5未満の学生の指導など行いました。

*GPAを基にした学習指導、進路指導をおこなった。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

*特に欠席の多い学生が3名おり、その内、2名については随時指導し、1名は病気による退学、1名は授業に復帰した。しかし、呼び出しにも応じない学生が1名おり、これは初めての体験であった。

*2年のクラスを担当させていただきました。大学に対する意欲が低下している学生や退学希望の学生の対応がいくつかありました。前期、後期ともに2年生が対象の授業を担当していたこともあり、学生の現状把握はしやすい状況にあったと感じています。他の先生方からも

情報をいただきながら、できる限り適切な指導をすることを心がけました。

- * 今年度は、2年生を担当しました。学習面や対人関係面で困難を感じている学生への対応がありました。2年Aクラスの約半数の学生が参加する交流会に2回参加しました。前期は2年生対象の必修科目を担当しているため、学生の様子を把握しやすいのですが、後期は担当していないため、2年生の必修を担当している専任教員から専攻会議で情報を得ました。
- * GPAによる成績指導については、必ず連絡をし、来室するように指導している。それ以外は、3年生であったため、ほとんどが事務的な手続きの押印などであった。
- * 学生との連絡がつきにくく、面談までに至るのがなかなか難しい状況でした。

3) 人間福祉学科 人間福祉学専攻

- * 今年度はクラス担任が1年生であったため、多くは履修登録に関する相談でした。また、社会福祉士国家試験の力試し試験（模擬試験）後の課題の提出を求め、全員分にコメントを付けて返却しました。
- * 2年生の担当であったが、今年度は前期も後期も授業を担当しており、授業後に学生から相談を受けることが多かった。後期の成績配布時には個別面接を取り入れながら、学生の学習状況のみならず、生活状況等を知る機会を持つようにした。3年次のゼミを決める時期でもあり、クラス指導だけではなく、別クラスの学生も相談に来ることが多く、対応した。
- * 担当クラスが4年生であり、ほとんどの学生がゼミ教員との関わりが強くなるため、今年度は単位について積極的に関わる必要がある学生、及び就職に関して助言などを行う必要がある学生、国家試験に関して指導する必要がある学生という枠組みで担当学年の学生と関わった。前期に千鳥会の補助金を受け、ABクラス合同でお弁当会を実施した。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- * 専攻の事情により、前任の先生からクラスを引き継いだためクラス指導主任として皆さんのお付き合いは一年だけでした。前期成績表の配布や介護実習での巡回での就職活動や進捗状況などを話した。また、社会福祉士国家試験受験者への学習状況の把握等を行った。

(2) クラス指導を行う際に工夫している点

1) 人間関係学科 社会学専攻

- * 視覚障害学生については、障害学生支援室との連絡を密にとり、折々に学生とも話をし、学業や学生生活がスムーズにおこなえるように配慮した。クラス指導主任の2015年度介護休業および2016年度の研究休暇により、十分に学生交流を支援できなかったが、4年次の懇親会ではある程度、その目的を達することができたと思う。
- * 話しやすい雰囲気を作るよう心がけています。
- * 成績配布時のコメントと、クラス懇親会の実施、問題を抱えている学生への対応。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- * まずは学生の想いをしっかりと聞いた上で、こちらが伝えるべきことを伝えるというスタン

スで指導しています。また、何か問題行動が生じた際には、あくまでも、その行動が問題となっているのであり、当人自身を否定しているわけではないという点を理解してもらうように気を配りながら指導しています。

- * 2年生のクラス指導が2回目になります。慣れてきた面と、一方で4年前とは学生の雰囲気異なる点の両面に注意しながら、手を出し過ぎず見守りつつ、時にタイミングよく指導を行うことを心掛けました。自分が臨床心理学を専門としているので、学生からの相談を受けの際に臨床心理士的な対応をしないように、あくまで教員の立場で対応するように工夫しています。
- * 学生の呼び出しについては、学生に不要なプレッシャーを与えないように、メールなどでの文章表現を工夫したり、仲の良い学生を通して伝えてもらうなどの配慮をしている。
- * 学生個々の情報を1年次から積み上げて整理しており（施錠管理）、これまでの経緯などを総合しながら指導・相談にのるようにしています。

3) 人間福祉学科 人間福祉学専攻

- * 2年生であり、社会福祉士の資格取得を迷っている学生が多く、個別に面接時間を取り対応した。資格取得を断念するとその後の履修などにも影響するため、慎重に考えるよう促し、学生によっては数回にわたる面接となった。その他、悩みを抱えている学生についても、別時間を設定し、じっくりと話を聞くよう心掛けた。学生によっては、カウンセラーにつなげることもあった。
- * 例年同様、継続的な指導を要すると思われる案件については、次回以降の面談内容に発展させられるよう、その都度面談内容のメモをとるようにしました。
- * 卒業や進路に対してゼミ担当教員と情報共有をすること、同じ対応をすることを心掛けている。また、常勤・非常勤に関わらず、科目担当教員から単位認定について事前に情報が頂けたり、教務委員からも多くの情報を提供頂き、担任が把握できていないことを知ることができ、学生本人に連絡を取るきっかけを作れるなど、多くの支援を頂けている。また、学科会議で学生の相談や報告をする機会を設けて頂けることもあり、担任ひとりで抱えなくて良い環境にある。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- * 4年生のみのクラス指導であったが、授業や実習指導等で個性や成績等はある程度把握できていた学年であったので、顔を合わせた指導よりも個別メールあるいは一斉メールなどを活用した。

(3) クラス指導に関する意見・感想

1) 人間関係学科 社会学専攻

- * 成績履修は基本的に教育支援グループに行くように指導することでよいのかという疑問が残っている。今年度の履修単位計算ミスという結果を踏まえると、今後はさらに同様な事態が起きることが予想され、対応を検討する必要があると思われる。クラス指導での対応には限

界がある。1) 成績通知表の記載法の改善（年次ごとの標準履修単位数の記載は不要かもしれない） 2) Campus Avenue の表示方法等の改善（成績通知表と同様の最新情報が web で参照できるようにするなど） 3) 単位履修の簡素化（現行の読み替え科目の設置をやめ、web 登録と卒業要件の単位充足状況が一致するようにする）といったことまで検討すべきなのかもしれない。

2) 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻

- * 上記した呼び出しに応じなかった学生は、学生カードも未提出で、しかも、家庭に電話しても 2 度目には着信拒否するなど非常に悪質であった。学生の成績が 2 極化していることに見られるように、入学者の偏りが非常に大きくなっているように思われる。このような学生が出てきたことに危機感を抱いている。
- * 今年度、初めてのクラス指導という経験をさせていただきましたので、分からないことが多くありましたが、いっしょに 2 年生のクラスを担当されていた先生をはじめ、他の先生方に適宜アドバイスをいただきながら進めることができたので、安心感がありました。
- * クラス指導は 1 学年に A クラスと B クラスがありますので、大学教員として経験の深い先生と若手の教員もしくは新任の教員がペアになると良いと感じています。
- * 授業で manaba を使っているが、クラス指導にも使えると思う。ポートフォリオとして、個別のやり取りが残っていると、学生との指導がやりやすいと思う。
- * 家庭の事情や心身の問題など、やむを得ない事情で留年をする学生が多く、じっくりと対応、見守る一年でした。

3) 人間福祉学科 人間福祉学専攻

- * 本学科の学生の中の「福祉離れ」が急速に進んでいる（そのこと自体は別段悪いことではないのだが）ために、入学直後から「一般企業に就職するために、必要な心構えは何か？」といった、就職活動に向けた非常に現実的・具体的な相談が 1 年生から寄せられるようになったことに驚いています。学生生活のあまり早い段階から就職活動のことを意識し始めることは、勉学に向かう学生の姿勢を浮足立ったものに変えてしまうような気がして、近年のこのような変化に対してはやや危惧を感じています。
- * 学生の悩みは多様であり、メンタルに不安を抱える学生も増えてきている。親元を離れて一人暮らしをしている学生もおり、必要に応じての声かけが大事だと感じた。

4) 人間福祉学科 介護福祉学専攻

- * 介護福祉学専攻の学年担任は、学生数が少ないことともあるが 1 年から専門必修科目を担当することが多く、クラス指導主任でなくても、学生の個性が把握できるというメリットがある。特に、介護実習では施設の職員や入所者とのコミュニケーションが上手く、学内では見られない個別が見えたりする。

2. まとめと課題

昨年度の報告書では、以下の1～4の項目が今後への課題であるとしてまとめた。1. 役割分担と連携、2. 他の教員や学科内での報告、3. 継続性、4. ベテラン教員がつかんだノウハウを教員間でどのように伝達するか。

これらが継続的な課題でありながらも、ある程度は意識的に取り組まれてきている様子が見えかけた。

今年度は、これらに加えてさらに次の3点が見られた。

1. 必要履修単位数に関する計算ミスをする学生への対応、2. メンタルな問題を抱える学生の増加、3. 学生の二極化傾向から生じる指導の難しさ

これらの問題は、個々の教員での取り組みには限界があるため、FD研修会等での学部全体による取り組みが必要と考えられる。いずれにしても、クラス指導主任という限られた人的資源の中で、いかに効果的に、さらに「学生の主体性を削ぐ」ことのないように実施するかは、永遠の課題であり続けるという現実には変わりはないと言える。

今後ともたゆまぬ工夫と努力が求められる点である。

Ⅶ 平成28年度人間関係学部FD研修会について

1. 平成28年度学部FD研修会のテーマ・実施方法決定までの経過

第3回FD委員会(6月10日)において以下のような話し合いがなされ、28年度の学部FD研修会のテーマおよび実施方法が決まった。

(1) テーマについて

昨年の研修会終了後の参加者アンケートを見ると、「Tipsのテーマの第2弾を」という要望が多かったので、昨年のこの内容をさらに深めていく研修とする。

(2) 具体的な実施方法について

- ・ 昨年は講義形式で一方向的に話を聞くだけで終わったが、終了後のアンケートでは「分科会形式の議論で、このテーマをもう少し深めてみたい」という希望が多かったので、今年は最初から分科会の形でスタートすることにした。とはいえ、いきなりフリートークというのも難しいので、やはり各グループに問題提起者の役割を担うレポーター1名を配置し、導入部で具体的な実践例を報告してもらってから議論に入るのがスムーズである。
- ・ となると、やはり昨年のTipsで報告者となっていた井上先生、大出先生、尾久先生に再びご登場いただくのが最善の方法で、最初に3先生から昨年度の話の内容をさらに発展させた形のレポートをしていただく。
- ・ 各レポートの概要が固まったら、学部教員全員に向けて事前に「参加希望分科会」を募って当日は希望するグループに出席してもらう。ただし、あまり人数が偏るようなら、事前に調整を行う(したがって、「第1希望」「第2希望」…という希望票の記入が必要)。
- ・ FD委員は各グループに分散して参加し、司会者を務める(嶋貫が後半の全体会の司会を行なう)。

2. 日時・場所等

- ・ 平成28年12月9日(金) 教授会終了後 17:00～
- ・ 研修会 17:00～19:00 人間棟 7114・7384・7385・7387 教室
- ・ 参加者数 28名(教員23名、事務職員5名)

3. 内容

(1) タイムスケジュール

- ・ 17:00～ 開会の挨拶
- ・ 17:15～18:30 分科会での議論
- ・ 18:30～19:00 各分科会の結果報告、まとめ

(2) 各分科会の内容

【第1分科会】7384室：大出 春江 先生「manabaの活用がうまくいかない事例を考える」
manabaは課題に対する学生の提出物をweb上で一元的に管理でき、確実に保存されるので

とても便利なツールだと思います（授業外のやりとりも自由ですから、学生にとっても教員にとっても学外で費やす時間が増えることを意味しますが）。教員から学生への個別指導のみならずセミナー系の科目でグループ学習を行い、その成果を提出する場合も有効だと思います。

こうした効果が発揮されるためには教員の出す課題がコースニュースとして流れ、それを学生がメールを通じて知り、manaba にアクセスして具体的内容を確認することが前提になっています。ところが最近わかったことは、manaba のコースニュースが増えると、学生はそれらを読み流すか選択的に（時には気まぐれに）読むことがあるということです。つまり実際の利用場面では、コースニュースを流しても確実に一人一人の学生に情報が届くわけではないということです。manaba 利用の前提を崩すようなこの事態にどう対応すべきかを検討したいと思います。

【第2分科会】7385室：尾久 裕紀 先生「授業に必要な著作権の知識」

授業を理解するために資料をコピーして配布する、写真を示す、動画を見せるなど工夫をされていると思います。本学ではmanaba というクラウド型教育支援システムが導入されており、うまく使うと効率的な授業も可能になります。

これらの新しい授業ツールを使用する際に生じる可能性のある、新たな著作権問題について共有します。

【第3分科会】7114室：井上 修一 先生「授業をうまく運営するためのちょっとした工夫」

この講座では、授業のちょっとした工夫（成功したもの、失敗したもの、少し怪しいもの？）を共有して、明日の授業に活かしていきます。まずは、学生との相互作用を促す試み、広すぎる教室を活用する試み、私語対策などをメンバー同士で話していきます。

（話題提供例）

- ・学生との相互作用を進める大型出席カードの活用。
- ・7127 教室で前の方に座ってもらう工夫とその後。
- ・7114 教室だからできること。
- ・私語対策の奥の手・・・など。

【第4分科会】7387室：堀 洋元 先生「1時間を削り出せ～授業時間外の学習時間を作り出す工夫～」

授業に関するアンケートに「この授業のために毎回予習・復習を合わせてどの程度自習しましたか」という項目があります。FD 活動報告書によれば、学部全体の平均値は2点以下、すなわち1時間未満となっており、授業時間外の学習はあまり行われていない印象を受けます。そこで、この分科会では教員が授業時間外にどのような予習・復習課題を与えているか、そして、学生たちに学習時間を削り出してもらうためのアイデアについて意見交換したいと思います。

（3）各分科会における議論の概要

【第1分科会】

大出春江先生から「manaba の活用がうまくいかない事例を考える」というテーマで報告がなされ、これを受けて参加者で討議を行った。

manaba は課題に対する学生の提出物を web 上で一元的に管理でき、確実に保存されるのでとても便利なツールではあるが、最近の現象として教員が発信する「コースニュース」を学生が見ないという事態が多く発生するようになってきた。この原因はラインの普及によって学生がメールというツールを使用する習慣がなくなったことにあると判明した。そこで、このような最近の学生の傾向に対応しつつ、確実に manaba の情報を学生に伝達するために、どのような方策が考えられるかを話し合った。その結果、休講情報などを流すために使っている campus avenue と manaba のデータを一体化させた新たなアプリを開発して、これを web にアップすることが有効なのではないかという結論に至った。もちろん、このような対応を行うためには、学内の情報インフラを根本的に改革していかなければならず、容易なことではないと思われるが、新しい時代の学生のニーズに対応していくためには、大学自身の情報提供体制を柔軟に変えていくことが求められるのではないかと思われた。文責：嶋貫真人

【第 2 分科会】

第 2 分科会では、まず尾久裕紀先生が「授業に必要な著作権の知識」について講師として講義され、その後参加者から質問や討論がなされた。学校で教材として既存の著作物や画像や音楽を使用する際には、それ以外の目的で使用する場合に比べて著作権の制約は緩やかなものとなるが、教員が意識せずに著作権を侵すケースも多いことが確認された。とくに、クラウド型教育支援システム使用の際には、新たな著作権問題が生じる可能性があることが確認された。著作件に関する参考資料は配布されたレジュメに掲載されているが、そのなかで 1 冊選ぶなら「大学図書館における著作権問題 Q&A」が必読とのことであった。文責：伊藤美登里

【第 3 分科会】

第 3 分科会は、(1) 双方向の授業の進め方、(2) 機器の使い方、(3) 私語対策等について意見交換を行った。

- (1) 双方向の授業に関して、授業中にマイクを向けるやり方、コメントカードを使ったやり方、manaba を活用したやり方が採用されていることが共有された。
- (2) 機器の活用に関しては、手書きのコメントカードをコピー機で読み取り、manaba と同期させるやり方について情報提供頂いた。そのほか、体育の授業で、スマートフォンで動画を撮影し、その場で動作を確認するためのモバイル型プロジェクターについても情報提供があった。モバイル型プロジェクターの活用においては、その場に応じて、カウンセリング場面を撮影し確認するやり方についてアイデアが共有された。さらに、7114 教室常設のプロジェクターの活用についてマルチスクリーン方式の映写について情報提供があった。
- (3) 私語対策については、難しいものの各自が模索しながら適切に対応していることが報告された。いずれにしても、FD 活動 (tips) は、学生にとってわかりやすく、役に立つものであり、同時に教員にとっても、教育効果や効率化を促すものである必要があること、さらにその手法は、教員の年代や個性によって多様性を持ち、それぞれのスタイルとして結実していくことが共有された。文責：井上修一

【第 4 分科会】

第 4 分科会では、まず堀洋元先生が「1 時間を削り出せ～授業時間外の学習時間を作り出す

工夫～」というタイトルで講師として講義され、その後参加者から質問や討論がなされた。各参加者の授業時間外の学習時間を作り出す工夫の共有に始まり、学問体系によって予習や復習の持つ意味が変わるのではないかと、大学だけではなく小中高の教育から考えていく必要があるのではないかとといった内容まで幅広い議論が行われた。学生と教員双方の負担を考えながら、教員一人一人ではなく、学科・学部レベルで授業外学習時間について意見交換を行い、方向性を決めていくことが大切であるという結論に達した。文責：本田周二



4. 終了後の参加者アンケート結果から

(1) 開催の形式等の全体的な評価

- 1) 分科会形式について：活発に意見が出るので、とても良かった (9名)。
- 2) 事務職員の方にも参加してもらって問題意識を共有できたのが、とても良かった。
- 3) 分科会後の全大会の時間をもっと長くとして、そこでの意見交換に力を注いだ方が良い。特に自分が参加できなかった他の分科会に対する関心が強いので、全大会では各グループの司会者が簡単な報告をするというよりも、各レポーター本人からの総括報告を聞きたいし、他分科会に参加した人が質問や意見を述べられるような機会もあった方が良い(3名)。
- 4) 4つの異なるテーマの分科会が同時進行する形では、議論に参加できない分科会ができてしまってもったいない。むしろ、同じテーマについていくつかの小グループに分かれて議論する方が良いのではないかと。

(2) 今後取り上げて欲しいテーマについて

- 1) このテーマでしばらく継続して行って欲しい (4名)。
- 2) 第1分科会で出された結論 (webシステムに関する大学への要望事項) が通らなかった場合に、次善の策としてどのような対応ができるのかを議論しておく必要がある。

- 3) 本学の他学部との合同で、授業改善に向けた意見交換会を行いたい
- 4) 他大学の FD の取り組みの紹介
- 5) 学生を交えた授業改善（あるいは大学生活全般の改善）に向けた意見交換会
- 6) 非常勤講師との連携の方法について
- 7) 地域貢献について（2名）
- 8) 成績評価のあり方について
- 9) ゼミ等の少人数授業を活性化する方法（2名）

（3） 実施時期について

- 1) この時期がちょうど良い（3名）。
- 2) この時期で固定してしまって、恒例行事化するのが良いのではないか。
- 3) 前期に本研修を行って、その成果を後期の授業で試してみるというのも一案である（2名）。

5. 来年度以降の研修会に関する議論

第8回 FD 委員会（1月20日）において、次年度以降の学部 FD 委員会のあり方について、以下のような意見交換がなされた。

（1）参加者アンケートをふまえた研修会全体の振り返り

- ・年1回という開催頻度は、前回の議論の内容をさらに発展させるという意味では、やや足りない気もする。せめて半期に1回の割合で開催することができれば良いのだが。
- ・(参加者アンケートにあるように) 後半の全大会にもっと時間を割ければ、確かに参加者が得る情報量は多くなるだろうが、他方で前半の分科会の時間が削られてしまうことになる。限られた時間の中で両方の要請に完全に応えることは不可能で、結局のところ今回のような時間配分が妥当な線なのではないか。
- ・(参加者アンケートにあるように) 「他の分科会の内容についてもっと知りたい」という気持ちも理解できるが、だからといってすべての分散会で統一テーマについて議論するやり方が本当に高い到達度や満足感を保障するとは限らない。やはり今回のようなテーマごとの分散会という形式が良いのではないか。
- ・(参加者アンケートにあるような) 他学部の FD 活動との交流では、教授内容の差異などもあって、あまり共有できる部分は多くないのではないか。
- ・今回のような学部横断的・総論的なテーマを選べば、他学部との合同研修会でも一定の成果はあげられるだろう。ただし、準備に向けた時間・労力と研修の成果とのバランスを考えると、あまり現実的な方法とは思えない。

（2）来年度の研修会に向けた考え方

昨年度から始まった「授業をよくする Tips」を4年間継続してみるのが良いのではないか、ということになった。「4年間」とする理由は、全教員がこの期間中に4つの異なるテーマの分科会のすべてに参加する形でローテーションを組めるからである（もちろん、「4年間連続して

同一テーマを深く追求したい」という参加形態も排除されない)。とはいえ、今回の各分科会の参加者全員が次回は他の分科会に移動してしまうというのでは、これまでの議論の内容を受け継ぎ、発展させていくことができないので、28年度の各分科会の参加者の中の最低1名（たとえば司会者を務めたFD委員）が元の分科会に残る形になるだろう。具体的な実施方法については、29年度後期の本委員会であらためて検討していくことになった。

Ⅷ 非常勤講師との教育懇談会

本学では、非常勤講師との教育懇談会を毎年春に開催し、授業の質の充実・向上に向けた率直な意見交換を行っている。人間関係学部においては、例年、学部の全体会を実施した後に、さらに各学科・専攻に分かれて議論を行っている。平成 28 年度の教育懇談会は、5 月 21 日(土)に開催された。

最初に全体会において学部長からのプレゼンテーションがあり、その後、学科・専攻に分かれて教育内容に関する熱のこもった意見交換が行われた。最後に多摩キャンパス全体の合同懇親会が開催された。

1. 学部の全体会の概要

小川学部長による以下のような講話があった。

- (1) 最初に本学の教育理念、人間関係学部の教育・研究上の目標について、簡単に説明が行われた。さらに、人間関係学科・人間福祉学科のそれぞれの教育・研究上の目的について説明された。
- (2) 大学全体の動きとして、比較文化学部・社会情報が千代田キャンパスに移転していく経過について解説が行われた。
- (3) 平成 30 年度を目途に、人間関係学部の改組が予定されていることが報告された。
- (4) その他、授業アンケートの実施に関すること、障害をもつ学生に対する支援体制のこと、学習支援システム「マナバ」の導入のことが説明された。

2. 各学科および専攻における懇談会の内容

近年では、本学に限らず全国のどの大学においても、社会が大学教育に対して期待するものの内容が、これまでのものから大きく変容していくという「時代の波」に直面させられている。すなわち、従来の教師からの“一方通行型”の授業ではなく、学生自らが主体的に考え、参加する授業というスタイルへの移行である。大学教育の「一大転換期」ともいべきこのような時代にあって、我々専任教員だけでなく、非常勤講師として日々学生の教育にあたっておられる先生方においても、このような社会からの要請に応えるべく新たな壁に突き当たり、またそれを乗り越えるための試行錯誤を重ねるなど、さまざまな形で苦慮されていることを懇談会を通じて実感させられた。

当日出された主な質問・意見等は、以下のとおりである。

【授業の運営方法・学生の指導方法に関すること】

- (1) 数学の基礎に関する理解が十分でない学生に対して、統計などを教えるのは難しい。⇒ (対応等) 1 年次の基礎統計やコンピュータの授業でフォローしてはいるが、至らない点が多いかもしれない(社会学専攻)。
- (2) 障害をもつ学生で合理的配慮が必要な者へのサポートに関して、他大学の事例を紹介し合う等の情報交換を行った。今後、大学全体として合理的配慮が必要な学生に対するサ

- ポート体制を確立していくことが重要である等の意見が出された（社会・臨床心理学専攻）。
- (3) 実習系授業における調査・実験等における倫理的配慮について、意見交換を行った。授業内で実施する調査・実験については、制限を設けるなどして、学生への教育効果を最大限高める工夫が必要である等の意見があった（社会・臨床心理学専攻）。
 - (4) 授業の出席回数については、どのように扱ったらよいか。⇒（対応等）学則上のルール（単位認定のためには、2/3 以上の出席回数が必要であること）を前提としつつも、担当教員によりある程度裁量の余地がある（たとえば、遅刻をどのように扱うかなど）。このため、授業担当者が設定する細かなルールについて、学生に周知徹底をすること（シラバスに記載する、初回の授業で告知する等）が大切であることを確認した（社会・臨床心理学専攻）。
 - (5) 心理学的現象などに関して従来の知見を学生に理解させる際には、現代の学生のニーズを捉えながら講義することが大切である。そのために各教員で工夫すべきポイント（今の学生にとってわかりやすい例に置き換えるなど）について情報交換を行った（社会・臨床心理学専攻）。
 - (6) 今年度から「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ」の専任の授業担当者が交代したが、授業の流れやレジュメなどは昨年度と変更がない旨を確認した。また、これまでどおり授業の前後にこの科目を担当していただく非常勤の先生方との打ち合わせを行い、授業内容の確認や授業の意図などを確認していく予定である。事例等について一部で古くなってしまったものもあるので、来年度の修正の要否について今年の先生方のご意見等も踏まえて検討していきたい（人間福祉学専攻）。
 - (7) 今年度から新たに演習科目を担当することになったが、昨年度の学生の様子はどうか。⇒（対応等）昨年の演習の授業ではロールプレイ等の手法が功を奏しており、特に不安ややりにくさを感じず点はなかった（人間福祉学専攻）。
 - (8) 授業を進めていくうえで「気になること・困っていること」という話題で、意見交換を行った。⇒（対応等）2年生の夏休み中のボランティア体験は、たしかにその後の演習の授業の際に活かされているように感じる。ただし、演習の授業では「正解」というものがない難しい事例も扱うため、学生が実際にボランティアの中で遭遇した問題と照らし合わせながら、「はたして、あのような対応で良かったのか」、「どうすれば良かったのか」と、新たな悩みを抱えてしまうこともあるようだ。そのため、授業のまとめや授業の展開の仕方に関して、他の先生方と共有し合いながら進めていきたいと思う。昨年度も何回か先生方と打ち合わせを行なったが、それがとても勉強になった。今年もそのような機会をもちたい。学生が授業で考えたことや普段の生活の中で気づいたことなどについては、次の授業の際に全員に共有するようにしているが、ときには2～3週前の授業内容に関する気付きである場合もある。ともかく、学生が気づいたことを大切にしながら授業に取り組んでいる（人間福祉学専攻）。
 - (9) 今年度、「実習事前指導」の授業担当からはずれて、「巡回指導」のみの担当となった。実際に実習が始まる前に実習生と個別の面談は行っているが、「実習事前指導」の担当教

員から授業中の学生の様子等に関して情報を得ておきたい。特に、配慮やフォローが必要と思える学生については、専任教員と綿密な連携を行っていききたい。⇒（対応等）大学側が把握できていない学生の個人的な問題もあるかもしれないが、専任教員が把握できている範囲で、必要な情報はできるだけお伝えするようにしていきたい（人間福祉学専攻）。

- (10) 前期の「社会福祉学基礎セミナーⅠ」の授業の様子について、意見交換を行った。今年度はこの授業で毎年実施している福祉現場等の見学までの手続が非常にスムーズであったと思う。学生の出席状況も良好で、レポートの感想などもしっかりと書かれていたと思う（人間福祉学専攻）。
- (11) 後期の「社会福祉学基礎セミナーⅡ」の授業計画について、昨年度の授業内容を振り返りながら意見交換をした。昨年度の学生は、主体的に取り組む姿勢がみられ、伝えたことは次までにきちんと終わらせていた。ポスター発表やクラス代表として全体で発表するグループの準備も問題なくできていたと思う。今年度も昨年度と同様の形式で進めることが確認され、初回の授業の持ち方については、専任教員で検討した結果を連絡することとした（人間福祉学専攻）。
- (12) 「英語Ⅲ」科目に関して。毎年、数名が受講しており、英語教材も工夫しながら取り組んでいる。今年度も3名受講している。英語教育については多摩キャンパス全体での再編に向けた作業が現在進行中であり、その進捗状況について意見交換を行った（人間福祉学専攻）。

【学生の言動・授業態度等に関すること】

- (1) グループワーク実施時に、議論への参加を拒否する学生がいて困っている。⇒（対応等）座席指定を行うとともに、議論への参加は当該科目履修上の必須条件であり、拒否は成績に影響する旨の理解を徹底させる（社会学専攻）。
- (2) 学生がアクティブラーニングに慣れていないと感ずる。⇒（対応等）アクティブラーニングはこれから本格的に導入していく段階なので、今後の展開に期待している（社会学専攻）。
- (3) 授業中に突然泣き出す学生がいて、対応に困惑している。⇒（対応等）何らかの精神的な原因が考えられる場合には学生相談センターの利用を促すとともに、授業参加が難しい程度の症状である場合には共同研へ連絡してほしい（社会学専攻）。
- (4) リアクションペーパーの反応は良いのだが、教室内での発言が少ない。⇒（対応等）この点は、これまでも課題されていた事柄であり、FD委員会でもさまざまな取り組みを試みてはいるのだが、なかなか成果をあげられていない。事前に一定の役割を与えてやると比較的積極的に発言する傾向があるので、ロールプレイングの手法を取り入れると効果的かもしれない（社会学専攻）。

【大学の教育設備に関すること】

- (1) 教室によっては、自分で持ち込んだPCのデータが備え付けのプロジェクターに繋がら

ないところがある。⇒（対応等）古い RGB タイプの接続では PC との間の相性の問題が発生するようだが、USB や HDMI 接続のものであれば繋がるはず。機材は順次新しくしているところであるが、まだ一部に古い機種が残っているところがある（社会学専攻）。

- （2）教室に学生向けの電源がなく、wifi の設備もないので困っている。⇒（対応等）学生がノート PC やタブレット PC を持ち込めるよう、教室の就学環境の改善に向けて検討していきたい。Wifi の操作環境については現在試行中であり、今後拡充されていく予定である（社会学専攻）。
- （3）統計ソフト SPSS の使用中に「入力不可」になることがある。⇒（対応等）すぐに調査する（社会学専攻）。

【その他】

- （1）保護者から授業内容に関する意見や改善要求などは出されているのか。⇒（対応等）これまでの専攻の中で出された意見などを紹介するとともに、他大学の情報も交換を紹介し合った（社会・臨床心理学専攻）。
- （2）今年度の実習巡回指導の予定（時期・施設名）を教えてほしい。⇒（対応等）予定表をお渡しした。ただし、これは確定版ではなく、たとえば非常勤の先生が懇意にしている施設があるとか、事前指導の授業を行った教員が巡回指導を行った方が良いなどの事情によって、今後一部に変更があるかもしれない。今後、非常勤の先生のご意見もうかがいながら確定させていきたい（人間福祉学専攻）。

本学の教育理念

●教育理念の基本的精神:「関係的自立」

「関係的自立」: 各自が互いに社会に貢献し得る有能さを確保しつつも、他者との関係の中でこそ自立と自己実現を目指す

校訓

恥を知れ

他人に対して言うことではなく、自らを省みて、自らを律するためのものであり、人格形成の基本となる言葉として、学生に周知している。



人間関係学部の教育研究上の目的

「共生社会の実現」を目指して、様々な人々や社会と共存するための知識を学び、人間関係や社会についての洞察力を身につけ、人間の幸福や福祉についての深い理解を習得し、柔軟な想像力・すぐれた問題解決能力・実践力を備えた心豊かな人材を育成する。

学科の教育・研究上の目的

●人間関係学科
社会学専攻では、社会的想像力と社会調査のスキルを備え、幅広い視野と柔軟な発想を持った人材を育成する。
社会・臨床心理学専攻では、人間関係にまつわる問題に、適切に対処できる「人間関係力」を備えた人材を育成する。

●人間福祉学科
生活を送る上で様々な課題を持っている人が、「共生」できる社会を創ることに貢献できる人材を育成する。

大学全体の動き

●比較文化学部と社会情報学部が千代田キャンパスに移転。比較文化学部は、平成29(2017)年度、社会情報学部は平成30(2018)年度までに、全学年が千代田キャンパスで学ぶことになる。

比較文化学部の履修キャンパス

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
2012年度入学生	多摩(4年次)	—	—	—	—
2013年度入学生	多摩(3年次)	多摩(4年次)	—	—	—
2014年度入学生	多摩(2年次)	多摩(3年次)	千代田(4年次)	—	—
2015年度入学生	多摩(1年次)	多摩(2年次)	千代田(3年次)	千代田(4年次)	—
2016年度以降入学生	—	千代田(1年次)	千代田(2年次)	千代田(3年次)	千代田(4年次)

社会情報学部の履修キャンパス

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
2012年度入学生	多摩(4年次)	—	—	—	—	—
2013年度入学生	多摩(3年次)	多摩(4年次)	—	—	—	—
2014年度入学生	多摩(2年次)	多摩(3年次)	多摩(4年次)	—	—	—
2015年度入学生	多摩(1年次)	多摩(2年次)	多摩(3年次)	千代田(4年次)	—	—
2016年度入学生	—	多摩(1年次)	多摩(2年次)	千代田(3年次)	千代田(4年次)	—
2017年度以降入学生	—	—	千代田(1年次)	千代田(2年次)	千代田(3年次)	千代田(4年次)

多摩キャンパスの今後

- 人間関係学部は多摩キャンパスに残ります。
- 平成30年4月を目途に、学部の改組を予定しています。
- 現行の社会学、心理学、社会福祉学の3本柱は維持しつつ、そこに健康美学を加えた構成とする予定です。
- 詳細は、もう少し具体的に決まったらお知らせします。

授業アンケートの実施



- 前期は7月4日(月)～7月23日(土)、後期は12月1日(木)～12月22日(木)で実施いたしますので、ご協力をよろしくお願い致します。
- 本学部では、学部のホームページにおいて、FD活動報告書をPDFで公開しております。
- 授業アンケートに対する教員の回答は、FD活動報告書の資料編に掲載されますので、ご協力及びご了解をお願いします。

9

学生対応の手引き



- 教職員の学生対応のために
～気になる学生とのかかわり～
- 学生相談センターが作成した小冊子が講師控室に置いてあります。参考にして頂ければ幸いです。

10

障害学生への対応



- 平成28年4月より、障害者差別解消法が施行され、私立大学においても合理的配慮の提供が義務(努力義務)となりました。
- 人間関係学部には障害学生支援委員会がありますので、気になる学生がおりましたら、まずは専任教員にお知らせ下さい。必要に応じて、障害学生支援委員会を中心に、配慮の必要の在り方等について検討します。

11

Manabaについて



- 本学では LMS (Learning Management System)に manaba を導入しています。
- 効果的・効率的な授業運営にご活用下さい。
- 再度マニュアルが必要な方は、ningenfd@ml.otsuma.ac.jp 宛にお申し出頂ければ準備致します。講師控室に縮刷版を掲示しますので、ご参照下さい。

12

IX 人間関係学部におけるFD活動の課題

1. 組織レベルでの課題

平成30年度からの大妻女子大学多摩キャンパスは、装いを新たにして再スタートを切ることが決まっている。社会情報学部・比較文化学部の千代田キャンパスへの移転によって、28年度末の時点では30年4月以降は人間関係学部のみ多摩キャンパスに存続することが決定しており、今後多摩に新学部設置の構想はあるものの、当面はいかにして本学部単独での多摩の教育内容を魅力的な形で展開していくかが、組織上の大きな課題となる。

そこで、このような新たな局面に対応すべく、本学部の2学科では30年度に向けて大幅な組織上・カリキュラム上の改編を予定している。すなわち、人間福祉学科では従来の2専攻体制を廃止して単独学科の中で社会福祉士・介護福祉士等の養成を続けていくことになるし、人間関係学科の2専攻においても、大幅なカリキュラム改訂が予定されている。現在、本学部ではこのような新体制のスタートに向けて、30年度以降のデュプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、そしてアドミッション・ポリシーの策定作業を進めているところであるが、今後はこれらの各プランを日々の教育内容に具体的にどのような形で反映させていくのかが、各学科・専攻に問われていくことになる。

また、30年度からは全学共通科目の「英語」が外部業者への委託の形で実施されることが決まっているが、このような中で専任教員と委託先業者との連携をどのように図っていくのかも、今後の大きな検討課題となってくると思われる。

2. 個々の教員レベルでの課題

平成27年度・28年度と2年連続で「授業をより良くするためのTips」というテーマで、授業内容の向上を目指した学部FD研修会を実施したが、いずれも参加者の間では好評であり、当面はこのテーマの下で一定の成果を得るまで連続して実施していきたいと考えている。そして、この研修を実りあるものとしていくためには、議論の中で得られた知見を各教員が日々の授業の中に取り入れて実践してみることが大切であり、「議論⇒実践⇒成果の持ち寄り⇒再議論」というフィードバック・サイクルを通して、全体のレベルアップにつなげていきたいと思っている。

3. 事務局および各種委員会との連携について

近年は学生が大学生活に期待する内容が、ますます多様化してきているように感じられ、個々の教員は単に担当科目の授業内容の向上を目指すだけでは、これらのニーズに十分に答えることができなくなってきているように思われる。たとえば、友人関係につまずいて大学から足が遠ざかってしまう者、入学後の早い段階から就職活動を見据えた準備を始めようとする者、海外にまで目を向けたボランティア活動に情熱を燃やしたいと申し出てくる者、アルバイトに精を出して学業がおろそかになりがちなる者…のような多様な問題に対して、各教員はクラス指導やゼミ等の機会を利用して、丁寧に対応していくことが求められているのである。

しかし、当然のことながら、これらの多様な問題に対して、1人ひとりの教員の力だけで対

応していくことは不可能であり、今後は各種委員会の活動を一層充実させていくとともに、学生支援グループや学生相談センター等との連携をさらに緊密にしていくが必要になってくると思われる。

資料編 「授業に関するアンケート」に対する教員の回答

2016（H28）年度前期 大妻女子大学人間関係学部
「授業に関するアンケート」について対応策、質問

- ① 氏 名
- ② 科目名
- ③ 今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されるおつもりですか。
- ④ 施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘下さい。
- ⑤ 受講生への要望があればお書き下さい。

①池上賢

②日本文化・事情

③授業評価については、おおむね良好な評価をいただいたと感じている。ただし、人間関係学部の平均に比べやや評価が下回っているため、以下のような点を改善したい。授業への取り組みとその成果という項目について評点が 2.93 と他の項目と比較して下回っている。以上を踏まえ、次年度は中間課題を提示するなどより学生が積極的に授業に参加するような工夫をしたい。マンガやアニメを好きでないについていけない部分があったという指摘があったことを踏まえ、より初学者を意識した内容にしたい。以上である。

④特になし。

⑤特になし。

①板倉香子

②社会福祉援助技術論Ⅲ－B

③講義での話し方ははっきりしていると思っておりましたが、親しみやすさを意識したり、熱を込めたつもり話し方などが「聞き取りづらさ」につながってしまいました。眠くならない程度のメリハリを保ちつつ、聞き取りやすさを心がけたいと思います。

④施設設備は、AV 機器や PC、書画カメラがそろっていて使いやすいです。正面のスライドを使用すると、板書がほとんどできなくなるのは残念ですが、致し方ないと思っています。サブスクリーンは斜めになってしまい、学生からは見づらいようでした。正面とサブとで映写するものを分けて使用したかったのですが断念しました。受講者数は講義型としては適正だと思います。参加型、双方向型の講義を展開するには多いと思います。

⑤授業の最初から最後まで寝ている、別の授業の課題をしている、受験参考書を開いて別の勉強をしている学生が散見されました。国家試験受験資格取得のために仕方なく履修せざるを得ない場合もあるとは思いますが、授業には積極的に参加してほしいと思います。

①伊藤美登里

②身体とファッションの社会学

③黒板に教員が書いている量が多すぎるとの指摘に対しては、配布資料をもう少し多めにすることで対処したい。また、より分かりやすい板書を心がけたい。「難しい言葉が多い」というのは、おそらく社会学の概念を用いて説明している部分であると思われる。概念の説明をより丁寧にしていきたい。ただ、以前に似たような指摘があった翌年、より丁寧にゆっくりと授業を行ったところ、今度は、「授業の進み方が遅い。もっとたくさんを教えてください」という趣旨の意見が出たことがあった。それをふまえて、授業では、「進み方が早すぎるか、遅すぎるか」、「説明をもう少し丁寧にした方がよいか」「理解できたか、先に進んでよいか」と直接学生さんに尋ね、確認しながら進めているのだが、返事を行う学生さんはうなづいて「先に進んでよい」とのサインを送っている。そうでない（サインを送っていない）学生さんの意見かと思われる。サインが授業中には出しにくいのかも。あるいは、確認をもっと頻繁に行った方がよいのかもしれない。どちらの希望により沿った形が

望ましいのか、悩むところであるが、できる限り対処したい。

④なし

⑤なし

①井上修一

②高齢者に対する支援と介護保険制度 I

③概ね良い評価であった。今後は、授業中に学生に発言を求める機会をさらに増やしたい。さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。

④特になし。

⑤特になし。

①井上修一

②成年後見制度

③概ね良い評価であった。「さらに発展的に学びたい」「授業を受けて良かった」「新しいものの発見」「理解できる」の得点が高かった。さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。

④特になし。

⑤特になし。

①浦尾和江

②介護技術

③講義・実技の場面で私語がある学生については、授業に集中できる授業内容や進め方を検討します。また、注意を促します。

④履修者が多い授業です。助教の先生との事前打ち合わせ・準備、後片づけ等に時間を要しています。必要なことですので、次年度も引き続き実施する予定です。施設の設備や実技に必要な物品等については改善すべき点はありません。

⑤ 2 コマ続きの授業です。休まないよう出席して下さい。

①大久保暢俊

②社会・臨床心理学研究法（木 1）

③アンケート結果より、予習復習等の課外学習に改善の余地があると愚考します。この改善のため、座学で得た知識との関連を問う課題を考えております。このような「授業内で完結させない」課題の設定は、同時に授業外での学習の機会と関連すると考えます。

④研究の全過程を実習してもらうため、ある一定期間、集中的に PC を使う必要があります。もし可能であれば、貸出ノート PC の台数増加と、そのためのネットワーク環境の拡充を望みます。

⑤特にございませぬ（優秀な学生が多いので）。

①小川浩

②障害者支援と障害者自立支援制度 I

③全体に平均よりも高い評価を受けたが、項目 15 の自習に関する部分は 2.13 と依然として低かった。参考図書を紹介等をもう少し多く行っていきたい。項目 16 の授業中の質問・意見を述べるについては、前年度の 2.70⇒3.30 とポイントが上がった。授業の中で、考えたり、学生間の意見交換の機会を設けた成果が出たのかもしれない。こうした努力を今後も継続していきたい。

④特にありません。

⑤特にありません。

①加藤浩治

②コンピュータ応用、コンピュータ基礎 A

③コンピュータ応用は評価が高めに受け取れます。これは、今回の受講者数が少なかったことと昨年度の結果を参考にして学生たちに目配りを多くしたためかもしれませんが、今後とも気を付けてまいりたいと思います。次に、コンピュータ基礎 B は 53 名と 43 名という受講者数で出席率も高かったため、1 コマの授業運営に汗を流しました。こちらからの説明が早すぎるといふ人と長すぎるといふ人がいることは、ある程度はやむを得ないことと思いますが、今後は課題に対処する際の心構えや課題を作成した後で到達できることをより明快に見せていこうと思います。また、欠席している友人の出席カードを使ってタッチをしている学生を見受けたときに、個人的な注意を避け再発防止のため受講生全体に注意喚起のお説教をしましたが、当該学生とそのグループの学生たちはとても渋い表情で聞いていましたことが心残りです。後期に関しましては最初の時間に、他人のカードで出席タッチをしないよう丁寧に話しましたので、注意深く経過を観察しようと思います。

④教室の設備と管理が適切に行き届いていますので、特に要望はありません。

⑤受講する前にシラバスに目を通しておいってください。また、質問があるときは、先生にわかるように挙手をお願いします。

①加藤佑昌

②水曜 3 限逸脱行動論、水曜 4 限カウンセリング A

③どちらの科目でも「15. この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」の項目のみが学部全体平均を下回っていましたので、自習を促すような工夫を検討いたします。

④特にありません。

⑤ 3 限の講義は 76 名と受講者が多めだったのですが、どうしても少人数の授業よりも学生の反応が薄くなり、やりにくさや、興味を持ちにくい内容なのかと感ずることがたまにありました。しかし、今回の集計結果で「①良かったと思う点」に肯定的な感想・意見が多数寄せられており、とても励みになりました。それと同時に、冷静な授業態度と熱心な感想・態度とのギャップがもう少し埋まると、授業もやりやすくなるように感じました。もちろん、そ

れは講師側の力量も関係していると感じております。

①門林道子

②老いと死の社会学

③まず、Ⅰ．教員のこの授業の進め方についてですが、評価における平均点では、4．授業は学生の理解度を考慮しながら進められた、5．質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促したに関して、他の項目よりも低い評価がみられました。今年は、ほぼ毎回のよう、授業において学生に最初に課題を提示し、リアクションペーパーに書きこんでもらう、次週の冒頭で紹介、還元するといったことを続けました。その段階で、授業について意見や感想、わかりにくい点があれば、書く、ということもできたはずなので、この点については私も少々戸惑いを感じています。ただ、具体的に「改善点」と記述されたなかで、準備に熱意を感じるがスライドが見にくい、レジュメに情報が詰まりすぎていてわかりにくい、という指摘がみられました。今後、スライドの内容やレジュメの詰め具合、授業内容そのものを詰め込みすぎないような見直しをはかっていきたいと考えています。さらにスライドについても、見やすい工夫を心がけたいと思います。Ⅱ．授業の内容については、上記Ⅰで示したように、学生の理解度に留意しながら、一回の授業での内容の分量等について見直しをしたいと考えます。Ⅲ．この授業の取組みとその成果について、15、他の授業でも同じような状況にあります。授業のための予習復習などがほとんどなされていないということで、ときに課題レポートや読書の指定なども致しましたが、結果的には1.40とたいへん低い結果となってしまっています。これについては次年度以降、事前に課題を出し、家で調べてくる、あるいは何度か授業で学んだ用語などを復習させるための小テストを実施するなどの対策を考えていければと思います。授業中、「質問ありませんか」と聞いても、挙手などはまれであり、私のほうで、時折あてて各自の意見等を聞くようにしています。答える際も、小さな声で自信なさそうに答えている場合が少なくなく、このようなところで、もっと学生の主体的な参加と取組みが欲しいと考えるし、私自身もそのようにもっていけるような授業をこれから模索しつつ取り組んでいきたいと思っています。

④なし

⑤なし

①河上睦子

②女性史

③補助教材として、画像などを manaba で使用したが、後部の座席ではよく見えなかったようだったので、工夫が必要であった。復習学習を2回の小レポート提出でおこなったので授業理解が進んだ学生が多かったが、期末レポートとの提出時期が近かったことは問題点として残った。多人数のための私語防止策として座席指定をおこなってよかったが、座席が窮屈だと指摘があったので検討したい。歴史的事実にかかわる事柄について主体的に取り組もうとする姿勢をもつように、今後も取り組みたい。

④プロジェクターで写した像が、後部座席でも明確に見えるようにしていただきたい。

⑤特になし。

①川上り子

②相談援助演習Ⅴ・相談援助演習Ⅲ・相談援助実習事後指導

③大妻の学生さんに寛大な評価をいただきました。後期の講義にやる気がわいてきます。年々体力は落ちてきますがマンネリ化せぬよう工夫し、楽しくわかりやすく身につく授業を目指します。学生一人一人の質問にできるだけ丁寧に対応したいと思っています。

④特にありません。

⑤特にありません。

①金美辰

②介護の基本 C、生活支援技術 C、介護総合演習 I

③全体的に高評価を受けました。特に、NO7「教員の十分な準備と熱意」、NO8「授業の目標がはっきり示された」、NO10「授業の内容は興味深いものだった」、NO19「総合的評価」が高く評価されています。ただし、予習・復習に関する評価が低かったので、今後はより予習・復習ができるように工夫していきたいです。

④特にありません。

⑤特にありません。

①久米秀作

②スポーツと健康

③今回全体の平均値を上回る得点項目が多かったことに安堵しています。特に 11 項目の理解度については高い評価をいただいたことをうれしく思います。学生の日常生活に近いところでのテーマを中心に授業を進めたことが好結果となったと思います。

④教室については、多少受講者にとって手狭な感じは否めない。ただ、受講者数自体は適正であると思う。

⑤学生の授業態度は評価できます。みなさん、大変熱心に聞いてくれました。

①久米秀作

②スポーツ C

③実技授業でした。テニスとゴルフを実施しました。両種目とも初心者に対しては個別指導に力を入れました。フリーアンサーの「楽しかった」という感想が、こういった初心者学生からであると、大変うれしいです。

④テニスコートについては、日影が少ない問題があります。4月から7月にかけての授業ですから、熱中症対策の点からも検討すべきではないでしょうか。

⑤特にありません。

①藏野ともみ

②精神保健福祉援助実習指導、相談援助演習Ⅴ

③前期については演習、実習という形態の異なる 2 科目について学生からフィードバックを頂く機会を貰いました。学生自身が参加をするだけでなく、主体となることが求められる授業形式です。講義科目も含め、どの形式でも心がけているのは、教員が学生とコミュニケーションを取るというだけでなく、学生同士が確認をしたり話し合ったりする時間を保証するという事です。ただし、今回のアンケート結果からは、授業後の宿題や課題には多くの学生が取り組んでくれましたが、「予習」や「自ら課題を見出し学ぶ」という点については十分ではないことが分かりました。これらは学生自身が自ら関心を持って欲しいところですが、教員側に取り組めることがないかどうか考え工夫もしてみたいと思います。

④特にありません。

⑤暗記するだけの科目は 1 つもありません。「考えること」や「調べること」を基礎にして、他者との意見交換やディスカッションを通じて、もっと「疑問が増えたり」、多様な可能性を知り「モヤモヤしたり」することが大学で学ぶ面白さの一面です。その上で、実践科学である社会福祉学は、エビデンスに基づきながら自らの考えをまとめることも求められます。ありふれた言葉ですが、「主体的」に学ぶとは何かと自らに問うてみてください。

①小谷敏

②人間関係総論Ⅰ社会学基礎セミナーⅠ、社会調査および演習Ⅰ

③いずれの科目でも平均点を上回り安堵しています。どの授業でも「積極的に発言を引き出した」の評価は高いのですが、「予習復習」の評価が低くなっておりこの点は問題かと思いましたが

④とくにありません。

⑤積極的な授業への参加をお願いいたします。

①後藤かおる

②家族心理学

③Ⅰ 授業の進め方について：大半の学生は理解しやすかったと感じているようでしたが、少数ではあるが「早すぎる」「プリントが使いにくい」と感じる学生もいるようなので、理解度や進度を細かく確認しながら、授業進めていきたいと思えます。Ⅱ 内容について：大半の学生は「興味深く、意味がある」と感じてくれたようですが、今後も学生に確認しつつ、より良い内容を提供できるように研鑽に努めたいと思えます。Ⅲ 取り組みと成果について：「授業に合わせて予復習をするか」「授業中に質問するか」の項目が低得点でした。積極的に文献を澄めしたり、プリントの復習をすすめる等をしていきたいと思えます。後者に関しては、大人数で授業内での発言は抵抗があるようなので、現在はリアクションペーパーに記載された意見を講師が代読して共有できるようにしていますが、積極的な授業参加を促すように工夫していきたいと思えます。

④なし

⑤なし

①齊藤豊

②キャリアデザイン、企業と産業・キャリアデザインⅡ、コンピュータ基礎A、企業と経営

③点数の悪かった点について、善処します。点数の良かった点について、継続できるように努力します。

④特になし

⑤特になし

①佐藤富士子

②医療的ケア

③医療的ケアは、厚生労働省による指定科目であること、学生がパーパーテストによる知識の確認と正確な技術を身につけるといふ二つの課題をクリアしないと修了書を得ることが出来ない科目ということもあり、評価項目のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳともに高い評価であった。来年度も今年度同様、非常勤講師と情報交換および指導方法の打ち合わせを継続していきたい。

④なし

⑤受講生への要望があればお書きください。

なし

①佐藤富士子

②認知症の理解

③学部平均との比較では、「15 毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」が低く、「16 授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」「この授業を受けて、さらに発展的に学びたいと思った」が高い評価であった。この評価から、学生が認知症に関する高い関心やモチベーションが持ち授業を受けている様子が理解できる。来年度は、15 番の改善として「学生自身が住む地域の認知症高齢者に対する支援の実態等を調べる」等の課題提出を考えたい。

④なし

⑤なし

①嶋貫真人

②社会保障Ⅰ

③全体の平均値を下回ったのは、質問 3（私語等への対応）のみであった。教壇の上からは私語が気になる場面は感じられなかったが、今後は授業終了後に一部の学生から感想を聞くなどして、教室内の静粛が保たれていたかどうかをチェックしていきたい。

④特になし

⑤特になし。熱心に聞いてくれたと思う。

①嶋貫真人

②低所得者に対する支援と生活保護制度

③全体の平均値を下回ったのは、質問 1～5 と質問 11、13、15、16 の 9 項目であった。例年よりも平均値以下の評価が与えられた項目が多く、授業の運営方法に関して根本的な見直しを要する。とりわけ、質問 5（学生の意見を引き出す姿勢）の評価が低いため、来年度はマナバの積極的活用など、双方向の意思疎通を行うための工夫が必要と考える。

④特になし

⑤私語は慎んでもらいたい。

①嶋貫真人

②社会福祉現場実習事前指導

③学生の出席状況は比較的良好で、主体的・積極的に取り組んでくれたと思う。授業評価もおおむね良好で、特に改善すべき点は見当たらない。

④特になし

⑤「自分はなぜ、社会福祉士の資格を取得するのか？」という根本的な動機があいまいなまま実習に臨む学生が、例年同様、多く見られたと思う。この点が長期的な課題である。

①嶋貫真人

②福祉行財政と福祉計画 A

③全体の平均値を下回ったのは、質問 3～5、11、13、16、17 の 7 項目であった。上記②の科目同様、例年以上の低評価であるため、授業の進め方を大きく修正していく必要があるであろう。さしずめ、来年度の重点項目は「双方向の意思疎通の活発化」であり、改善策も②の科目と同様である。

④特になし

⑤特になし。熱心に聞いてくれたと思う。

①関田誠

②社会福祉学基礎セミナーI

③学生の自学習を促せるように予習・復習内容を再考したい。

④特になし

⑤特になし

①高田知恵子

②臨床心理学概論

③教科書内容の全部は取り上げないことを伝えておりましたが、「教員の興味以外があっさりしていた」という趣旨の記述がありましたので、ポイントをあげて解説している旨を伝えていきたいと考えております。

④受講者数に比べてやや教室が狭いようです。窮屈そうに座っている学生が多いです。また換

気には気を付けていますが、エアコンによる温度調整も時々難しくなります。つけると寒いし、消すと暑いというようなことがあります。

- ⑤多摩急行が遅れるのは解っているのですが、早目に来るようにしていただきたいです。教科書は全員購入して下さい。積極的に質問、コメントをしていただき、双方向授業にしたいと思います。

①高橋佳代

②相談援助演習Ⅲ

- ③得点が低かった項目は、「予習・復習」でした。本授業はグループワークの演習であるため、予習や復習という設問には点数を付けづらかったのではないかと思います。学生は授業以外の時間に集まり、企画を再考したり、プレゼンの用意をしたり、十分予習・復習は行っていたと思います。

④特になし

- ⑤身の回りにある地域活動やマスメディアでの新しい社会的活動に目を向ける など、広角な視野の中で企画を考えてほしいです。

①高橋佳代

②相談援助演習Ⅴ

- ③「教材」「理解」「授業の目標」「授業の構成」「授業の内容」「予習・復習」「積極的参加」の項目に工夫が必要であるとの結果でした。本授業は事例検討の演習で、各时限内に事例を読み込み、課題を作成することに精一杯だったように思えます。ただただ事例を読んで、ワークシートに書き込み、発表するというスタイルだけでなく、プラン作成のポイントを絞りその点についてディスカッションをする、またロールプレイを行う、時には事例を事前配布するなどして少し時間余裕をもって進めていきたいと考えます。

④特になし

- ⑤事例検討の演習は、これまで学んだ知識の応用となります。しっかりと取り組んで頂きたいと思います。

①高橋幸子

②基礎統計学Ⅰ

- ③授業テンポが少し速い気がするという指摘があったので、全体の流れにもう少し気を配りつつ、ゆっくり進めたいと思います。

④windows を最新版にする必要があると思います。また、情報機器の接続について、どの部屋も HDMI を利用できるようにすると良いと思います。

- ⑤分からないことは分からないままにせず、すぐに質問してください！

①田中優

②心理学概論Ⅰ

③理解の程度に幅があるため、説明の仕方、質問への回答の仕方が難しいが、manabaなどで工夫して個別の決め細やかな対応を心がけたい。

④特になし

⑤毎回 manaba での授業の感想、学びについてのアンケートを取り、できる限り全ての学生に返答をしている。わからないところは、できるだけそのままにせず、質問をして欲しい。

①玉置佑介

②社会調査及び演習 I

③アンケートの集計結果のうち、No.15の「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」という項目において、「3」「2」「1」と回答した履修者が多かった。担当した授業は、ゼミ形式のものであり、消費施設を社会的に考察するためのフィールドワークを実施するものである。前期においては、先行研究レビューを各役割（司会・レジュメ担当・コメント担当・書記）に分けて実施し、「問い」を作成する作業を試みた。その後、「問い」に応じて「コンビニエンスストア班」「サービスエリア／パーキングエリア班」「ショッピングモール班」の3つに分け、それぞれ夏休みの実査に向けた準備作業を実施した。そのプロセスにおいて、予習と復習は必要不可欠であり、授業のなかでも指示と作業内容を周知していたつもりである。その結果が、「3」の回答率33.3%、「2」が20.0%、「1」が46.7%だったことを考慮すると、当方の指示や作業内容の周知徹底が不足していたことは否めない。しかし、履修学生たちは、こちらの要請に的確に応じ、それぞれの班で必要となる準備作業を独自に進めて行ったりもしていた。とくに、実査が近づくにつれ、独自に班ごとに集まることもあったようである。そうした意味では、アンケート結果には現れていないが、独自に予習と復習を実践していたものと思われる。以上を鑑みて、今後の対策として、夏休みに実施したフィールドワークの実査について、フィールドノートの内容の評価を徹底し、不足している部分については復習を促していくこととしたい。また、班内で履修者それぞれのフィールドノートを回覧し、班や自らの「問い」に応じていくために不足している点などを議論させ、予習と復習を定期的実施するような「仕組み」を構築していくこととしたい。

④特にありません。

⑤特にありません。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅱ-A

③私語への注意、教員の十分な準備と熱意、将来意味のある授業の評価が高く、これらを意識して授業を続けて行きたいと思います。相談援助の基本となる科目なのでしっかり授業をしたいと思います。その他は前回よりも評価点が若干さがっていることが気になります。細かい修正を心がけたいと思います。

④特になし

⑤この授業は、社会福祉援助者としての基本的な視座を学ぶ授業です。今までの思考とは別の

考え方も学ぶため、理解に時間がかかる授業でもあります。復習に時間をかけて頂きたいと思います。

①丹野真紀子

②相談援助演習Ⅲ

③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思います。

④特になし

⑤相談援助演習は、学生が前向きな思いで参加することで、技術が身につく授業となりますので、積極的な参加を望みます。

①丹野真紀子

②相談援助実習事前指導

③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業をしていきたいと思えます。特に「予習復習」の評価も高く、学生が熱心に取り組む様子がわかりました。

④特になし

⑤この授業は、実習に行く前の準備を行う時間です。ここでの学びは、実習で活きますので、しっかり自分の学びたいことを考えていきましょう。

①丹野真紀子

②保健医療サービス

③学生からの評価も高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思えます。医療現場はなかなか見ることができないため、視覚教材を使いましたが、わかりやすかったという評価、声が多かったので、これは今後も続けたいと思えます。

④特になし

⑤特になし

①土野瑞穂

②社会学基礎セミナーⅠ（水曜3限）、ジェンダーと社会生活」（水曜4限）

③<「社会学基礎セミナーⅠ」について> 授業中に、授業内容に関する私語が何回かあったため、私語を慎んで話の内容を受講生全員で共有するように促した。しかしアンケート結果を見ると、一部の受講生にはそうした私語がうるさく感じていたようなので、次回からは私語については適切かつ迅速に対処するようにしたい。指定されたテキストの内容について、具体例を出したり、わかりやすい解説を試みたが、受講生にはやや難解だったようである。次回からは、受講生の関心が低いテーマ・内容でも、新聞記事等を用いて、身近にあるわかりやすい出来事を取り上げて理解を促すようにしたい。なかなか積極的に発言できない受講生が何名かいたが、こちらから指名すると非常によい意見を述べていた。そういった学生が萎縮せず自由に意見を述べられるよう、適度な緊張感と和やかさのある雰囲気を作るよう心掛けたい。予習・復習については、具体的な課題を出し、もう少ししっかり行いたい。<

「ジェンダーと社会生活」について> 受講者数が 220 名であったこともあり、どうしても私語が止まなかったため専任教員の先生にもご相談をし、対応策を検討した。それにより実施した対応策は効果が得られたものの、アンケート結果を見ると「もっと厳しく対処すべきだった」とのコメントがあったので、次回からはより厳しく、また受講者数が多い場合は席順を決めるなどして対処したい。対象学年が 1~4 年だったため、受講生の理解度に差があることを理解して授業を行ったつもりではあるが、必ずしも十分理解できる内容になっていなかったことがアンケート結果からわかった。次回からは、内容と専門用語についてわかりやすい解説を行うようにしたい。「発展的に学びたい」という項目の点数が低かったことについては、今後は受講生の「いま」の状況を意識しながら（「20 代前半」「女性」「大学生」であるということ）、授業内容を受講生にとって身近なものであることを考えさせ、さらなる学習意欲をもつことができるよう、次年度では授業内容を再検討したい。予習・復習については、具体的な課題を出し、もう少ししっかり行いたい。

- ④セミナーの教室について、前期はプロジェクター・スクリーン完備の教室だったが、現在使用している教室はビデオ設備しかない。教室を変更すれば済むことだが、できればどの教室も同じような設備にさせていただけたらありがたい。
- ⑤レポートを執筆する際、「本を用いて書くこと」と何度も念を押して言ったが、レポートの大半はインターネットの情報をもとに書かれたものであった。ぜひ本を読んでほしい。そして読む力、考える力、様々なものの見方を身につけてほしい。

①奈良環

②介護の基本A

③設問 15 について極端に低い結果となっている。予習や復習など自主的に行うことができていない。今後は、学生が積極的に学ぶための動機づけをしっかりとしていきたい。

④特になし

⑤特になし

①奈良環

②在宅介護論

③設問 15 について極端に低い結果となっている。予習や復習など自主的に行うことができていない。今後は、学生が積極的に学ぶための動機づけをしっかりとしていきたい。また、自由記述欄に 2 コマ続きにしての補講にすると受講しにくいとあった。内容的には、何回か 2 コマ続きのアクティブラーニングを実施したいと考えているが、受講者の人数が多いため、全員が納得いく形での補講の設定は難しい。なるべく早い段階で補講日程を学生に伝える等々の配慮をしていきたい。

④特になし

⑤特になし

①西谷内博美

②環境社会学

③「自習」や「参加」といった能動的な学習項目の値が平均的であるのに比して、それ以外の項目の値が低く、せっかく取り組んでもらったことが学習の満足度につながっていないという結果が出ている。宿題やグループワークがしっかりと学習効果に結びつくよう、作業の意図を丁寧に伝える必要がある。そのために、授業全体の時間の使い方や説明の方法を見直します。

④特になし

⑤アクティブラーニングの手法を用いているクラスです。意欲的に協力しあう受講生が多ければ多いほど相乗効果が期待できます。

①長谷川万希子

②医療社会学

③人間関係学部全体よりも得点が低い項目は、「14. この授業にどの程度出席しましたか。」のみでした。月曜日 1 時限目の授業への出席は、学生にとっては負担感が大きいと思われませんが、来年度もさらに少しでも授業に足が向くように、工夫を加えていきたいです。自由記述欄に、「遅刻した学生は、遅延証明があれば出席になっているので、多少は、きちんと時間通りに出席している人と平均点の差をつけてほしい。」という意見がありました。本件については 15 分以上遅刻者、30 分以上遅刻者と段階を分けて、出席を加味した平常点に反映させており、この点はシラバスにも明記しています。学期中、頻回にその時点までの出席状況、遅刻・欠席も含めた平常点、提出物や発表等による加点等について、本人が確認できるように一覧表を閲覧してもらっています。これらについては、公明正大に丁寧に対応していますが、不公平感がないように十分な説明を重ねていきます。

④ディスカッションを行いたいのですが、机が固定されていて難しいです。30 名以下で視聴覚器機が装備されている教室の選択肢はありませんでしょうか。

⑤教科書を購入して、持参してください。

①原葉子

②現代家族論、現代社会論セミナー1

③現代社会論セミナーでは、学生の理解度や討論への参加度にバラ付きがあり、満足度の分散につながったと考えられる。予習の達成具合の確認や、討論参加へのモチベーションを高める方法について、さらに工夫が必要である。

④現代家族論では大教室で学生が後ろのほうに座ってしまうため、コミュニケーションがとりにくかった。(適度なサイズの教室の配分も難しいと思われるので、感想です。)

⑤最低限の予習はしてきてほしい。

①福島哲夫

②社会・臨床心理学研究法

③全ての項目において、学部平均を上回っていた。とくに問 4 の「学生の理解度への配慮」、5 の「学生の積極的参加を促した」13 の「シラバスは参考になった」、14～「取り組みと成果」「総合的な印象」などにおいて高得点であった。今後はこれを維持し、さらに高めて行くための努力をしていきたい。とくに問 15「予習・復習」に関しては、学部 平均を素点で 1 点近く上回っていたとはいえ、2.70 という低い値である。この授業では時間外の調べ物やグループでの検討、自主的な文献読みなどをしていたはずであるのに、この素点の低さは疑問ではある。

④特になし。

⑤特になし。

①古田雅明

②社会・臨床心理学研究法

③概ね高い評価でしたが、昨年よりは低くなっていました。この授業は、グループ学習を中心に行う授業ですが、グループメンバー間のモチベーションに差がありすぎてグループ内にトラブルが生じたことがありました。そのため、評価が下がったようです。本来、学生に主体的かつ自主的に取り組ませる授業ですけれども、グループが安定するまで教員がファシリテートするなど、次年度以降は工夫が必要と考えました。

④特にありません。

⑤特にありません。

①干川剛史

②社会学概論 I（火 1）・（木 1）、社会学基礎セミナー I

③受講者数の多い授業（社会学概論 I（火 1）（93 人）／社会学概論 I（木 1）（86 人））については、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均よりも低いですが、同じ内容でも、社会学専攻必修の社会学概論 I で低いのは、選択の余地なく強制的に受講せざるを得ない不満があるのであろう。また、自由回答を読むと、マイクを通した話し声が聞きづらいなど、改善すべき点がある。しかし、座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる、出欠を毎回確認しており、学生の扱いが公平である、授業に関連した新聞記事のコピーがほぼ毎回配付され、十分に授業の準備がされているという点での評価が高い。他方で、マイクの使い方を工夫するなど話し方に改善が必要であり、さらに、話の内容が重複しないようにするなど、多くの学生に満足のいくような講義にする工夫が必要である。なお、社会学基礎セミナー I（16 人）は、少人数の科目であり、毎回、学生との間で質疑応答を行い理解度を把握しながら授業が進められるので、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均と同等である。

④講義形式の授業は、100 人未満になっており、授業を進めて行く上で、人数は適正なので、問題ない。

⑤講義科目もセミナー科目も、教科書を読んで予習してほしい。講義科目で使用する教室では、次の時限の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に、教室に入ってくる場合が多く、

教室内が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教室に入るようにしてほしい

①星野尚美

②社会福祉学基礎セミナー1

③きちんと計画された授業であったため、初めて担当した私でしたが、学生は、ほとんど休むこともなく、目的を達成できたと思います。

④少人数のところがいいと思いました。入門編としてのいい内容の授業と思いました。

⑤特になし

①堀洋元

②社会・臨床心理学研究法

③受講者に毎回の自習を促し、主体的に取り組めるような工夫を考えたい。

④文献検索や文献収集、統計解析ソフトを用いた分析の際、ゼミ教室で無線 LAN 接続できると良い。

⑤2年後期までに身につけた心理学に関する知識やスキルを総動員して取り組む授業です。素朴な疑問や身近な興味を素材として取り上げ、心理学研究の枠組みで料理する面白さを実感してほしいと思います。

①本田周二

②社会・臨床心理学研究法

③予習・復習といった自主学習をあまりやらせることができていないことが明らかになったので、より積極的に学習してもらえるような働きかけを増やせるように授業内容を改善したいと思います。

④特にありません。

⑤特にありません。

①牧野智和

②子どもと教育の社会学

③予習復習、積極的参加についての評価が芳しくなく、それ以外は学部平均とさして変わらない。参加に関しては、中間課題を用いたアクティブ・ラーニング等で対応したい。

④PPT、メディア教材を用いるので、1階大教室でよかったが、それ以外の教室だと立つポジションがやや難しい。メディア教卓のある教室が増えれば助かるが・・・。

⑤特になし

①町田章一

②人間関係総論Ⅲ

③学部船体の平均と比較すると、評価が低いものが多い中で「この授業によって新しい見方が

できるようになった」という項目が平均並であったことが救いであった。この特徴を失わないように努力したい。

- ④特に無し
- ⑤特に無し

①町田章一

②教育実習指導Ⅱ

③学生が一人であった。受講し難かったことと思う。

- ④特に無し
- ⑤特に無し

①松山博光

②地域福祉の理論と方法Ⅰ

③学生からの評価は、妥当である。次年度から大改善（manaba 本格導入）を実施する。

④1つ取り上げるとすれば、本科目を2年生に開講するには、学生の知識・実践が相当不足している。地域社会に山積する児童・障害・高齢・貧困等の福祉課題（分野）を幅広く学習した後に履修することが望ましく、4年次履修が妥当であるが…。

⑤講義は、学生の出席率（5.53）は比較的良好、静かに受講しているが、毎回の講義に対する予習・復習（2.64）や質問（2.74）は皆無に近い。何が（どこが）分からないのか積極的に質問して欲しい。次年度からは毎回、受講生への課題と質問用紙（manaba 使用）を提出できるようにする。

①馬淵聖二

②心理検査学、心理学特別セミナーA

③心理検査学：学生の自習の機会を増やす。予習や復習のテーマを明確化する。また、授業中にグループワークなどの機会を増やし、発言を促す。レポート課題については、採点基準を明確化する。/心理学特別セミナーA：やや内容が難易度が高すぎたようなので、補助資料を増やすことと、単語テストなどを行い、理解がスムーズになるよう工夫をする

④特になし

⑤心理検査学：特になし。/心理学特別セミナーA：和訳作業は大変だが、頑張ってくらいついてほしい。

①壬生尚美

②介護福祉学概論

③前年度の15コマの全体の流れを再検討し、全体の授業展開を工夫した。具体的な内容を考えるために視覚教材を用い、教授方法を検討しながら行なった。評価・コメント記述からも伝えたかったことが伝わったようだ。毎回の授業の振り返りを15回のシートに記入して回収し、次の授業までにコメントして返却した。そのことによって、学生の理解度を把握し、

次の授業につなげることができ、効果的であったと考える。

- ④特に無し
- ⑤特に無し

①壬生尚美

②介護過程Ⅱ-A

③「介護過程Ⅱ-A」では、ペーパーシミュレーションだけでなく、具体的にグループワークを行い、各自が利用者・介護職員の役割を演じロールプレイを行うことによって、より介護場面を想定した演習を実施することができた。どのグループの発表も真剣に取り組む様子が確認でき、実習前トレーニングにつながったと考えられる。今後もこのようなアクティブラーニングを取り入れた授業展開を行っていきたい。

- ④特に無し
- ⑤特に無し

①壬生尚美

②介護総合演習Ⅲ

③「介護総合演習Ⅲ」では、介護実習Ⅱを振り返るとともに、介護実習Ⅲに向けた準備を中心に行った。介護実習Ⅱの振り返りでは、実習記録に対して指導者よりご指摘をいただいたため、もう一度、日誌の書き方などを再確認した。また、実習Ⅲに向けて、各自の課題を発表するなど後期の授業に向けた準備学習につながったと考える。今後も引き続き丁寧な指導に心掛けたい。

- ④特に無し
- ⑤特に無し

①八城薫

②基礎統計学Ⅰ、社会・臨床心理学研究法

③改善点1：自習時間がほとんどないこと：積極的に自習してもらうために、練習問題を増やして自主的な勉強を促そうと思っています。

改善点2：授業と将来が繋がらないこと授業と将来とのつながりをより意識的にするために、応用可能性や汎用性について話すことを心がけようと思っています。改善点3：教室の空調管理（「教室が寒すぎる」との回答）学生の様子を見て、教室が寒くなり過ぎないように気をつけます。

- ④学生側がコンピュータを使って授業が受けられる教室環境に整えていく必要があると思います。
- ⑤意欲的、主体的に学んでいただきたい。

①山川恵子

②認知心理学

- ③講義内容が前年度の概論の授業と重複しているという印象を持った受講生がいたことについては、一度内容についての意見交換や申し送りを、担当される先生と行っていく必要があると感じています。テキストについて、「買わなくてもいいと言ったのに…」という意見がありました。例年必ず最初の講義で申し上げているのは、「テキストは、きちんと最初から用意されているの方が単位を修得しやすい傾向にあります。買わなくても先輩からもらったりするのも構いませんが、必ず用意して講義に参加してください。」ということです。教員の説明を部分的に聞かれていたか、勘違いされて解釈されたものと思われます。来年度は、そのような誤解も想定した上で、さらに丁寧な説明を心がけます。講義の冒頭に余談が多いというコメントですが、講義の冒頭（必ずしも毎回ではない）には前週のリアクションペーパーの質問への回答をする時間に充てています。質問や取り上げたいコメントが多い場合は、時間が長くなることもありますが、講義と無関係な余談に長時間を費やすことはありません。一見、現在講義で扱っている内容とは異なるように感じることも、認知心理学の発展的な問題を紹介することで、受講生の視野を広げてもらうことを目的に意図的に行っています。・出席の不正を行っている人についての対応が甘いとの意見がありました。本講義では、管理システムのみならず、毎回必ずリアクションペーパーの提出をすることで、厳しく出席の管理をしております。今年度は、不正を多数発見しました。該当者には、総点からの減点を行い、その結果、単位の取得が適わなかった受講生もおりました。一生懸命やっている人が損をするような採点をしないよう、常日頃公平性を心がけていますし、次年度以降も同様の方針です。
- ④エアコンの温度については、学生さんから特に要望が多いので、講義中に何度も温度設定を変更したり、高めの設定にするなど苦慮しています。温度調節パネルも頻繁な使用のためか、ボロボロです。修繕の際は、教員が対応しないですむような管理体制にさせていただくと有り難いです。
- ⑤「テストとレポートの両方は大変」というコメントがありました。レポートにしたのは、昨年度発表形式でやっていた学習について、レポート形式にして欲しいという意見が多かった結果を受けてのことでした。本講義ではこのように、対応できる部分は受講生の意見を取り入れておりますので、出すべき時にきちんと意見を出していただけると、こちらも参考にすることができて助かります。

①山本真知子

②相談援助実習指導 I

③学生の受講の目的や学力の把握を行いながら授業の組み立てを考えていきたい。初年度の初めて担当する授業だったので、来年度以降、学生のニーズと授業の内容を精査していきたい。ゲストスピーカーが多く、課題も多かったのでスケジュール等調整していきたい。

④特にありません。

⑤テストの範囲の中で学習することに慣れる授業でもあると思うので、国家試験を意識しながら受講してほしい。

- ①山本真知子
- ②児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 I
- ③ほぼ平均値だったが、より学生がわかりやすく制度に興味をもって学習したいと思う授業を展開できるように、目的の説明などを適宜入れていきたい。
- ④特になし
- ⑤特になし

- ①山本真知子
- ②相談援助実習事後指導
- ③演習形式の科目だったので、個別の学生に応じた授業を展開していきたい。
- ④特になし
- ⑤特になし

- ①山本真知子
- ②社会福祉基礎セミナー I
- ③演習形式の科目だったので、個別の学生に応じた授業を展開していきたい。特に初年度教育であるので、丁寧に学生に対応していきたい。
- ④前に使用している授業で机やイスが移動したままで、直したり移動したりすることが面倒だった。移動したまま授業を終えないように、掲示などしていただければと思います。
- ⑤特になし

- ①吉方りえ
- ②女性と健康
- ③私語などに対する注意→教室内を頻回に巡回し、授業の妨げになっていると思われる状況を適宜確認し、原因が判明した場合は直ちに注意し環境改善に努める。
- ④受講者数→100人を超えると授業中に目が行き届かず、私語が多くなる傾向があると思われる。受講者数の制限ができると有難い。
- ⑤疑問点や希望を積極的に述べてほしい。

- ①吉野薫
- ②キャリアデザイン I
- ③スクリーン周囲の電灯の調整やスクリーンを送るスピードなど、容易に改善できることは改善します。アクティブラーニングの手法を用いるときは学生に明確に指示内容が伝わるよう工夫します。
- ④PCからのスライド投影と黒板への板書とが同時に使える教室を割り当てただけだと有り難いです。また講義中に少人数でのディスカッションをさせることから、それに適した教室であると有り難いです。
- ⑤学生に対する要望は特にありません。

資料編 「授業に関するアンケート」に対する教員の回答

2016（H28）年度後期 大妻女子大学人間関係学部
「授業に関するアンケート」について対応策、質問

- ① 氏 名
- ② 科目名
- ③ 今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されるおつもりですか。
- ④ 施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善すべき点があればご指摘下さい。
- ⑤ 受講生への要望があればお書き下さい。

①相川富哉

②相談援助実習指導Ⅱ、相談援助演習Ⅳ

③課題や宿題を出したつもりだったが、予習・復習の自主学習の意欲が少なかったのは反省点であり、来期の課題であると認識しています。

④特になし（あえて言えば、教室に時計があれば・・・）

⑤なんとなくではなく、意識をもって科目を選択して欲しいと考えます。もっと、質問や意見をして欲しいです。

①足立英彦

②心理学特別セミナーB

③「授業は学生の理解度を考慮しながら進められた」というアンケート項目の平均評定値が 4.50 であり、授業の進め方に関する項目の中で最も低くなっていました。受講生が 7 人の授業であり、毎回の授業で分からないところはその場でも授業後にでも質問するようにと再三にわたって促していましたが、次年度は一人一人あてて質問してもらう時間を設けるなど、さらにきめ細やかな個別対応を心がけたいと思います。また「この授業にどの程度出席しましたか」という項目に対する評定値の平均が 3.33 であり、人間関係学部全体の平均を下回っていました。出席率を高めるため、出席点の成績に占める比重を高め、周知することで改善に努めます。

④特にありません。

⑤この授業は課題が大変多く、エネルギーのいる科目となっています。意欲の高い学生の受講をお待ちしています。

①荒牧美佐子

② a.発達心理学（児童の社会化）、b.心理学概論Ⅱ

③ a.b. 両科目とも、予習・復習を促す工夫がさらに必要だと思いました。また、manaba が活用できていなかったのも、きちんと勉強して、次年度は課題の提出などに役立てたいと思います。

④ a.b.特にありません。

⑤ a.b.心理学専攻の学生さんもそれ以外の方も、熱心に受講してくださいました。

①池田健

②精神保健の課題と支援Ⅱ

③アンケート内容に関して平均を下回ったものを中心に講義に反映させたいと存じます。

④特にありません。

⑤遅い時間にも関わらず皆が熱心に受講していただきました。来年度以降も同様の姿勢で受講いただければと思います。特に要望はありません。

①池見正剛

②環境の社会心理学

③19 の設問中 14 項目が平均以上でしたので、過去のいずれの年度よりも今回の結果はポジティブだったと言えます。毎回の小テストや小さな課題といったアクティブラーニングの工夫と、興味を惹きやすい授業提示資料の一層の精査の結果と考えております。項目 4,11 などが平均以下であったことから、授業内が多少理解困難なものだった可能性があります。この点を改善するために情報のフィードバックをより充実させる必要性を感じました。より残念な点は総合評価がわずかに低いことでした。少し言い訳がましいですが、学生たちの価値観が実務面を超えたより教養のある態度に変化しない限り、専門的な知識の享受に充足感を覚えてもらうことは困難なようにも感じます。

④教養に満ちた教育環境と人々の雰囲気のようなものが学内に醸成されることを望んでおります。

⑤積極性：もっと言葉を発してほしいと思います。好奇心：教養という実質的な報酬に直接結びつかない情報にもっと興味を持ってほしいです。

①伊藤美登里

②現代社会論セミナー2、社会調査及び演習 2、恋愛と結婚の社会学、哲学と思想③今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか。授業への積極的な参加の項目は、必ず意見を述べるよう発言の機会をこちらで設けた授業については「積極的に参加した」者が多くなっている。このことから、教員からの働きかけ次第である程度の改善が見込められると思われる。(授業の性質や受講者数など「いろいろな制約はあるが」いろいろと工夫してみたい。

④施設・教室の設備や受講者数、教育条件などについて改善するべき点があればご指摘ください。

⑤受講生への要望があればお書きください。

①井上修一

②社会福祉学概論Ⅱ

③概ね良い評価であった。「総合的にみて、この授業を受けてよかったと思う」「授業は自分の将来にとって意味があると思う」の得点が高かった。さらに内容のレベルアップを図り、内容の深さについても取り組みたい。

④特になし。

⑤特になし。

①井上修一

②相談援助演習Ⅳ

③概ね良い評価であった。地域の生活課題が多様なため抽象度が高い内容が多くなってしまった点が反省点である。今後は、さらにわかり易く、具体的な地域や行政資料を提示しながら

進めていく。

④特になし。

⑤特になし。

①上野奈初美

②スポーツ A、スポーツ C

③各受講生の到達（度）目標と、評価基準を授業のスタート時に分かりやすく説明する。

④特にありません

⑤特にありません。

①江川直子

②社会理論と社会システム

③受講者 107 名に対しアンケートの回答者は 81 名であり、回答率は 75.7%であった。今回の授業に関するアンケートで、平均点の低い項目は次の項目であった。1.「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」——この点について、発声練習などをしてははっきりと明瞭に話をするように努力をしていきたい。2.「授業の内容はよく理解できるものであった」——もう少しゆっくりと学生の反応を待って理解度を確かめてやっていきたい。3.「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」——講義形式なので、宿題を出さないかぎり自習がしづらいのかもしれない。しかし社会学という科目の性質上、社会で現実に行き起きている事柄に目を向けて新聞をよく読み、ニュースに敏感になってほしい。そのことが間接的に予習や復習になることを伝えていきたい。自由記述に次のようにあった。「授業中話している人に注意しても結果しづかにならなかった。席順決めるなど、やったほうがいい。」——授業中に話をする学生は決まっている。注意をするのもエネルギーがいる。しかし、ほとんどの学生はまじめに授業を受けている。それゆえ、話をする学生は周囲に対して迷惑であると強く認識してほしい。次年度は、座席指定制を取り入れたい。

④次年度も今年度と同じ 7214 教室を希望しております。

⑤特になし。

①小野智明

②コミュニケーション技術 A

③自宅での学習課題を折々に提示すること、特に参考文献の紹介などをおこなってみたものの、提示した後の学生からの反応を確認できなかったこともあり、授業へ反映することができていなかった。来年度については学習課題を提示した際には振り返りの時間をとりながら授業を展開していきたい。

④授業は講義（パワポ使用）とワークショップを併用するため、移動が可能な教室を希望したい。

⑤コミュニケーション技術はすぐに効果が表れるものではなく、人とのかかわりを通じて、徐々に培われていくものである。学生に求めるのはこの授業を受けたからといってすぐにコ

コミュニケーション能力の向上が実感できるほど即応的ではないという理解である。様々な人々と関わり、自分自身が持っている常識や価値観の違いを認め合うという体験を通じてコミュニケーションの幅がひろがってゆくものである。普段話さない学生とのコミュニケーションは時として緊張感をともなうものである。これから違う授業でも議論の場があるだろう。そういった時にも勇気をもってグループ内で発言して欲しい。

①小野智明

②コミュニケーション技術 B

③ 3年生は社会福祉施設等での実習を終了し、援助というものの本質を理解しつつある時期であるともいえる。そのため、授業への取組態度や参加態度についても主体的であった。今年度はコミュニケーションについての基本的知識について理解した後、地域福祉課題を提示し、対人援助に資するコミュニケーション技法について考えていった。講義中心の授業を多く取り入れてみたものの、学生からはワークショップ形式の授業を要望されたので、来年度についてはワークショップの意図も明確にしつつ、様々な演習技法を展開していきたい。

④授業は講義（パワポ使用）とワークショップを併用するため、移動が可能な教室を希望したい。

⑤コミュニケーション技術はすぐに効果が表れるものではなく、人とのかかわりを通じて、徐々に培われていくものである。学生に求めるのはこの授業を受けたからといってすぐにコミュニケーション能力の向上が実感できるほど即応的ではないという理解である。様々な人々と関わり、自分自身が持っている常識や価値観の違いを認め合うという体験を通じてコミュニケーションの幅がひろがってくるものであると思われる。普段話さない学生とのコミュニケーションは時として緊張感をともなうものである。そういった時にも勇気をもってグループ内で発言して欲しい。

①香月菜々子

②キャンパスライフとメンタルヘルス

③本講義は、キャンパスライフをより充実させるための実践的方法を学ぶ場として展開しているが、講義で習った技能（リラクゼーション法ほか）を早速実生活に取り入れて活用する学生や、睡眠時間の改善に努める学生の姿が多く見られ、自発的な取り組み促しているという点では、これら学生の活動は広義の“復習”に相当するのではないかと考えている。全学共通科目ということもあり、習熟度の異なる学生が参加しているため、授業の進み方について、学生から「進みが早い」という意見と「進みが遅い」という意見の両方が毎年でてくることはなかなか悩ましいことである。筆者としては、「早い」と訴えるほうに全体のテンポを合わせつつ、分からない点は個人指導で対応することを検討中である。「前年度提出されたリアペを書く時間が足りない」は、環境調整により改善され、今年は問題にはならなかったようで安心している。

④今回、人数に対する教室の狭さが災いし、体調不良を訴える学生が何名か見られたため、急ぎよ大きな教室に映ったという経緯があった。120名を超えていたため、はじめから1階の

大教室を使用できると、大変ありがたいです。

⑤受講生への要望としては、引き続き「私語厳禁」でお願いしたい。

①加藤浩治

②コンピュータ基礎 B、コンピュータ応用

③コンピュータ基礎 B は 2 コマを担当しました。1 コマは優秀な学生が多い一方で PC スキルの不足している数名の学生のフォローに追われました。また、指定された教科書を持って来ない学生、他人のカードで出席タッチをする学生などに注意指導を怠らないように気を配りましたが、結果的に労多くして実りは小さかったように思われます。今後は受講姿勢の良好な学生のケアが次回にならないよう気をつけたいと思います。コンピュータ応用は評価が基礎 B より高めに受け取れます。これは、受講者数が 20 名程度と少なめだったことで、受講者個別の課題進行状況を見渡すことができたように思われますが、受講者数が増えた場合には前もって十分な準備をして臨むことが必要と考えます。

④教室の設備・管理がともに行き届いていると思います。

⑤受講する前にシラバスに目を通しておいってください。また、質問があるときは、説明が一段落してから挙手をお願いします。

①河上睦子

②女性史

③アンケートを見て、西洋の女性思想史という新たな学問について、多くの学生が授業に積極的に参加してくれたことがわかり、よかったと思うとくに設問の 17 の「今後発展的に学びたい」と、18 の「新しいものの見方ができるようになった」が増加したことは大変うれしかった。manaba の利用なども役だったようである。

④無し

⑤無し

①川上るり子

②相談援助技術演習 I・II、相談援助実習事前指導

③授業を受けてよかった!と全員に言われる仕事を目指し研鑽を積みます。大妻の学生さんのキラキラした目を思い浮かべ、授業準備を念入りに行い、前向きな気持ちを保って授業をします。

④特にありません。

⑤特にありません。

①木本ゆう、二場美由紀

②女性と自立支援

③学生が主体的に学ぶことが重要と考えますので、予習・復習については今後も自習に有用な資料、書籍等の提示に努める。

④特になし

⑤私語を慎み、授業に主体的に参加し、積極的に意見を述べることを望む。

①久米秀作

②福祉レクリエーション援助論

③Ⅰ「教員の授業の進め方」では、話の聞き取りやすさや学生への接し方では高得点を記録したが、学生の理解度の考慮についてはやや低い評価となった点を重要視し、今後は小テストを授業内に実施するような取り組みをいれ、学生たちの理解度を把握しながら授業を進めていきたい。

④⑤特になし

①久米秀作

②レクリエーション実技

③Ⅱ「授業内容について」では設問 9 の「授業の構成」についての質問項目で高得点を得た。本授業がグループワーク中心であったことを考え合わせると、学生たちが授業の意図を十分に理解した結果がここに表れていると考える。

④⑤特になし

①久米秀作

②レクリエーション論

③Ⅲ「授業の取り組みと成果」の項目で設問 18「この授業によって、新しいものの見方ができるようになった」に比較的高い評価を得たことは正直喜ばしい。授業は現代社会を背景に進めていたので、この授業をこの授業を通して、新たな社会の在り方などを独自に持ってもらえればありがたいと考える。

④⑤特になし

①藏野ともみ

②精神保健福祉援助実習事後指導、精神保健福祉援助演習Ⅰ、精神保健福祉論Ⅰ、社会福祉学基礎セミナーⅡ

③今年度も演習、講義、実習という形態の異なる 4 科目について学生から授業アンケートでフィードバックを頂く機会を貰いました。どの形式でも心がけているのは、学生からの提出物には必ず紙媒体で個別コメントをすること、また授業中に教員とのコミュニケーションを取ること、学生同士が確認をしたり話し合ったりする時間を保証するという事です。50 人規模の講義形式でも学生自身に授業に参加してもらうことを目的としています。しかし、どうしても授業アンケートの結果を見ると、学生自身は自分には厳しい評価を付けます。それは、授業で教員が意識していても実感として学生自身が評価できていないのだと思います。FD 研修会での他の教員の manaba を活用した工夫なども伺いましたので、来年度に向けて、学生自身が実感できる授業展開を考えていきたいと思っています。

④特にありません

⑤学ぶ場は、間違えて良い場所ですし、失敗して良いことを保証します。それどころか、本当は皆さんが思う「失敗」は「成功」でしかありません。また、制度も暗記するものではありません。生活する一人ひとり異なる人間に使うものです。もっと一緒に考えたいと思っていますので、ぜひオフィスアワー等も活用して研究室にもおいでください。

①齊藤豊

②コンピュータ基礎 B、現代企業論、キャリアデザイン

③授業中の私語対策を強化する

④100名以下の授業を大教室で行うのは授業が散漫になりやすいので、適切な大きさの教室を割り当てて欲しい

⑤予習・復習を行って欲しい

①佐藤富士子

②人間関係学総論Ⅳ

③受講者数 167 名アンケート回答者数 130 名、回収率 72%でした。アンケート項目別にみると学部全体の平均点と同じものは、Ⅰ群の No.3 と 5、Ⅲ群の No.14 の 3 項目のみであった。他の項目は約 0.2~0.3 位の差が見られた。毎年授業計画と資料作成には担当科目のなかで最も時間をかけていると自負しているが、毎年結果は学部平均並みの評価が得られていないことは残念なことである。学生は、Ⅱ群の No.12「この授業は自分の将来にとって意味があると思う (4.1)」とと思っている一方で、Ⅰ群の No.4「学生の理解度を考慮しながら進められた (3.98)」のポイントが低い回答であることから、教材の資料の説明の仕方や授業の進め方等の工夫をしていきたいと思います。

④特になし

⑤配布資料に不足している内容を説明した場合、メモとして説明内容をまとめる力をつけてほしい。

①佐藤富士子

②医療的ケアⅠ、生活支援技術 A-1、介護過程Ⅰ、こころとからだのしくみ

③上記の 4 科目は介護福祉士受験資格科目あるいは福祉教職課程科目であり、学生にとっては必修科目であることもあり、学生評価は学部平均を超えていた。特に配当年次 1 年次の科目（生活支援技術 A-1 と介護過程Ⅰ）の 2 科目は、平均より非常に高いが、受講者数が 15 名と少ない点と内容を十分理解できていると点は必ずしも比例しているとは言えないのではないかと思う。従来通り、教材の工夫やテキストに沿った国会試験合格レベルの知識を学習するような指導を心掛けたいと思う。

④特になし

⑤介護福祉士資格試験に関連する科目は、他の科目と関連つけながら覚えてください。

①嶋貫真人

②社会保障論Ⅱ

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は、「受講生から質問や意見を引き出す姿勢（同No.5）」、「授業への積極的参加（同No.16）」の2項目であった。No.5に関して。昨年度から導入したマナバを利用した質疑応答において、今年は数名受講生から質問が寄せられ、一定の効果をあげてきているのではないかと感じられた。このシステムのさらなる周知・普及を図ることで、受講生の参加の意識を高めていきたい。No.16に関して。今年度は授業の後半にさしかかった頃から、シラバスの記載内容と実際の進行との間のズレが目立つようになり、受講生が予習をする際には支障をきたしてしまったかもしれない。来年度以降はシラバスとの整合性に配慮した授業進行を心がけたい。

④特になし

⑤疑問点については、積極的に質問して欲しい。

①嶋貫真人

②更生保護制度

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目は、「私語等の授業妨害行為への措置（質問項目No.3）」、「学生の理解度を考慮した授業進行（同No.4）」、「受講生から質問や意見を引き出す姿勢（同No.5）」、および「授業への積極的参加（同No.16）」の4項目であった。これらのうち、No.3に関しては、教壇の上において気になる私語に対してはその都度注意を加えたつもりであったが、教壇まで届かない音声については対応に限界があると感じている。No.4・5・16に関しては、上記「社会保障Ⅱ」の中の、No.5・No.16に関する各取り組みの内容がそのままあてはまる。

④特になし

⑤特になし

①嶋貫真人

②社会福祉援助技術現場実習事後指導

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目はなく、おおむね授業運営は適切に行なわれていたものと思われる。

④特になし

⑤特になし

①嶋貫真人

②社会福祉学基礎セミナーⅡ

③アンケートの結果、学生満足度が学部全体の平均値よりも低かった項目はなく、おおむね授業運営は適切に行なわれていたものと思われる。

④特になし

⑤特になし

- ①関田誠
- ②社会福祉学基礎セミナーII
- ③予習を元に授業を組み立て、復習項目を次の授業で確認するシステムを考えたい。
- ④特になし
- ⑤特になし

- ①関田誠
- ②英語ⅢB
- ③予習・復習、特に復習を組み込んだ授業展開を考えたい。
- ④特になし
- ⑤特になし

- ①高橋佳代
- ②相談援助演習Ⅰ・相談援助演習Ⅱ
- ③平均値は極端な数値があった場合、大きく影響を受けます。本授業はn=12と少数であることから、とりわけ5段階評価で1、2を回答した設問を注視しております。今回、1もしくは2と回答した設問は、設問14<どの程度出席したか>と設問15<どの程度自習したか>の2設問でした。設問14では1が1割、設問15では1が4割、2が3割でした。ちなみに設問15の5の回答はゼロでした。ロールプレイ終了後は毎回、評価票、授業の感想に加えて復習の一環とした設問に記入してもらっています。あらためて授業内で復習していることを確認していきたいと思います。
- ④本授業は、対人援助の基本と面接技術を習得することがねらいです。面接では、構造化された面接、構造化されていない面接をロールプレイで体得していただきます。後者は生活の一場面を学生が自由な発想で設定し、そのなかでクライアント役、ワーカー役を演じてもらいます。もう少し動かしやすい机、イスだと便利だと思います。
- ⑤授業も後半になりますと、難しい事例でのロールプレイを行うこととなります。前半の体験を活かしてチャレンジしていきましょう。

- ①竹田幸司
- ②介護の基本E
- ③全般に高い評価をいただくことができた。授業のための予習・復習に対する取り組みが低いところが課題と考えている。教育効果を考え、適切な予習、復習について検討していきたいと思う。
- ④特にございません
- ⑤特にございません

- ①田中優
- ②心理学概論Ⅱ

③今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか。「質問や意見を引き出し、学生の積極的な参加を促した」と「授業中質問したり、考えを述べたりして積極的に参加した」の得点が、学部全体平均よりも低いことから、学生の授業中の質問や積極的な参加を高める工夫を検討したい。

④特になし

⑤毎回 manaba での授業の感想、学びについてのアンケートを取り、できる限り全ての学生に返答をしている。わからないところは、できるだけそのままにせず、質問をして欲しい。

①田中優

②ファッションの社会心理学

③今回のアンケート結果を受けて、どのようにご自身の授業を改善されますか。「学生の授業への取り組みとその成果」に関する項目の得点が、学部全体平均よりも低いことから、学生の授業への取り組みとその成果を高める工夫を検討したい。

④特になし

⑤1限の授業ということもあるのかもしれないが、授業への出席率が低い学生が多い。毎回 manaba での授業の感想、学びについてのアンケートを取り、できる限り全ての学生に返答をしているが、アンケートを提出する学生が限られている。授業内で感じたこと、疑問など、積極的に伝えて欲しい。

①田中康雄

②社会福祉学概論Ⅱ

③1回の授業で説明する内容のボリュームを全体的に見直し、福祉以外の他学科他専攻の学生でも理解や関心を深められるよう工夫を行っていききたい

④特にございません

⑤特にございません

①種田綾乃

②精神保健福祉援助演習Ⅱ

③アンケート結果の中で、「授業への積極的な参加（項目 16）」が低かったことから、今後、学生の主体的な参加を引き出していくような授業の工夫が必要と考えます。本授業は、登録者数が 10 人未満と少ないうえ、実習等の時期と重なり、出席者がきわめて少ない回もあるのですが、学生自身が主体的に考えたり、より考え方の幅を拡げられるような、グループワークの持ち方に工夫を行いたいと考えています。

④本授業は、講師が知識や技術を一方的に提供するというよりは、受講者の方々の主体的な姿勢と相互の学びあいの中で、さまざまな学びが生まれていく授業です。受講者の方自身の実習の体験などと重ね合わせながら、さまざまな事例に向き合い、主体的に考えたり悩んだりする「過程」を大切にしていただければと思います。不安なことや、わからないことなどがありましたら、その場で共有し合いながら、一緒に授業をつくっていかねばと思っています

ので、主体的に授業を活用していただければと思います。

⑤無し

①玉置佑介

②現代社会理論

③全体傾向としては、ほとんどすべての質問項目において学部全体平均値をクリアしているため、概ね問題はなかったのではないかと考えている。しかしながら、質問 No.15 の「この授業のために毎回予習・復習合わせてどの程度自習しましたか」という項目のポイントが非常に低く、改善の余地があると考え。具体的な改善点としては、講義ごとに予習や復習の必要性を講義終了前に提示し、提出物などの形で実質化して評価に加えていく必要があると考えている。これまで、当方は、4回目、7回目、12回目に講義内容に関する意見／コメントを提出してもらいリアクション・ペーパーを実施してきた。この取り組みは、感想に終始することなく講義内容に対して自身の問題関心とともに意見・コメントを積極的に記述していくことを課すものである。この前後の回においては、予習や復習の機会に開かれることを想定していたのだが、講義時間内に履修者各自のスマートフォンでメール送信してもらい提出方法であったため、その場限りのものとして受け止められてしまっている可能性が否めない。今後は、しっかりとした「提出物」の体裁をとり、予習および復習の時間帯を確保すべく課題として明示していきたいと考えている。

④とくにありません。

⑤とくにありません。

①玉置佑介

②社会調査及び演習Ⅱ

③全体傾向としては、すべての質問項目において学部全体平均値をクリアしているため問題はなかったのではないかと考えている。実際に、具体的な消費施設に赴き、質的調査の技法を用いて実践的に課題に取り組んでもらう形式をとったため、先行研究レビューの検討から仮説や問いの構築、実査、報告書の執筆と特段の問題なく、演習が進行していった結果であると考えている。個人的な感想として1点指摘するのであれば、グループ学習の際に、各グループ内の学生同士の相互交流を促進するような創意工夫をより講じるべきであったと考えている。

④とくにありません。

⑤とくにありません。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅱ－B

③学部平均とほぼ同じ評価であった。これからもしっかりした授業を続けて行きたいと思います。

④特になし

⑤この授業は、面接の基礎と、グループワークの学びが中心の授業です。相談援助実習でも使う技術のため復習にも時間をかけて頂きたいと思います。

①丹野真紀子

②相談援助実習事後指導

③学生からの評価は高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業をしていきたいと思ます。特に「予習復習」の評価がとても高く、学生が熱心に取り組む様子がわかります。

④特になし

⑤この授業は、実習後の振り返りを中心に行う時間です。ここでの学びは、その後の様々な授業に活かすことが出来るので、しっかりと自分の言葉で学びを表現できるようにしましょう。

①丹野真紀子

②社会福祉援助技術論Ⅲ－A

③学生からの評価も高く、これからも学生が意欲的に取り組める授業していきたいと思ます。多くの事例を扱い、学生自身が考える授業形態にしたところ、5・15・18・19 の評価が特に高く、今後も続けたいと思ます。

④特になし

⑤特になし

①辻泉

②風景論

③特になし

④特になし

⑤本年度は少人数での講義となったが、出席者は熱心に受講してくれ、大変充実した講義を実施でき、アンケート結果にもそれが反映されたように思う。

①土野瑞穂

②社会学基礎セミナーⅡ、グローバル化とジェンダー

③社会学基礎セミナーⅡ：「教員の学生に対する接し方」についてはもっと注意して取り組むようにしたい。学生との距離が近いこの授業では、ディスカッションの過程で学生たちの経済状況や家庭事情が浮かび上がった。実家暮らし／一人暮らし、ひとり親世帯、貧困等、学生を取り巻く環境に配慮しながら、授業を進めていきたい。「グローバル化とジェンダー」：当授業では電車の遅延による遅刻者が大変多かった。遅延なので仕方がないことではあったが、余裕をもって早めに大学に到着するようもう少し厳しく注意してもよかったと反省している。

④すべての教室に少なくともプロジェクターとスクリーンだけは設置していただけたらありがたい。

⑤普段本を読む機会は少ないかもしれない。だがせめてレポート作成時には、インターネット

の情報の受け売りではなく、本を読み、自分自身で物事を批判的に考え、意見を提示してほしい。

①寺島拓幸

②文化とメディア特論Ⅱ

③単なる座学ではなく、アクティブラーニング的なさまざまな仕掛けを実施した。そのため、項目 16 が一般の講義より高くなったと思われる。次年度も引き続き同様の方向性で授業を進めていきたい。

④クラウドでの意見共有等にスマートフォンを多用するため、Wi-Fi 環境があったほうがよかったようだ。

⑤特になし。

①西川千登世

②社会心理学調査研究法

③科目としては平均的な得点ではあるものの、項目別に振り返ると足りていない部分があることについては改善しなければいけないと考えています。特に、授業理解度に関しては、初めての作業が多い中で、個人作業をどの程度把握するかが問題だと思っています。また、いつでも質問できるように用意している manaba のアンケートも任意ということもあり、ほとんど利用されておらず、理解していない学生がいても把握できないのも問題です。そのため、次年度は、授業内容について、各回の目標を明確に示すこと、および、授業回ごとにアンケートに対して必ず回答するようにし、各回の理解度や質問を受け付けフォローしていく試みをしたいと考えています。

④今年度は、助手さんの体調不良などもありましたが、それを踏まえても、演習及び合同授業という科目内容としては、フォロー体制としての人手不足は否めません。各教室への SA の手配などが必要と考えています。また、授業に関するアンケート実施の日程ですが、演習科目ということもあり、学生が作業時間を削られる日程になってしまっていること、および、授業計画は一連の流れを考え、1～15 回を経験することで授業の目的を理解・達成すると考えて作成していますので、すべての授業日程を終えてから授業評価をしてもらうことが望ましいと思っております。

⑤学ぶことも作業量も多く、大変な授業だと認識しているからこそ、学生に対しては、出来るだけ説明やフィードバックをおこなっているにもかかわらず、聞いていない学生がいることが残念です。また、質問もいつでも受け付けられるよう体制を整えていても活用している学生が少ないのが現状です。わからないことをわからないままにしないように、と伝えておりますので、もっと積極的に授業に臨んでほしいと思います。

①西川千登世

②コミュニケーション論

③全体的に、とても高得点となっており、学生が楽しく学んでくれた結果なのではないかと考

えます。科目の特性上、予習・復習は難しいため、いくつか宿題課題を出しましたが、それにも関わらず、自習の得点が大きく下回っているのは、学生が楽しんでやっていたのかもしれない。今年度は、人数が少なめだったこともあり、学生が発言したり、自ら経験することも多かったため、学生の自己評価以上に授業に対して積極的だったのではないかと考えます。

- ④この授業においても、授業計画は一連の流れを考え、1～15回を経験することで授業の目的を理解・達成すると考えて作成していますので、すべての授業日程を終えてから授業評価をしてもらうことが望ましいと思っております。
- ⑤manabaによる情報発信や質問の受付をしているのですが、活用している学生が少ないのが残念です。教員側も授業内や前後の時間で対応するよう心がけていますが、非常勤の場合、日時が限られますので、学生自身が活用してくれると嬉しいです。

①西澤利朗

②精神保健福祉援助技術総論、精神保健福祉援助技術各論Ⅱ

- ③配付資料と指定教科書を学生が興味ある事柄として引きつける授業展開を心がけます。予習復習時間が少ないことについても、何らかの家庭学習作業を課すことも検討したい。
- ④特に改善点や要望はありません。
- ⑤授業に参加することを契機にして、疑問や思考を深める努力をしてください。

①原葉子

②女性とライフコース特論Ⅱ

- ③女性のライフコースと身体・医療の問題を中心に扱ったが、学生によって理解度や関心に差があったと思う。授業のなかでは映像や画像をかなり多く使用し、受講者の発言も引き出しながら進めたが、関心がうまくもてない学生もいることを考慮し、テーマへの導入をより工夫する必要があると感じる。また、グループワークに関してはテーマへの理解を深めるための手段として採用しているが、討論が苦手な学生が参加しやすいような進め方や、討論テーマについても検討したい。
- ④毎回パワーポイントを使用したが、パソコンを操作するとスクリーンに背を向ける形になるため、授業が進めにくいところがあった。
- ⑤授業中にスマホを操作するなど、授業への参加度が低い学生が時々見かけられた。学びへの積極的な姿勢をもつことで授業の面白さも変わってくるはずなので、授業時間を有意義にするためにどうすればよいのか自分なりに考えてほしい。

①平川八尋

②英語ⅢB

- ③4、11での評価がひくく、改善する必要がある。読解内容を段階的に難しくしていく工夫が必要になると思う。次回は新たなやや易しめな教材を別途用意したい。(大学院で必要とされる英語の基本的ちからがまず授業開始時期において足りていない。特に語彙力が弱いとい

う印象をうける)

- ④今回もクラス全体で解答を出すまえに、小グループで討議しながら授業をすすめる、その評価は高かった。グループ討議がしやすい、円形テーブルやその結果を書く小白版（グループごとのまとめを記述する目的）があると授業運営がより効果的になると思われる。
- ⑤これまでの学習方法と関係すると思われるが、学生自身が主体的に取り組む姿勢がやや弱い印象をもった。この授業の目的は大学院入試対策（大学院での専門読解についていける学力の養成）にあるため、より主体的な姿勢がもとめられ、「指示待ち」の姿勢からの脱却が必要である。対策としては学習にたいする姿勢の「意識改革」がいるだろう。これは入学時から、クリティカル・シンキング、プロジェクト学習など学生が主体となる考え方や活動を強化する「カリキュラム」の設定の必要性を感じる。（すでに取り組みははじまっているとは思わうが）

①干川剛史

②社会学概論Ⅱ、社会学基礎セミナーⅡ、情報社会論

- ③受講者数の多い授業（社会学概論Ⅱ（95人）／情報社会論（92人））については、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均よりも低いが、自由回答を読むと、話し声が聞きづらいなど、改善すべき点がある。しかし、座席指定にしてあるので、私語がなく静かに授業を聴くことができる、出欠を毎回確認しており、学生の扱いが公平である、授業に関連した新聞記事のコピーがほぼ毎回配付され、十分に授業の準備がされているという点での評価が高い。他方で、マイクの使い方を工夫するなど話し方に改善が必要であり、また、リアクションペーパーに記載された学生のコメントへの返答は簡潔に行うなど、多くの学生に満足のいくような講義にする工夫が必要である。なお、社会学基礎セミナーⅡ（16人）は、少人数の科目であり、毎回、学生との間で質疑応答をしながら理解度を把握して授業が進められるので、ほとんどの項目の評定平均が、学部全体の評定平均と同等である。
- ④講義形式の授業は、100人未満になっており、授業を進めて行く上で、人数は適正なので、問題ない。
- ⑤学生の取り組みに関して、自習をする学生がほとんどいないので、講義科目もセミナー科目も、教科書を読んで予習してほしい。講義科目で使用する教室では、次の時限の授業を受講する学生が多数、授業終了直後に、教室に入ってくる場合が多く、教室内が混雑・混乱するので、前の時限の学生が全員出るか、担当教員が教室を出てから、教室に入るようにしてほしい。

①星野尚美

②相談援助実習指導Ⅱ

- ③初めての科目でしたが、井上先生がきちんと用意して下さる教材に従って、やらせて頂きました。時間配分がうまくできないのと、私のわかる範囲でやっているの、すべてを消化できなかったのですが、皆、大変真面目にとりくみ、考え、内容的には理解されていたと思います。自分の経験から話す解説をもっと専門的見地から話したいと思いました。

④人数的にはちょうどよく、互いに話しやすいし、学生の記述もちゃんと見ることができました。

⑤特になし

①堀 洋元

②社会心理学概論

③1年次必修科目のため、基礎知識の修得に力点を置き、復習中心の時間外学習を課した。授業の進め方はおおむね好評であった。次年度は、個々の受講学生が取り組めるよう工夫を施したい。

④受講者数に見合った教室を使用したい。しかしながら、大教室を活かした授業も試みてみたい。

⑤日常生活や対人関係で感じる疑問などに照らし合わせて授業に臨んで欲しいと思います。

①堀 洋元

②人間の成長と心理

③受講者調整を実施しなかったため、例年よりも受講者数が多く、学生の授業に対する期待や取り組みが幅広いように感じた。単調な授業展開にならないよう、テーマや課題等工夫したい。

④縦長の教室だが、スクリーンが前方1ヶ所しかないため、後方に座っている学生にも公平に提示できる設備があると良い。

⑤自分自身や対人関係、自分のライフコースについて興味を持って取り組んでほしいと思います。

①堀 洋元

②キャリア心理学セミナー

③3年前期までに身につけた知識やスキルを活かして取り組んでもらえたように感じた。自発的に時間外学習に取り組んだ人もいて、今後もより多くの受講学生が意欲的になれるよう後押ししていきたい。

④履修登録とコース分けのタイミングが異なるが、manabaの利用が柔軟に変更できると良いと思います。

⑤今まで身につけた知識やスキルをふりかえり、グループ内で最大限に特長を活かせるよう自ら進んで取り組んでほしいと思います。

①本田周二

②対人関係

③ほとんど学部平均より上であったので、その点は、維持できるように努めていきたいと思います。一方、時間外学習の数値が低いので、時間外に考えてきてもらうことをしっかりと組み込んでいきたいと思います。また、授業内でのディスカッションをもう少し増やしていけ

ればと思います。

④特にありません。

⑤学んだことを自分の中に落とし込むための作業として、他者に学んだことに対する自身の考えを伝えるということが大切になります。頭と口と耳をフル活用することを意識して授業に取り組んでもらえると嬉しいです。

①本田周二

②基礎統計学Ⅱ

③ほとんど学部平均より下であったので、大幅に授業改善に取り組みたいと思います。熱意等は感じ取ってくれているようなので、その点は安心しました。統計学という学生の苦手意識が高い授業科目であるため、予習・復習の課題を多めに課し、より丁寧なサポートを心がけるようにしていきたいと思います。

④特にありません。

⑤苦手意識が先行する科目であるからこそ、積極的にわからないところをそのままにせず解消していく必要があります。遠慮せずに、授業中だけでなく、オフィスアワーも使いながら、質問をしてもらえると嬉しいです。

①本田周二

②教育心理学

③ほとんど学部平均より上であったので、その点は、維持できるように努めていきたいと思います。一方、時間外学習の数値が低いので、時間外に考えてきてもらうことをしっかりと組み込んでいきたいと思います。

④特にありません。

⑤学んだことを自分の中に落とし込むための作業として、他者に学んだことに対する自身の考えを伝えるということが大切になります。頭と口と耳をフル活用することを意識して授業に取り組んでもらえると嬉しいです。

①本田周二

②キャリア心理学セミナー

③ほとんど学部平均より上であったので、その点は、維持できるように努めていきたいと思います。特に、授業中の積極性が平均よりもかなり高く出ているところには安心しました。更に良くなるように、授業内容をもう一度見直して、改善を試みたいと思います。

④特にありません。

⑤学んだことを自分の中に落とし込むための作業として、他者に学んだことに対する自身の考えを伝えるということが大切になります。頭と口と耳をフル活用することを意識して授業に取り組んでもらえると嬉しいです。

①牧野智和

②基礎統計学Ⅱ、社会学基礎セミナーⅡ、社会調査及び演習Ⅱ、日常生活論

③FD 研修時にも話題になった授業外学習の問題に次年度は取り組みたいと思います。

④どうしても、少人数であれば高く出て、講義であれば低く出ると思います。それらを一緒くたにして平均値を出すことにはあまり意味がないように思えます。

⑤少なくとも社会学については、勉強したい層とそうでない層が半分程度くらいに分かれているように思えるのですが、そのことを何とかする、少なくとも勉強したいと頑張っている学生たちに報いる何かがないものかと思えます。

①馬淵聖二

②心理検査法セミナー

③自習の時間が低い評定になっていた一方、自由記述ではレポートが多いとの声を頂いた。レポートに課している課題の一部を、予習と復習で行うように振り分けることでバランスが良くなると思われる。

④特になし

⑤特になし

①壬生尚美

②生活支援技術 D

③「介護実習Ⅰ」の介護現場における介護技術の実際や、「排泄」領域を中心にグループ検討・発表、全体討議を実施した。他グループにおける方法などから新たな発見ができるなど学習効果が見られた。更に、時間配分の検討を行い、各グループが検討した方法を実際に行って検討してみることによって授業展開の方法を工夫し「考える力」を習得する必要がある。

④特になし

⑤それぞれの意見を検討していく土壌を今後も培ってほしい。

①壬生尚美

②介護総合演習Ⅳ

③「介護実習Ⅲ」を振り返り、各受講生がタイトなスケジュールで、抄録、本文、パワーポイント作成・発表に取り組まなければならない。本科目の授業評価は、それぞれの取り組み方の成果が反映された結果となっている。更に、力を付けるために、初期の事例検討の段階でグループワークを取り入れ、1つ1つの事例検討を図り学生相互の学習効果をねらった授業展開を試みたい。

④特になし

⑤特になし

①森山拓也

②精神科リハビリテーション学Ⅱ、精神保健福祉援助技術各論Ⅰ

③両科目とも質問 15「この授業のために毎回予習復習併せてどの程度じしゅうしましたか」についての平均点が低かった。毎回の授業の中で次回内容の予告や課題の提示など、工夫を検討していきたい。

④⑤特になしです。

①森優貴

②障害者心理学

③授業への取組について、積極的に参加を促す取り組みがほとんどなかったため、次年度は課題を設定するなど主体的に取り組めるよう改善したい。

④特にありません。

⑤授業で学んだ知識を踏まえて、自分なりにどのように社会貢献に活かすことができるかを考えながら受講してほしい。

①森優優

②教育相談

③自習に対する取り組みが足りていないので、次年度は、授業時間外でも教育相談に関する内容について考えさせる課題を設定し、自習の取組を促していきたいと考えている。

④特にありません。

⑤授業で学んだ知識を踏まえて、自分なりにどのように社会貢献に活かすことができるかを考えながら受講してほしい。

①八城 薫

②心理統計学

③科目の特性もあるのですが、「予習・復習の程度」や「積極的な参加」といった自主的な取り組みに対する評価の低さが目立つ結果でした。予習・復習の具体的な指示をするようにしたいと思います。積極的な参加については、自主性を促すような発展課題などを用意することを検討したいと思います。

④受講生が一つの情報処理室に収まらないため、講義と実習を別教室で行わなければならない状況です。現在、情報処理室が2部屋になっていますが、「壁を可動式にする」「隣の教室の授業映像が見られる」などできると有り難いです。

⑤授業態度は、反応も良く、課題もしっかり取り組んでいて、とても良いと思います。さらに能動的にご自身でも自分なりの予習・復習スタイルを構築し、取り組むことで力が付くと思います。

①八城 薫

②社会心理学調査研究法

- ③調査のテクニカルな部分を学ぶ部分と、研究としての理論を組み立てる部分との両方に取り組みなければいけず、学生たちにはかなりハードな授業になっています。全体としても、各回ごとにも到達目標や内容をできるだけ明確にするなどして、取り組みやすさを工夫したいと思います。
- ④この授業も受講生が一つの情報処理室に収まらないため、講義と実習を別教室で行わなければならない状況です。現在、情報処理室が2部屋になっていますが、「壁を可動式にする」「隣の教室の授業映像が見られる」などできると有り難いです。
- ⑤心理統計学と同様に、授業での反応も良く、課題もしっかり取り組んでいて、とても良いと思います。課題の添削や評価などで、不明な点などがあれば早めに、積極的に質問に来て解決していただければと思います。

①八城薫

②キャリア心理学セミナー

- ③来年度はさらに授業スケジュールを体系化し、学生たちがもっと自主的に見通しを立てて実習に取り組めるようにしたいと思います。
- ④グループで情報収集しながらのアクティブラーニングをしているので、学内無線 LAN の早期設置に期待しています。
- ⑤この授業を上手に利用して、将来を見据え、意識的に社会人基礎力を身に付けてほしいと思います。

①山本真知子

②相談援助演習Ⅱ

- ③予習復習に関して、課題が出ているが学生の取り組みの評価が低いため、生活の中でどのように自習することができるのか伝えていきたい。
- ④特になし。
- ⑤特になし。

①山本真知子

②児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ

- ③予習復習に関してと、積極的に参加したかの項目について他の項目と比べ評価が低かった。講義形式の授業のため、質問や考えを述べるのが難しいことがあったと思うが、学生同士のディスカッションの時間を取るなどを入れていきたい。
- ④特になし
- ⑤特になし

①山本真知子

②社会福祉援助技術論Ⅰ－A

- ③どの項目も非常にばらつきがあり、理解できる学生と理解が難しい学生とがいる授業である

と感じる。来年度は理解度に関する差がなくなるように改善していきたい。

④特になし

⑤特になし

①山本真知子

②社会福祉基礎セミナーⅡ

③演習形式の科目だったので、個別の学生に応じた授業を展開していきたい。私も初めての担当する授業だったこともあり、提示する資料などもう少し工夫することができれば良いと感じている。

④特になし。

⑤特になし

①山本真知子

②相談援助実習事前指導

③予習復習に関して、課題が出ているが学生の取り組みの評価が他の項目と比較して低いため、実習に向けて自習学習などの時間を効果的に取ることを伝えていきたい。

④特になし

⑤特になし

①吉方りえ

②女性と健康

③ i) 私語に対して→教室内を巡回しこまめに注意を促す、 ii) 出席の取り方→出席管理システムに加え、授業最後に小テストを行い知識の確認をしながら再度出席を取る

④受講者数について→100名ぐらいが望ましい

⑤受講生へ→授業への積極的な参加を望む

平成28年度人間関係学部FD委員会

- 委員長 嶋貫 真人 (人間福祉学科、人間福祉学専攻、教授)
委員 小川 浩 (人間関係学部長、人間福祉学科、人間福祉学専攻、教授)
福島 哲夫 (人間関係学科長、人間関係学科、社会・臨床心理学専攻、教授)
佐藤 富士子 (人間福祉学科長、人間福祉学科、介護福祉学専攻、教授)
伊藤 美登里 (人間関係学科、社会学専攻、教授)
本田 周二 (人間関係学科、社会・臨床心理学専攻、専任講師)
金 美辰 (人間福祉学科、介護福祉学専攻、准教授)

平成28年度 人間関係学部FD活動報告書

平成29年6月発行

非売品

発行 大妻女子大学人間関係学部
ningengakubucho@otsuma.ac.jp
〒206-8540 東京都多摩市唐木田2-7-1

著作・編集 大妻女子大学人間関係学部FD委員会

印刷・製本 株式会社相模プリント
〒252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本1-14-17
TEL 042-772-1275
FAX 042-774-1913